福岡空港滑走路増設事業に係る

# 環 境 影 響 評 価 方 法 書

平成 24 年 10 月

国土交通省九州地方整備局

国 土 交 通 省 大 阪 航 空 局

本書に掲載した地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。（承認番号平24情複、第310号）
また、本書に記載した地図をさらに複製する場合は、国土地理院の長の承認を得なければならない。

目　　次

第 1 章　事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地 ..... 1
1.1　事業者の名称 ..... 1
1.2　代表者の氏名 ..... 1
1.3　主たる事務所の所在地 ..... 1

第 2 章　対象事業の目的及び内容 ..... 3
2.1　対象事業の目的 ..... 3
2.2　対象事業の内容 ..... 3
2.2.1 対象事業の種類 ..... 3
2.2.2 対象事業が実施されるべき区域の位置 ..... 3
2.2.3 対象事業の規模 ..... 3
2.2.4 飛行場の利用を予定する航空機の種類 ..... 3
2.2.5 対象事業の概要 ..... 5
2.2.6 対象事業の工事計画の概要 ..... 6
2.3　その他の対象事業に関連する事項 ..... 8
2.3.1 航空需要予測（旅客数及び発着回数） ..... 8
2.3.2 滑走路の使用及び飛行経路の想定 ..... 9
2.3.3 雨水等排水計画 ..... 10
2.4　これまでの検討経緯 ..... 12
2.4.1 「現空港における滑走路増設」選定までの経緯 ..... 12
2.4.2 環境面における検討内容 ..... 18
2.4.3 総合的調査段階における検討内容について ..... 27

第 3 章　対象事業実施区域及びその周囲の概況 ..... 29
3.1　自然的状況 ..... 32
3.1.1 大気環境の状況 ..... 32
3.1.2 水環境の状況 ..... 51
3.1.3 土壌及び地盤の状況 ..... 66
3.1.4 地形及び地質の状況 ..... 68
3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況 ..... 71
3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況 ..... 103
3.2　社会的状況 ..... 107
3.2.1 人口及び産業の状況 ..... 107
3.2.2 土地利用の状況 ..... 112
3.2.3 河川、湖沼及び海域の利用並びに地下水の利用の状況 ..... 116
3.2.4 交通の状況 ..... 119
3.2.5 学校、病院その他の環境の保全についての配慮が
特に必要な施設の配置の状況及び住宅の配置の概況 ..... 124

3.2.6 下水道の整備の状況..... 135
3.2.7 環境の保全を目的として法令等により指定された地域その他の対象及び当該対象に係る規制の内容その他の状況..... 136
3.2.8 その他の事項..... 171

第4章　環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法..... 189
4.1　環境影響評価の項目の選定..... 189
4.1.1 環境影響評価の項目..... 189
4.1.2 選定の理由..... 190
4.2　調査及び予測の手法..... 194
4.2.1 大気質 ..... 194
4.2.2 騒音 ..... 207
4.2.3 低周波音 ..... 214
4.2.4 振動 ..... 216
4.2.5 水質 ..... 219
4.2.6 動物 ..... 223
4.2.7 植物 ..... 229
4.2.8 生態系 ..... 234
4.2.9 景観 ..... 237
4.2.10　人と自然との触れ合いの活動の場..... 239
4.2.11　廃棄物等..... 241
4.2.12　温室効果ガス等..... 241
4.3　評価の手法の選定..... 242
4.3.1 環境影響の回避、低減に係る評価..... 242
4.3.2 国、県又は関係する市町村が実施する環境の保全に関する施策との整合性. 244
4.4　専門家等による技術的助言..... 246

参 考 資 料 ..... 247

# 第１章　事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

# 第1章　事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

## 1.1事業者の名称

国土交通省九州地方整備局

国土交通省大阪航空局

## 1.2代表者の氏名

国土交通省 九州地方整備局長　　吉崎　収

国土交通省 大阪航空局長　　福内　直之

## 1.3主たる事務所の所在地

（九州地方整備局）　福岡市博多区博多駅東 2 丁目 10 番 7 号　福岡第二合同庁舎

（大阪航空局）　　大阪市中央区大手前 4 丁目 1 番 76 号　大阪合同庁舎第 4 号館

# 第 2 章　対象事業の目的及び内容

# 第2章　対象事業の目的及び内容

## 2.1対象事業の目的

福岡空港は、西日本地域における流通・金融・商業の中心地である福岡市の中心部から約 7㎞の福岡市東南部に位置しており、西日本の中核的な拠点空港として、また、アジアへのゲートウェイとして重要な役割を担っており、地下鉄・都市高速等のアクセスが整備された極めて利便性の高い空港である。福岡空港の年間旅客数は 1,596 万人、年間発着回数は 13.7 万回（平成 22 年度)となっており、滑走路 1 本の空港としては、国内で最も利用されている。しかしながら、その運用は、滑走路処理容量の限界に近い状態が続いており、既にピーク時には増便が困難な状況である。

このため、本事業は、将来の航空需要に適切に対応するとともに、将来にわたり国内外航空ネットワークにおける拠点性を発揮しうるよう、福岡空港において滑走路を増設するものである。

## 2.2対象事業の内容

### 2.2.1　対象事業の種類

滑走路の新設を伴う飛行場及びその施設の変更

### 2.2.2　対象事業が実施されるべき区域の位置

福岡県福岡市博多区

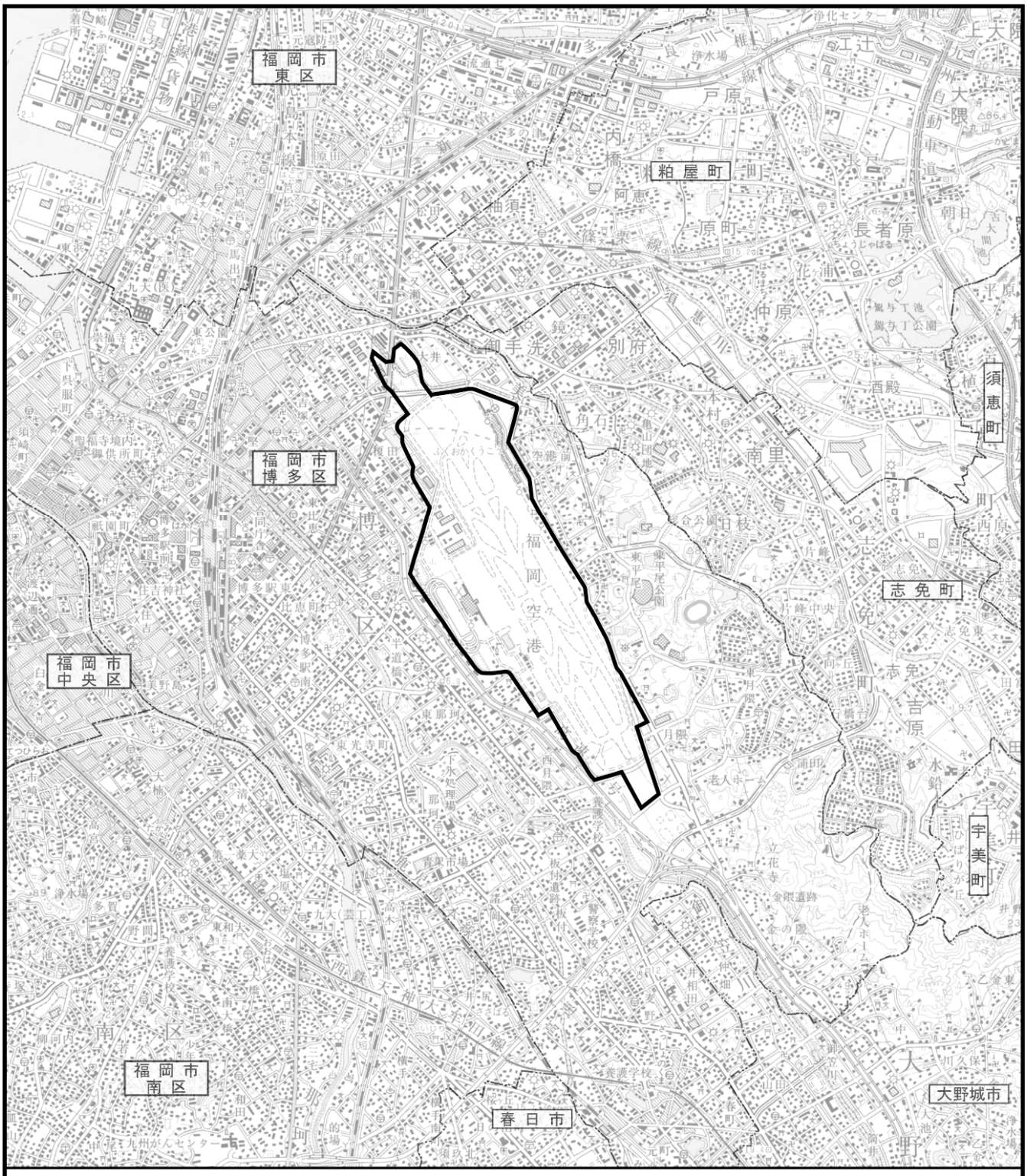
対象事業が実施されるべき区域の位置は、図 2.2.2-1 に示すとおりである。

### 2.2.3　対象事業の規模

新設する滑走路の長さ:2,500m

### 2.2.4　飛行場の利用を予定する航空機の種類

大型ジェット機、中型ジェット機、小型ジェット機、プロペラ機　等




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

図 2.2.2-1　対象事業が実施されるべき区域の位置

N

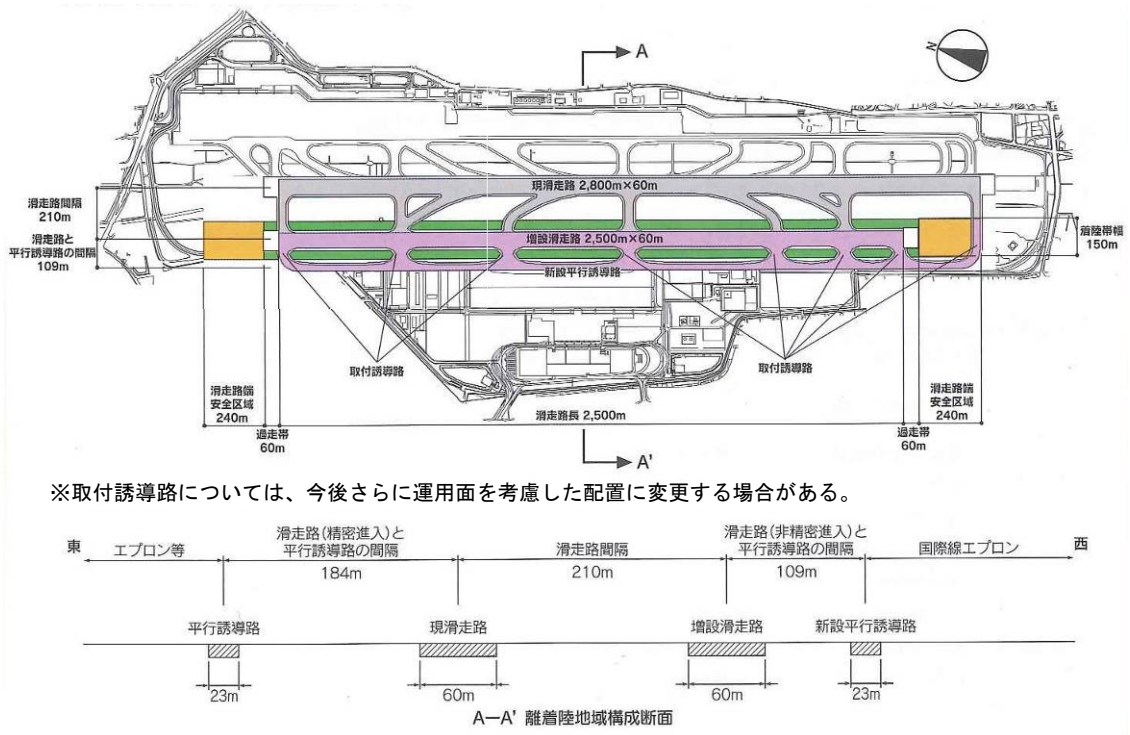
1:50,000

0　1　2km

## 2.2.5　対象事業の概要

福岡空港滑走路増設事業実施区域の概念図は、図 2.2.5-1 に示すとおりである。

本事業は、現滑走路(2,800m)の西側に増設滑走路 (2,500m) を設け、併せて着陸帯、誘導路、場周道路、排水施設等の整備及び必要とされる既存施設の移設を行うものである。なお、これらの整備は現滑走路による飛行場施設の運用を行いながら段階的に施工する。




出典：「福岡空港滑走路増設 PI レポート」

**図 2.2.5-1　福岡空港滑走路増設事業実施区域概念図**

## 2.2.6　対象事業の工事計画の概要

### (1)　工事の施工手順

増設滑走路や誘導路等の整備は、航空機の運航に支障が出ないよう現滑走路と国際線エプロン等西側施設との間における航空機の地上走行動線、あるいはターミナル施設に関連する地上支援機材の動線を確保しながら段階的に進める。また、7 時～22 時の空港利用を確保しながら工事を実施する。

増設滑走路及び誘導路整備の影響範囲(現地盤へのすりつけ範囲)における段階施工手順のイメージは、図 2.2.6-1 に示すとおりである。

### (2)　工事工程

対象事業において想定している工事工程は、表 2.2.6-1 に示すとおりである。

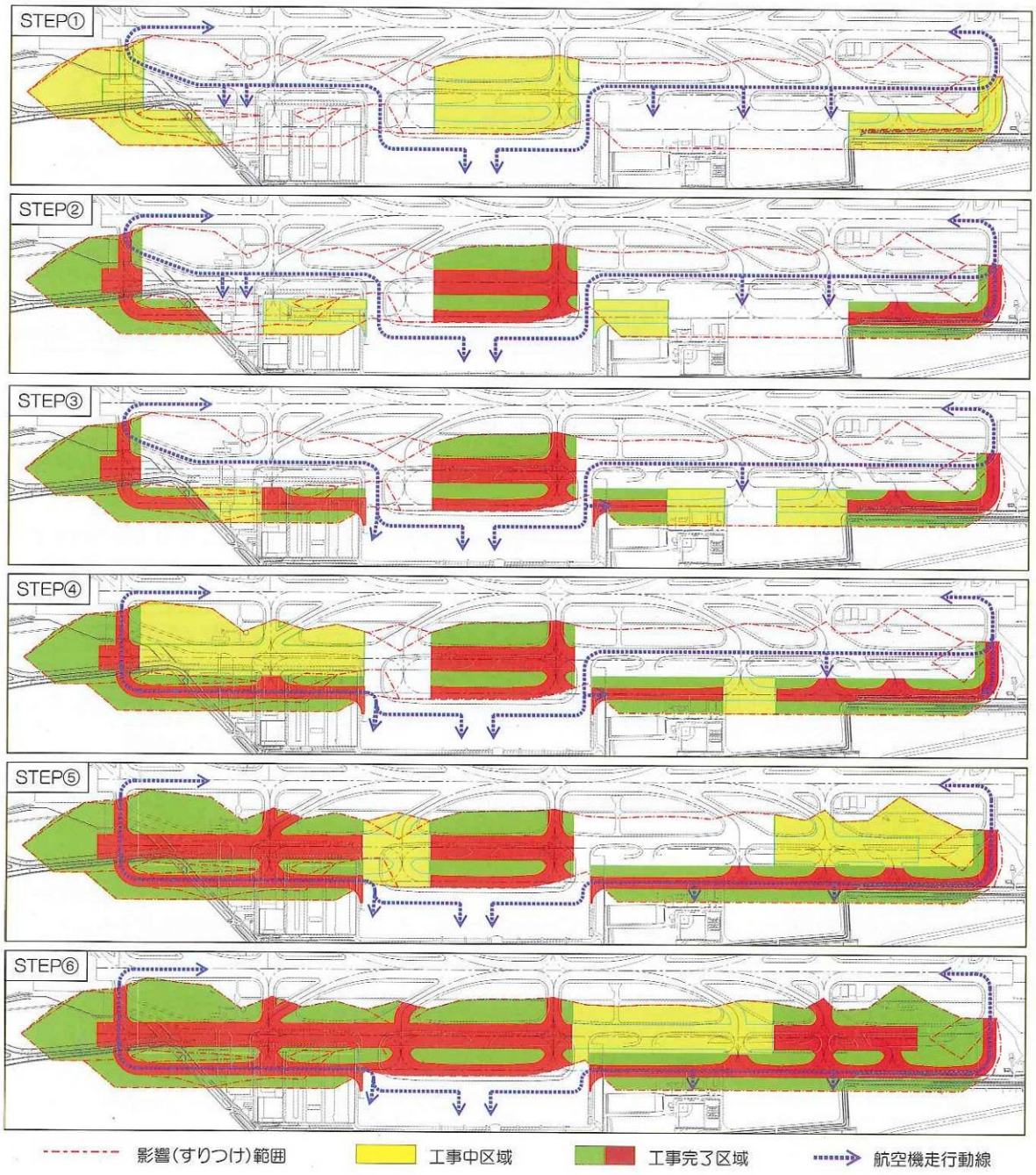
航空機の運航や運用時間の確保に留意した基本施設の段階的整備に前段の準備・補償工事及び最終的な供用開始準備を加え、約 7 年の工期を見込む。ターミナル施設工事、無線工事、照明工事は基本施設工事完了までに並行して実施する。ただし、空港運用面を踏まえて、今後さらに詳細な検討を行うことから、工期は変更となる可能性がある。

**表 2.2.6-1　工事工程**

| 種　別 | | | 施工年次 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 準備・補償工事 | | | ■ | | | | | | | 付替道路・水路等 |
| 基本施設 | 用地造成 | | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | 土工・排水工・場周道路・芝工・場周柵等 |
| | 滑走路<br>誘導路<br>エプロン | STEP① | | ■ | ■ | | | | | 供用中の工事となるため、空港運用に支障を来さないよう工事区域を分けて段階的に施工していく。 |
| | | STEP② | | | ■ | | | | | |
| | | STEP③ | | | | ■ | ■ | | | |
| | | STEP④ | | | | | ■ | ■ | | |
| | | STEP⑤ | | | | | | ■ | | |
| | | STEP⑥ | | | | | | | ■ | |
| ターミナル施設等 | 東側地区 | | ■ | ■ | ■ | | | | | 小型機施設等 |
| | 西側地区 | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | | | 自衛隊・米軍・貨物地区等 |
| 無線工事 | | | ■ | ■ | ■ | | ■ | ■ | | 空港監視レーダー(ASR)等 |
| 照明工事 | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | ■ | 滑走路灯火・誘導路灯火等 |
| 供用開始準備 | | | | | | | | | ■ | フライトチェック等 |

※この工期は、現地工事着手後の工期であり、それまでには環境アセスメント、用地買収、埋蔵文化財調査等が別途必要。

出典：「福岡空港滑走路増設 PI レポート」



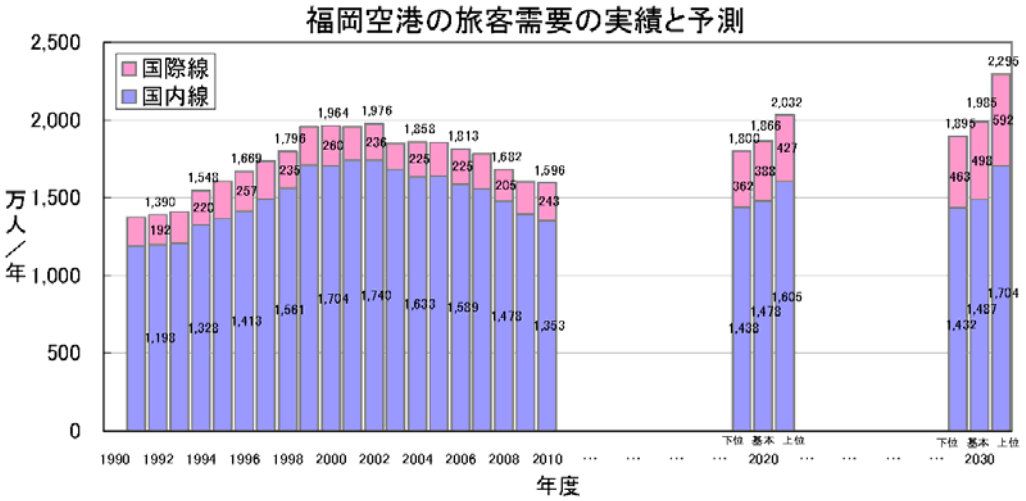

出典：「福岡空港滑走路増設 PI レポート」

図 2.2.6-1　増設滑走路及び誘導路整備の影響範囲における段階施工手順のイメージ

## 2.3 その他の対象事業に関連する事項

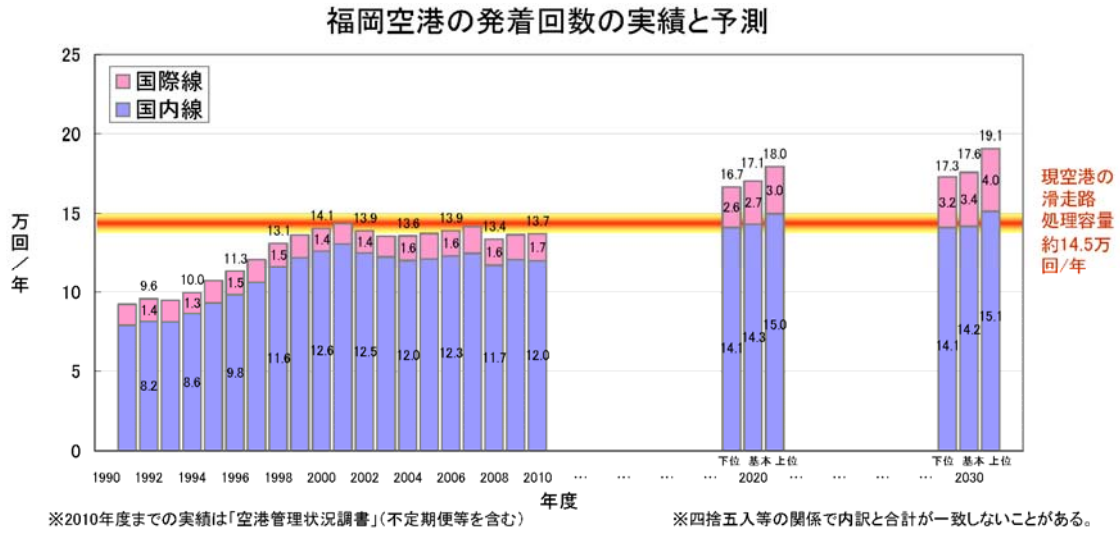
### 2.3.1　航空需要予測（旅客数及び発着回数）

2030 年度における福岡空港の旅客数と発着回数は、図 2.3.1-1 及び図 2.3.1-2 に示すとおり、国内・国際旅客数は 1,895 万人～2,295 万人、発着回数は 17.3 万回～19.1 万回と予測している。




出典：「第４回福岡空港技術検討委員会」（平成 24 年 3 月 2 日）

図 2.3.1-1　航空需要予測[旅客数](参考)




出典：「第４回福岡空港技術検討委員会」（平成 24 年 3 月 2 日）

図 2.3.1-2　航空需要予測[発着回数](参考)

### 2.3.2　滑走路の使用及び飛行経路の想定

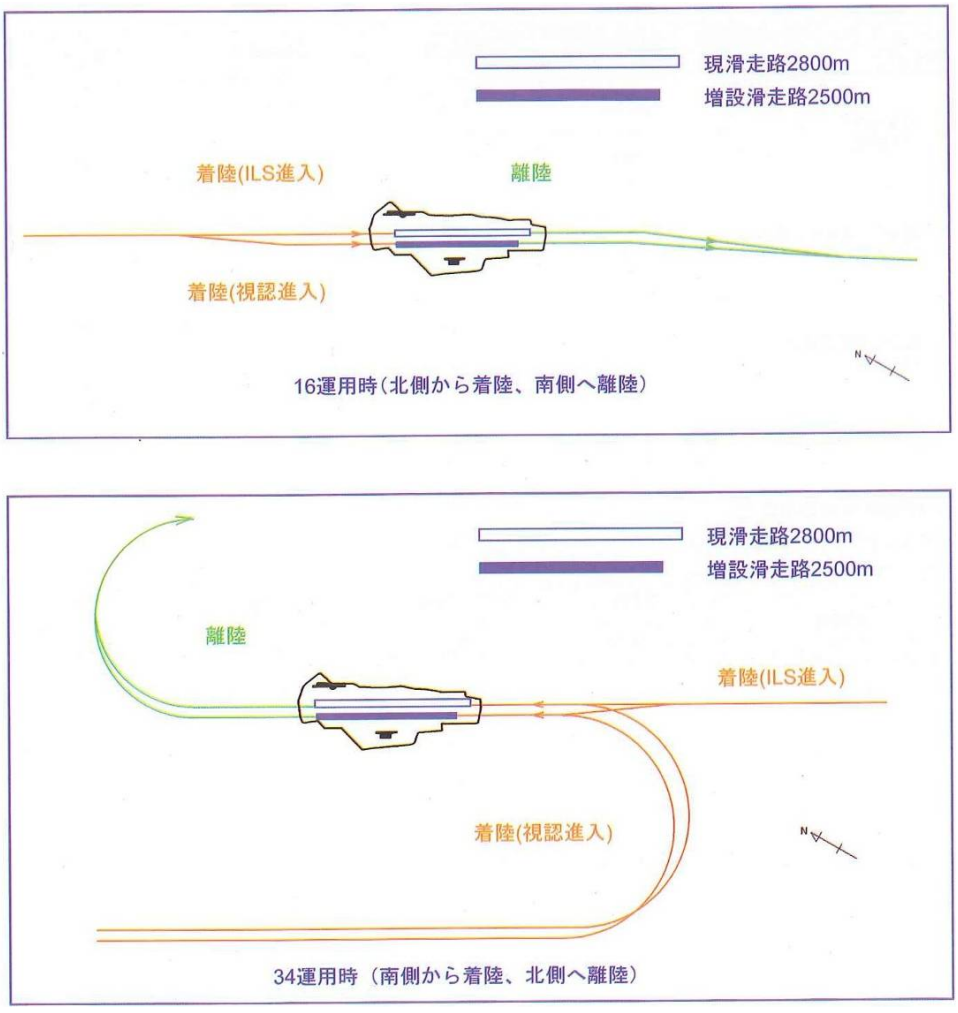
滑走路増設後の滑走路使用比率（着陸時）は、2006 年から 2008 年までの実績値の平均と同等と想定した。また、離陸時の比率も、着陸時と同等と想定した。現滑走路における滑走路使用比率は表 2.3.2-1 に示すとおりである。

滑走路増設後の飛行経路は、現滑走路の飛行経路をベースに図 2.3.2-1 に示すとおり設定している。

表 2.3.2-1　現滑走路使用比率（参考）

| 区分 | 16 側(南向き) | 34 側(北向き) |
|---|---|---|
| 着陸※1 | 71% | 29% |
| 離陸※2 | 71% | 29% |

（注）※1：2006～2008 年の実績値の平均。
※2：着陸時の使用比率と同等とした。




出典：「福岡空港滑走路増設 PI レポート」

図 2.3.2-1　構想・施設計画段階の検討における飛行経路(参考)

### 2.3.3　雨水等排水計画

#### (1)　現福岡空港の場内排水の概要

現福岡空港の場内排水ルート等は、図 2.3.3-1 に示すとおりである。

吉塚新川流域に含まれる空港北東部は、対象事業実施区域の北東部を流れる吉塚新川に各排水路から直接排水している。上牟田川流域に含まれる空港南西部は、対象事業実施区域西部にある 2 つの場内調整池に集水された後、それぞれポンプにて上牟田川に排水している。

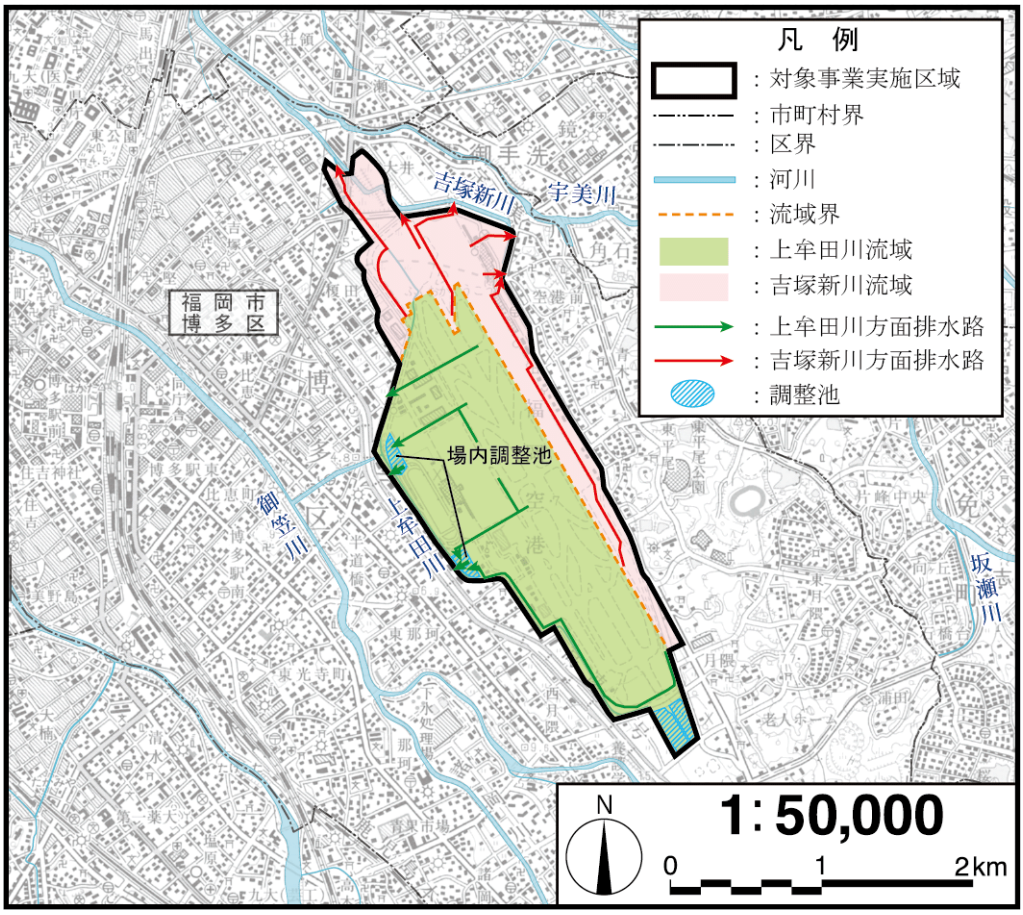



図 2.3.3-1　現福岡空港の場内排水の概要

#### (2)　現計画

現福岡空港の排水計画の概要を以下に示す。

・福岡空港は、空港用地の北東部が吉塚新川を経由する宇美川の流域になっており、南西部が上牟田川を経由する御笠川の流域になっている。

・ 福岡空港排水計画は、御笠川流域の洪水対策を空港の西側展開事業に併せて計画したもので、排水先である上牟田川は、30 年確率の降雨に対応する規模で計画され、準用区間を平成 9 年に完成している。

・ 福岡空港の降雨は、空港用地内に洪水調節池を設けて、空港内から上牟田川への流出を 6.8$m^3$/ s に抑える計画とし、整備を平成 6 年度に完了。
・ 調節池用地を少なくして、ターミナル拡張用地を有効に使うため、着陸帯にも洪水調節機能を持たせ、航空機の運行に支障のない範囲で湛水させる計画とし、平成 13 年度に完了。

### (3) 将来計画

対象事業により新たに整備される敷地内の雨水排水については、対象事業実施区域内で流量調整を行う計画である。

また、空港施設内から発生する汚水については、現空港施設と同様に公共下水道に接続して処理する計画である。

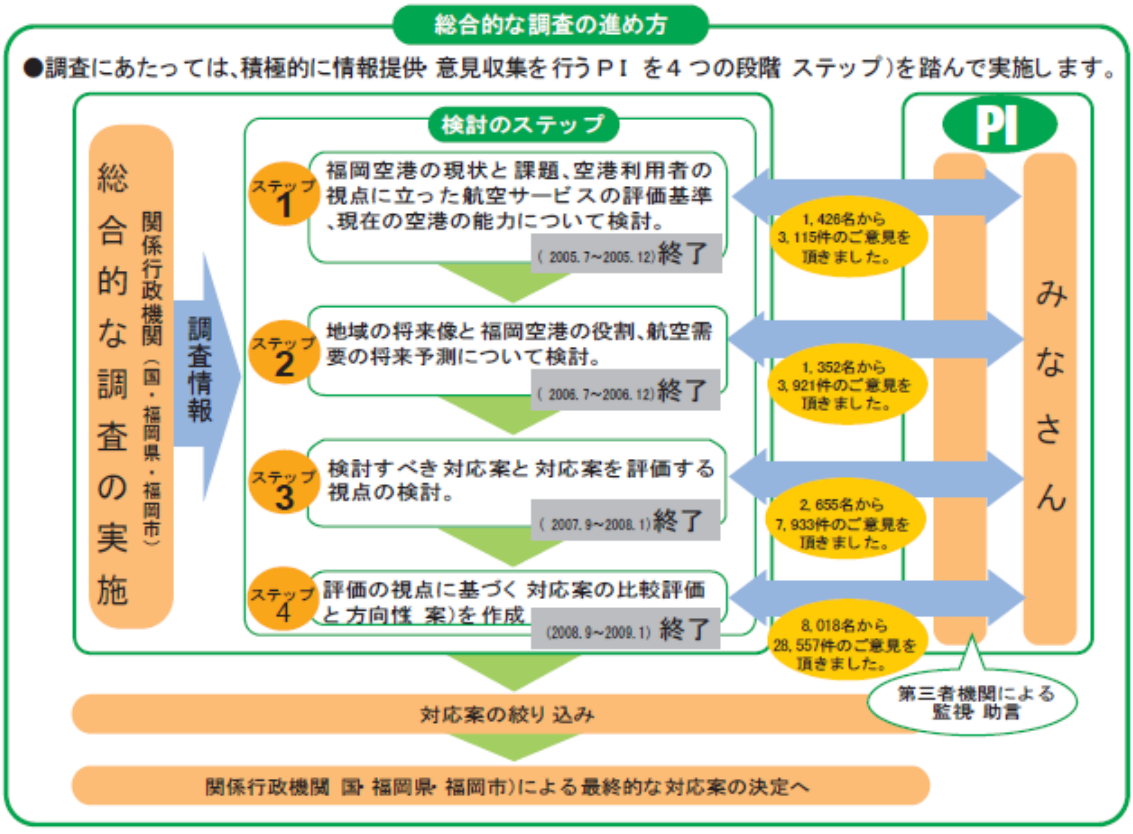
## 2.4 これまでの検討経緯

### 2.4.1 「現空港における滑走路増設」選定までの経緯

平成 14 年 12 月の交通政策審議会航空分科会の答申においては、福岡空港について将来的に需要が逼迫する等の事態が予想されるとして、「既存ストックの有効活用方策、近隣空港との連携方策、中長期的な観点からの新空港、滑走路増設等を含めた抜本的な空港能力向上方策等について幅広い合意形成を図りつつ、国と地域が連携し、総合的な調査を進める必要がある」とされた。

それを受け、平成 15 年度から国と地域が連携・協力し、市民等に積極的に情報を提供し、意見収集を行うパブリックインボルブメントの手法を取り入れて、調査・検討(「総合的な調査」)を行った。

《福岡空港の総合的な調査》

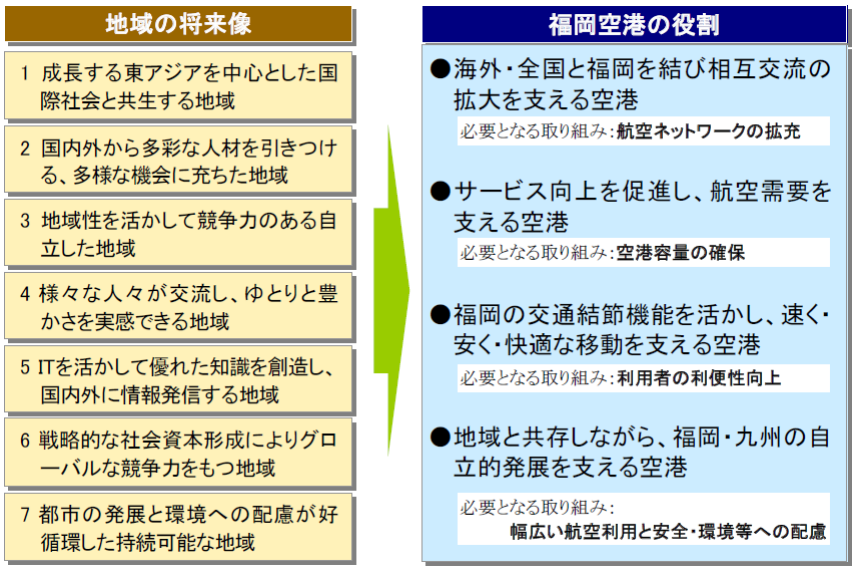


### (1) 福岡空港の現状と課題

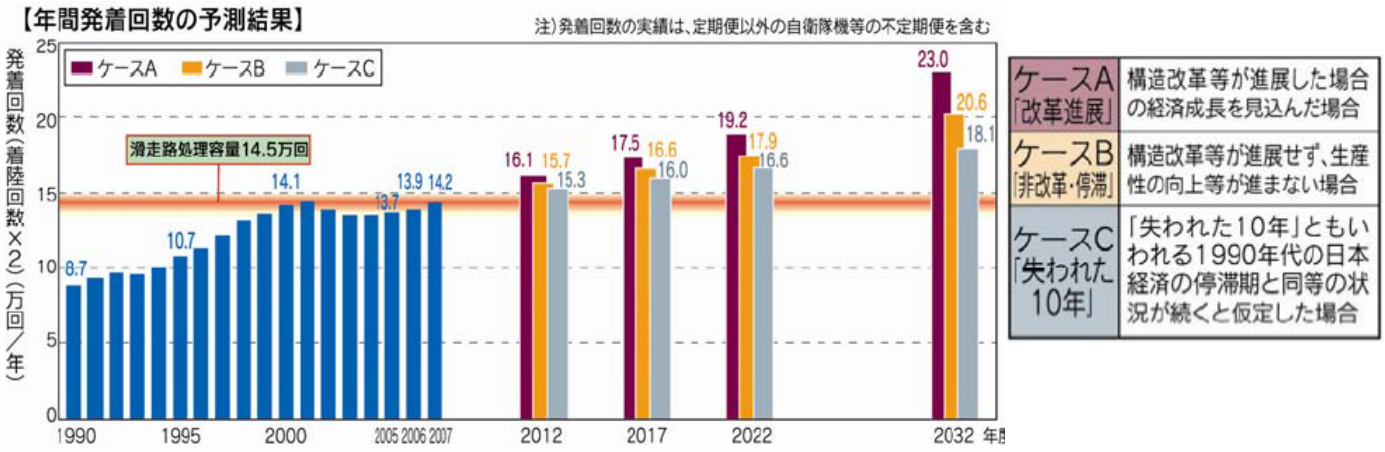
福岡空港の年間滑走路処理容量は 14.5 万回※1 と見込まれており、実績に対してはやや余力はあるものの、最も需要が集中する朝と夕方の時間帯では、既に増便が困難になっている。

また、地域が目指すべき将来像として「成長する東アジアを中心とした国際社会と共生する地域」をはじめとする 7 つの将来像が考えられており、それを実現するため福岡空港には「海外・全国との相互交流の拡大を支える」といった 4 つの役割が求められているが、総合的な調査における需要予測では、2010 年代前半には現在の年間滑走路処理容量を超えると予想され、このままでは福岡空港に求められる役割が果たせなくなり、ひいては利用者利便性や地域の将来像に悪影響を及ぼす恐れがある。

このため、将来需要に適切に対応するため、容量拡大や機能強化が必要とされた。




地域が目指す７つの将来像と福岡空港の４つの役割




年間発着回数の予測結果※2

（注）※1：年間滑走路処理容量は、離陸機と着陸機のバランスや大型機の混入状況等によって変動する。現空港の処理容量である 14.5 万回は、現状（平成 16 年）の一日当たりの時間毎の発着回数のパターンを基に設定したものである。

※2：「総合的な調査」ステップ 2 にて算出した結果であり、その後 2012 年に当該航空需要予測の再精査を行っている。

### (2) 将来需要への対応方策

将来需要への対応方策として、既存ストックの有効活用である国内線エプロン誘導路二重化、及び近隣空港との連携である北九州空港及び佐賀空港への需要分散を検討したが、福岡空港の需給逼迫緩和効果はわずかであり、対応方策とはなり得ないため、抜本的な空港能力向上方策である「現空港における滑走路増設」と「新空港」について詳細な比較検討を行った。

#### 1) 現空港における滑走路増設

現空港における滑走路増設については、空港南東部の丘陵地や都市高側道路などの周辺地域への影響、利便性、建設費、滑走路処理容量、滑走路配置間隔など様々な視点から、複数の滑走路配置について総合的に検討を行った。

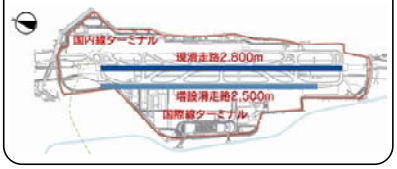
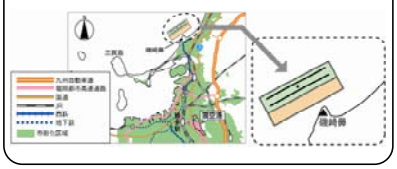
その結果、「東側配置（滑走路間隔 300m）」「西側配置（滑走路間隔 300m）」「西側配置（滑走路間隔 210m）」を代表的な配置として選出し、周辺への影響及び事業費・工期の観点から「西側配置（滑走路間隔 210m）」が最も有利であるため「現空港における滑走路増設」の代表案とした。

#### 2) 新空港

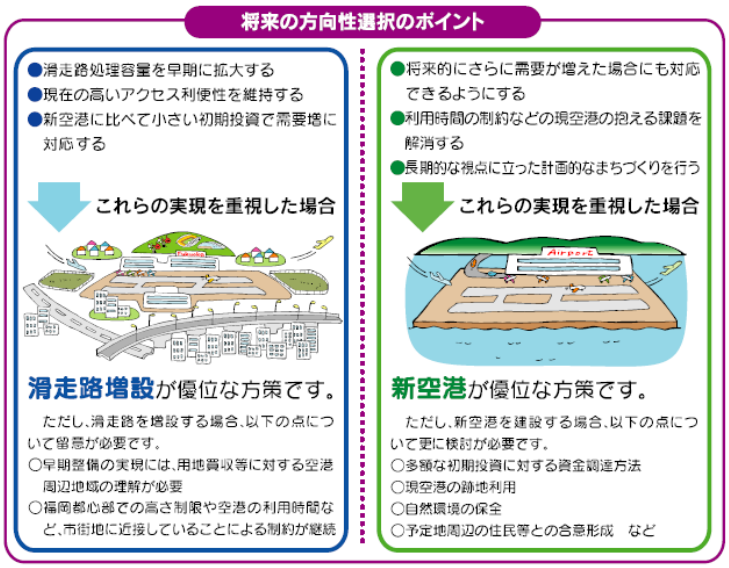
新空港については、博多駅から 30㎞ 以内の福岡都市圏を候補地対象範囲とし、地形、社会環境、運航などの観点から、最終的には「志賀島・奈多ゾーン」「三苫・新宮ゾーン」に絞り込み、具体的な滑走路配置検討を行った上で、２案の特徴を整理した結果、アクセス、事業費の面で比較的優位と考えられる「三苫・新宮ゾーン」を新空港の代表案とした。

### (3)　対応方策の比較評価と方向性（案）

「現空港における滑走路増設」及び「新空港」の代表案について、定量的・定性的に判断する材料として、5 つの視点から特徴を整理した。また、この特徴を踏まえ、福岡空港の将来の方向性を選択するためのポイントを整理した。

| | 滑走路増設方策代表案<br>（西側配置（滑走路間隔210m）改良案） | 新空港方策代表案<br>（三苫・新宮ゾーンN61°E案） |
|---|---|---|
| |  |  |
| 需給逼迫緩和の視点 | ●2032年頃までの需要には概ね対応可能<br>【処理容量：18.3万回／年（19.7万回／年）*】<br>●新空港方策より早く需要増加への対応が可能<br>【工事期間：約7年】<br>●更なる拡張は現実的に困難であることから、将来の大幅な需要増加への対応は困難 | ●2032年頃までの需要には十分対応可能<br>【処理容量：21.3万回/年（22.6万回/年）*】<br>●滑走路増設方策よりも供用までに長期間を要する<br>【工事期間：約9年】<br>●長期的な需要にも対応可能であり、滑走路の配置によっては更なる滑走路処理容量の増加も可能 |
| 利用者利便性の視点 | ●現状の良好なアクセスを維持<br>【所要時間（博多駅から鉄道）：5分】<br>●利用時間の制限（7:00～22:00）が継続する<br>●ウインドカバレッジは現空港と同じ<br>【ウインドカバレッジ：99.8%】 | ●アクセス時間は現空港より長くなる<br>【所要時間（博多駅から鉄道）：概ね15～20分】<br>●24時間の利用が可能となる<br>●ウインドカバレッジは現空港よりやや劣る<br>【ウインドカバレッジ（津屋崎ｽﾃｰｼｮﾝ）：98.1%】 |
| 環境・安全の視点 | ●航空機騒音の影響区域が拡大する可能性は小さいが、現空港周辺の騒音は残る<br>●安全性は現状と同じ | ●航空機の騒音区域は、市街化区域に影響を及ぼさない<br>●飛行ルートが主に海上となり、更なる安全性の向上が図れる<br>●埋立による自然環境への影響が考えられるため、配慮が必要 |
| まちづくりや地域振興の視点 | ●東アジアとの結びつきが強まるなど、経済、文化、学術交流が進む<br>●都心部での高さ制限が継続する他、空港周辺での住宅系の土地利用への支障や道路網等の形成などの問題が残る | ●利用時間帯等の制約がなくなり、東アジアとの経済などの交流が一層拡大するとともに幅広い航空利用への対応が期待される<br>●都心部での高さ制限が緩和される他、新空港周辺地域では、地域住民の理解を得ながら空港のポテンシャルを活かしたまちづくりが期待される<br>●現空港の跡地利用について、地域住民との合意形成を図りながら検討を進める必要がある |
| 事業効率性の視点 | ●新空港と比べて初期投資が小さく、供用までの期間が比較的短い【概算費用：約2000億円】<br>●将来に渡って環境対策費、借地料の支払いが継続する<br>【環境対策費：約62億円<br>借地料：約82億円（直近10年間の平均値）】<br>●拡張用地の確保が必要であり、用地買収などが難航すれば、更なる期間を要するおそれがある | ●初期投資が多額であるため、財政面や資金調達の工夫が必要 【概算費用：約9200億円】<br>●環境対策費、借地料が不要になる<br>【環境対策費：約62億円<br>借地料：約82億円（直近10年間の平均値）】<br>●漁業補償やアクセス交通整備に伴う用地買収などが難航すれば更なる期間を要するおそれがある |

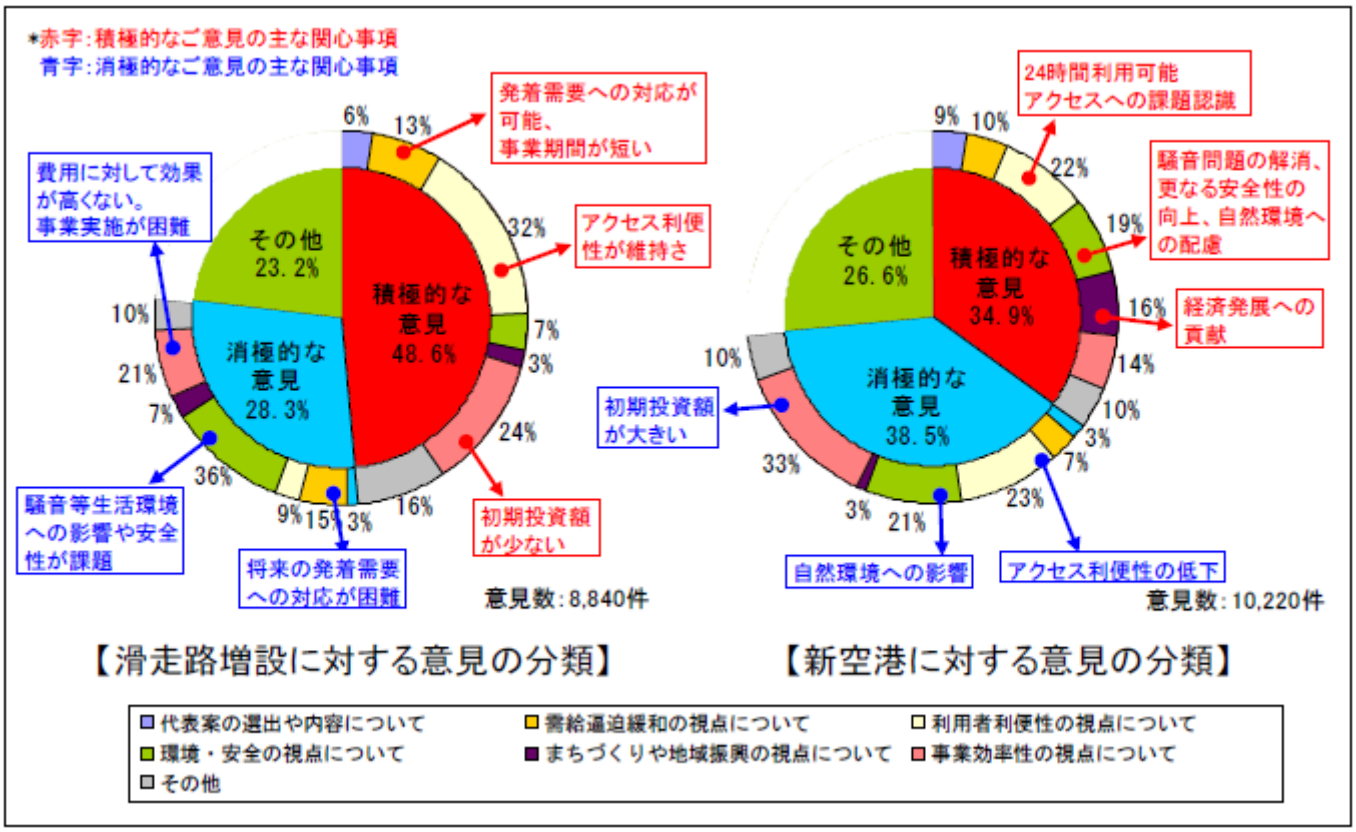
将来対応方策案の特徴整理の結果




福岡空港の将来の方向性選択のポイント

### (4)　ＰＩ実施結果

「総合的な調査」ステップ 4ＰＩにおける、市民等の皆さんからのご意見では、抜本的な方策が不要という意見は少なく、滑走路増設に対しては積極的な意見が過半数を占め、全体としては滑走路増設に積極的な意見が、新空港に積極的な意見より上回っていた。




寄せられたご意見の内容の傾向（「総合的な調査」ステップ 4）

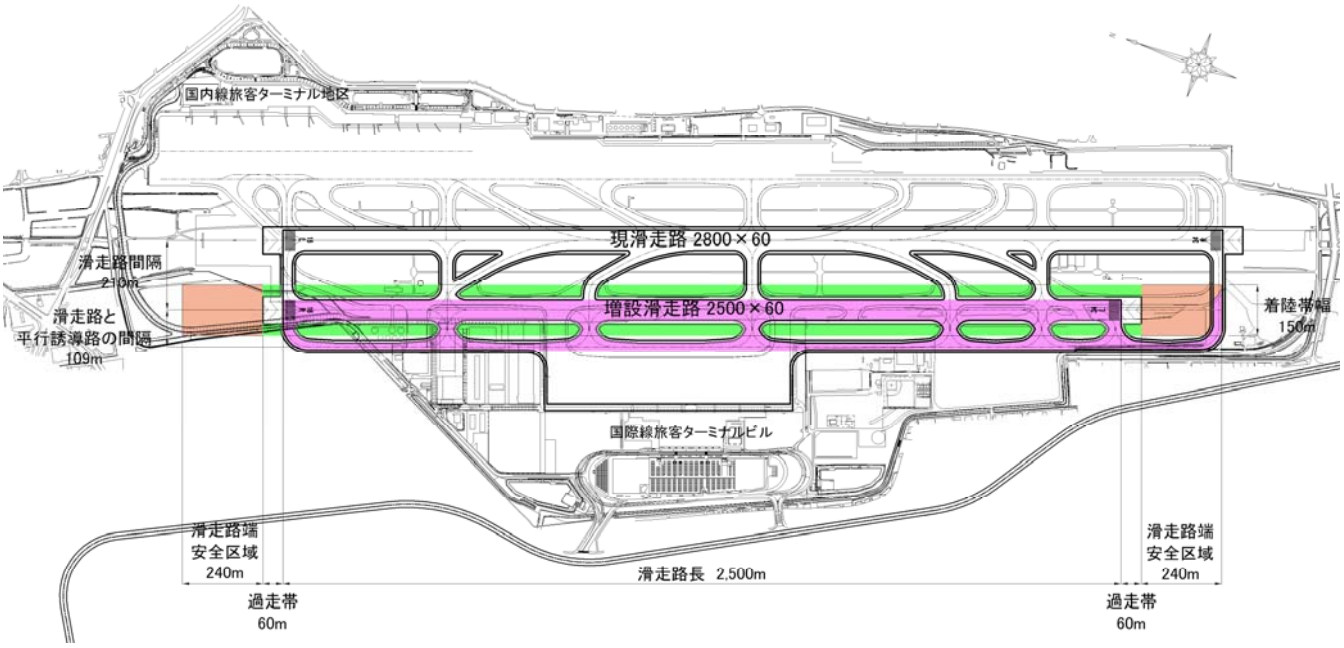
### (5) 構想・施設計画段階の検討

福岡県知事及び福岡市長は、平成 21 年 4 月に「総合的な調査」及びＰＩの結果を踏まえ、滑走路増設に速やかに着手する旨を要請する意見書を国土交通大臣へ提出した。

国土交通省は、地元意見やＰＩ結果等を踏まえ、同年 5 月に「現空港における滑走路増設」にて、「構想・施設計画段階」へ移行することとした。

このように、総合的な調査結果、ＰＩの結果、及び地元の意見を踏まえ、抜本的な空港能力向上方策である「現空港における滑走路増設」の施設配置等の検討を進めることとなった。

調査・検討は、これまでと同様に、国と地域が連携・協力し、ＰＩの手法を取り入れて行い、平成 24 年 3 月に「構想・施設計画段階」が終了した。




「現在の現空港における滑走路増設」

### 2.4.2　環境面における検討内容

平成 15 年度より行ってきた「福岡空港の総合的な調査」において、将来需要に対応するためには、抜本的な空港能力向上策である「現空港における滑走路増設」と「新空港」のいずれかの対応方策が必要であることが判明した。このため、総合的な調査のステップ 3 以降において、滑走路増設案と新空港案については、数多くの配置案の中から比較の上絞り込みを行い、それぞれの代表案を選定した上で、代表案の比較検討を行った。

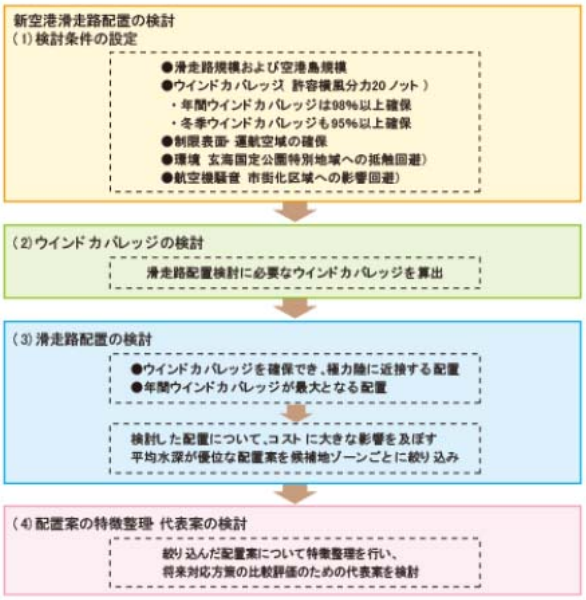
この検討過程の中では、環境面についてもそれぞれ比較検討を行った。

本資料では、総合的な調査でこれまでに実施した環境面での検討内容を整理した。

**○滑走路増設案の検討の流れ**



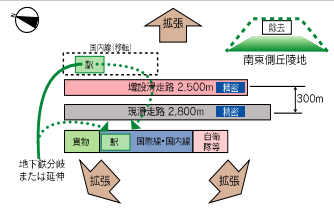
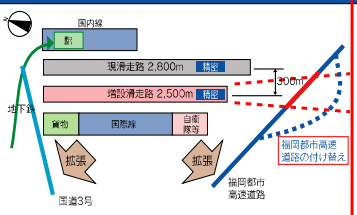
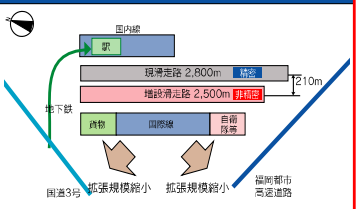

**○新空港案の検討の流れ**



## (1) 滑走路増設案における比較検討

### 1) 滑走路増設案 3 案の特徴整理と代表案の検討

現空港における滑走路増設案については、様々な配置案の中から、東側と西側への標準的な配置案(滑走路間隔 300m) 及び周辺の道路や住宅地等への影響が最も軽減される案(滑走路間隔 210m) の 3 案を抽出し、それぞれの特徴を整理した。

| 項目 ＼ 配置案 | | | 東側配置(滑走路間隔300m) | 西側配置(滑走路間隔300m) | 西側配置(滑走路間隔210m)改良案 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | |  |  |  |
| 空港能力 | 滑走路処理容量 | | 18.8万回／年(20.0万回／年)(注1) | 18.3万回／年(19.6万回／年)(注1) | **18.3万回／年(19.7万回／年)(注1)** |
| | 現滑走路処理容量14.5万回／年との比較 | | 1.30倍(1.38倍)(注1) | 1.26倍(1.35倍)(注1) | **1.26倍(1.36倍)(注1)** |
| 利便性 | ターミナル配置 | 旅客ターミナルビル | 国内線・国際線ターミナルが一体化し利便性が向上 | 国内線・国際線ターミナルが分離(現状と同じ) | **国内線・国際線ターミナルが分離(現状と同じ)** |
| | アクセス利便性 | 博多駅からの所要時間 鉄道系 | 国内線:現状とほぼ同じ<br>国際線:利便性向上 | 現状と同じ | **現状と同じ** |
| 運航 | 制限表面 | 進入表面 | 南東側丘陵地に抵触し除去が必要<br>住宅・事業所等に抵触し移設が必要(約280件) | 福岡都市高速道路2号線および月隈JCTに抵触し付け替えが必要<br>住宅・事業所等に抵触し移設が必要(約70件) | **住宅・事業所等に抵触し移設が必要(約5件)** |
| | | 転移表面 | | | |
| | | 水平表面 | 現状とほぼ同じ | 現状とほぼ同じ | **現状とほぼ同じ** |
| | | 延長進入表面 | 確保可能(現状とほぼ同じ) | 確保可能(現状とほぼ同じ) | **増設滑走路は精密進入を行えないため設定しない** |
| 社会環境 | 空港拡張面積 | | 約90ha | 約60ha | **約20ha** |
| | 空港拡張面積に含まれる可能性のある物件数 | | 約650件 | 約490件 | **約140件** |
| | 航空機騒音 | 騒音対策区域 | 東側に拡大する可能性が大きい | 西側に拡大する可能性が大きい | **拡大する可能性は小さい** |
| | 周辺社会基盤への影響 | 既存周辺施設 | 県道福岡空港線(約3.5km)の付け替えを伴う<br>地下鉄の分岐又は延伸が必要 | 福岡都市高速道路2号線(約2.5km)の付け替えを伴う | **都市高速道路や主要道路には影響しない** |
| 建設 | 現地着手後の工事期間 | | 約13年 | 約9年 | **約7年** |
| | 現地着手に要する期間(注2) | | 移転対象物件が非常に多く、用地買収、移転補償に要する期間の長期化が避けられない。 | 移転対象物件が多く、用地買収、移転補償に要する期間の長期化が避けられない。 | **移転対象物件が比較的少なく、他の増設案より比較的短期でできる可能性がある。** |
| | 概算事業費 | 用地費(注3) | 約4,200億円 | 約2,500億円 | **約 900億円** |
| | | 基本施設(滑走路等・航空保安施設、補償工事等)整備費(注4) | 約1,200億円 | 約1,800億円 | **約 600億円** |
| | | その他施設整備費等(注5) | 約2,000億円 | 約 800億円 | **約 500億円** |
| | | 計 | 約7,400億円 | 約5,100億円(注6) | **約2,000億円(注6)** |
| | 空港場内における主な工事 | | ・滑走路、誘導路、エプロン等の整備<br>・西側(現国際線)ターミナル地区の拡張整備<br>・貨物地区、自衛隊地区等の移転<br>・地下鉄の分岐又は延伸 | ・滑走路、誘導路、エプロン等の整備<br>・国際線ターミナル地区、貨物地区、自衛隊地区等のセットバック | **・滑走路、誘導路、エプロン等の整備<br>・貨物地区、自衛隊地区等のセットバック<br>(国際線ターミナル地区のセットバックは不要)** |

注1):空港能力の( )書きはピーク時以外の昼間時間帯を有効活用した場合
注2):現地着手までには環境アセスメント、用地買収、埋蔵文化財調査などの期間が必要
注3):用地費には、空港拡張に伴う用地買収費及び物件移転補償費用を含む
注4):基本施設整備には、都市高速付け替え等の補償工事費を含む
注5):その他施設整備費等には、ターミナル施設、アクセス整備費を含む
注6):平行誘導路二重化の事業費(約340億円)は含まない

その結果、滑走路処理容量では 3 案とも大きな差はなく、周辺の道路や住宅地、南東側丘陵地の一部除去による自然環境等への影響及び事業費・工期の観点からは、西側配置(滑走路間隔 210m) 改良案が最も優位であることから、「西側配置(滑走路間隔 210m) 改良案」を滑走路増設代表案とした。

### 2)　環境的側面での比較検討

滑走路増設案の比較検討のうち、環境への影響の見通しについては、現空港における周辺自然環境の状況、現空港における埋蔵文化財の分布状況等を踏まえ、以下のとおり整理している。

| 評価項目 | | 評価指標 | 東側配置（滑走路間隔 300m） | | 西側配置（滑走路間隔 300m） | | 西側配置（滑走路間隔 210m）改良案 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大気環境 | 騒音 | 騒音対策区域 | 東側に拡大する可能性が大きい。 | ● | 西側に拡大する可能性が大きい。 | ● | 拡大する可能性は小さい。 | ○ |
| 土壌環境・その他 | 地質・地形 | 地形の改変 | 制限表面確保のため、空港東側の丘陵地を一部除去する必要がある。 | ● | 特になし。 | ○ | 特になし。。 | ○ |
| 動物・植物・生態系 | | 植物・群落等の改変面積 | 空港東側の丘陵地を一部除去するため、当該丘陵地に分布する以下の植生に影響を与える可能性がある。<br>・シイ・カシ林・ブナ・ミズナラ林<br>また、以下の貴重な植物・群落に影響を与える可能性がある。<br>・オニバス・オケラ・コダマ・ハタケンツキ・ハンノキ・リンドウ・ハイビャクシン | ● | 特になし。 | ○ | 特になし。 | ○ |
| | | 小動物等の生息・生育環境の場（鳥類以外） | ニッポンバラタナゴ（魚類）メダカ（魚類）等の貴重な魚類の生態系に影響する可能性がある。<br>空港東側の丘陵地を一部除去するため、当該丘陵地に分布する以下の小動物等に影響を与える可能性がある。<br>・アオヤンマ・タイワンウチワヤンマ・クロセセリ | ● | ニッポンバラタナゴ（魚類）メダカ（魚類）等の貴重な魚類の生態系に影響する可能性がある。 | ● | ニッポンバラタナゴ（魚類）メダカ（魚類）等の貴重な魚類の生態系に影響する可能性がある。 | ● |
| | | 小動物等の生息・生育環境の場（鳥類） | ・ケリ・コアジサシ・オオヨシキリ等の貴重な鳥類の生態系に影響する可能性がある。 | ● | ・ケリ・コアジサシ・オオヨシキリ等の貴重な鳥類の生態系に影響する可能性がある。 | ● | ・ケリ・コアジサシ・オオヨシキリ等の貴重な鳥類の生態系に影響する可能性がある。 | ● |
| | | 生態系 | 空港東側の丘陵地を一部除去するため、当該丘陵地に分布する以下の生態系に影響を与える可能性がある。<br>・自然的樹林地・公園・緑地 | ● | 特になし。 | ○ | 特になし。 | ○ |
| 文化財 | | 埋蔵文化財の有無 | 雀居遺跡<br>久保園遺跡<br>席田青木遺跡<br>宝満尾遺跡<br>天神森遺跡等が空港用地の拡張により影響を受ける可能性がある。 | ● | 雀居遺跡等が空港用地の拡張により影響を受ける可能性がある。 | ○ | 雀居遺跡等が空港用地の拡張により影響を受ける可能性がある。 | ○ |
| 飛行ルート | | 飛行ルート下の市街地 | 市街地あり。 | ● | 市街地あり。 | ● | 市街地あり。 | ● |

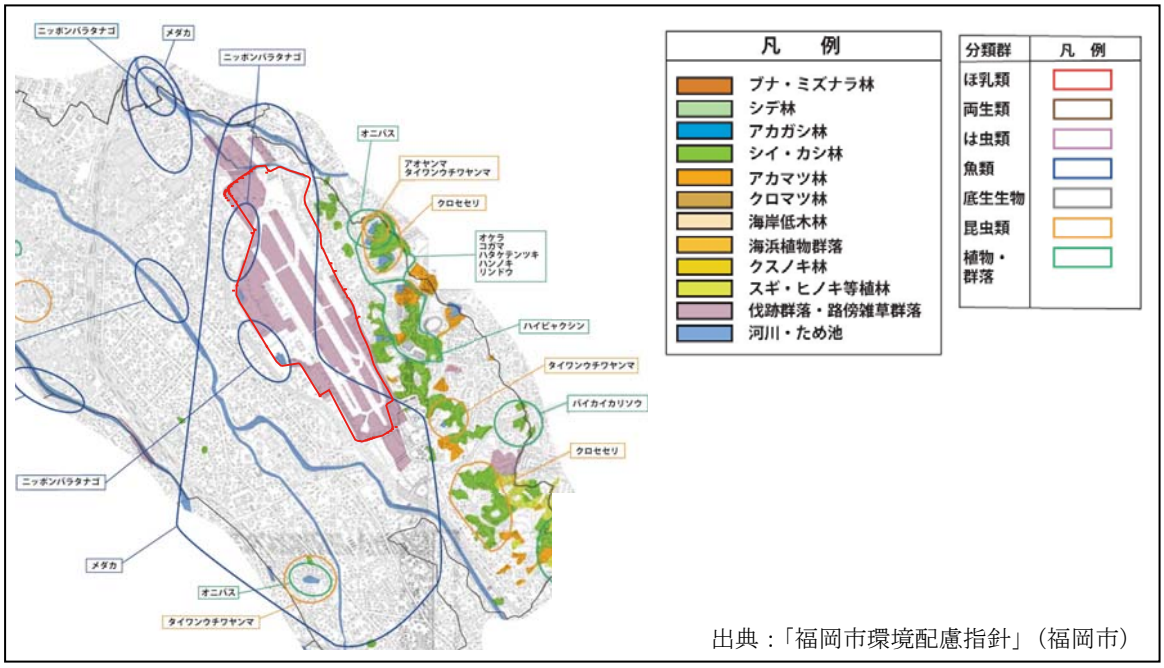
凡例　○：影響がない、または小さいと思われる要素　●：影響が少なからずあると思われ、留意すべき要素

上記の結果、「西側配置（滑走路間隔 210m）改良案」が環境的側面では優位である。

## （参考１）現空港における周辺自然環境の状況

○現福岡空港及び周辺の動物・植物の生息範囲（鳥以外）

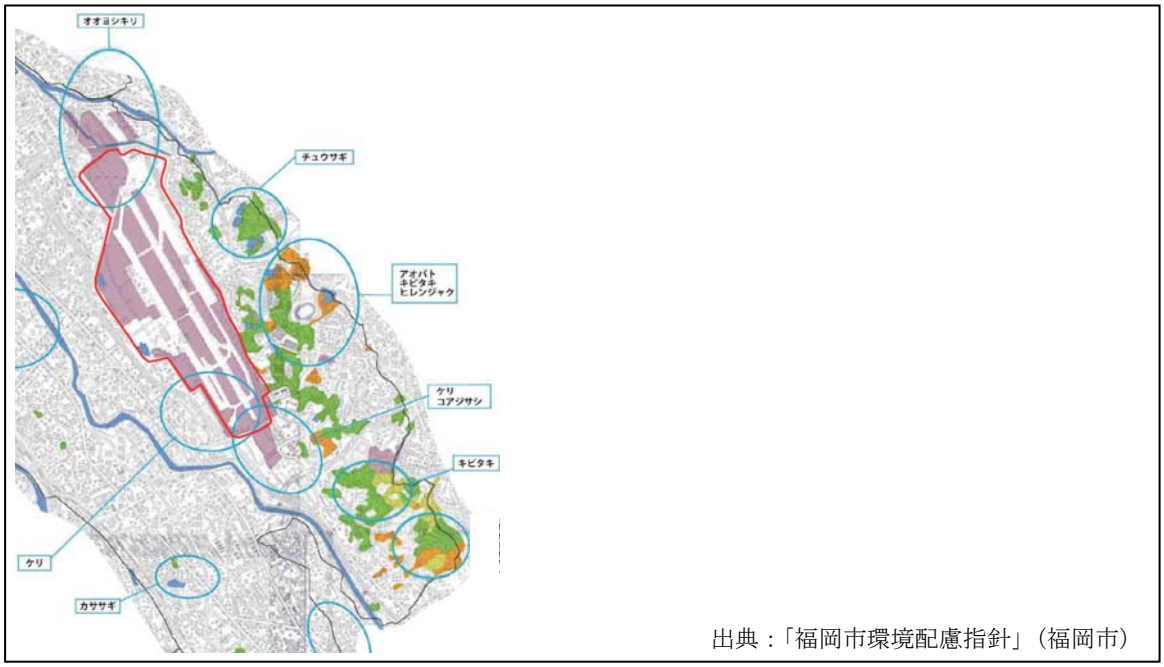
・現福岡空港及び周辺には、貴重な動植物として、魚類ではニッポンバラタナゴ、メダカ、昆虫類ではアオヤンマ、タイワンウチワヤンマ、植物ではハイビャクシン、ハンノキ等が確認されている。




出典：「福岡市環境配慮指針」（福岡市）

○現福岡空港及び周辺の動物・植物の生息範囲（鳥類）

・現福岡空港及び周辺には、貴重な鳥類として、ケリ、コアジサシ、オオヨシキリ等が確認されている。

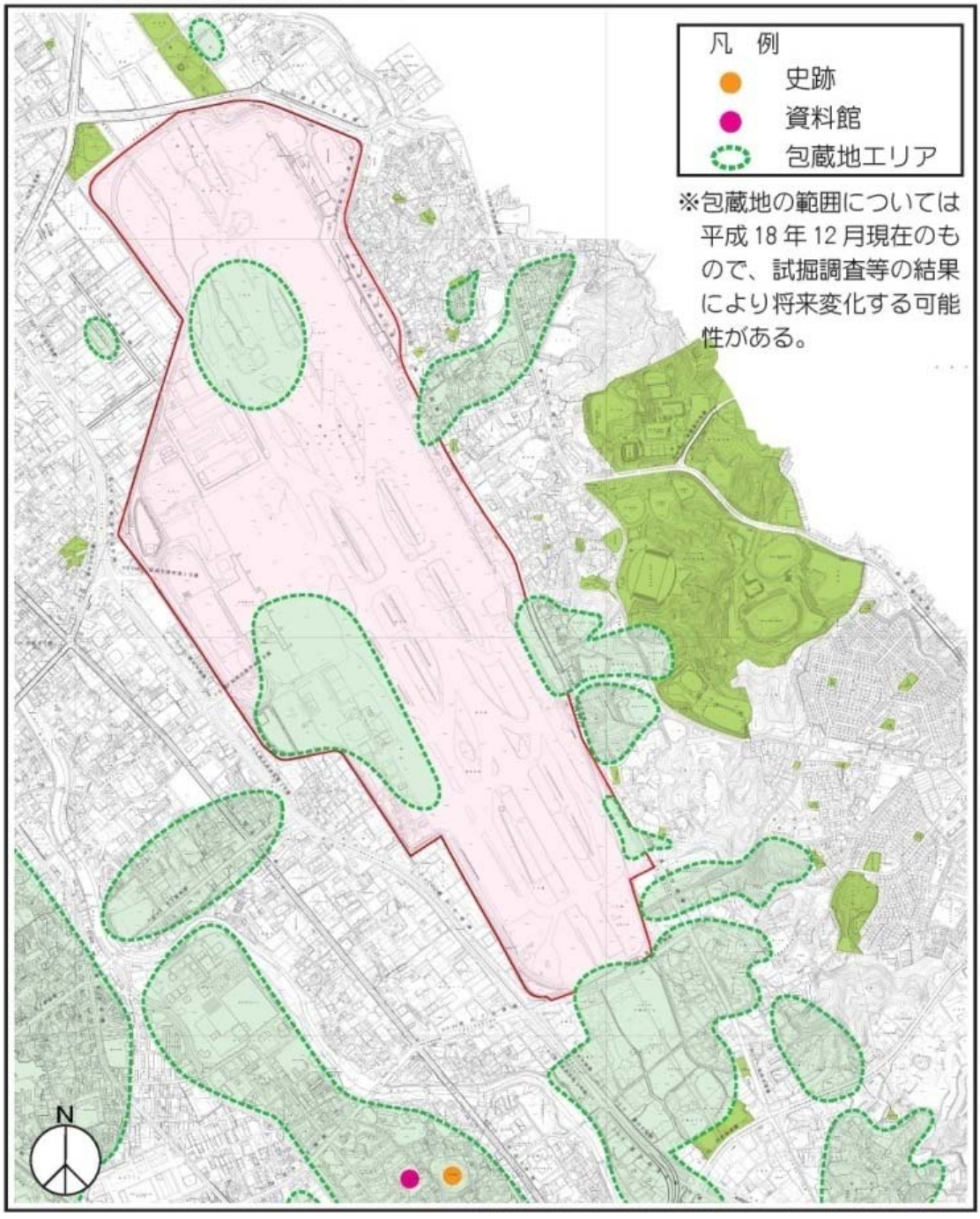



出典：「福岡市環境配慮指針」（福岡市）

## （参考２）現空港における埋蔵文化財の分布状況

○現福岡空港及び周辺の埋蔵文化財の分布状況

・現福岡空港及び周辺には埋蔵文化財が多く分布しており、現空港内には上牟田遺跡、雀居（ささい）遺跡があり、周辺には席田青木遺跡、久保園遺跡等が分布している。



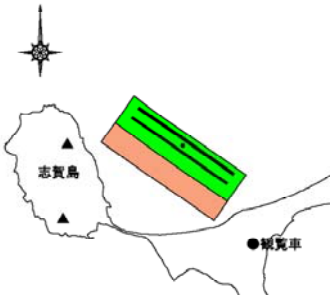
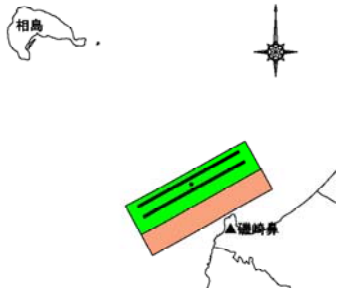

出典：「福岡市文化財分布地図」（福岡市教育委員会）

## (2) 新空港案における比較検討

### 1) 新空港案の特徴整理と代表案の検討

新空港案についても、様々な候補地ゾーンの中から、まず、制限表面・運行空域の確保や環境（玄海国定公園特別区域への抵触回避）、航空機騒音（市街化区域への影響回避）等の検討条件から多数案のうちゾーンの絞り込み（2 ゾーン）を行った。その後、一定以上のウインドカバレッジが確保できる滑走路配置案を複数検討し、その中でコストに大きな影響を及ぼす平均水深が優位な配置案をゾーン毎に絞り込み、その特徴を整理した。

その結果、2 案の優劣を判断することは現段階では困難であるが、アクセスと事業費の面で比較的優位と考えられる三苫・新宮ゾーンN61° E案を新空港代表案とした。

| 項目＼配置案 | | | | 志賀島・奈多ゾーン | 三苫・新宮ゾーン |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | |  |  |
| 滑走路方位 | | | | N125° E | **N61° E** |
| 空港能力 | 滑走路処理容量 | | | 21.3万回／年 （22.6万回／年）（注1） | **21.3万回／年 （22.6万回／年）（注1）** |
| | 現滑走路処理容量14.5万回／年との比較 | | | 1.47倍 （1.56倍）（注1） | **1.47倍 （1.56倍）（注1）** |
| 利便性 | 博多駅からの距離と所要時間 | | | 約23km, 20～25分 | **約17km, 15～20分** |
| | 福岡ICからの距離と所要時間 | | | 約22km, 概ね20分 | **約19km, 概ね20分** |
| 運航 | ウインドカバレッジ | 許容横風分力20ノット | 津屋崎沖観測ステーションデータ | 通年：98.6%程度　冬季：99.4%程度 | **通年：98.1%程度　冬季：96.1%程度** |
| | | | 海の中道海浜公園データ | 通年：99.6%程度　冬季：99.9%程度 | **通年：99.1%程度　冬季：98.5%程度** |
| | 制限表面 | | | 確保可能 | **確保可能** |
| 社会環境 | 航空機騒音 | WECPNL75以上の市街化区域への抵触 | | 抵触しない | **抵触しない** |
| | 法的規制等 | 国定公園（特別地域）への抵触 | | 抵触しない | **抵触しない** |
| 自然環境 | 周辺自然環境への影響 | | | 海浜に変形（前進あるいは後退）が生じる可能性がある。また、藻場、漁場、貴重生物、自然景観などに配慮する必要がある。 | **海浜に変形（前進あるいは後退）が生じる可能性がある。また、藻場、漁場、貴重生物、自然景観などに配慮する必要がある。** |
| 空港規模 | 全体用地面積（埋立面積） | | | 約510ha | **約510ha** |
| | 滑走路長×本数 | | | 3,000m×2本 | **3,000m×2本** |
| 建設 | 概算事業費 | 護岸・埋立（漁業補償含む） | | 約 5,400億円〔平均水深 約13m〕 | **約 5,200億円〔平均水深 約12m〕** |
| | | 基本施設 | | 約 1,600億円 | **約 1,600億円** |
| | | ターミナル施設 | | 約 1,500億円 | **約 1,500億円** |
| | | その他（アクセス施設） | | 約 1,200億円 | **約　900億円** |
| | | 合　計 | | 約 9,700億円 | **約 9,200億円** |
| | 工事着手後の工事期間 | | | 約9年 | **約9年** |
| その他 | 背後地域における物流施設等の立地可能性 | | | 海の中道海浜公園区域が背後にあり、空港近くでの立地の可能性が少ない。 | **空港と幹線道路の双方に近い位置に立地できる可能性がある。** |

注1）空港能力の（ ）書きはピーク時以外の昼間時間帯を有効利用した場合

### 2)　環境的側面での比較検討

新空港案の比較検討のうち、環境への影響の見通しについては、新空港における周辺自然環境の状況及び海浜変形の検討、漁業権の分布と漁場等を踏まえ、以下のとおり整理している。

| 評価項目 | | 評価指標 | 志賀島・奈多ゾーン | | 三苫・新宮ゾーン | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 大気環境 | 航空機騒音 | 市街地への影響 | ほぼ影響なし。 | ○ | ほぼ影響なし。 | ○ |
| | アクセス交通振動・騒音 | 市街地・住宅地・学校等の存在 | 想定されるアクセス区間内や周辺に福岡市東区の市街地が存在している。 | ● | 想定されるアクセス区間内や周辺に新宮町及び福岡市東区の市街地が存在している。 | ● |
| 水環境 | 水質 | 水質 | 埋立てにより水質変化が生じる可能性がある。 | ● | 埋立てにより水質変化が生じる可能性がある。 | ● |
| 土壌環境・その他 | 地形・地質 | 地形の改変 | 潮流の変化により海浜変形が生じる可能性がある。 | ● | 潮流の変化により海浜変形が生じる可能性がある。 | ● |
| 動物・植物・生態系 | | 植物群落等の改変面積 | 直接の改変はない。<br>対応案の対岸、想定されるアクセス区間内や周辺で以下の植物を確認。<br>・海浜植物群落・クロマツ林<br>また、以下の貴重な植物・群落を確認。<br>・雁ノ巣海浜植物群落・海の中道クロマツ林 | ○ | 直接の改変はない。<br>対応案の対岸、想定されるアクセス区間内や周辺で以下の植生を確認。<br>・海岸低木林・ブナ・ミズナラ林<br>また、以下の貴重な植物・群落を確認。<br>・海の中道クロマツ林 | ○ |
| | | 小動物等の生息・生育環境の場 | 空港島による直接の改変はない。<br>空港島の対岸、想定されるアクセス区間内や周辺で以下の小動物等を確認。<br>・アカウミガメ（爬虫類）<br>・カワラハンミョウ、ハラビロハンミョウ（昆虫類） | ● | 空港島による直接の改変はない。<br>空港島の対岸、想定されるアクセス区間内や周辺で以下の小動物等を確認。<br>・タイワンウチワヤンマ、ルリクワガタ（昆虫類） | ● |
| | | 貴重な鳥類 | 想定されるアクセス区間の一部及び周辺がコクガン、シノリガモ、ミサゴ、コアジサシ、マダラウミスズメ、ウミスズメ等の貴重な鳥類の生息・生育環境の場となっている。 | ● | 想定されるアクセス区間の一部及び周辺がチュウサギ、コシャクシギ、ノジコ等の貴重な鳥類の生息・生育環境の場となっている。 | ● |
| | | 生態系 | 陸域については直接の改変はない。<br>対応案の対岸、想定されるアクセス区間内や周辺で以下の生態系を確認。<br>・自然的樹林地<br>海域については埋立てによる影響の可能性がある。 | ● | 陸域については直接の改変はない。<br>対応案の対岸、想定されるアクセス区間内や周辺で以下の生態系を確認。<br>・自然的樹林地・植林地・竹林<br>海域については埋立てによる影響の可能性がある。 | ● |
| | | 藻場・干潟の改変面積 | 志賀島沿岸・海の中道沿岸に藻場。<br>空港島の存在が影響を与える可能性あり。 | ● | 相島沿岸・新宮町沿岸に藻場。<br>空港島や空港アクセスの存在により一部消失の可能性あり。 | ● |
| | | 国定公園・鳥獣保護区・海岸保全区域・保安林 | ・空港島が海域の国定公園普通地域を一部改変。想定されるアクセス区間内に国定公園１種地域が存在。<br>・対応案の対岸に海岸保全区域が存在する。 | ● | ・空港島が海域の国定公園普通地域を一部改変。想定されるアクセス区間内に国定公園３種地域が存在。<br>・対応案の対岸に海岸保全区域が存在する。 | ● |
| 景観 | | 景観資源・眺望景観の有無 | 海の中道<br>奈多砂丘 | ● | 三苫の海食崖<br>相ノ島 | ● |
| 人と自然とのふれあいの活動の場 | | 触合い活動の場の改変の有無 | 直接の改変はない。<br>対岸に以下の触合い活動の場が存在する。<br>・海の中道海浜公園<br>・身近な生き物等の分布する玄界灘沿岸 | ○ | 直接の改変はない。<br>周辺に以下の触合い活動の場が存在する。<br>・新宮海水浴場<br>・身近な生き物等の分布する玄界灘沿岸 | ○ |
| 飛行ルート | | 飛行ルート下の市街地 | 飛行ルート下に市街地がない。 | ○ | 飛行ルート下に市街地がない。 | ○ |
| その他 | | 漁業権設定の有無<br>改変の程度 | 共同漁業権が設定されている。<br>わかめ養殖業の区画漁業権が設定されている。<br>水域改変面積約 510ha | ● | 共同漁業権が設定されている。<br>水域改変面積約 510ha | ● |
| | | 漁場の有無<br>漁場までの距離 | クルマエビ・アカエビ・カレイの漁場に近接（相島～志賀島）。 | ● | クルマエビ・アカエビ・カレイの漁場に近接（相島～志賀島）。 | ● |

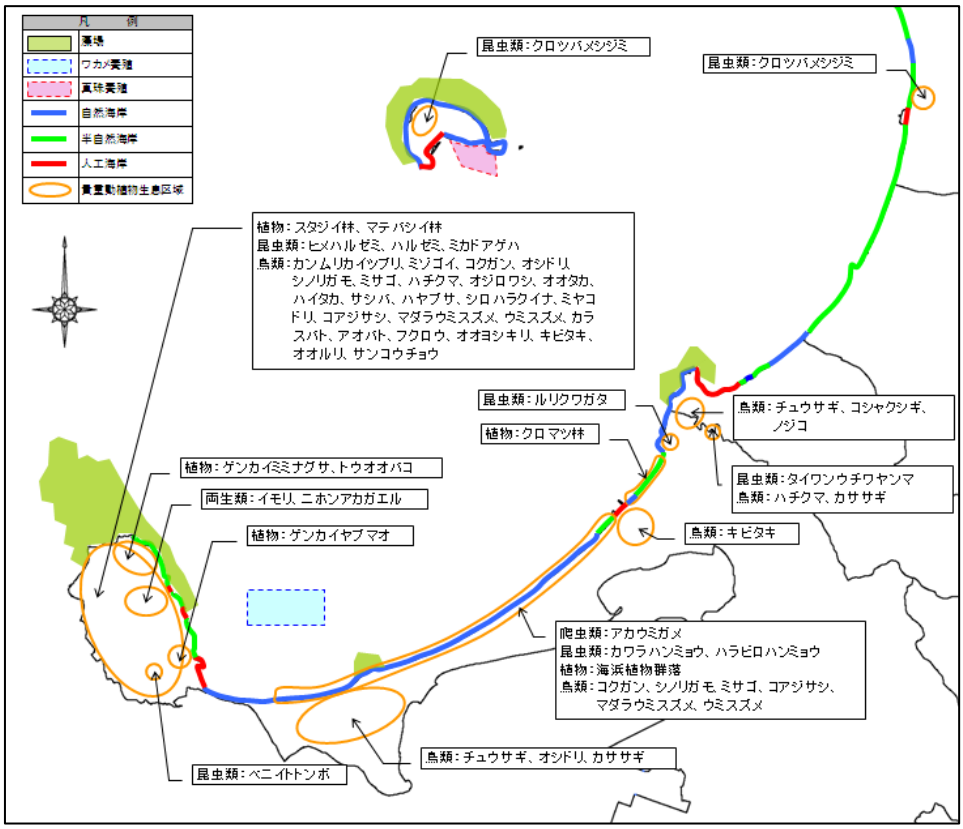
凡例　○：影響がない、または小さいと思われる要素　　●：影響が少なからずあると思われ、留意すべき要素

上記の結果、環境的側面で新空港２案の優劣を判断することは困難である。

## （参考３）新空港における周辺自然環境の状況及び海浜変形の検討

○周辺自然環境の状況

・候補地ゾーンの周辺には貴重な動植物として、爬虫類ではアカウミガメ、昆虫類ではルリクワガタ、鳥類ではチュウサギ、コアジサシ等が確認されている。また、藻場が存在している。




出典：「福岡市環境配慮指針」（福岡市）、「自然環境保全基礎調査」（環境庁）を基に作成

○海浜変形の検討

・空港の立地が沿岸部の海浜に及ぼす影響を把握するため、海の中道から津屋崎海岸までを対象として海浜変形（前進または後退）の検討を行った。この結果から、下表に示すように、大まかな傾向を把握することができた。

　なお、海浜変形の検討は本来、海象、海浜地形、底質など最新データをもとに行うことが望ましいが、現段階ではこれらの現地データが取得されていないため、今回は既存の資料をもとに、一部の条件も仮定して検討を行った。よって、今後現地の詳細なデータを取得のうえ精査を行う必要があり、今回の結果が変更となる可能性がある。

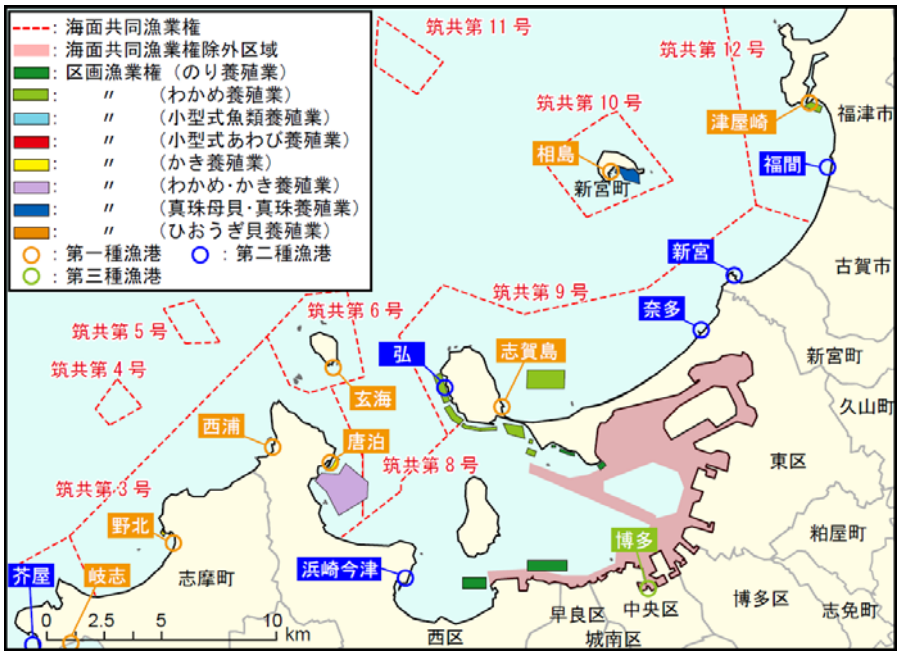
| ケース | 海浜変形の傾向 |
|---|---|
| 現状 | 候補地ゾーン海域が将来にわたって現状のまま（海域において新空港等の建設がない）とした場合、季節的変形が若干あるものの、長期的にはほぼ安定した傾向がある。 |
| 新空港建設 | 候補地ゾーン海域に新空港を建設した場合、空港島の離岸距離が大きくなるほど広範囲に変形が生じ、陸に近接するほど局部的（背後域）に変形が生じる傾向がある。陸に近接する配置案の位置では、背後の海浜が前進する傾向が見られる。<br>海岸防護対策を合わせて実施することにより、海浜変形を抑制できる可能性がある。 |

出典：「空港整備技術課題検討調査」（九州地方整備局）

## （参考４）漁業権の分布と主な漁場

○海面及び区画漁業権の分布

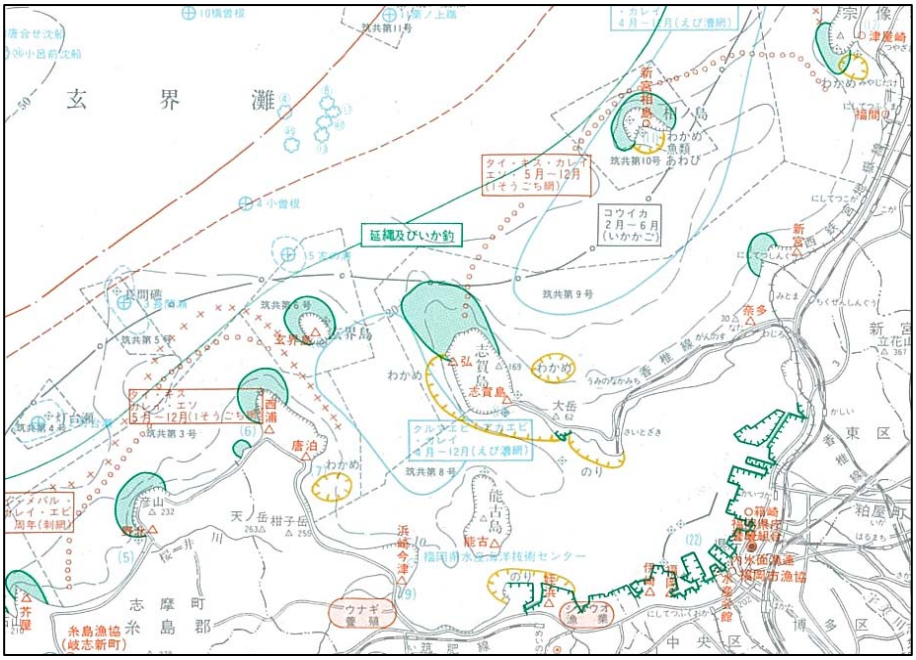
・候補地ゾーンの周辺には共同漁業権が設定されており、一部にはワカメ養殖等も行われている。




出典：福岡県漁業管理課資料を基に作成

○主な漁場と漁期

・候補地ゾーンの周辺には、クルマエビ、アカエビ、カレイ等の漁場が存在している。




出典：「福岡県水産要覧　福岡県水産要図」

### (3) 環境的側面での比較

滑走路増設代表案と新空港代表案の環境的側面については、以下のとおり整理している。下記の結果、優劣の差がつく評価項目が異なっているため、環境的側面で優劣を判断することは難しい。

| 評価項目 | | 評価指標 | 滑走路増設方策<br>西側配置（滑走路間隔 210m）改良案 | | 新空港方策<br>三苫・新宮ゾーン | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 大気環境 | 航空機騒音 | 騒音対策区域<br>市街地への影響 | 拡大する可能性は小さいが、現空港周辺の騒音は残る。 | ● | ほぼ影響なし。 | ○ |
| | アクセス交通振動・騒音 | 市街地・住宅地・学校等の存在 | 既存市街地が存在している。 | ● | 想定されるアクセス区間内や周辺に新宮町及び福岡市東区の市街地が存在している。 | ● |
| 水環境 | 水質 | 水質 | 大きな変化はない。 | ○ | 埋立てにより水質変化が生じる可能性がある。 | ● |
| 土壌環境・その他 | 地形・地質 | 地形の改変 | 特になし。 | ○ | 潮流の変化により海浜変形が生じる可能性がある。 | ● |
| 動物・植物・生態系 | | 植物群落等の改変面積 | 特になし。 | ○ | 直接の改変はない。空港島の対岸、想定されるアクセス区間内や周辺で以下の植物を確認。<br>・海の中道クロマツ | ○ |
| | | 小動物等の生息・生育環境の場 | ニッポンバラタナゴ（魚類）<br>メダカ（魚類）　等の貴重な魚類の生態系に影響する可能性がある。 | ● | 空港島による直接の改変はない。空港島の対岸、想定されるアクセス区間内や周辺で以下の小動物等を確認。<br>・タイワンウチワヤンマ、ルリクワガタ（昆虫類） | ○ |
| | | 貴重な鳥類 | ・ケリ・コアジサシ・オオヨシキリ等の貴重な鳥類の生態系に影響する可能性がある。 | ● | 想定されるアクセス区間の一部及び周辺がチュウサギ、コシャクシギ、ノジコ等の貴重な鳥類の生息・生育環境の場となっている。 | ● |
| | | 生態系 | 特になし。 | ○ | 陸域については直接の改変はない。対応案の対岸、想定されるアクセス区間内や周辺で以下の生態系を確認。<br>・自然的樹林地・植林地・竹林<br>海域については埋立てによる影響の可能性がある。 | ● |
| | | 藻場・干潟の改変面積 | 評価対象非存在で影響がない。 | ○ | 相島沿岸・新宮町沿岸に藻場。<br>空港島や空港アクセスの存在により一部消失の可能性あり。 | ● |
| | | 国定公園・鳥獣保護区・海岸保全区域・保安林 | 評価対象非存在で影響がない。 | ○ | ・空港島が海域の国定公園普通地域を一部改変。想定されるアクセス区間内に国定公園 3 種地域が存在。<br>・対応案の対岸に海岸保全区域が存在する。 | ● |
| 景観 | | 景観資源・眺望景観の有無 | 特になし。 | ○ | 三苫の海食崖<br>相ノ島 | ● |
| 人と自然とのふれあいの活動の場 | | 触合い活動の場の改変の有無 | 特になし。 | ○ | 直接の改変はない。周辺に以下の触合い活動の場が存在する。<br>・新宮海水浴場 | ○ |
| 文化財 | | 埋蔵文化財の有無 | 雀居遺跡等が空港用地の拡張により影響を受ける可能性がある。 | ● | 海域のため埋蔵文化財の存在はなく影響はない。 | ○ |
| 飛行ルート | | 飛行ルート下の市街地 | 市街地あり。 | ● | 飛行ルート下に市街地がない。 | ○ |
| その他 | | 漁業権設定の有無<br>改変の程度 | 評価対象非存在で影響がない。 | ○ | 共同漁業権が設定されている。<br>わかめ養殖業の区画漁業権が設定されている。<br>水域改変面積約 510ha | ● |
| | | 漁場の有無<br>漁場までの距離 | 評価対象非存在で影響がない。 | ○ | クルマエビ・アカエビ・カレイの漁場に近接（相島～志賀島）。 | ● |

凡例　○：影響がない、または小さいと思われる要素　　●：影響が少なからずあると思われ、留意すべき要素

### 2.4.3　総合的調査段階における検討内容について

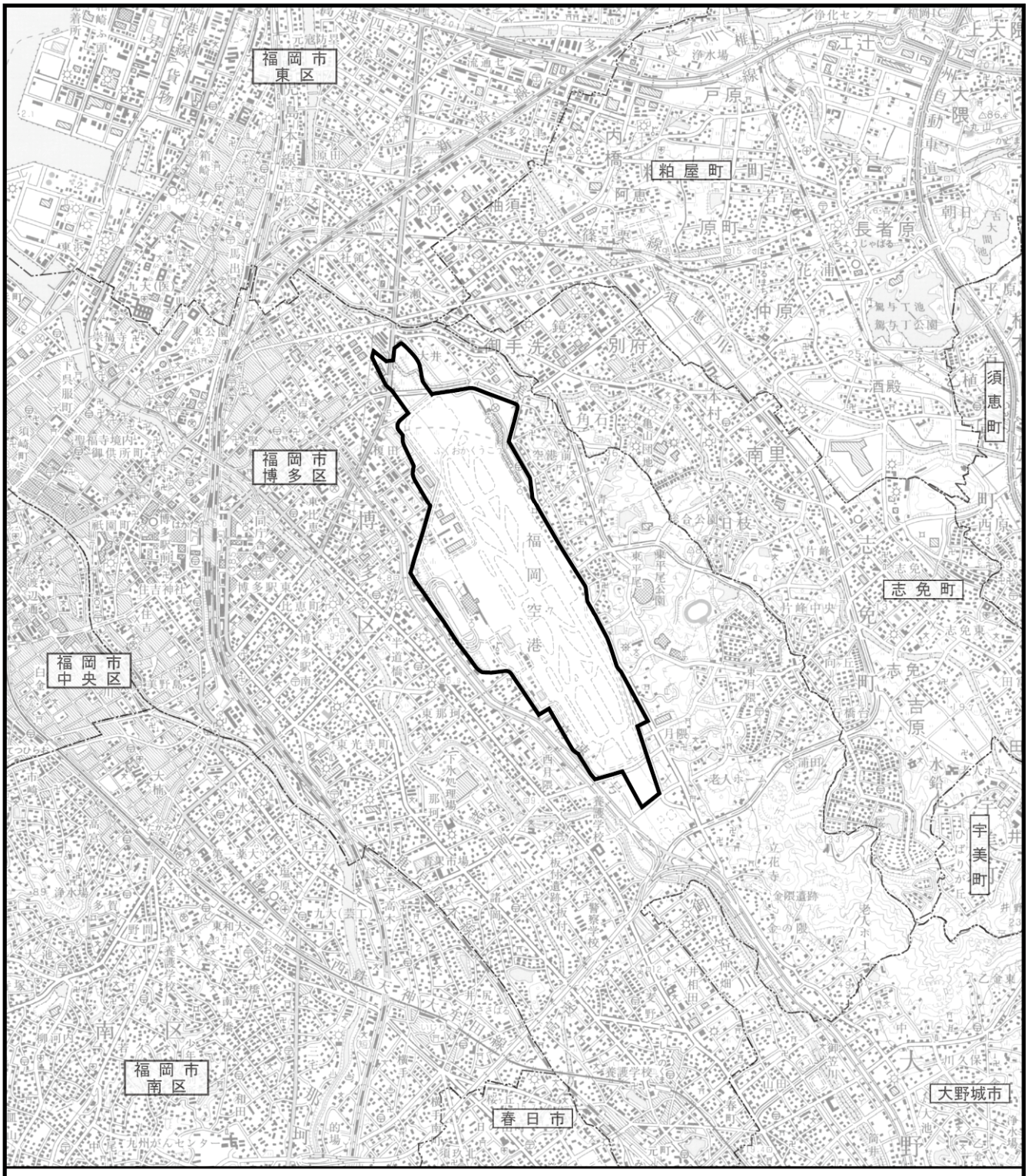
前述の 2.4.1 及び 2.4.2 は、戦略的アセスメントの概念を先取りする形となった福岡空港の平成 15 年度からの「総合的な調査」における現空港の滑走路増設案で検討を進めるに至った経緯及び環境面での検討経緯を整理したものである。平成 24 年に環境省へ本経緯が提出され、これら検討内容を踏まえ、環境面についても、住民や第三者委員会からの意見聴取の実施等、合理的な手続きにより比較検討されているとの評価がなされた。

# 第 3 章　対象事業実施区域及びその周囲の概況

# 第3章　対象事業実施区域及びその周囲の概況

対象事業実施区域及びその周囲（以下、「事業実施区域周囲」という。）の概況（大気環境を除く）については、図 3-1 に示す範囲を対象とし、既存資料を基に把握した。

なお、統計資料及び大気環境の概況については、主として図 3-2 に示す福岡市、筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川町、宇美町、志免町、須恵町及び粕屋町を対象に把握を行った。




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

図3-1　事業実施区域周囲




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

図3-2　周辺自治体の位置

N

1:100,000

0　2.5　5km

## 3.1 自然的状況

### 3.1.1 大気環境の状況

#### (1) 気象

対象事業実施区域に最も近い気象観測地点である福岡管区気象台（図 3.1.1-2 参照）における気象状況の平年値（1981～2010 年の平均値）は、表 3.1.1-1 に示すとおりである。

事業実施区域周囲は日本海型気候区に属している。対馬海流の支流が流れる玄界灘に面するため、年間を通した気候要素を見ると暖帯的要素が強いが、日本海側に位置することから冬季に曇りや雨の天気が多く、季節風の影響により風の強い日が多いといった、日本海型気候区の特徴を示す。ただし、降水量の最大値は冬季ではなく夏季に来ることから、太平洋型気候区への漸移帯であると考えられている。

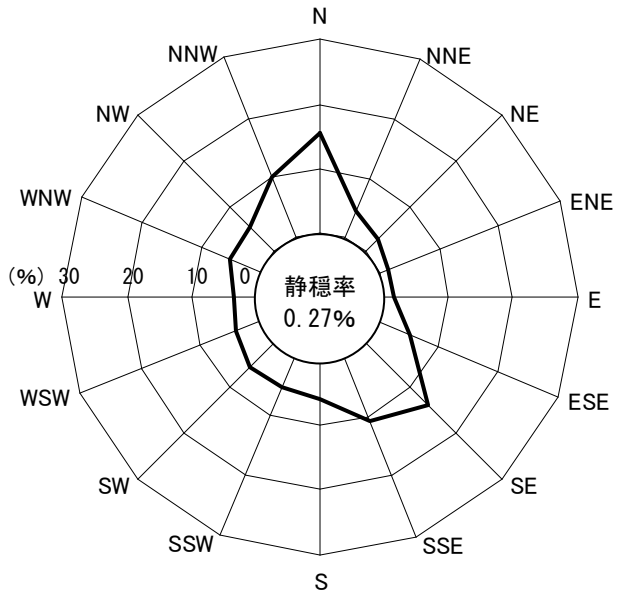
平年値の平均気温は 17.0℃、平均相対湿度は 68%、年間降水量は 1612.3mm となっている。

**表 3.1.1-1　気象の概況**

| 区分／月 | 現地気圧 (hPa) | 平均気温 (℃) | 相対湿度 (%) | 平均風速 (m/s) | 最多風向 | 降水量 (mm) | 日照時間 (時間) | 降雪の深さ (cm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 月 | 1020.1 | 6.6 | 63 | 2.9 | SE | 68.0 | 102.1 | 2 |
| 2 月 | 1018.8 | 7.4 | 63 | 3.0 | SE | 71.5 | 121.0 | 1 |
| 3 月 | 1016.5 | 10.4 | 65 | 3.1 | N | 112.5 | 149.8 | 1 |
| 4 月 | 1013.4 | 15.1 | 65 | 3.0 | N | 116.6 | 181.6 | - |
| 5 月 | 1010.0 | 19.4 | 68 | 2.8 | N | 142.5 | 194.6 | - |
| 6 月 | 1006.5 | 23.0 | 74 | 2.7 | N | 254.8 | 149.4 | - |
| 7 月 | 1006.2 | 27.2 | 75 | 2.8 | N | 277.9 | 173.5 | - |
| 8 月 | 1006.7 | 28.1 | 72 | 2.9 | N | 172.0 | 202.1 | - |
| 9 月 | 1010.3 | 24.4 | 73 | 2.9 | N | 178.4 | 162.8 | - |
| 10 月 | 1015.5 | 19.2 | 67 | 2.7 | N | 73.7 | 177.1 | - |
| 11 月 | 1019.0 | 13.8 | 67 | 2.6 | SE | 84.8 | 136.3 | - |
| 12 月 | 1020.5 | 8.9 | 64 | 2.8 | SE | 59.8 | 116.7 | 0 |
| 全年 | 1013.6 | 17.0 | 68 | 2.9 | SE | 1612.3 | 1867.0 | 4 |

出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ホームページ、http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php）

福岡管区気象台における平成 23 年の風の状況は、図 3.1.1-1 に示すとおりで、年間最多風向は北（15.54%）で、次いで南東（13.84%）、南南東（10.76%）となっており、年間を通じてほぼ滑走路に沿う方向の発生頻度が高くなっている。




（注）静穏率は，風速 0.3m/s 未満の状態を指す。
出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ホームページ、
http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php）

図 3.1.1-1　福岡管区気象台における年間風配図

### (2) 大気質

事業実施区域周囲には図 3.1.1-2 に示すとおり、一般環境大気測定局が 5 局、自動車排出ガス測定局が 4 局ある。また、吉塚小学校で降下ばいじんの測定が行われている。これらの測定局の測定項目は表 3.1.1-2 に示すとおりである。

なお、微小粒子状物質（PM2.5）の測定は、大橋局では平成 23 年 3 月から、吉塚局及び市役所局では平成 24 年 3 月から，それぞれ測定を開始している。

**表 3.1.1-2　大気汚染測定地点及び測定物質**

| 測定局名 | | 測定物質 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 環境基準物質 | | | | | | | | | | | 降下ばいじん |
| | | 二酸化いおう | 一酸化炭素 | 浮遊粒子状物質 | 二酸化窒素 | 光化学オキシダント | ベンゼン | トリクロロエチレン | テトラクロロエチレン | ジクロロメタン | 微小粒子状物質 | ダイオキシン類 | |
| 一般環境大気 | 東 | － | － | ○ | ○ | ○ | － | － | － | － | | － | － |
| | 吉塚 | ○ | － | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | － | ○ |
| | 市役所 | ○ | － | ○ | ○ | ○ | － | － | － | － | ○ | － | ○ |
| | 南 | － | － | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | － | ○ |
| | 太宰府 | － | － | ○ | ○ | ○ | － | － | － | － | | － | － |
| 自動車排出ガス | 比恵 | － | － | ○ | ○ | － | － | － | － | － | | － | － |
| | 千鳥橋 | － | － | ○ | ○ | － | － | － | － | － | | － | － |
| | 天神 | ○ | ○ | ○ | ○ | － | － | － | － | － | | － | － |
| | 大橋 | － | － | ○ | ○ | － | － | － | － | － | ○ | － | － |
| 吉塚小学校 | | － | － | － | － | － | － | － | － | － | | ○ | |

(注)東局、南局、太宰府局においては、平成 21 年度以降二酸化いおうの測定を中止している。

出典：「ふくおかの大気環境」（福岡県ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/fukuoka-taiki-env.html）

「平成 23 年度版　ふくおかの環境」（平成 23 年 10 月　福岡市環境局）

「平成 23 年度の環境監視の結果」（平成 24 年 8 月　福岡市環境局）




凡　例

- ：対象事業実施区域
- ：市町村界
- ：区界
- ■：気象観測所
- ●：一般環境大気測定局
- ◎：自動車排出ガス測定局
- ◇：降下ばいじん測定局

N

1:100,000

0　2.5　5km

出典:「平成22年版日本の大気汚染状況」(平成23年11月　環境省水・大気環境局)

図3.1.1-2　気象・大気測定地点位置図

1）二酸化いおう

二酸化いおうの測定結果及び年平均値の経年変化は、表 3.1.1-3 及び表 3.1.1-4 に示すとおりである。平成 22 年度の測定結果では、全ての測定局において環境基準を満足しており、経年変化についてはやや減少傾向にある。

表 3.1.1-3　二酸化いおう測定結果（平成 22 年度）

| 測定局名 | 年平均値 (ppm) | 日平均値の2%除外値 (ppm) | 日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無 | 環境基準 | 環境基準との比較 |
|---|---|---|---|---|---|
| 吉塚 | 0.002 | 0.005 | 無 | 1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1 時間値が0.1ppm以下であること。 | ○ |
| 市役所 | 0.003 | 0.005 | 無 | | ○ |
| 天神 | 0.005 | 0.007 | 無 | | ○ |

(注)環境基準との比較では、日平均値の 2%除外値が 0.04ppm 以下であり、かつ、年間を通じて日平均値が 0.04ppm を超える日が 2 日以上連続しないこと（長期的評価）を満たしている場合は「○」、満たしていない場合は「×」と表示している。

出典：「平成 23 年度版　ふくおかの環境」（平成 23 年 10 月　福岡市環境局）

表 3.1.1-4　二酸化いおう（年平均値）の経年変化

| 測定局名 | 年平均値（ppm） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 | 22 年度 |
| 東 | 0.005 | 0.005 | 0.004 | － | － |
| 吉塚 | 0.003 | 0.003 | 0.002 | 0.002 | 0.002 |
| 市役所 | 0.004 | 0.004 | 0.003 | 0.003 | 0.003 |
| 南 | 0.005 | 0.004 | 0.003 | － | － |
| 太宰府 | 0.004 | 0.005 | 0.006 | － | － |
| 天神 | 0.007 | 0.007 | 0.005 | 0.004 | 0.005 |

(注)東局、南局、太宰府局においては、平成 21 年度以降二酸化いおうの測定を中止している。

出典：「ふくおかの大気環境」（福岡県ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/fukuoka-taiki-env.html）
「平成 23 年度版　ふくおかの環境」（平成 23 年 10 月　福岡市環境局）

2) 一酸化炭素

一酸化炭素の測定結果及び年平均値の経年変化は、表 3.1.1-5 及び表 3.1.1-6 に示すとおりである。平成 22 年度の測定結果では、天神測定局において環境基準を満足しており、経年変化については横ばい傾向にある。

表 3.1.1-5　一酸化炭素測定結果（平成 22 年度）

| 測定局名 | 年平均値 (ppm) | 日平均値の2%除外値 (ppm) | 日平均値が10ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無 | 環境基準 | 環境基準との比較 |
|---|---|---|---|---|---|
| 天神 | 0.9 | 1.3 | 無 | 1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。 | ○ |

(注)環境基準との比較では、日平均値の 2%除外値が 10ppm 以下であり、かつ、年間を通じて日平均値が 10ppm を超える日が 2 日以上連続しないこと（長期的評価）を満たしている場合は「○」、満たしていない場合は「×」と表示している。

出典：「平成 23 年度版　ふくおかの環境」（平成 23 年 10 月　福岡市環境局）

表 3.1.1-6　一酸化炭素（年平均値）の経年変化

| 測定局名 | 年平均値（ppm） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 | 22 年度 |
| 天神 | 0.9 | 1.1 | 0.9 | 1.1 | 0.9 |

出典：「平成 23 年度版　ふくおかの環境」（平成 23 年 10 月　福岡市環境局）

### 3) 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の測定結果及び年平均値の経年変化は、表 3.1.1-7 及び表 3.1.1-8 に示すとおりである。平成 22 年度の測定結果では、南局、大橋局以外の測定局においては、黄砂等の影響により環境基準を満足できなかった。経年変化についてはやや減少傾向にある。

**表 3.1.1-7　浮遊粒子状物質測定結果（平成 22 年度）**

| 測定局名 | 年平均値 ($mg/m^3$) | 日平均値の2%除外値 ($mg/m^3$) | 日平均値が 0.10$mg/m^3$ を超えた日が2日以上連続したことの有無 | 環境基準 | 環境基準との比較 |
|---|---|---|---|---|---|
| 東 | 0.021 | 0.069 | 有 | 1 時間値の 1 日平均値が 0.10$mg/m^3$ 以下であり、かつ、1時間値が 0.20$mg/m^3$ 以下であること。 | × |
| 吉塚 | 0.028 | 0.073 | 有 | | × |
| 市役所 | 0.031 | 0.080 | 有 | | × |
| 南 | 0.016 | 0.060 | 無 | | ○ |
| 太宰府 | 0.030 | 0.068 | 有 | | × |
| 比恵 | 0.031 | 0.073 | 有 | | × |
| 千鳥橋 | 0.025 | 0.072 | 有 | | × |
| 天神 | 0.030 | 0.073 | 有 | | × |
| 大橋 | 0.018 | 0.062 | 無 | | ○ |

(注)環境基準との比較では、日平均値の 2%除外値が 0.10$mg/m^3$ 以下であり、かつ、年間を通じて日平均値が 0.10$mg/m^3$ を超える日が 2 日以上連続しないこと（長期的評価）を満たしている場合は「○」、満たしていない場合は「×」と表示している。

出典：「ふくおかの大気環境」（福岡県ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/fukuoka-taiki-env.html）
「平成 23 年度版　ふくおかの環境」（平成 23 年 10 月　福岡市環境局）

**表 3.1.1-8　浮遊粒子状物質（年平均値）の経年変化**

| 測定局名 | 年平均値 ($mg/m^3$) | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 | 22 年度 |
| 東 | 0.032 | 0.032 | 0.026 | 0.021 | 0.021 |
| 吉塚 | 0.034 | 0.033 | 0.028 | 0.029 | 0.028 |
| 市役所 | 0.037 | 0.037 | 0.033 | 0.031 | 0.031 |
| 南 | 0.037 | 0.036 | 0.027 | 0.024 | 0.016 |
| 太宰府 | 0.027 | 0.024 | 0.041 | 0.033 | 0.030 |
| 比恵 | 0.040 | 0.044 | 0.043 | 0.031 | 0.031 |
| 千鳥橋 | 0.027 | 0.029 | 0.030 | 0.028 | 0.025 |
| 天神 | 0.040 | 0.038 | 0.037 | 0.032 | 0.030 |
| 大橋 | 0.036 | 0.037 | 0.033 | 0.029 | 0.018 |

出典：「ふくおかの大気環境」（福岡県ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/fukuoka-taiki-env.html）
「平成 23 年度版　ふくおかの環境」（平成 23 年 10 月　福岡市環境局）

### 4) 二酸化窒素

二酸化窒素の測定結果及び年平均値の経年変化は、表 3.1.1-9 及び表 3.1.1-10 に示すとおりである。平成 22 年度の測定結果では、全ての測定局において環境基準を満足しており、経年変化については横ばい傾向にある。

**表 3.1.1-9　二酸化窒素測定結果（平成 22 年度）**

| 測定局名 | 年平均値 | 日平均値の年間 98%値 | 環境基準 | 環境基準との比較 |
|---|---|---|---|---|
| | (ppm) | (ppm) | | |
| 東 | 0.017 | 0.039 | 1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。 | ○ |
| 吉塚 | 0.016 | 0.039 | | ○ |
| 市役所 | 0.020 | 0.037 | | ○ |
| 南 | 0.014 | 0.030 | | ○ |
| 太宰府 | 0.016 | 0.034 | | ○ |
| 比恵 | 0.018 | 0.036 | | ○ |
| 千鳥橋 | 0.023 | 0.046 | | ○ |
| 天神 | 0.039 | 0.058 | | ○ |
| 大橋 | 0.015 | 0.030 | | ○ |

(注)環境基準との比較では、日平均値の年間 98%値が 0.06ppm 以下であることを満たしている場合は「○」、満たしていない場合は「×」と表示している。

出典：「ふくおかの大気環境」（福岡県ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/fukuoka-taiki-env.html）
「平成 23 年度版　ふくおかの環境」（平成 23 年 10 月　福岡市環境局）

**表 3.1.1-10　二酸化窒素（年平均値）の経年変化**

| 測定局名 | 年平均値（ppm） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 | 22 年度 |
| 東 | 0.015 | 0.014 | 0.015 | 0.017 | 0.017 |
| 吉塚 | 0.020 | 0.013 | 0.013 | 0.011 | 0.016 |
| 市役所 | 0.023 | 0.022 | 0.021 | 0.020 | 0.020 |
| 南 | 0.017 | 0.014 | 0.013 | 0.010 | 0.014 |
| 太宰府 | 0.016 | 0.014 | 0.015 | 0.015 | 0.016 |
| 比恵 | 0.026 | 0.023 | 0.019 | 0.018 | 0.018 |
| 千鳥橋 | 0.032 | 0.026 | 0.026 | 0.024 | 0.023 |
| 天神 | 0.040 | 0.042 | 0.040 | 0.041 | 0.039 |
| 大橋 | 0.019 | 0.019 | 0.017 | 0.016 | 0.015 |

出典：「ふくおかの大気環境」（福岡県ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/fukuoka-taiki-env.html）
「平成 23 年度版　ふくおかの環境」（平成 23 年 10 月　福岡市環境局）

### 5) 光化学オキシダント

光化学オキシダントの測定結果及び年平均値の経年変化は、表 3.1.1-11 及び表 3.1.1-12 に示すとおりである。平成 22 年度の測定結果では、全ての測定局において環境基準を満足しておらず、経年変化については横ばい傾向にある。

なお、平成 22 年度の光化学オキシダントの測定結果によれば、環境基準を満足している測定局は全国で皆無であり、近年、その達成状況はきわめて低い水準で推移している。

**表 3.1.1-11　光化学オキシダント測定結果（平成 22 年度）**

| 測定局名 | 昼間の 1 時間値の年平均値 | 昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数と時間数 | | 環境基準 | 環境基準との比較 |
|---|---|---|---|---|---|
| | (ppm) | (日) | (時間) | | |
| 東 | 0.033 | 85 | 467 | 1 時間値が 0.06ppm 以下であること。 | × |
| 吉塚 | 0.032 | 74 | 403 | | × |
| 市役所 | 0.030 | 59 | 252 | | × |
| 南 | 0.035 | 105 | 612 | | × |
| 太宰府 | 0.031 | 87 | 418 | | × |

(注)環境基準との比較では、昼間の 1 時間値が年間を通じて 0.06ppm 以下であることを満たしている場合は「○」、満たしていない場合は「×」と表示している。なお、昼間とは 5 時から 20 時までの時間帯をいう。したがって、1 時間値は 6 時から 20 時まで得られることになる。

出典：「ふくおかの大気環境」（福岡県ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/fukuoka-taiki-env.html）
「平成 23 年度版　ふくおかの環境」（平成 23 年 10 月　福岡市環境局）

**表 3.1.1-12　光化学オキシダント（昼間の 1 時間値の年平均値）の経年変化**

| 測定局名 | 年平均値（ppm） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 | 22 年度 |
| 東 | 0.028 | 0.033 | 0.032 | 0.037 | 0.033 |
| 吉塚 | 0.028 | 0.033 | 0.032 | 0.036 | 0.032 |
| 市役所 | 0.027 | 0.032 | 0.031 | 0.032 | 0.030 |
| 南 | 0.027 | 0.036 | 0.033 | 0.038 | 0.035 |
| 太宰府 | 0.033 | 0.033 | 0.029 | 0.030 | 0.031 |

出典：「ふくおかの大気環境」（福岡県ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/fukuoka-taiki-env.html）
「平成 23 年度版　ふくおかの環境」（平成 23 年 10 月　福岡市環境局）

### 6) 有害大気汚染物質

有害大気汚染物質の平成 22 年度の測定結果は、表 3.1.1-13 に示すとおりである。トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン及びジクロロメタンについては、全ての測定局において環境基準を大きく下回る低濃度である。ベンゼンにおいても全ての測定局において環境基準を満足しており、平成 12 年 1 月からのガソリンに含まれるベンゼンの規制強化により、主な排出源である道路交通に伴う排出量の低減効果が生じていると思われ、その濃度は年々減少している状況にある。

また、これらの中で、環境基準は満足しているものの比較的高い濃度となっているベンゼンについては、飛行場及びその施設の設置又は変更の事業に係る主務省令の参考項目でも選定されていないことや、他の飛行場の設置事業等のアセスにおいても項目として選定された事例もないほか、環境省の資料において、航空機からの排出量は、交通機関全体の中のシェアとして 0.2%の寄与度となっていることから、事業特性としてこれらの環境影響は小さいと考える。

なお、羽田空港の環境影響評価においても、項目として選定していないが、環境影響評価とは別に予測した結果、0.00001mg/m$^3$ と低い結果となり、事業実施によるベンゼンに係る環境の変化はないとされている。

**表 3.1.1-13　有害大気汚染物質（年平均値）の測定結果（平成 22 年度）**

| 測定局名 | ベンゼン | トリクロロエチレン | テトラクロロエチレン | ジクロロメタン |
|---|---|---|---|---|
| 吉塚 | 1.2μg/m$^3$ | 0.051μg/m$^3$ | 0.17μg/m$^3$ | 1.2μg/m$^3$ |
| 南 | 1.1μg/m$^3$ | 0.041μg/m$^3$ | 0.070μg/m$^3$ | 0.73μg/m$^3$ |
| 環境基準 | 1 年平均値が 0.003mg/m$^3$ 以下（3μg/m$^3$ 以下）であること。 | 1 年平均値が 0.2mg/m$^3$ 以下（200μg/m$^3$ 以下）であること。 | 1 年平均値が 0.2mg/m$^3$ 以下（200μg/m$^3$ 以下）であること。 | 1 年平均値が 0.15mg/m$^3$ 以下（150μg/m$^3$ 以下）であること。 |
| 環境基準との比較 | ○ | ○ | ○ | ○ |

出典：「平成 23 年度版　ふくおかの環境」（平成 23 年 10 月　福岡市環境局）

### 7) ダイオキシン類

ダイオキシン類に関する大気の平成 23 年度の測定結果は、表 3.1.1-14 に示すとおりである。全ての測定局において環境基準を満足している。

**表 3.1.1-14　ダイオキシン類測定結果（大気質・平成 23 年度）**

| 測定局名 | 年平均値 (pg-TEQ/m³) | 環境基準 | 環境基準との比較 |
|---|---|---|---|
| 吉塚 | 0.022 | 0.6pg-TEQ/m³以下であること。 | ○ |
| 市役所 | 0.018 | | ○ |
| 南 | 0.016 | | ○ |

出典：「ダイオキシン類の調査結果」（福岡市ホームページ、
http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-hozen/life/kankyohozen/prtrdeta_2_3.html）

### 8) 微小粒子状物質

微小粒子状物質に関する大気の平成 23 年度の測定結果は、表 3.1.1-15 に示すとおりである。自動車排出ガス測定局である大橋局においては、環境基準を満足していない。

なお、一般環境大気測定局である吉塚局及び市役所局は、平成 24 年 3 月 1 日からの測定であり、年間有効測定日数が 250 日未満のため、参考値である。

**表 3.1.1-15　微小粒子状物質測定結果（大気質・平成 23 年度）**

| 測定局名 | 年平均値 (μg/m³) | 日平均値の年間 98%値 (μg/m³) | 環境基準 | 環境基準との比較 |
|---|---|---|---|---|
| 吉塚 | (19.2) | (42.5) | 1 年平均値が 15μg/m³以下であり、かつ、1 日平均値が 35μg/m³以下であること。 | － |
| 市役所 | (20.8) | (42.3) | | － |
| 大橋 | 20.0 | 48.9 | | × |

出典：「平成 23 年度の環境監視の結果」（平成 24 年 8 月　福岡市環境局）

### 9）降下ばいじん

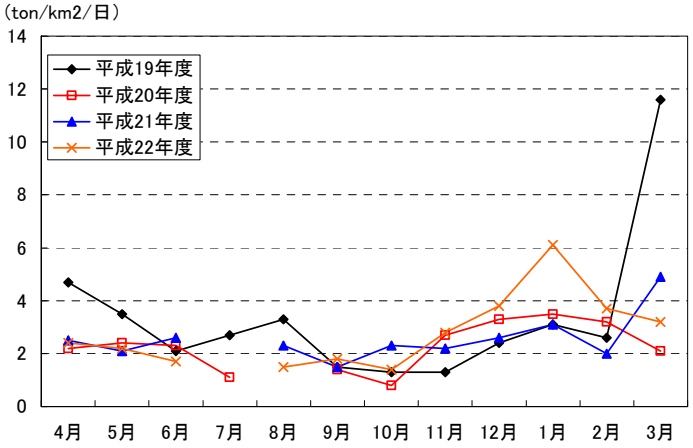
降下ばいじん量の年平均値の経年変化は、表 3.1.1-16 に示すとおりである。吉塚小学校における年平均値の経年変化については横ばい傾向にあり、いずれも参考値を下回っている。また，月別の降下ばいじん量の変動は、図 3.1.1-3 に示すとおりであり、冬季から春季にかけて高くなる傾向にある。

表 3.1.1-16　降下ばいじん量（年平均値）の経年変化

| 測定局名 | 年平均値（t/km²/月） | | | | | 参考値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 18 年度 | 19 年度 | 20 年度 | 21 年度 | 22 年度 | |
| 吉塚小学校 | 2.3 | 3.3 | 2.3 | 2.6 | 2.8 | 10 |

（注）参考値は、降下ばいじん量の比較的高い地域の値とした。この値は、平成 5 年度から平成 9 年度に全国の一般環境大気測定局で測定された降下ばいじん量のデータから上位 2%を除外して得られた値である。

出典：「平成 23 年度版　ふくおかの環境」（平成 23 年 10 月　福岡市環境局）




（注）平成 20 年度の 8 月、平成 21 年度及び平成 22 年度の 7 月は欠測である。

出典：「福岡市大気測定結果報告書」（各年度版 福岡市環境局）

図 3.1.1-3　月別の降下ばいじん量の変動

### (3) 騒音

#### 1) 道路交通騒音

事業実施区域周囲における平成 22 年度の道路交通騒音の測定結果は、表 3.1.1-17 に示すとおりであり、測定地点は図 3.1.1-4 に示すとおりである。

道路交通騒音が環境基準を満足していない地点は、福岡市博多区及び大野城市内の一般国道 3 号沿道、福岡市南区内の一般国道 385 号及び福岡筑紫野線沿道等の交通量の多い幹線道路に出現している。

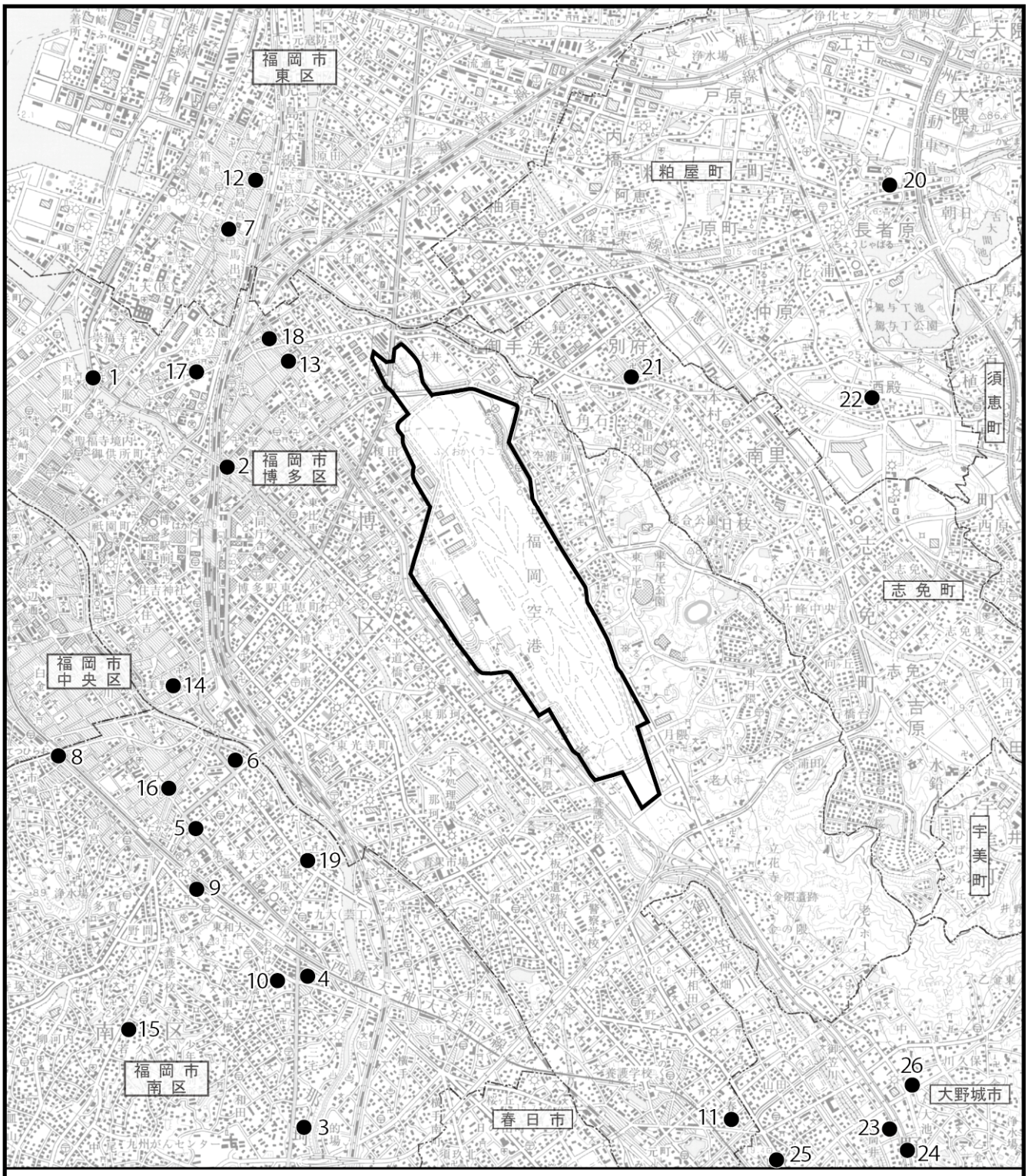
**表 3.1.1-17　騒音の状況（道路交通騒音）（平成 22 年度）**

単位：デシベル

| 番号 | 路線名 | 測定地点の住所 | 車線数 | 測定結果 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 昼間 | 夜間 |
| 1 | 一般国道 3 号 | 福岡市博多区千代 3-18-3 | 6 | 74 | 70 |
| 2 | | 福岡市博多区堅粕 4-1-1 | 4 | 69 | 65 |
| 3 | 一般国道 385 号 | 福岡市南区和田 1-3-24 | 4 | 71 | 68 |
| 4 | | 福岡市南区大橋 2-13-15 | 4 | 68 | 64 |
| 5 | | 福岡市南区清水 3-24-32 | 6 | 66 | 62 |
| 6 | | 福岡市南区清水 2-8-23 | 4 | 70 | 67 |
| 7 | 福岡直方線 | 福岡市東区馬出 5-35-17 | 2 | 63 | 58 |
| 8 | 福岡筑紫野線 | 福岡市南区高宮 1-2 | 4 | 71 | 68 |
| 9 | | 福岡市南区向野 1-19-27 | 4 | 67 | 64 |
| 10 | | 福岡市南区大橋 4-13-33 | 2 | 69 | 67 |
| 11 | 大野城二丈線 | 福岡市博多区春町 2-4-1 | 2 | 65 | 61 |
| 12 | 福岡太宰府線 | 福岡市東区箱崎 1-10-8 | 2 | 61 | 59 |
| 13 | 馬出上南町線 | 福岡市博多区吉塚 5-6-35 | 2 | 67 | 60 |
| 14 | 檜原比恵線 | 福岡市博多区美野島 2-16-12 | 4 | 68 | 64 |
| 15 | 後野福岡線 | 福岡市南区若久 3-1-20 | 4 | 68 | 64 |
| 16 | | 福岡市南区大楠 1-30 | 6 | 64 | 62 |
| 17 | 福岡篠栗線 | 福岡市博多区千代 1-26 | 4 | 69 | 64 |
| 18 | | 福岡市博多区吉塚本町 3-19 | 4 | 70 | 66 |
| 19 | 御供所井尻 1 号線 | 福岡市南区塩原 1-20-27 | 4 | 65 | 60 |
| 20 | 県道福岡篠栗線 | 粕屋町長者原 145-1 | 2 | 70 | 66 |
| 21 | 県道福岡太宰府線 | 志免町別府 119 | 2 | 69 | 65 |
| 22 | 県道志免須恵線 | 粕屋町大字酒殿 | 2 | 65 | 59 |
| 23 | 一般国道 3 号線（上り線） | 大野城市御笠川 2-5 | 3 | 72 | 69 |
| 24 | 一般国道 3 号線（下り線） | 大野城市御笠川 5-5 付近 | 3 | 73 | 71※ |
| 25 | 県道福岡日田線 | 大野城市雑餉隈町 3-3-7 | 2 | 70 | 68 |
| 26 | 県道水城下臼井線 | 大野城市川久保 1-20-1 付近 | 2 | 70 | 65 |

(注)1. 表中の数値は等価騒音レベル（$L_{Aeq}$）を示す。
2. 「等価騒音レベル（$L_{Aeq}$）」とは、一定時間連続測定された騒音レベルについて、それと等しいエネルギーを持つ連続定常騒音に置き換えたときの騒音レベルをいう。
3. 昼間とは 6 時～22 時を、夜間とは 22 時～翌 6 時をいう。
4. 網掛けは騒音に係る環境基準（幹線交通を担う道路に隣接する空間〔基準値〕昼間：70 デシベル、夜間：65 デシベル）を超過した地点
5. ※は騒音規制法における要請限度（〔基準値〕昼間：75 デシベル、夜間：70 デシベル）を超過した地点

出典：「平成 23 年版公害関係測定結果」（平成 24 年 3 月　福岡県）




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：騒音測定地点

N

1:50,000

0　1　2km

出典:「平成23年版公害関係測定結果」(平成24年3月　福岡県)

図3.1.1-4　騒音測定地点位置図
(道路交通騒音)

### 2) 航空機騒音

事業実施区域周囲における平成 21 年度及び平成 22 年度の航空機騒音の測定結果は、表 3.1.1-18(1)及び表 3.1.1-18(2)に示すとおりであり、測定地点は図 3.1.1-5 に示すとおりである。

航空機騒音については、平成 22 年度の短期測定結果において福岡市の 3 地点で環境基準を満足しておらず、常時測定結果においては空港北側の測定地点で環境基準を満足していない。なお、これら環境基準を満足していない地域においても、住宅の防音工事等の環境対策を推進してきているほか、近年、音源の航空機の低騒音化も進んできている。

**表 3.1.1-18(1)　騒音（航空機騒音）の経年変化（短期測定）**

単位：WECPNL

| 番号 | 測定機関 | 測定場所 | 地域類型 | 平成 21 年度 | | 平成 22 年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 測定期間中平均値 | 環境基準達成状況 | 測定期間中平均値 | 環境基準達成状況 |
| 1 | 福岡市 | 福岡市東区箱崎 6 丁目 | Ⅱ | 76 | × | 76 | × |
| 2 | | 福岡市東区原田 2 丁目 | Ⅱ | 70 | ○ | 69 | ○ |
| 3 | | 福岡市東区二又瀬新町 1 | Ⅱ | 71 | ○ | 73 | ○ |
| 4 | | 福岡市博多区東平尾 2 丁目 | Ⅱ | 81 | × | 81 | × |
| 5 | | 福岡市博多区那珂 4 丁目 | Ⅱ | 63 | ○ | 70 | ○ |
| 6 | | 福岡市博多区麦野 1 丁目 | Ⅰ | 65 | ○ | 68 | ○ |
| 7 | | 福岡市東区箱崎 2 丁目 | Ⅱ | 64 | ○ | 65 | ○ |
| 8 | | 福岡市博多区東光 2 丁目 | Ⅱ | 64 | ○ | 63 | ○ |
| 9 | | 福岡市博多区月隈 3 丁目 | Ⅱ | － | － | 79 | × |
| 10 | | 福岡市博多区月隈 6 丁目 | Ⅱ | 76 | × | － | － |
| 11 | | 福岡市東区多々良 1 丁目 | Ⅱ | 56 | ○ | 56 | ○ |
| 12 | | 福岡市南区野多目 2 丁目 | Ⅰ | 70 | ○ | 61 | ○ |
| 13 | | 福岡市東区城浜団地 | Ⅰ | 62 | ○ | 62 | ○ |
| 14 | 福岡県 | 大野城市中 1-20-1 | Ⅱ | 66 | ○ | 67 | ○ |
| 15 | | 大野城市栄町 1-1-11 | Ⅱ | 70 | ○ | 69 | ○ |
| 16 | | 大野城市曙町 2-4-24 | Ⅱ | 72 | ○ | 72 | ○ |
| 17 | | 大野城市大池 2-2-1 | Ⅰ | 68 | ○ | 69 | ○ |
| 18 | | 大野城市東大利 4-8-1 | Ⅱ | 69 | ○ | 70 | ○ |
| 19 | | 春日市春日公園 5-17 | Ⅰ | 69 | ○ | 68 | ○ |
| 20 | | 大野城市白木原 3-5-25 | Ⅱ | 70 | ○ | 70 | ○ |

(注)1. 航空機騒音に係る環境基準値は、Ⅰ類型：70WECPNL 以下、Ⅱ類型：75WECPNL 以下

2. 東区・博多区・中央区・南区のうち、都市計画法に基づく用途地域が第 1 種低層住居専用地域、第 2 種低層住居専用地域、第 1 種中高層住居専用地域、第 2 種中高層住居専用地域の地域をⅠ類型に、その他の地域をⅡ類型に当てはめ、各地域の類型ごとに環境基準を定めている。

3. WECPNL とは、航空機騒音のうるささを表す指標として用いられているもので、航空機 1 機ごとの騒音レベルだけでなく、機数や騒音発生時間帯などを加味した航空機騒音に係る単位である。

4. 測定期間中平均値欄及び環境基準達成状況欄の－は、当該地点で　測定が行われていないことを示す。

5. 平成 21 年度と平成 22 年度の測定結果で階差の大きい 5 番と 12 番については、平成 19 年度及び平成 20 年度も調査した結果、下表のとおりである。

| 番号 | 測定機関 | 測定場所 | 地域類型 | 平成 19 年度 | | 平成 20 年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 測定期間中平均値 | 環境基準達成状況 | 測定期間中平均値 | 環境基準達成状況 |
| 5 | 福岡市 | 福岡市博多区那珂 4 丁目 | Ⅱ | 70 | ○ | 69 | ○ |
| 12 | 福岡市 | 福岡市南区野多目 2 丁目 | Ⅰ | 66 | ○ | 62 | ○ |

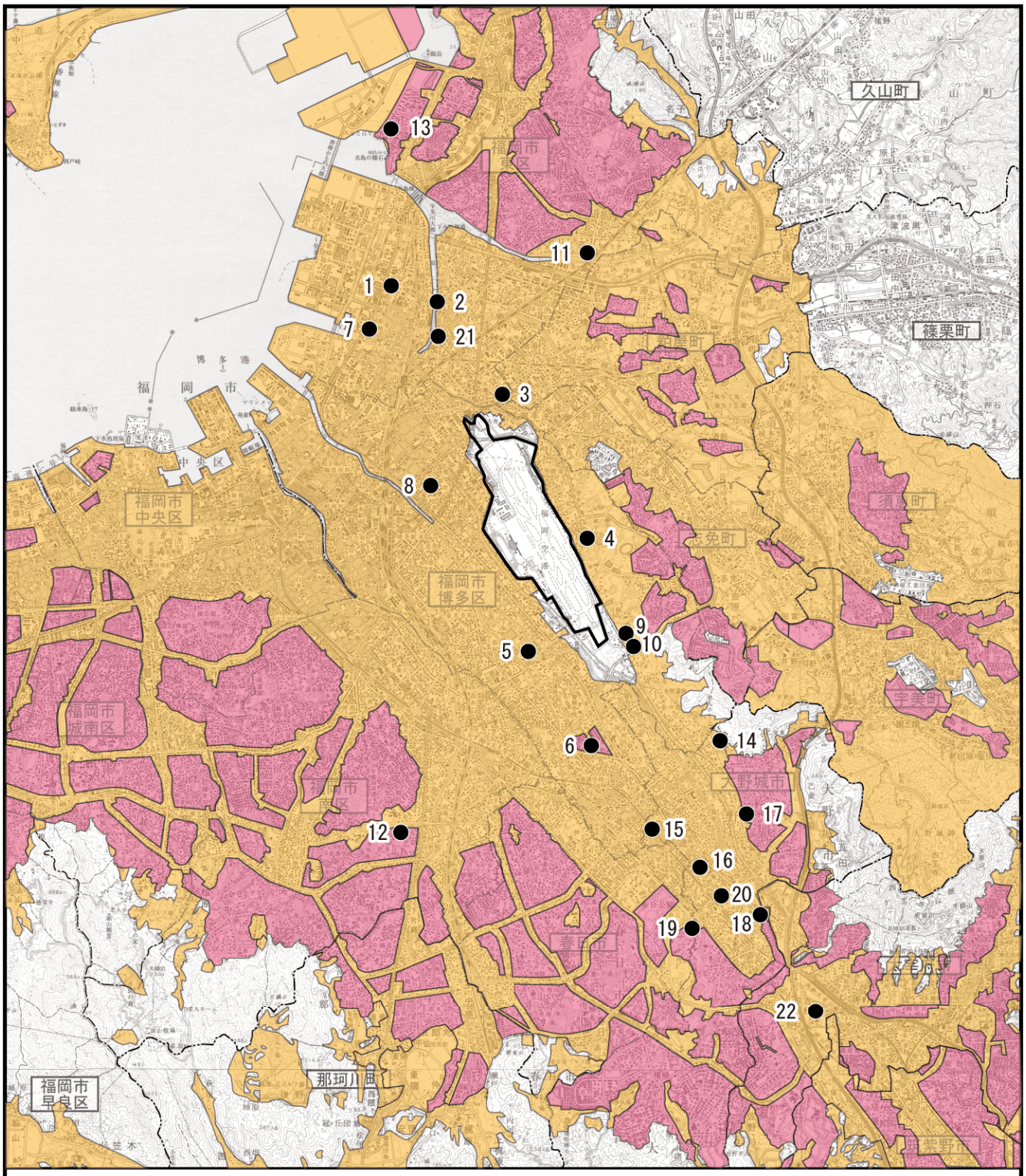
出典：「平成 21 年度版ふくおかの環境」（平成 21 年 10 月　福岡市）
「平成 22 年版公害関係測定結果」（平成 23 年 3 月　福岡県）
「平成 23 年版公害関係測定結果」（平成 24 年 3 月　福岡県）

表 3.1.1-18(2)　騒音（航空機騒音）の経年変化（常時測定）

単位：WECPNL

| 番号 | 測定機関 | 名称及び測定場所 | 地域類型 | 平成 21 年度 | | 平成 22 年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 測定期間中平均値 | 環境基準達成状況 | 測定期間中平均値 | 環境基準達成状況 |
| 21 | 福岡県 | 福岡空港（空港北側）<br>福岡市東区筥松 1-18-1 | Ⅱ | 80 | × | 80 | × |
| 22 | | 福岡空港（空港南側）<br>太宰府市大字向佐野 39 | Ⅱ | 67 | ○ | 67 | ○ |

（注）航空機騒音に係る環境基準値は、Ⅱ類型：75WECPNL 以下
出典：「平成 22 年版公害関係測定結果」（平成 23 年 3 月　福岡県）
「平成 23 年版公害関係測定結果」（平成 24 年 3 月　福岡県）




凡　例

- ：対象事業実施区域
- ：市町村界
- ：区界
- ●：航空機騒音測定地点
- ：Ⅰ類型
- ：Ⅱ類型

出典：「平成22年版公害関係測定結果」（平成23年3月　福岡県）
「平成23年版公害関係測定結果」（平成24年3月　福岡県）
「福岡県都市計画総括図」(平成24年5月　福岡市)
「福岡県都市計画総括図(春日市)」(平成24年3月　春日市)
「福岡県都市計画総括図(志免町)」(平成23年5月　志免町)
「宇美都市計画総括図」(平成21年6月　宇美町)
「須恵都市計画図」(平成21年5月　須恵町)

N

1:100,000

0　2.5　5km

図3.1.1-5　騒音測定地点位置図
（航空機騒音）

### (4) 振動

事業実施区域周囲における平成 22 年度の道路交通振動の測定結果は、表 3.1.1-19 に示すとおりであり、測定地点は図 3.1.1-6 に示すとおりである。

道路交通振動は、全ての地点において要請限度を満足している。

**表 3.1.1-19　道路交通振動の状況（平成 22 年度）**

単位：dB

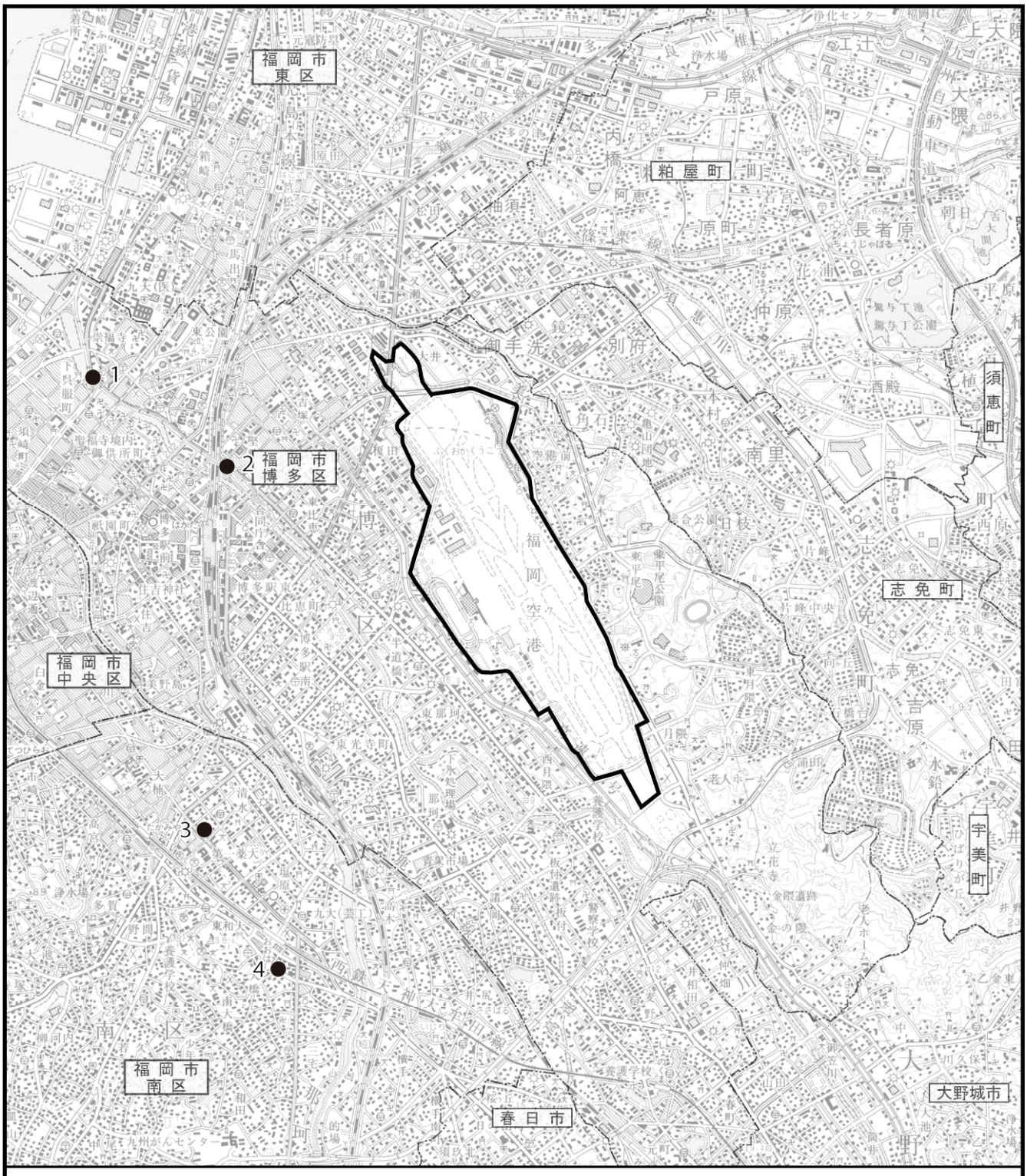
| 番号 | 路線名 | 測定地点の住所 | 測定結果 | | 要請限度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 昼間 | 夜間 | 昼間 | 夜間 |
| 1 | 一般国道 3 号 | 博多区千代 3-18-3 | 45 | 41 | 70 | 65 |
| 2 | | 博多区堅粕 4-1 | 43 | 39 | 70 | 65 |
| 3 | 一般国道 385 号 | 南区清水 3-24-32 | 39 | 34 | 70 | 65 |
| 4 | 福岡筑紫野線 | 南区大橋 4-13-33 | 32 | 29 | 70 | 65 |

(注)1. 表中の振動レベルは 80%レンジ上端値（$L_{10}$）の振動レベルである。
2.「80%レンジ上端値（$L_{10}$）」とは、振動レベルがあるレベル以上の時間が実測時間の 10%を占める場合の振動レベルをいう。
3. 昼間とは 8 時～19 時を、夜間とは 19 時～翌 8 時をいう。

出典：「平成 23 年度版　ふくおかの環境」（平成 23 年 10 月　福岡市）

### (5) 悪臭

福岡県における悪臭苦情件数は、「平成 23 年版環境白書」（平成 23 年 12 月　福岡県環境部環境政策課）によると平成 22 年度で 569 件となっており、典型 7 公害（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下及び悪臭）の中では大気汚染についで 2 番目に多い項目となっている。




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

●　：振動測定地点

N

1:50,000

0　1　2km

出典:「平成23年度版　ふくおかの環境」(平成23年10月　福岡市環境局)

図3.1.1-6　振動測定地点位置図

### 3.1.2 水環境の状況

#### (1) 水象

##### 1) 河川

事業実施区域周囲の主な河川の概要は、表 3.1.2-1 に示すとおりである。

福岡市内には二級河川以下の中小河川が博多湾に流入しており、事業実施区域周囲が位置する福岡平野周辺には、河川延長 5km 以上の二級河川としては多々良川、宇美川、須恵川、御笠川及び那珂川がある。

福岡空港は、空港用地の北東部が吉塚新川を経由する宇美川の流域になっており、南西部が上牟田川を経由する御笠川の流域になっている。

**表 3.1.2-1　主な河川の概況**

| 河川名 | 河川延長 (m) | 流域面積 ($km^2$) | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 多々良川 | 17,800 | 168.00 | 終点：博多湾 |
| 宇美川 | 16,860 | 71.60 | 終点：多々良川への合流点 |
| 須恵川 | 15,010 | 23.50 | 終点：宇美川への合流点 |
| 御笠川 | 23,590 | 94.00 | 終点：博多湾 |
| 那珂川 | 34,030 | 124.00 | 終点：博多湾 |

出典：「福岡市統計書(平成 23 年版)」(平成 24 年 3 月　福岡市)

##### 2) 湖沼

事業実施区域周囲には湖沼はない。

#### (2) 水質

##### 1) 河川水質

事業実施区域周囲の河川における平成 22 年度の水質の測定結果は、表 3.1.2-2(1)～表 3.1.2-2(4)及び表 3.1.2-3(1)～表 3.1.2-3(2)に示すとおりである。また、測定地点は図 3.1.2-1 に示すとおりである。

生活環境項目については、大腸菌群数を除き、概ね環境基準を達成しているが、福岡空港からの雨水排水が流入している宇美川水系や御笠川では、上流に位置する地点（地点番号 7、12、13、14 及び 17）において、水の汚れの指標である生物化学的酸素要求量（BOD）が環境基準を満足しない検体が測定されている。下水道の普及率や止水堰の存在がその一因と考えられる。

健康項目については、測定している全地点で環境基準を満足している。

## 表 3.1.2-2(1)　河川水質の状況（生活環境項目）

| 測定地点（水域名） | | | 類型 | 区分 | pH | DO (mg/L) | BOD (mg/L) | COD (mg/L) | SS (mg/L) | 大腸菌群数 (MPN/100mL) | 全窒素 (mg/L) | 全りん (mg/L) | 全亜鉛 (mg/L) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 多々良川 | 雨水橋 | A | 最小～最大 | 7.9～8.6 | 8.0～14 | 0.7～2.2 | 1.9～4.8 | 1～10 | 1100～130000 | 0.52～1.1 | 0.028～0.068 | 0.001～0.005 |
| | | | | 平均 | 8.2 | 11 | 1.1〔1.1〕 | 3.1〔3.2〕 | 6 | 28000 | 0.79 | 0.042 | 0.003 |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 7.5以上 | 2以下 | － | 25以下 | 1,000以下 | － | － | 0.03以下 |
| | | | | m/n | 1/12 | 0/12 | 1/12 | － | 0/12 | 12/12 | － | － | 0/4 |
| 2 | 多々良川須恵川 | 休地橋 | C | 最小～最大 | 7.6～8.2 | 5.3～12 | 0.8～2.3 | 3.7～6.4 | 2～24 | 790～49000 | 0.80～2.8 | 0.076～0.24 | 0.012～0.019 |
| | | | | 平均 | 7.8 | 7.9 | 1.4〔1.4〕 | 4.8〔5.2〕 | 9 | 8000 | 1.4 | 0.12 | 0.015 |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 5以下 | － | 50以下 | － | － | － | 0.03以下 |
| | | | | m/n | 0/12 | 0/12 | 0/12 | － | 0/12 | － | － | － | 0/4 |
| 3 | | 酒殿橋 | B | 最小～最大 | 7.6～9.1 | 4.7～18 | 1.5～9.7 | 3.4～8.8 | <1～15 | 17000～17000 | 2.3～2.9 | 0.16～0.16 | 0.002～0.009 |
| | | | | 平均 | 8.1 | 9.4 | 3.6〔3.9〕 | 5.3〔6.0〕 | 8 | 17000 | 2.6 | 0.16 | 0.006 |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 3以下 | － | 25以下 | 5,000以下 | － | － | 0.03以下 |
| | | | | m/n | 2/12 | 1/12 | 4/12 | － | 0/12 | 1/1 | － | － | 0/4 |
| 4 | 多々良川宇美川 | 塔の本橋 | C | 最小～最大 | 7.3～8.1 | 5.1～11 | <0.5～1.6 | 3.2～5.6 | 4～25 | 490～33000 | 0.82～3.1 | 0.043～0.19 | 0.019～0.022 |
| | | | | 平均 | 7.6 | 7.0 | 1.0〔1.2〕 | 4.4〔5.0〕 | 8 | 6400 | 1.5 | 0.11 | 0.021 |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 5以下 | － | 50以下 | － | － | － | 0.03以下 |
| | | | | m/n | 0/12 | 0/12 | 0/12 | － | 0/12 | － | － | － | 0/4 |
| 5 | | 御手洗 | C | 最小～最大 | 7.3～8.3 | 5.6～13 | 1.3～4.2 | 3.0～4.6 | 1～6 | － | － | － | － |
| | | | | 平均 | 7.9 | 9.8 | 2.2〔2.0〕 | 3.6〔3.5〕 | 4 | － | － | － | － |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 5以下 | － | 50以下 | － | － | － | － |
| | | | | m/n | 0/4 | 0/4 | 0/4 | － | 0/4 | － | － | － | － |
| 6 | | 別府橋 | C | 最小～最大 | 7.7～8.5 | 9.4～12 | 1.3～3.3 | 3.2～5.3 | 2～6 | － | － | － | － |
| | | | | 平均 | 8.2 | 11 | 2.1〔2.0〕 | 4.2〔4.7〕 | 5 | － | － | － | － |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 5以下 | － | 50以下 | － | － | － | － |
| | | | | m/n | 0/4 | 0/4 | 0/4 | － | 0/4 | － | － | － | － |
| 7 | | 亀山新橋 | B | 最小～最大 | 8.0～9.1 | 2.6～13 | 0.9～3.2 | 2.6～5.9 | 1～31 | 17000～17000 | 0.90～1.6 | 0.072～0.078 | 0.002～0.007 |
| | | | | 平均 | 8.3 | 8.1 | 2.1〔2.9〕 | 3.6〔4.1〕 | 6 | 17000 | 1.3 | 0.075 | 0.005 |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 3以下 | － | 25以下 | 5,000以下 | － | － | 0.03以下 |
| | | | | m/n | 2/12 | 2/12 | 3/12 | － | 1/12 | 1/1 | － | － | 0/4 |
| 8 | | 久保田橋上流 | B | 最小～最大 | 7.8～8.1 | 9.1～12 | 1.1～2.5 | 3.0～5.2 | 2～4 | － | － | － | － |
| | | | | 平均 | 8.0 | 11 | 1.9〔2.1〕 | 3.9〔4.0〕 | 3 | － | － | － | － |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 3以下 | － | 25以下 | － | － | － | － |
| | | | | m/n | 0/4 | 0/4 | 0/4 | － | 0/4 | － | － | － | － |

(注)1.m:環境基準に適合しない検体数、n:総検体数。なお、環境基準が適用されない項目については、記載していない。

2.BOD及びCODの平均欄の〔 〕は、日間平均値の75%値(年間における日間平均値の全データを、値の小さいものから順に並べたときの0.75×n番目(nは日間平均値のデータ数)のデータ値)を示す。

3.網掛け部は、環境基準を超過している項目を示す。

出典：「平成22年度公共用水域水質測定結果」(福岡県ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/h22koukyouyousuiiki.html)

## 表 3.1.2-2(2)　河川水質の状況（生活環境項目）

| 測定地点（水域名） | | | 類型 | 区分 | pH | DO (mg/L) | BOD (mg/L) | COD (mg/L) | SS (mg/L) | 大腸菌群数 (MPN/100mL) | 全窒素 (mg/L) | 全りん (mg/L) | 全亜鉛 (mg/L) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 多々良川 宇美川 | 志免橋上流 | B | 最小～最大 | 7.7～8.5 | 8.4～12 | 1.2～2.2 | 3.0～3.7 | 1～6 | － | － | － | － |
| | | | | 平均 | 8.2 | 11 | 1.7〔1.9〕 | 3.3〔3.4〕 | 3 | － | － | － | － |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 3以下 | － | 25以下 | － | － | － | － |
| | | | | m/n | 0/4 | 0/4 | 0/4 | － | 0/4 | － | － | － | － |
| 10 | | 田富橋 | B | 最小～最大 | 7.5～7.8 | 8.7～12 | 1.1～2.1 | 2.5～5.1 | 1～7 | － | － | － | － |
| | | | | 平均 | 7.7 | 11 | 1.6〔1.9〕 | 3.6〔3.7〕 | 4 | － | － | － | － |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 3以下 | － | 25以下 | － | － | － | － |
| | | | | m/n | 0/4 | 0/4 | 0/4 | － | 0/4 | － | － | － | － |
| 11 | | 宇美川合流前 | B | 最小～最大 | 7.6～7.9 | 8.0～12 | 0.9～1.7 | － | 3～63 | 1700～220000 | 0.98～1.1 | － | － |
| | | | | 平均 | 7.8 | 9.8 | 1.5〔1.7〕 | － | 20 | 71000 | 1.0 | － | － |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 3以下 | － | 25以下 | 5,000以下 | － | － | － |
| | | | | m/n | 0/4 | 0/4 | 0/4 | － | 1/4 | 3/4 | － | － | － |
| 12 | 多々良川 坂瀬川 | 下流 | B | 最小～最大 | 8.3～9.1 | 9.0～13 | 1.0～4.0 | 2.8～5.6 | 1～12 | － | － | － | － |
| | | | | 平均 | 8.7 | 11 | 2.2〔2.0〕 | 4.3〔4.5〕 | 6 | － | － | － | － |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 3以下 | － | 25以下 | － | － | － | － |
| | | | | m/n | 3/4 | 0/4 | 1/4 | － | 0/4 | － | － | － | － |
| 13 | | 上流 | B | 最小～最大 | 7.5～9.1 | 8.6～12 | 2.1～3.6 | 4.3～8.0 | 1～16 | － | － | － | － |
| | | | | 平均 | 8.4 | 11 | 2.7〔2.7〕 | 6.1〔7.4〕 | 5 | － | － | － | － |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 3以下 | － | 25以下 | － | － | － | － |
| | | | | m/n | 2/4 | 0/4 | 1/4 | － | 0/4 | － | － | － | － |
| 14 | 多々良川 井野川 | 井野川－石井手井堰 | B | 最小～最大 | 7.4～7.9 | 9.1～12 | 1.4～3.1 | 2.8～5.0 | 3～10 | － | － | － | － |
| | | | | 平均 | 7.7 | 11 | 2.0〔1.8〕 | 4.1〔4.5〕 | 5 | － | － | － | － |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 3以下 | － | 25以下 | － | － | － | － |
| | | | | m/n | 0/4 | 0/4 | 1/4 | － | 0/4 | － | － | － | － |

(注)1.m:環境基準に適合しない検体数、n:総検体数。なお、環境基準が適用されない項目については、記載していない。

2.BOD及びCODの平均欄の〔　〕は、日間平均値の75%値(年間における日間平均値の全データを、値の小さいものから順に並べたときの0.75×n番目(nは日間平均値のデータ数)のデータ値)を示す。

3.網掛け部は、環境基準を超過している項目を示す。

出典：「平成22年度公共用水域水質測定結果」(福岡県ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/h22koukyouyousuiiki.html)

## 表 3.1.2-2(3)　河川水質の状況（生活環境項目）

| 測定地点（水域名） | | | 類型 | 区分 | pH | DO (mg/L) | BOD (mg/L) | COD (mg/L) | SS (mg/L) | 大腸菌群数 (MPN/100mL) | 全窒素 (mg/L) | 全りん (mg/L) | 全亜鉛 (mg/L) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 御笠川 | 千鳥橋 | D | 最小～最大 | 7.0～7.8 | 5.9～8.8 | 0.7～2.2 | 5.3～7.5 | 1～9 | 2300～33000 | 3.6～7.6 | 0.15～0.92 | 0.010～0.022 |
| | | | | 平均 | 7.4 | 7.5 | 1.2〔1.2〕 | 6.2〔6.7〕 | 4 | 13000 | 5.2 | 0.62 | 0.017 |
| | | | | 環境基準 | 6.0以上8.5以下 | 2以上 | 8以下 | － | 100以下 | － | － | － | 0.03以下 |
| | | | | m/n | 0/12 | 0/12 | 0/12 | － | 0/12 | － | － | － | 0/4 |
| 16 | | 金島橋 | D | 最小～最大 | 7.1～7.7 | 7.3～9.5 | 0.7～2.7 | 4.6～9.1 | 1～9 | 1300～130000 | 1.0～9.4 | 0.076～1.2 | 0.019～0.023 |
| | | | | 平均 | 7.3 | 8.2 | 1.5〔1.7〕 | 7.4〔8.2〕 | 3 | 26000 | 6.8 | 0.67 | 0.021 |
| | | | | 環境基準 | 6.0以上8.5以下 | 2以上 | 8以下 | － | 100以下 | － | － | － | 0.03以下 |
| | | | | m/n | 0/12 | 0/12 | 0/12 | － | 0/12 | － | － | － | 0/4 |
| 17 | | 板付橋 | B | 最小～最大 | 7.1～8.2 | 8.5～13 | <0.5～3.5 | 1.9～5.4 | <1～8 | 230～33000 | 0.37～1.3 | 0.028～0.065 | 0.001～0.006 |
| | | | | 平均 | 7.9 | 10 | 1.1〔1.3〕 | 3.0〔3.5〕 | 5 | 10000 | 0.79 | 0.046 | 0.003 |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 3以下 | － | 25以下 | 5,000以下 | － | － | 0.03以下 |
| | | | | m/n | 0/12 | 0/12 | 1/12 | － | 0/12 | 5/12 | － | － | 0/4 |
| 18 | 御笠川諸岡川 | 諸岡橋 | D | 最小～最大 | 8.0～8.8 | 10～13 | 0.9～1.3 | 2.2～4.0 | 2～3 | 1100～33000 | 0.62～1.2 | 0.017～0.031 | 0.005～0.007 |
| | | | | 平均 | 8.4 | 12 | 1.1〔1.1〕 | 3.3〔3.4〕 | 3 | 18000 | 0.88 | 0.023 | 0.006 |
| | | | | 環境基準 | 6.0以上8.5以下 | 2以上 | 8以下 | － | 100以下 | － | － | － | 0.03以下 |
| | | | | m/n | 1/4 | 0/4 | 0/4 | － | 0/4 | － | － | － | 0/4 |
| 19 | 那珂川 | 住吉橋 | B | 最小～最大 | 7.1～7.7 | 7.1～11 | 0.6～1.2 | 2.7～6.4 | 5～20 | 1700～23000 | 0.76～4.6 | 0.042～0.53 | 0.004～0.012 |
| | | | | 平均 | 7.4 | 8.7 | 0.8〔0.9〕 | 4.0〔4.5〕 | 10 | 9800 | 2.0 | 0.16 | 0.007 |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 3以下 | － | 25以下 | 5,000以下 | － | － | 0.03以下 |
| | | | | m/n | 0/12 | 0/12 | 0/12 | － | 0/12 | 8/12 | － | － | 0/4 |
| 20 | | 塩原橋 | A | 最小～最大 | 7.4～8.2 | 8.8～12 | <0.5～1.4 | 1.8～3.5 | 2～11 | 490～33000 | 0.54～1.1 | 0.027～0.051 | 0.001～0.010 |
| | | | | 平均 | 7.9 | 10 | 0.9〔1.0〕 | 2.6〔3.0〕 | 7 | 7600 | 0.74 | 0.035 | 0.005 |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 7.5以上 | 2以下 | － | 25以下 | 1,000以下 | － | － | 0.03以下 |
| | | | | m/n | 0/12 | 0/12 | 0/12 | － | 0/12 | 10/12 | － | － | 0/4 |

(注)1.m:環境基準に適合しない検体数、n:総検体数。なお、環境基準が適用されない項目については、記載していない。

2.BOD及びCODの平均欄の〔　〕は、日間平均値の75%値(年間における日間平均値の全データを、値の小さいものから順に並べたときの0.75×n番目(nは日間平均値のデータ数)のデータ値)を示す。

3.網掛け部は、環境基準を超過している項目を示す。

出典：「平成22年度公共用水域水質測定結果」(福岡県ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/h22koukyouyousuiiki.html)

## 表 3.1.2-2(4)　河川水質の状況（生活環境項目）

| 測定地点（水域名） | | | 類型 | 区分 | pH | DO (mg/L) | BOD (mg/L) | COD (mg/L) | SS (mg/L) | 大腸菌群数 (MPN/100mL) | 全窒素 (mg/L) | 全りん (mg/L) | 全亜鉛 (mg/L) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 21 | 那珂川 薬院新川 | 天神橋 | C | 最小～最大 | 7.2～8.0 | 5.7～9.1 | 0.8～2.1 | 2.8～4.7 | 4～9 | 330～33000 | 0.44～1.2 | 0.044～0.12 | 0.004～0.009 |
| | | | | 平均 | 7.6 | 7.7 | 1.3〔1.6〕 | 3.8〔3.9〕 | 7 | 9800 | 0.76 | 0.069 | 0.007 |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 5以下 | － | 50以下 | － | － | － | 0.03以下 |
| | | | | m/n | 0/4 | 0/4 | 0/4 | － | 0/4 | － | － | － | 0/4 |
| 22 | 那珂川 若久川 | 天代橋 | C | 最小～最大 | 7.3～7.7 | 8.2～9.1 | 0.9～1.1 | 3.4～4.0 | 3～5 | 490～33000 | 1.1～1.5 | 0.041～0.051 | 0.007～0.015 |
| | | | | 平均 | 7.6 | 8.8 | 1.0〔1.0〕 | 3.8〔3.9〕 | 4 | 14000 | 1.2 | 0.046 | 0.012 |
| | | | | 環境基準 | 6.5以上8.5以下 | 5以上 | 5以下 | － | 50以下 | － | － | － | 0.03以下 |
| | | | | m/n | 0/4 | 0/4 | 0/4 | － | 0/4 | － | － | － | 0/4 |

(注)1.m:環境基準に適合しない検体数、n:総検体数。なお、環境基準が適用されない項目については、記載していない。

2.BOD及びCODの平均欄の〔　〕は、日間平均値の75%値(年間における日間平均値の全データを、値の小さいものから順に並べたときの0.75×n番目(nは日間平均値のデータ数)のデータ値)を示す。

出典：「平成22年度公共用水域水質測定結果」(福岡県ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/h22koukyouyousuiiki.html)

表 3.1.2-3(1)　河川水質の状況（健康項目）

| 項目＼測定地点〔水域名〕 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 7 | 15 | 16 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 多々良川 | 多々良川 | 須恵川 | 多々良川 | 宇美川 | 御笠川 | |
| | | 雨水橋 | 休也橋 | 酒殿橋 | 塔の本橋 | 亀山新橋 | 千鳥橋 | 金島橋 |
| カドミウム | 最大値 | － | － | ＜0.001 | － | ＜0.001 | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| 全シアン | 最大値 | － | － | ND | － | ND | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| 鉛 | 最大値 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.005 | ＜0.001 | ＜0.005 | ＜0.001 | ＜0.001 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/1 | 0/2 | 0/1 | 0/2 | 0/2 |
| 六価クロム | 最大値 | － | － | ＜0.02 | － | ＜0.02 | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| 砒素 | 最大値 | ＜0.001 | 0.001 | ＜0.005 | ＜0.001 | ＜0.005 | ＜0.001 | ＜0.001 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/1 | 0/2 | 0/1 | 0/2 | 0/2 |
| 総水銀 | 最大値 | － | － | ＜0.0005 | － | ＜0.0005 | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| アルキル水銀 | 最大値 | － | － | ND | － | ND | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| PCB | 最大値 | － | － | － | － | － | － | － |
| | m/n | － | － | － | － | － | － | － |
| ジクロロメタン | 最大値 | － | － | ＜0.002 | － | ＜0.002 | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| 四塩化炭素 | 最大値 | － | － | ＜0.0002 | － | ＜0.0002 | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| 1,2-ジクロロエタン | 最大値 | － | － | ＜0.0004 | － | ＜0.0004 | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| 1,1-ジクロロエチレン | 最大値 | － | － | ＜0.01 | － | ＜0.01 | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| シス1,2-ジクロロエチレン | 最大値 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.004 | ＜0.001 | ＜0.004 | ＜0.001 | ＜0.001 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/1 | 0/2 | 0/1 | 0/2 | 0/2 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | 最大値 | － | － | ＜0.0005 | － | ＜0.0005 | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| 1,1,2-トリクロロエタン | 最大値 | － | － | ＜0.0006 | － | ＜0.0006 | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| トリクロロエチレン | 最大値 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.002 | ＜0.001 | ＜0.002 | ＜0.001 | ＜0.001 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/1 | 0/2 | 0/1 | 0/2 | 0/2 |
| テトラクロロエチレン | 最大値 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.0005 | ＜0.001 | ＜0.0005 | ＜0.001 | ＜0.001 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/1 | 0/2 | 0/1 | 0/2 | 0/2 |
| 1,3-ジクロロプロペン | 最大値 | － | － | ＜0.0002 | － | ＜0.0002 | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| チウラム | 最大値 | － | － | ＜0.0006 | － | ＜0.0006 | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| シマジン | 最大値 | － | － | ＜0.0003 | － | ＜0.0003 | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| チオベンカルブ | 最大値 | － | － | ＜0.002 | － | ＜0.002 | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| ベンゼン | 最大値 | － | － | ＜0.001 | － | ＜0.001 | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| セレン | 最大値 | － | － | ＜0.002 | － | ＜0.002 | － | － |
| | m/n | － | － | 0/1 | － | 0/1 | － | － |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | 最大値 | 0.71 | 0.93 | 0.88 | 0.66 | 0.59 | 5.0 | 6.5 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/1 | 0/2 | 0/1 | 0/2 | 0/2 |
| ふっ素 | 最大値 | 0.09 | 0.49 | 0.11 | 0.50 | 0.09 | 0.37 | 0.11 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/1 | 0/2 | 0/1 | 0/2 | 0/2 |
| ほう素 | 最大値 | 0.05 | 1.4 | <0.1 | 1.4 | <0.1 | 0.91 | 0.12 |
| | m/n | 0/2 | 1/2 | 0/1 | 1/2 | 0/1 | 0/2 | 0/2 |
| 1,4-ジオキサン | 最大値 | ＜0.005 | ＜0.001 | ＜0.005 | ＜0.005 | ＜0.005 | ＜0.005 | ＜0.005 |
| | m/n | 0/2 | 0/1 | 0/1 | 0/2 | 0/1 | 0/2 | 0/2 |

(注)1.m:環境基準に適合しない検体数、n:総検体数。

2.地点番号は、図 3.1.2－1 中の地点に対応する。5～6 及び 8～14 は健康項目の測定が行われていない地点である。

出典：「平成 22 年度公共用水域水質測定結果」

（福岡県ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/h22koukyouyousuiiki.html）

表 3.1.2－3(2)　河川水質の状況（健康項目）

| 項目＼測定地点〔水域名〕 | | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 御笠川 | 御笠川諸岡川 | 那珂川 | | 那珂川薬院新川 | 那珂川若久川 |
| | | 板付橋 | 諸岡橋 | 住吉橋 | 塩原橋 | 天神橋 | 天代橋 |
| カドミウム | 最大値 | － | － | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| 全シアン | 最大値 | － | － | ND | ND | ND | ND |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| 鉛 | 最大値 | ＜0.001 | ＜0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| 六価クロム | 最大値 | － | － | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| 砒素 | 最大値 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| 総水銀 | 最大値 | － | － | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| アルキル水銀 | 最大値 | － | － | ND | ND | ND | ND |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| PCB | 最大値 | － | － | ND | ND | ND | ND |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| ジクロロメタン | 最大値 | － | － | ＜0.002 | ＜0.002 | ＜0.002 | ＜0.002 |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| 四塩化炭素 | 最大値 | － | － | ＜0.0002 | ＜0.0002 | ＜0.0002 | ＜0.0002 |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| 1,2－ジクロロエタン | 最大値 | － | － | ＜0.0004 | ＜0.0004 | ＜0.0004 | ＜0.0004 |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| 1,1－ジクロロエチレン | 最大値 | － | － | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| シス1,2－ジクロロエチレン | 最大値 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| 1,1,1－トリクロロエタン | 最大値 | － | － | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| 1,1,2－トリクロロエタン | 最大値 | － | － | ＜0.0006 | ＜0.0006 | ＜0.0006 | ＜0.0006 |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| トリクロロエチレン | 最大値 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| テトラクロロエチレン | 最大値 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 | ＜0.001 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| 1,3－ジクロロプロペン | 最大値 | － | － | ＜0.0001 | ＜0.0001 | ＜0.0001 | ＜0.0001 |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| チウラム | 最大値 | － | － | <0.0006 | <0.0006 | <0.0006 | <0.0006 |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| シマジン | 最大値 | － | － | <0.0003 | <0.0003 | <0.0003 | <0.0003 |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| チオベンカルブ | 最大値 | － | － | <0.002 | <0.002 | <0.002 | <0.002 |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| ベンゼン | 最大値 | － | － | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| セレン | 最大値 | － | － | <0.002 | <0.002 | <0.002 | <0.002 |
| | m/n | － | － | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | 最大値 | 0.63 | 0.80 | 1.1 | 0.63 | 0.48 | 1.2 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| ふっ素 | 最大値 | 0.13 | 0.10 | 0.28 | <0.08 | 0.98 | 0.08 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| ほう素 | 最大値 | 0.03 | 0.02 | 0.82 | 0.01 | 2.8 | 0.03 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |
| 1,4－ジオキサン | 最大値 | ＜0.005 | ＜0.005 | ＜0.005 | ＜0.005 | ＜0.005 | ＜0.005 |
| | m/n | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 | 0/2 |

(注)1.m:環境基準に適合しない検体数、n:総検体数。

2.地点番号は、図3.1.2－1中の地点に対応する。5～6及び8～14は健康項目の測定が行われていない地点である。

出典：「平成22年度公共用水域水質測定結果」

（福岡県ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/h22koukyouyousuiiki.html）

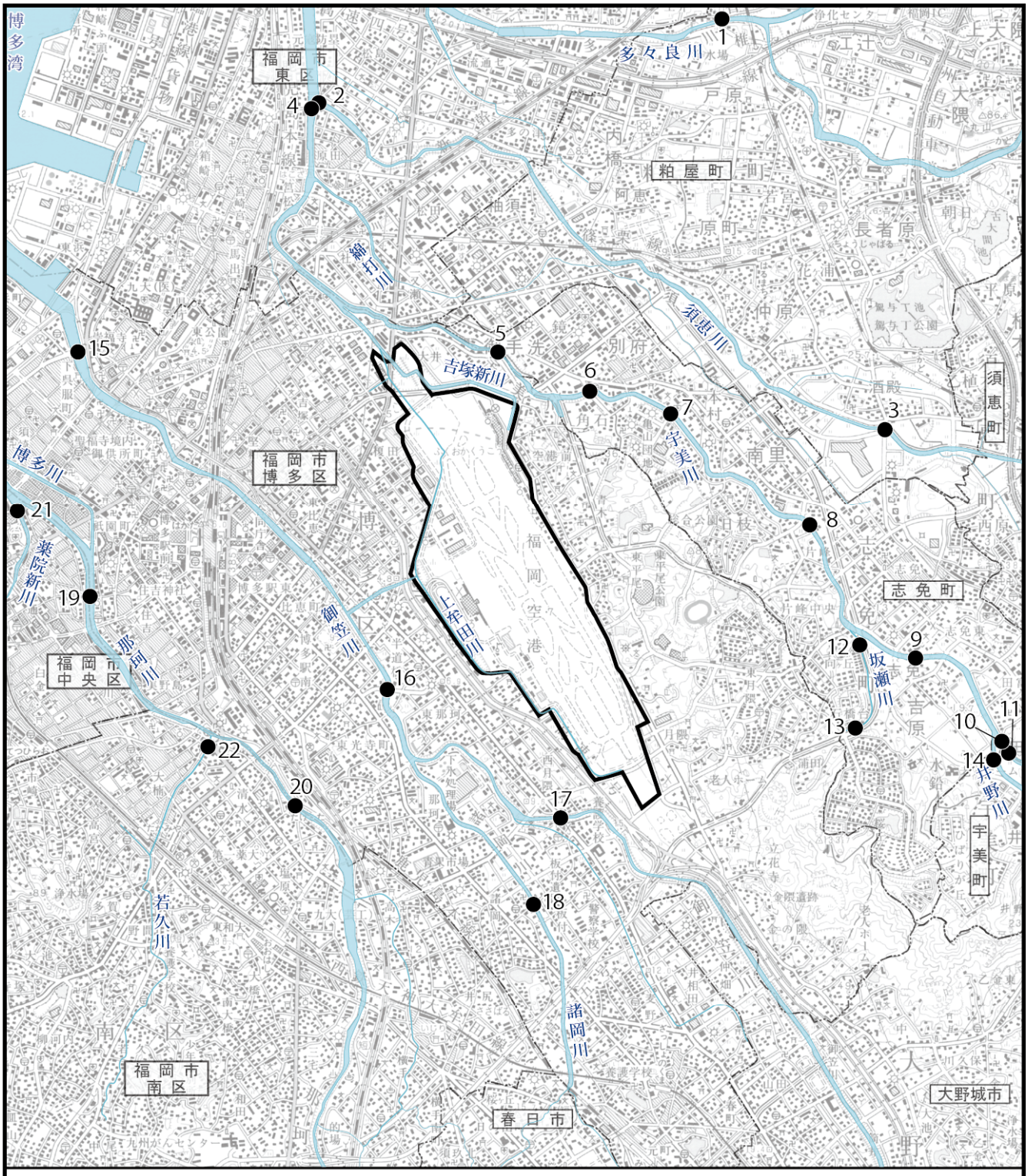
### 2) ダイオキシン類

事業実施区域周囲の河川における平成 23 年度のダイオキシン類に関する公共用水域水質の測定結果は、表 3.1.2-4 に示すとおりである。また、測定地点は図 3.1.2-1（地点番号 2、4 及び 15）に示すとおりである。全ての地点において環境基準を満足している。

**表 3.1.2-4　ダイオキシン類測定結果（河川水質・平成 23 年度）**

| 測定地点 | | | 年平均値 (pg-TEQ/L) | 環境基準 | 環境基準との比較 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 須恵川 | 休也橋 | 0.21 | 1pg-TEQ/L 以下であること。 | ○ |
| 4 | 宇美川 | 塔の本橋 | 0.41 | | ○ |
| 15 | 御笠川 | 千鳥橋 | 0.19 | | ○ |

出典：「ダイオキシン類の調査結果」（福岡市ホームページ、
http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-hozen/life/kankyohozen/prtrdeta_2_3.html）




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：河川

：水質測定地点

図3.1.2-1　水質測定位置図(河川)

N

1:50,000

0　1　2km

出典:「平成22年度版公共用水域水質測定結果」（福岡県ホームページ）

### (3) 地下水の水位及び水質

#### 1) 地下水の水質の状況

事業実施区域周囲の自治体における平成 22 年度の井戸の地下水の水質測定結果は、表 3.1.2-5(1)～表 3.1.2-5(2)及び表 3.1.2-6 に示すとおりであり、測定地点は図 3.1.2-2 に示すとおりである。

地下水に関しては、全体的な地下水質の概況把握を目的とした地下水概況調査（市域 1km$^2$ メッシュにつき 1 井戸）と、過去に確認された汚染の継続的監視を目的とした定期モニタリング調査が行われている。

調査結果によると、地下水概況調査では硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が 1 地点、定期モニタリング調査ではテトラクロロエチレンが 2 地点で環境基準を満足していない。

## 表 3.1.2-5(1)　地下水の水質の状況（地下水概況調査）

単位：mg/L

| 測定項目 | A<br>博多区吉塚 | B<br>博多区青木 | C<br>南区平和 | D<br>南区高木 | 環境基準値 |
|---|---|---|---|---|---|
| カドミウム | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.003 以下 |
| 全シアン | 検出されず | 検出されず | 検出されず | 検出されず | 検出されないこと |
| 鉛 | <0.001 | <0.004 | <0.001 | <0.001 | 0.01 以下 |
| 六価クロム | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | 0.05 以下 |
| 砒素 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.01 以下 |
| 総水銀 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | 0.0005 以下 |
| アルキル水銀 | 検出されず | 検出されず | 検出されず | 検出されず | 検出されないこと |
| PCB | 検出されず | 検出されず | 検出されず | 検出されず | 検出されないこと |
| ジクロロメタン | <0.002 | <0.002 | <0.002 | <0.002 | 0.02 以下 |
| 四塩化炭素 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | 0.002 以下 |
| 塩化ビニルモノマー | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | 0.002 以下 |
| 1,2-ジクロロエタン | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | 0.004 以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | 0.1 以下 |
| 1,2-ジクロロエチレン | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0003 | 0.04 以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0001 | 1 以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | 0.006 以下 |
| トリクロロエチレン | <0.002 | <0.002 | <0.002 | 0.027 | 0.03 以下 |
| テトラクロロエチレン | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0002 | 0.01 以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | 0.002 以下 |
| チウラム | <0.0006 | <0.0006 | <0.0006 | <0.0006 | 0.006 以下 |
| シマジン | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | 0.003 以下 |
| チオベンカルブ | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.001 | 0.02 以下 |
| ベンゼン | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.01 以下 |
| セレン | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.01 以下 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | <0.025 | 14 | 0.50 | 2.1 | 10 以下 |
| ふっ素 | 0.2 | <0.1 | <0.1 | 0.1 | 0.8 以下 |
| ほう素 | 0.10 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | 1 以下 |
| 1,4-ジオキサン | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | 0.05 以下 |
| 用途 | 営業用雑用 | 家庭用雑用 | 家庭用雑用 | 営業用雑用<br>家庭用雑用 | |

(注)網掛けは環境基準を超過していることを示す。

出典：「平成 22 年度福岡市水質測定結果報告書」
（福岡市ホームページ、http://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/25195/1/H22waterqualityreport.pdf）

## 表 3.1.2-5(2)　地下水の水質の状況（地下水概況調査）

単位：mg/L

| 測定項目 | E<br>博多区諸岡 | F<br>南区柳河内 | G<br>南区若久 | H<br>南区野多目 | I<br>博多区<br>光岡町 | 環境基準値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| カドミウム | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.003 以下 |
| 全シアン | 検出されず | 検出されず | 検出されず | 検出されず | 検出されず | 検出されないこと |
| 鉛 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.01 以下 |
| 六価クロム | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | 0.05 以下 |
| 砒素 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.01 以下 |
| 総水銀 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | 0.0005 以下 |
| アルキル水銀 | 検出されず | 検出されず | 検出されず | 検出されず | 検出されず | 検出されないこと |
| PCB | 検出されず | 検出されず | 検出されず | 検出されず | 検出されず | 検出されないこと |
| ジクロロメタン | <0.002 | <0.002 | <0.002 | <0.002 | <0.002 | 0.02 以下 |
| 四塩化炭素 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | 0.002 以下 |
| 塩化ビニルモノマー | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | 0.002 以下 |
| 1,2-ジクロロエタン | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | 0.004 以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | 0.1 以下 |
| 1,2-ジクロロエチレン | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | 0.04 以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | 1 以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | 0.006 以下 |
| トリクロロエチレン | <0.002 | <0.002 | <0.002 | <0.002 | <0.002 | 0.03 以下 |
| テトラクロロエチレン | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | 0.01 以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | 0.002 以下 |
| チウラム | <0.0006 | <0.0006 | <0.0006 | <0.0006 | <0.0006 | 0.006 以下 |
| シマジン | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | 0.003 以下 |
| チオベンカルブ | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | <0.0001 | 0.02 以下 |
| ベンゼン | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.01 以下 |
| セレン | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.01 以下 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | 5.4 | 1.3 | 4.4 | 0.19 | 3.8 | 10 以下 |
| ふっ素 | <0.1 | <0.1 | <0.1 | <0.1 | <0.1 | 0.8 以下 |
| ほう素 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | <0.02 | 1 以下 |
| 1,4-ジオキサン | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | <0.005 | 0.05 以下 |
| 用途 | 家庭用飲用<br>家庭用雑用 | 家庭用雑用 | 家庭用飲用<br>家庭用雑用 | 家庭用雑用<br>営業用雑用 | 家庭用雑用 | |

出典：「平成 22 年度福岡市水質測定結果報告書」
（福岡市ホームページ、http://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/25195/1/H22waterqualityreport.pdf）

表 3.1.2-6　地下水の水質の状況（定期モニタリング調査）

単位：mg/L

| 測定項目 | 1<br>原田 | 2<br>井尻 | 3<br>中尾 | 4<br>博多駅南① | 5<br>博多駅南② | 環境基準値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 六価クロム | － | － | － | <0.005 | <0.005 | 0.05 以下 |
| 四塩化炭素 | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | － | － | 0.002 以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン | <0.0001 | 0.0001 | <0.0001 | － | － | 0.02 以下 |
| 1,2-ジクロロエチレン | 0.0002 | 0.0057 | 0.012 | － | － | 0.04 以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | － | － | 1 以下 |
| トリクロロエチレン | <0.002 | 0.008 | 0.005 | － | － | 0.03 以下 |
| テトラクロロエチレン | 0.0008 | 0.016 | 0.065 | － | － | 0.01 以下 |

(注)網掛けは環境基準を超過していることを示す。

出典：「平成 22 年度福岡市水質測定結果報告書」
（福岡市ホームページ、http://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/25195/1/H22waterqualityreport.pdf）

### 2) ダイオキシン類

事業実施区域周囲における平成 23 年度のダイオキシン類に関する地下水の測定結果は、表 3.1.2-7 に示すとおりである。全ての地点において環境基準を満足している。

表 3.1.2-7　ダイオキシン類測定結果（地下水・平成 23 年度）

| 測定地点 | 年平均値<br>(pg-TEQ/L) | 環境基準 | 環境基準との比較 |
|---|---|---|---|
| 福岡市東区 | 0.065 | 1pg-TEQ/L 以下であること。 | ○ |
| 福岡市博多区 | 0.066 | | ○ |
| 福岡市中央区 | 0.066 | | ○ |
| 福岡市南区 | 0.065 | | ○ |

出典：「ダイオキシン類の調査結果」（福岡市ホームページ、
http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-hozen/life/kankyohozen/prtrdeta_2_3.html）




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

A　：地下水測定地点（地下水概況調査）

●　：地下水測定地点（定期モニタリング調査）

N

1:50,000

0　1　2km

出典：「平成22年度福岡市水質測定結果報告書」（福岡市ホームページ）

図3.1.2-2　水質測定位置図（地下水）

### (4) 水底の底質の状況

#### 1) 河川底質

事業実施区域周囲の河川における平成 22 年度の水底の底質の測定結果は、表 3.1.2-8 に示すとおりである。また、測定地点は図 3.1.2-1 に示すとおりである。

底質の暫定除去基準の対象項目である総水銀及び PCB は、基準値を満足している。

**表 3.1.2-8　水底の底質の状況**

| 測定項目＼測定地点 | | 1 | 2 | 4 | 15 | 16 | 17 | 19 | 20 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 多々良川 | 須恵川 | 宇美川 | 御笠川 | | | 那珂川 | |
| | | 雨水橋 | 休也橋 | 塔の本橋 | 千鳥橋 | 金島橋 | 板付橋 | 住吉橋 | 塩原橋 |
| pH | (－) | 7.7 | 7.5 | 8.3 | 7.1 | 7.3 | 7.0 | 7.4 | 7.2 |
| COD | (mg/g) | 0.8 | 1.4 | 2.7 | 5.8 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. |
| 乾燥減量 | (%) | 11 | 19 | 19 | 20 | 17 | 8.1 | 12 | 7.7 |
| 強熱減量 | (%) | 1.2 | 1.4 | 2.4 | 4.1 | 0.7 | 0.8 | 0.4 | 0.5 |
| 硫化物 | (mg/kg) | 4 | 10 | 29 | 400 | 2 | 2 | 4 | N.D. |
| 有機炭素 | (mg/g) | 2.4 | 1.9 | 4.5 | 15 | 0.3 | 0.2 | 0.4 | 0.3 |
| 全窒素 | (mg/kg) | 20 | 70 | 210 | 490 | 50 | 20 | 20 | 30 |
| 全りん | (mg/kg) | 240 | 120 | 260 | 530 | 80 | 80 | 80 | 70 |
| カドミウム | (mg/kg) | 0.08 | N.D. | 0.06 | 0.14 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. |
| シアン | (mg/kg) | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. |
| 有機りん | (mg/kg) | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. |
| 鉛 | (mg/kg) | 2.2 | 2.8 | 9.8 | 17 | 1.5 | 2.3 | 2.0 | 2.1 |
| 総クロム | (mg/kg) | 26 | 6 | 14 | 4 | 2 | N.D. | N.D. | N.D. |
| 六価クロム | (mg/kg) | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. |
| ひ素 | (mg/kg) | 1.1 | 1.6 | 3.7 | 1.6 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. |
| 総水銀 | (mg/kg) | N.D. | 0.01 | 0.02 | 0.06 | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. |
| アルキル水銀 | (mg/kg) | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. |
| PCB | (mg/kg) | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. | N.D. |

(注)1.pH、乾燥減量、強熱減量以外は乾燥固形物あたりの濃度。
2.N.D.は定量限界値未満。
3.暫定除去基準値は、総水銀 25ppm 以上，PCB10ppm 以上である。

出典：「平成 22 年度公共用水域水質測定結果」
（福岡県ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/h22koukyouyousuiiki.html）

#### 2) ダイオキシン類

事業実施区域周囲の河川におけるダイオキシン類に関する公共用水域底質の測定結果は、表 3.1.2-9 に示すとおりである。また、測定地点は図 3.1.2-1 に示すとおりである。全ての地点において環境基準を満足している。

**表 3.1.2-9　ダイオキシン類測定結果（河川底質・平成 23 年度）**

| 測定地点 | | | 年平均値 (pg-TEQ/g) | 環境基準 | 環境基準との比較 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 須恵川 | 休也橋 | 0.43 | 150pg-TEQ/g以下であること。 | ○ |
| 4 | 宇美川 | 塔の本橋 | 1.8 | | ○ |
| 15 | 御笠川 | 千鳥橋 | 3.3 | | ○ |

出典：「ダイオキシン類の調査結果」（福岡市ホームページ、
http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-hozen/life/kankyohozen/prtrdeta_2_3.html）

### 3.1.3 土壌及び地盤の状況

事業実施区域周囲の土壌の分布状況は、図 3.1.3-1 に示すとおりである。

事業実施区域周囲は、市街地その他がほとんどであり、福岡空港東側の丘陵地に乾性褐色森林土や褐色森林土・黄褐色系が分布している他は、灰色低地土壌が点在している。

また、事業実施区域周囲において「土壌汚染対策法」（平成 14 年 5 月法律第 53 号）に基づく特定有害物質によって汚染されている区域が指定されている。その指定状況は表 3.1.3-1 に示すとおりである。

**表 3.1.3-1　特定有害物質による区域の指定状況**

| 整理番号 | 指定年月日 | 指定番号 | 特定区域の所在地 | 指定区域の面積 | 指定基準に適合しない特定有害物質 |
|---|---|---|---|---|---|
| 整-16-1 | 平成 17 年 3 月 14 日 | 形－1 号 | 博多区博多駅南 5 丁目 83 番 2 | 264.46m$^2$ | 六価クロム化合物 |
| 整-23-1 | 平成 23 年 12 月 8 日 | 形－6 号 | 東区香椎照葉 5 丁目 27 番 5 | 188 m$^2$ | 砒素及びその化合物 |
| 整-24-1 | 平成 24 年 4 月 26 日 | 要－1 号 | 東区雁の巣 1 丁目 1264 番 8 及び 1264 番 9 の各一部 | 100 m$^2$ | 水銀及びその化合物 |

出典：「要措置区域及び形質変更時要届出区域（以下要措置区域等）の指定状況」（福岡市ホームページ、http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-hozen/life/kankyohozen/index.html）

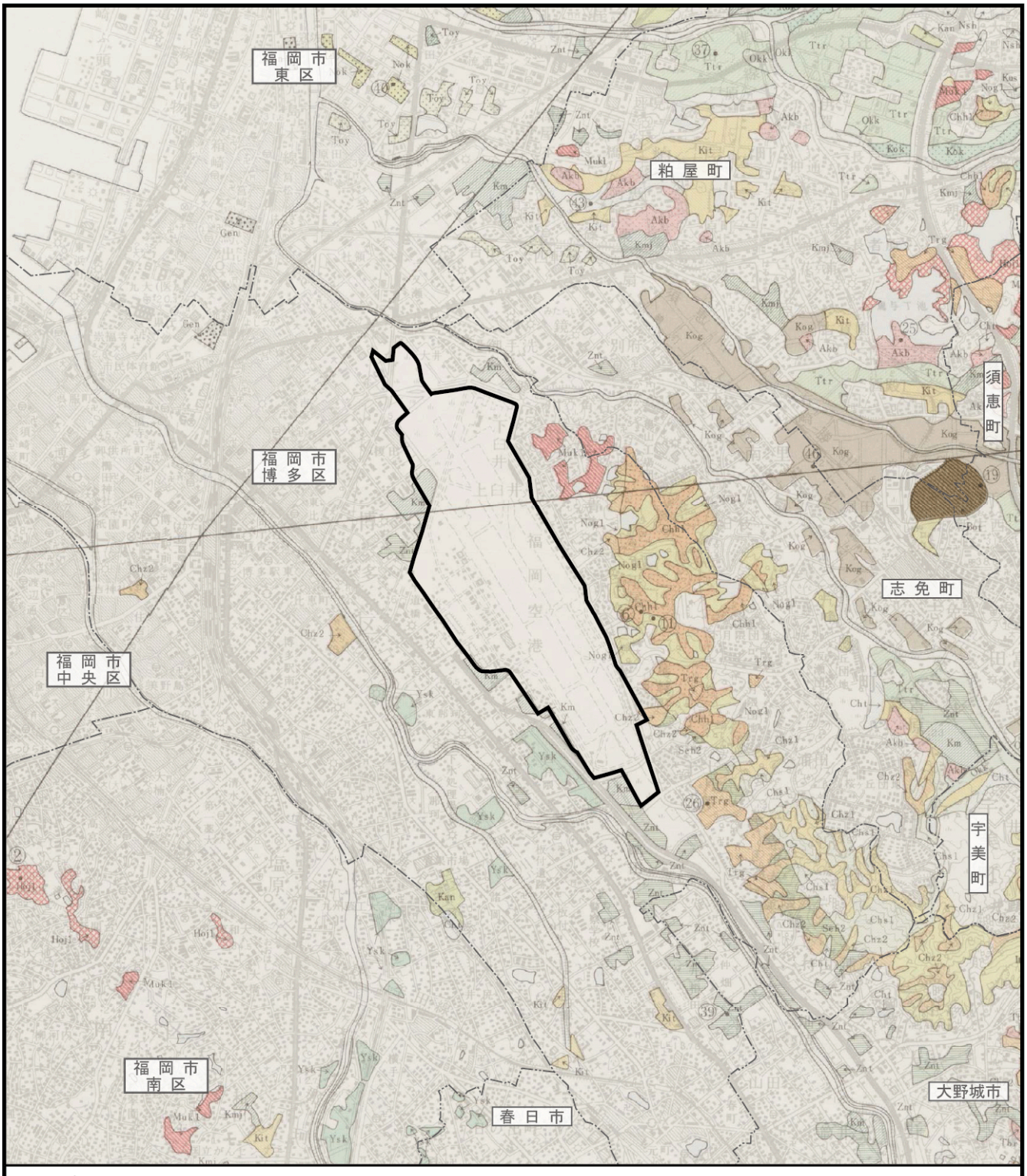
なお、「平成 22 年度　全国の地盤沈下地域の概況」（平成 23 年 12 月　環境省 水・大気環境局）によると、事業実施区域周囲においては地盤沈下の問題は生じていない。

また、事業実施区域周囲におけるダイオキシン類に関する土壌の測定結果は、表 3.1.3-2 に示すとおりである。全ての地点において環境基準を満足している。

**表 3.1.3-2　ダイオキシン類測定結果（土壌・平成 23 年度）**

| 測定地点 | 毒性等量 (pg-TEQ/g) | 環境基準 | 環境基準との比較 |
|---|---|---|---|
| 福岡市博多区麦野 | 0.068 | 1,000pg-TEQ/g 以下であること。 | ○ |
| 福岡市博多区諸岡 | 0.053 | | ○ |

出典：「ダイオキシン類の調査結果」（福岡市ホームページ、http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-hozen/life/kankyohozen/prtrdeta_2_3.html）




凡　例　：対象事業実施区域　：市町村界　：区界

図3.1.3-1　土壌図

【山地および丘陵地の土壌】

| | | |
|---|---|---|
| 乾性褐色森林土・赤色系 | 宗像1統 | Muk 1 |
| | 方城1統 | Hoj 1 |
| 乾性褐色森林土 | 筑前1統 | Chz 1 |
| | 筑前2統 | Chz 2 |
| | 筑豊1統 | Chh 1 |
| 褐色森林土・黄褐系 | 脊振2統 | Seh 2 |
| | 糸島1統 | Ito 1 |
| | 筑紫1統 | Chs 1 |
| | 直方1統 | Nog 1 |

【台地および低地の土壌】

| | | |
|---|---|---|
| 砂丘未熟土壌 | 玄海統 | Gen |
| 石炭鉱澤堆積土壌 | ボタ統 | Bot |
| 細粒赤色土壌 | 唐原統 | Tbr |
| | 赤羽根統 | Akb |
| 細粒黄色土壌 | 鶴木山統 | Trg |
| 礫質灰低地土壌（灰色系） | 追子野木統 | Okk |
| | 国領統 | Kok |
| 細粒灰色低地土壌（灰褐系） | 金田統 | Kan |
| | 多々良統 | Ttr |
| 中粗粒灰色低地土壌（灰褐系） | 安木統 | Ysk |
| | 善通寺統 | Znt |
| | 納倉統 | Nok |
| 細粒グライ土壌 | 千年統 | Cht |
| 細粒黄色土壌（斑紋あり） | 北多久統 | Kit |
| 細粒灰色低地土壌（灰色系） | 鴨島統 | Kmj |
| 中粗粒灰色低地土壌（灰色系） | 加茂統 | Km |
| | 豊中統 | Toy |
| 造成低地土壌 | 鉱害復旧田 | Kog |

【その他】

市街地その他

出典：土地分類基本調査図（土壌図）（昭和59年3月　福岡県）

N

1：50,000

0　1　2km

### 3.1.4 地形及び地質の状況

#### (1) 地形

事業実施区域周囲の地形分類は、図 3.1.4-1 に示すとおりである。

事業実施区域周囲は、福岡県の北西部に位置し、博多湾へ開口する多々良川、御笠川、那珂川などにより形成される福岡平野にある。福岡空港の東側に丘陵地が広がるが、谷底平野、扇状地、三角州等の平野や、海浜砂丘、砂浜といった低地がほとんどである。

#### (2) 地質

事業実施区域周囲の表層地質は、図 3.1.4-2 に示すとおりである。

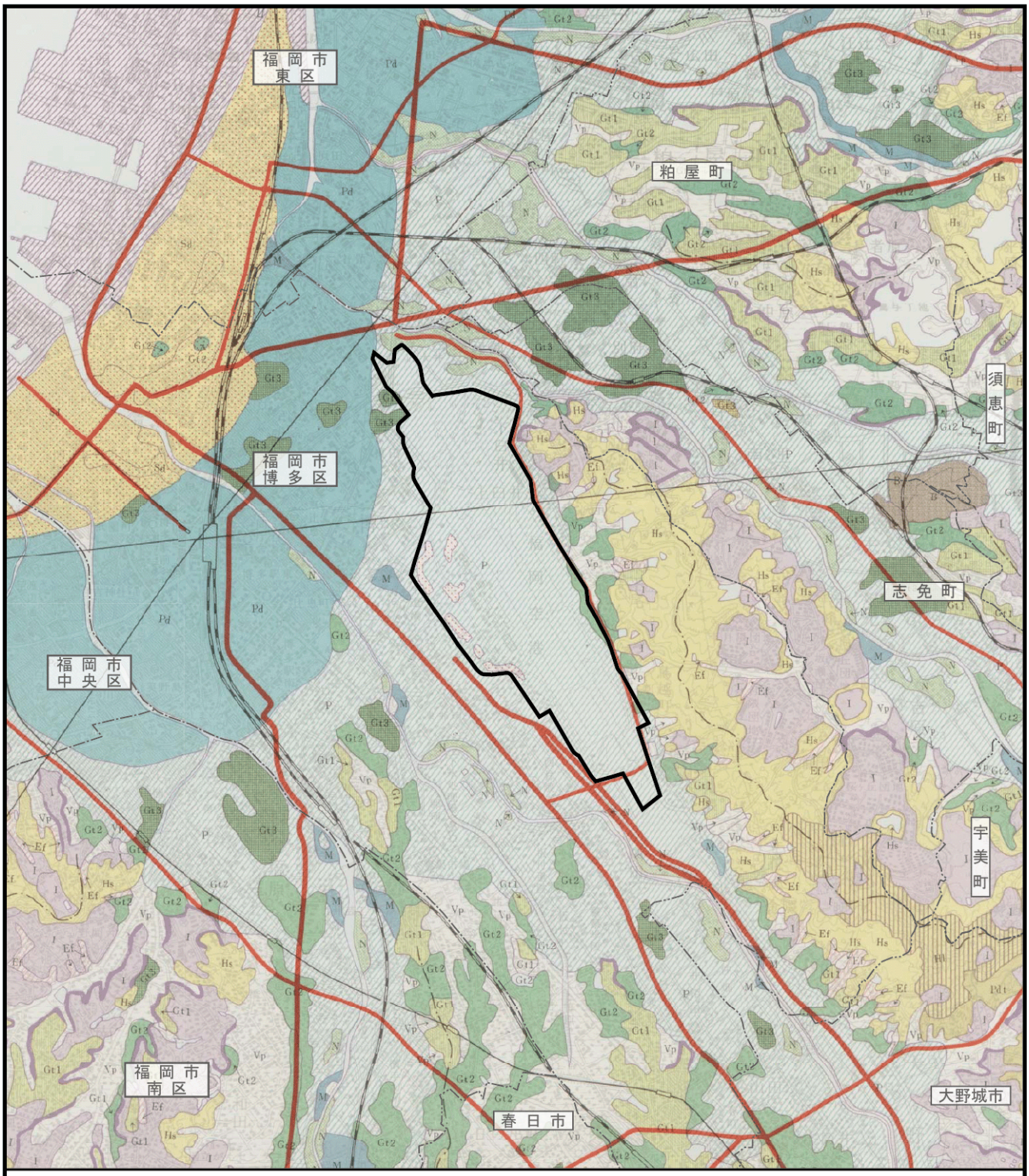
福岡県は中部地方から紀伊半島、四国を経て九州へ至る中央構造線の北側に位置し、西南日本内帯に属する。事業実施区域周囲はほとんどが沖積層の砂・泥・礫である。その他、砂岩・シルト岩、黒雲母花崗岩が丘陵地に見られる。

#### (3) 重要な地形・地質等

事業実施区域周囲において、表 3.1.4-1 に示す学術上又は希少性の観点から選定された重要な地形及び地質はない。

**表 3.1.4-1　重要な地形及び地質の選定基準**

| 選定基準 | |
|---|---|
| ① | 「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月法律第 214 号）に基づく国の天然記念物・特別天然記念物 |
| ② | 「福岡県文化財保護条例」(昭和 30 年 4 月 1 日条例第 25 号)に基づく県の名勝・天然記念物 |
| ③ | 「日本の地形レッドデータブック第 1 集（新装版）－危機にある地形－」（平成 12 年 12 月　小泉武栄、青木賢人）において指摘されている地形及び地質 |
| ④ | 「第 3 回自然環境保全基礎調査　自然環境情報図　福岡県」（平成元年　環境省）において自然景観資源として掲載されているもの |




凡　例

：対象事業実施区域　：市町村界　：区界

図3.1.4-1　地形分類図

【山麓地】
- 山麓地（起伏量100m以下）
【丘陵地】
- 丘陵地 I（起伏量100～200m）
- 丘陵地 II（起伏量100m以下）
【台地】
- 砂礫台地 I（中～高位段丘）
- 砂礫台地 II（低位段丘）
- 砂礫台地 III（低位段丘）

【低地】
- 土石流堆積面
- 谷底平野
- 平野（扇状地）
- 平野（三角州）
- 自然堤防
- 湿地、旧河道、河道
- 海浜砂丘、砂浜

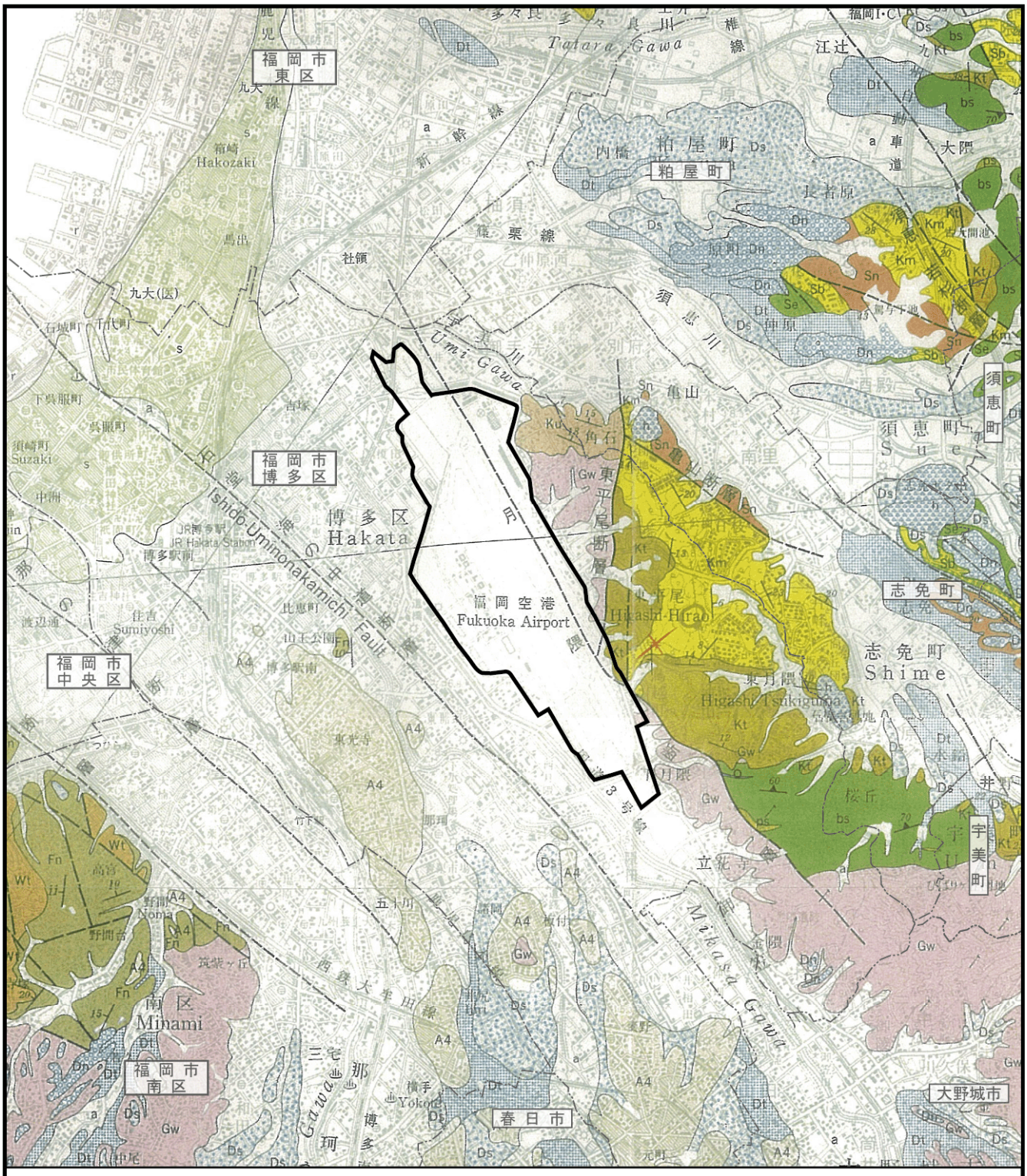
【その他】
- ボタ山
- 池、河川
- 人口改変地（宅地砕石）
- 人工盛土
- 埋立地
- 崖面
- 主要分水界
- 国道
- 主要地方道
- 地形界

N

1:50,000

0　1　2km

出典：土地分類基本調査図(地形分類図)（昭和59年3月　福岡県）




凡　例

：対象事業実施区域　：市町村界　：区界

| | |
|---|---|
| r 埋立地 | Wt 砂岩及び礫岩（凝灰質シルト岩及び砂質シルト岩を伴う） |
| h ボタ山 | Sb シルト岩ないし泥岩（石炭・砂岩及び礫岩を伴う） |
| s 海浜砂及び風成砂（海の中道砂層及び箱崎砂層） | Sn 砂岩及び礫岩（シルト岩を伴う） |
| a 粘土・シルト及び砂（住吉層） | Fn 砂岩・礫岩及びシルト岩（凝灰岩及び石炭を伴う） |
| Dt 礫及び砂（シルトを伴う）（大坪砂礫層） | Km 砂岩及び凝灰質シルト岩（凝灰岩及び石炭を伴う） |
| A4 非溶結の軽石質火山灰（輝石角閃石デイサイト） | Kt 砂岩及び砂岩頁岩互層（礫岩及び石炭を伴う） |
| Ds 砂・礫及び粘土（須崎層） | Gw 中－粗粒黒雲母花崗岩（早良花崗岩） |
| Dn 礫及び砂（粘土を伴う）（仲原礫層） | bs 塩基性変成岩（石灰珪酸塩質変成岩を伴う） |

20 地層の走行及び傾斜
70 片理構造の走行及び傾斜
断層
伏在断層
稼行採石場
温泉

出典：土地分類基本調査図（表層地質図）
（平成6年3月　福岡県）

図3.1.4-2　表層地質図

N

1:50,000

0　1　2km

### 3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

#### (1) 動物

##### 1) 哺乳類

事業実施区域周囲における哺乳類の生息状況については、福岡市が実施した調査等がある。これらの概要は表 3.1.5-1 に示すとおりであり、7 目 10 科 18 種の哺乳類が確認されている。重要な種はハタネズミ、スミスネズミ、カヤネズミ、キツネ、イタチ等の 8 種が確認された。

**表 3.1.5-1　事業実施区域周囲の哺乳類**

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 1 | モグラ目 | モグラ科 | コウベモグラ | ● | ● | ● | | | | | | |
| 2 | コウモリ目 | ヒナコウモリ科 | アブラコウモリ | ● | ● | ● | | | | | | |
| 3 | | | ヤマコウモリ | | | | ● | | | VU | VU | |
| 4 | | | テングコウモリ | | | | ● | | | | VU | |
| 5 | サル目 | オナガザル科 | ニホンザル | | | | ● | | | | NT | 掲載種 |
| 6 | ウサギ目 | ウサギ科 | ノウサギ | | ● | | | | | | | |
| 7 | ネズミ目 | キヌゲネズミ科 | ハタネズミ | | | | ● | | | | NT | 掲載種 |
| 8 | | ネズミ科 | スミスネズミ | | | | ● | | | | NT | 掲載種 |
| 9 | | | アカネズミ | ● | ● | | | | | | | |
| 10 | | | カヤネズミ | | | | ● | | | | VU | 掲載種 |
| 11 | | | ハツカネズミ | | ● | | | | | | | |
| － | | | ネズミ科 | | ● | | | | | | | |
| 12 | ネコ目 | イヌ科 | タヌキ | | ● | ● | | | | | | |
| 13 | | | キツネ | | ● | | ● | | | | NT | |
| 14 | | イタチ科 | テン | | ● | | | | | | | |
| 15 | | | チョウセンイタチ | | ● | | | | | | | |
| 16 | | | イタチ | | | | ● | | | | NT | 掲載種 |
| － | | | イタチ属 | ● | ● | | | | | | | |
| 17 | | ネコ科 | ネコ | | ● | | | | | | | |
| 18 | ウシ目 | イノシシ科 | イノシシ | | ● | | | | | | | |
| 計 | 7目 | 10科 | 18種 | 4種 | 13種 | 3種 | 8種 | 0種 | 0種 | 1種 | 8種 | 5種 |

●印は、(注)1.に示す報告書等により事業実施区域周囲において生息が確認された種を示す。なお、当該報告書等において、具体の生息場所が明示されていない種についても、事業実施区域周囲において生息しているものとして抽出している。

(注)1.報告書等：

①「自然環境調査委託 ほ乳類・は虫類・両生類の生息状況等調査報告書」(平成 13 年 3 月　福岡市環境局)

②「平成 19 年度 自然環境調査結果（ほ乳類・は虫類・両生類の生息状況）委託報告書」
(平成 20 年 3 月　福岡市環境局)

③「福岡市環境配慮指針（改訂版）」(平成 19 年 2 月　福岡市環境局)

④「福岡県の希少野生生物 -福岡県レッドデータブック 2011 植物群落・植物・鳥類・哺乳類－」
(平成 23 年 11 月　福岡県環境部自然環境課)

2.選定基準：

天然記念物：「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において選定されている種及び亜種

環 RL：「第 4 次レッドリストの公表について」(平成 24 年 8 月　環境省報道発表資料)

VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種

県 RDB：「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-」(平成 23 年 11 月　福岡県環境部自然環境課)

VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

市指針：「福岡市環境配慮指針（改訂版）」(平成 19 年 2 月　福岡市環境局)

掲載種：市内の貴重・希少生物種等のリスト掲載種

### 2) 鳥類

事業実施区域周囲における鳥類の生息状況については、福岡市が実施した調査等がある。これらの概要は表 3.1.5-2(1)～表 3.1.5-2(3)に示すとおりであり、17 目 50 科 231 種の鳥類が確認されている。重要な種はチュウサギ、ケリ、コアジサシ、オオヨシキリ等の 91 種が確認された。

**表 3.1.5-2(1)　事業実施区域周囲の鳥類**

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 1 | アビ目 | アビ科 | オオハム | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 2 | | | シロエリオオハム | | | ● | | | | | | | | | | NT | |
| 3 | カイツブリ目 | カイツブリ科 | カイツブリ | | | ● | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 4 | | | ハジロカイツブリ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | アカエリカイツブリ | | ● | ● | | | | | | | | | | VU | |
| 6 | | | カンムリカイツブリ | ● | ● | ● | | | | | | | | | | NT | 掲載種 |
| 7 | ペリカン目 | カツオドリ科 | カツオドリ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 8 | | ウ科 | カワウ | ● | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 9 | | | ウミウ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | ヒメウ | | | ● | | | | | | | | | EN | | |
| 11 | コウノトリ目 | サギ科 | サンカノゴイ | | ● | | | | | | | | | | EN | NT | 掲載種 |
| 12 | | | ヨシゴイ | | ● | | | | | | | | | | NT | CR | 掲載種 |
| 13 | | | オオヨシゴイ | ● | | | | | | | | | | | CR | | 掲載種 |
| 14 | | | ミゾゴイ | | ● | | | | | | | | | | VU | EN | 掲載種 |
| 15 | | | ゴイサギ | | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 16 | | | ササゴイ | | ● | ● | ● | ● | | | | | | | | NT | |
| 17 | | | アカガシラサギ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 18 | | | アマサギ | | ● | ● | | ● | | | | | | | | NT | |
| 19 | | | ダイサギ | | | ● | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 20 | | | チュウサギ | ● | ● | ● | | ● | | ● | | | | | NT | NT | 掲載種 |
| 21 | | | コサギ | | | ● | ● | | ● | | | | | | | | |
| 22 | | | カラシラサギ | ● | ● | ● | | | | | | | | | NT | EN | 掲載種 |
| 23 | | | クロサギ | | | ● | | | | | | | | | | NT | |
| 24 | | | アオサギ | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | |
| 25 | | トキ科 | ヘラサギ | ● | ● | ● | | | | | | | | | DD | EN | 掲載種 |
| 26 | | | クロツラヘラサギ | ● | ● | ● | | | | | | | | | EN | EN | 掲載種 |
| 27 | カモ目 | カモ科 | コクガン | | | ● | | | | | | | 天 | | VU | | 掲載種 |
| 28 | | | ツクシガモ | ● | ● | ● | | | | | | | | | VU | NT | 掲載種 |
| 29 | | | オシドリ | ● | ● | ● | | ● | | | | | | | DD | NT | 掲載種 |
| 30 | | | マガモ | | | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | | |
| 31 | | | カルガモ | | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 32 | | | コガモ | | | ● | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 33 | | | トモエガモ | ● | ● | ● | | | | | | | | | VU | VU | 掲載種 |
| 34 | | | ヨシガモ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 35 | | | オカヨシガモ | | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 36 | | | ヒドリガモ | ● | | ● | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 37 | | | アメリカヒドリ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 38 | | | オナガガモ | | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 39 | | | シマアジ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 40 | | | ハシビロガモ | | | ● | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 41 | | | ホシハジロ | | | ● | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 42 | | | キンクロハジロ | | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 43 | | | スズガモ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 44 | | | クロガモ | | ● | ● | | | | | | | | | | VU | |
| 45 | | | ビロードキンクロ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 46 | | | シノリガモ | ● | ● | ● | | | | | | | | | | VU | 掲載種 |
| 47 | | | ホオジロガモ | | ● | ● | | | | | | | | | | VU | |
| 48 | | | ミコアイサ | | | ● | | | | | | | | | | VU | |
| 49 | | | ウミアイサ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 50 | | | カワアイサ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 51 | タカ目 | タカ科 | ミサゴ | ● | | ● | | | | | | | | | NT | | 掲載種 |
| 52 | | | ハチクマ | ● | ● | ● | ● | | | | | | | | NT | NT | 掲載種 |
| 53 | | | トビ | ● | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 54 | | | オオタカ | | ● | ● | | | | | | | | 国内 | NT | NT | 掲載種 |
| 55 | | | アカハラダカ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 56 | | | ハイタカ | ● | | ● | | | | | | | | | NT | | 掲載種 |
| 57 | | | ノスリ | | ● | ● | | | | | | | | | | NT | |
| 58 | | | サシバ | ● | ● | ● | | ● | | | | | | | VU | NT | 掲載種 |
| 59 | | | チュウヒ | | ● | | | | | | | | | | EN | CR | 掲載種 |
| 60 | | | ハイイロチュウヒ | | | ● | | | | | | | | | | NT | |
| 61 | | ハヤブサ科 | ハヤブサ | ● | ● | ● | | | | | | | | 国内 | VU | VU | 掲載種 |
| 62 | | | チゴハヤブサ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 63 | | | アカアシチョウゲンボウ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 64 | | | チョウゲンボウ | | | ● | | | | ● | | | | | | | |
| 65 | キジ目 | キジ科 | ウズラ | | ● | | | | | | | | | | VU | DD | 掲載種 |
| 66 | | | ヤマドリ | | ● | | | | | | | | | | | VU | 掲載種 |
| 67 | ツル目 | クイナ科 | クイナ | | ● | ● | | | | | | | | | | NT | |
| 68 | | | ヒクイナ | ● | ● | ● | | | | | | | | | NT | NT | 掲載種 |
| 69 | | | バン | | | ● | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 70 | | | オオバン | | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 71 | チドリ目 | タマシギ科 | タマシギ | | ● | | | | | | | | | | VU | NT | 掲載種 |
| 72 | | ミヤコドリ科 | ミヤコドリ | | ● | ● | | | | | | | | | | VU | 掲載種 |
| 73 | | チドリ科 | ハジロコチドリ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 74 | | | コチドリ | | | ● | ● | | | | ● | | | | | | |
| 75 | | | イカルチドリ | ● | ● | ● | | | | | | | | | | VU | 掲載種 |
| 76 | | | シロチドリ | | | ● | | | | | | | | | VU | NT | |
| 77 | | | メダイチドリ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 78 | | | オオメダイチドリ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 79 | | | ダイゼン | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 80 | | | ケリ | ● | ● | | ● | | | | | | | | DD | NT | 掲載種 |
| 81 | | | タゲリ | | | | | | | ● | | | | | | NT | |

# 表 3.1.5-2(2)　事業実施区域周囲の鳥類

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 82 | チドリ目 | シギ科 | キョウジョシギ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 83 | | | ヨーロッパトウネン | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 84 | | | トウネン | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 85 | | | ヒバリシギ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 86 | | | オジロトウネン | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 87 | | | アメリカウズラシギ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 88 | | | ウズラシギ | ● | | ● | | | | | | | | | | VU | 掲載種 |
| 89 | | | ハマシギ | ● | ● | ● | | | | | | | | | NT | NT | |
| 90 | | | サルハマシギ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 91 | | | コオバシギ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 92 | | | オバシギ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 93 | | | ミユビシギ | | | ● | | | | | | | | | | NT | |
| 94 | | | ヘラシギ | ● | ● | ● | | | | | | | | | CR | CR | 掲載種 |
| 95 | | | エリマキシギ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 96 | | | キリアイ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 97 | | | シベリアオオハシシギ | ● | | | | | | | | | | | DD | | 掲載種 |
| 98 | | | アカアシシギ | | | ● | | | | | | | | | VU | | 掲載種 |
| 99 | | | コアオアシシギ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 100 | | | アオアシシギ | ● | | ● | | | | | | | | | | | |
| 101 | | | カラフトアオアシシギ | ● | ● | | | | | | | | | 国内 | CR | CR | 掲載種 |
| 102 | | | クサシギ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 103 | | | タカブシギ | | | ● | | | | | | | | | VU | VU | 掲載種 |
| 104 | | | キアシシギ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 105 | | | イソシギ | | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 106 | | | ソリハシシギ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 107 | | | オグロシギ | | ● | ● | | | | | | | | | | NT | |
| 108 | | | オオソリハシシギ | | | ● | | | | | | | | | VU | NT | |
| 109 | | | ダイシャクシギ | ● | | ● | | | | | | | | | | VU | 掲載種 |
| 110 | | | ホウロクシギ | ● | ● | ● | | | | | | | | | VU | VU | 掲載種 |
| 111 | | | チュウシャクシギ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 112 | | | コシャクシギ | | | ● | | | | | | | | | EN | | 掲載種 |
| 113 | | | ヤマシギ | | | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 114 | | | タシギ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 115 | | | チュウジシギ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 116 | | | オオジシギ | ● | | | | | | | | | | | NT | | 掲載種 |
| 117 | | セイタカシギ科 | セイタカシギ | | | ● | | | | | | | | | VU | | 掲載種 |
| 118 | | ツバメチドリ科 | ツバメチドリ | | ● | | | | | | | | | | VU | VU | 掲載種 |
| 119 | | カモメ科 | ユリカモメ | ● | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 120 | | | セグロカモメ | | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 121 | | | オオセグロカモメ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 122 | | | シロカモメ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 123 | | | カモメ | | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 124 | | | ウミネコ | ● | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 125 | | | ズグロカモメ | ● | ● | ● | | | | | | | | | VU | VU | 掲載種 |
| 126 | | | クロハラアジサシ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 127 | | | ハシブトアジサシ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 128 | | | アジサシ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 129 | | | ベニアジサシ | | ● | ● | | | | | | | | | VU | EN | 掲載種 |
| 130 | | | コアジサシ | ● | ● | ● | | | | | | | | | VU | VU | 掲載種 |
| 131 | | ウミスズメ科 | カンムリウミスズメ | | ● | | | | | | | | | | VU | CR | 掲載種 |
| 132 | ハト目 | ハト科 | カラスバト | | ● | | | | | | | | 天 | | NT | VU | 掲載種 |
| 133 | | | ドバト | ● | | | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 134 | | | キジバト | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | |
| 135 | | | アオバト | ● | | ● | | | ● | | | | | | | | 掲載種 |
| 136 | カッコウ目 | カッコウ科 | ホトトギス | | | ● | | ● | | | ● | | | | | | |
| 137 | フクロウ目 | フクロウ科 | コノハズク | | ● | | | | | | | | | | | CR | 掲載種 |
| 138 | | | アオバズク | ● | ● | | ● | | | | | | | | | VU | 掲載種 |
| 139 | | | フクロウ | | | ● | | | | | | | | | | | 掲載種 |
| 140 | ヨタカ目 | ヨタカ科 | ヨタカ | | ● | | | | | | | | | | NT | EN | 掲載種 |
| 141 | アマツバメ目 | アマツバメ科 | ハリオアマツバメ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 142 | | | アマツバメ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 143 | ブッポウソウ目 | カワセミ科 | アカショウビン | | ● | ● | | | | | | | | | | VU | 掲載種 |
| 144 | | | カワセミ | | | ● | ● | ● | | | ● | ● | | | | | |
| 145 | | ブッポウソウ科 | ブッポウソウ | | ● | ● | | | | | | | | | EN | CR | 掲載種 |
| 146 | キツツキ目 | キツツキ科 | アオゲラ | | | ● | | ● | ● | | | | | | | | |
| 147 | | | コゲラ | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | |
| 148 | スズメ目 | ヤイロチョウ科 | ヤイロチョウ | | ● | | | | | | | | | 国内 | EN | EN | 掲載種 |
| 149 | | ヒバリ科 | ヒバリ | | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 150 | | ツバメ科 | ショウドウツバメ | | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 151 | | | ツバメ | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | |
| 152 | | | コシアカツバメ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | NT | |
| 153 | | | イワツバメ | | | ● | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 154 | | セキレイ科 | ツメナガセキレイ | | | ● | | | | | | | | | | | 掲載種 |
| 155 | | | キセキレイ | | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 156 | | | ハクセキレイ | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | |
| 157 | | | セグロセキレイ | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | |
| 158 | | | ビンズイ | | | ● | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 159 | | | タヒバリ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 160 | | サンショウクイ科 | サンショウクイ | | ● | ● | | | | | | | | | VU | CR | 掲載種 |
| 161 | | ヒヨドリ科 | ヒヨドリ | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | |
| 162 | | モズ科 | チゴモズ | | | ● | | | | | | | | | CR | | |
| 163 | | | モズ | | | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | | |
| 164 | | レンジャク科 | キレンジャク | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 165 | | | ヒレンジャク | | | | ● | | | | | | | | | | |
| 166 | | ミソサザイ科 | ミソサザイ | | | ● | | ● | ● | | | | | | | | |
| 167 | | ツグミ科 | コマドリ | | ● | ● | | | | | | | | | | CR | 掲載種 |
| 168 | | | ノゴマ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 169 | | | コルリ | | | ● | | | | | | | | | | EN | |
| 170 | | | ルリビタキ | | | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | | |
| 171 | | | ジョウビタキ | | | ● | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 172 | | | ノビタキ | | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 173 | | | イソヒヨドリ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 174 | | | トラツグミ | | | ● | | | ● | ● | | | | | | | |
| 175 | | | マミジロ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 176 | | | クロツグミ | | ● | ● | | | | | | | | | | NT | |
| 177 | | | アカハラ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 178 | | | シロハラ | | | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | | |
| 179 | | | マミチャジナイ | | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 180 | | | ツグミ | | | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | | |

## 表 3.1.5-2(3)　事業実施区域周囲の鳥類

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 181 | スズメ目 | チメドリ科 | ガビチョウ | | | | ● | ● | ● | | ● | | | | | | |
| 182 | | | ソウシチョウ | | | | | | | ● | | | | | | | |
| 183 | | ウグイス科 | ヤブサメ | | | ● | | ● | ● | | | | | | | | |
| 184 | | | ウグイス | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | |
| 185 | | | ウチヤマセンニュウ | | ● | ● | | | | | | | | | EN | CR | 掲載種 |
| 186 | | | コヨシキリ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 187 | | | オオヨシキリ | ● | ● | ● | ● | | | | | | | | | NT | 掲載種 |
| 188 | | | キマユムシクイ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 189 | | | メボソムシクイ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 190 | | | エゾムシクイ | | | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 191 | | | センダイムシクイ | | ● | ● | | | | | | | | | | VU | |
| 192 | | | キクイタダキ | | | ● | | ● | ● | ● | | | | | | | |
| 193 | | | セッカ | | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 194 | | ヒタキ科 | キビタキ | ● | | ● | ● | ● | ● | | ● | | | | | | 掲載種 |
| 195 | | | ムギマキ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 196 | | | オオルリ | ● | ● | ● | ● | | ● | | | | | | | NT | 掲載種 |
| 197 | | | サメビタキ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 198 | | | エゾビタキ | | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 199 | | | コサメビタキ | | ● | ● | | | | | | | | | | DD | |
| 200 | | カササギヒタキ科 | サンコウチョウ | | ● | ● | | | | | | | | | | VU | 掲載種 |
| 201 | | エナガ科 | エナガ | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | |
| 202 | | ツリスガラ科 | ツリスガラ | ● | ● | ● | ● | | | | | | | | | NT | 掲載種 |
| 203 | | シジュウカラ科 | ヤマガラ | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | |
| 204 | | | シジュウカラ | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | |
| 205 | | メジロ科 | メジロ | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | |
| 206 | | ホオジロ科 | ホオジロ | | | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | | |
| 207 | | | ホオアカ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 208 | | | カシラダカ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 209 | | | ミヤマホオジロ | | | ● | | | ● | ● | | | | | | | |
| 210 | | | ノジコ | | | ● | | | | | | | | | NT | | 掲載種 |
| 211 | | | アオジ | | | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | | |
| 212 | | | クロジ | | | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | | |
| 213 | | | オオジュリン | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 214 | | アトリ科 | アトリ | | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 215 | | | カワラヒワ | | | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | | |
| 216 | | | マヒワ | | | ● | | | ● | ● | | | | | | | |
| 217 | | | ハギマシコ | | | ● | | | | | | | | | | NT | |
| 218 | | | ベニマシコ | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 219 | | | ウソ | | | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 220 | | | イカル | | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 221 | | | シメ | | | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 222 | | ハタオリドリ科 | スズメ | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | |
| 223 | | ムクドリ科 | コムクドリ | ● | | ● | | | | | | | | | | | 掲載種 |
| 224 | | | カラムクドリ | | | | ● | | | | | | | | | | |
| 225 | | | ホシムクドリ | ● | | | | | | | | | | | | | 掲載種 |
| 226 | | | ムクドリ | | | ● | ● | | | ● | ● | | | | | | |
| 227 | | カラス科 | カケス | | | ● | | | | | | | | | | | |
| 228 | | | カササギ | ● | | ● | ● | | | ● | | | | | | | 掲載種 |
| 229 | | | ミヤマガラス | | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 230 | | | ハシボソガラス | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | |
| 231 | | | ハシブトガラス | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | |
| 計 | 17目 | 50科 | 231種 | 53種 | 59種 | 205種 | 75種 | 59種 | 36種 | 45種 | 21種 | 1種 | 2種 | 4種 | 50種 | 72種 | 66種 |

●印は、(注)1.に示す報告書等により事業実施区域周囲において生息が確認された種を示す。なお、当該報告書等において、具体の生息場所が明示されていない種についても、事業実施区域周囲において生息しているものとして抽出している。

(注)1.報告書等：

①「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成 19 年 2 月　福岡市環境局）

②「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011 植物群落・植物・鳥類・哺乳類－」
（平成 23 年 11 月　福岡県環境部自然環境課）

③「平成 22 年度 自然環境調査（鳥類）」（平成 23 年 3 月　福岡市環境局）

④「自然環境調査委託　市域における鳥類の生息状況等調査　報告書」（平成 11 年 3 月　福岡市環境局）

⑤「地域生態系当調査（東平尾・金隈地域）　報告書」（平成 13 年 3 月　福岡市環境局）

⑥「地域生態系当調査（東平尾・金隈地域）　報告書」（平成 14 年 3 月　福岡市環境局）

⑦「平成 14 年度　市域生態系調査業務委託　報告書」（平成 15 年 3 月　福岡市環境局）

⑧「平成 15 年度　市域生態系調査業務委託　報告書」（平成 16 年 3 月　福岡市環境局）

⑨「平成 13 年度　自然環境調査（ため池の生態系調査）　報告書」（平成 14 年 3 月　福岡市環境局）

2.選定基準：

天然記念物：「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種
天　：国指定天然記念物

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において以下の項目に選定されている種及び亜種
国内：国内希少野生動植物種…本邦における生息・生育状況が、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種

環 RL：「第 4 次レッドリストの公表について」（平成 24 年 8 月　環境省報道発表資料）

CR：絶滅危惧 IA 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN：絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種
NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD：情報不足…評価するだけの情報が不足している種

県 RDB：「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-」（平成 23 年 11 月　福岡県環境部自然環境課）
CR：絶滅危惧 IA 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN：絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種
NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD：情報不足…評価するだけの情報が不足している種

市指針：「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成 19 年 2 月　福岡市環境局）
掲載種：市内の貴重・希少生物種等のリスト掲載種

### 3) 両生類･爬虫類

事業実施区域周囲における両生類の生息状況については、福岡市が実施した調査等がある。これらの概要は表 3.1.5-3 に示すとおりであり、2 目 4 科 10 種の両生類が確認されている。重要な種はニホンヒキガエル、ニホンアカガエル、トノサマガエル等の 6 種が確認された。

事業実施区域周囲における爬虫類の生息状況については、福岡市が実施した調査等がある。これらの概要は表 3.1.5-4 に示すとおり、2 目 6 科 11 種の爬虫類が確認されている。重要な種はニホンイシガメ、シロマダラの 2 種が確認された。

**表 3.1.5-3　事業実施区域周囲の両生類**

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 1 | 有尾目 | サンショウウオ科 | カスミサンショウウオ | | | | | ● | | | VU | VU | 掲載種 |
| 2 | | イモリ科 | アカハライモリ | | | | | ● | | | NT | NT | 掲載種 |
| 3 | 無尾目 | ヒキガエル科 | ニホンヒキガエル | | | ● | | ● | | | | VU | 掲載種 |
| 4 | | アマガエル科 | ニホンアマガエル | ● | | ● | ● | | | | | | |
| 5 | | | タゴガエル | | | ● | | | | | | | |
| 6 | | | ニホンアカガエル | | | ● | | ● | | | | VU | 掲載種 |
| 7 | | | ヤマアカガエル | | | | | ● | | | | VU | 掲載種 |
| 8 | | | トノサマガエル | | | | | ● | | | NT | EN | 掲載種 |
| 9 | | | ウシガエル | ● | | ● | | | | | | | |
| 10 | | | ヌマガエル | ● | | ● | ● | | | | | | |
| 計 | 2目 | 4科 | 10種 | 3種 | 0種 | 6種 | 2種 | 6種 | 0種 | 0種 | 3種 | 6種 | 6種 |

●印は、(注)1.に示す報告書等により事業実施区域周囲において生息が確認された種を示す。なお、当該報告書等において、具体の生息場所が明示されていない種についても、事業実施区域周囲において生息しているものとして抽出している。

(注)1.報告書等：

①「自然環境調査委託 ほ乳類・は虫類・両生類の生息状況等調査報告書」(平成 13 年 3 月　福岡市環境局)

②「平成 13 年度 自然環境調査（ため池の生態系調査）報告書」(平成 14 年 3 月　福岡市環境局)

③「平成 19 年度 自然環境調査結果（ほ乳類・は虫類・両生類)」(平成 20 年 3 月　福岡市環境局)

④「福岡市環境配慮指針(改訂版)」(平成 19 年 2 月　福岡市環境局)

⑤「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-」(平成 13 年 3 月　福岡県環境部自然環境課)

2.選定基準：

天然記念物：「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において選定されている種及び亜種

環 RL：「第 4 次レッドリストの公表について」(平成 24 年 8 月　環境省報道発表資料)

VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

県 RDB：「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-」(平成 13 年 3 月　福岡県環境部自然環境課)

EN：絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

市指針：「福岡市環境配慮指針（改訂版)」(平成 19 年 2 月　福岡市環境局)

掲載種：市内の貴重・希少生物種等のリスト掲載種

## 表 3.1.5-4　事業実施区域周囲の爬虫類

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 1 | カメ目 | イシガメ科 | ニホンイシガメ | | ● | | | | | | NT | NT | 掲載種 |
| 2 | | | クサガメ | | ● | | | | | | | | |
| 3 | | ヌマガメ科 | ミシシッピアカミミガメ | ● | ● | | | ● | | | | | |
| 4 | 有鱗目 | ヤモリ科 | ニホンヤモリ | ● | ● | ● | | | | | | | |
| 5 | | トカゲ科 | ニホントカゲ | | ● | | | | | | | | |
| 6 | | カナヘビ科 | ニホンカナヘビ | ● | ● | ● | | | | | | | |
| 7 | | ナミヘビ科 | シマヘビ | ● | ● | ● | | | | | | | |
| 8 | | | ジムグリ | | | | ● | | | | | | |
| 9 | | | シロマダラ | | | | ● | | | | | NT | 掲載種 |
| 10 | | | ヒバカリ | | ● | | | | | | | | |
| 11 | | | ヤマカガシ | | ● | | | | | | | | |
| 計 | 2目 | 6科 | 11種 | 4種 | 9種 | 3種 | 2種 | 1種 | 0種 | 0種 | 1種 | 2種 | 2種 |

●印は、(注)1.に示す報告書等により事業実施区域周囲において生息が確認された種を示す。なお、当該報告書等において、具体の生息場所が明示されていない種についても、事業実施区域周囲において生息しているものとして抽出している。

(注)1.報告書等：

①「自然環境調査委託 ほ乳類・は虫類・両生類の生息状況等調査報告書」(平成 13 年 3 月　福岡市環境局)

②「「平成 19 年度 自然環境調査結果（ほ乳類・は虫類・両生類)」(平成 20 年 3 月　福岡市環境局)

③「福岡市環境配慮指針(改訂版)」(平成 19 年 2 月　福岡市環境局)

④「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-」(平成 13 年 3 月　福岡県環境部自然環境課)

⑤「平成 13 年度　自然環境調査（ため池の生態系調査）　報告書」(平成 14 年 3 月　福岡市環境局)

2.選定基準：

天然記念物：「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において選定されている種及び亜種

環 RL：「第 4 次レッドリストの公表について」(平成 24 年 8 月　環境省報道発表資料)

NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

県 RDB：「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-」(平成 13 年 3 月　福岡県環境部自然環境課)

NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

市指針：「福岡市環境配慮指針（改訂版)」(平成 19 年 2 月　福岡市環境局)

掲載種：市内の貴重・希少生物種等のリスト掲載種

### 4) 昆虫類

事業実施区域周囲における昆虫類の生息状況については、福岡市が実施した調査等がある。これらの概要は表 3.1.5-5(1)～表 3.1.5-5(6)に示すとおりであり，9 目 94 科 460 種の昆虫類が確認されている。重要な種は、アオヤンマ、タイワンウチワヤンマ、クロセセリ等の 55 種が確認された。

**表 3.1.5-5(1)　事業実施区域周囲の昆虫類**

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 1 | トビムシ目 | ヒメトビムシ科 | ヒメトビムシ | | ● | | | | | | | | | | |
| 2 | トンボ目 | アオイトトンボ科 | オオアオイトトンボ | | | | | | ● | | | | | | |
| 3 | | イトトンボ科 | クロイトトンボ | | | ● | | | ● | | | | | | |
| 4 | | | キイトトンボ | | ● | | | | | | | | | | |
| 5 | | | ベニイトトンボ | | | ● | ● | | ● | | | | NT | | 掲載種 |
| 6 | | | アオモンイトトンボ | | ● | ● | | | ● | | | | | | |
| 7 | | | オオイトトンボ | | | | | | ● | | | | | | |
| 8 | | ヤンマ科 | ネアカヨシヤンマ | ● | | | | ● | | | | | NT | DD | 掲載種 |
| 9 | | | アオヤンマ | | ● | ● | ● | ● | | | | | NT | DD | 掲載種 |
| 10 | | | ギンヤンマ | | ● | ● | | | ● | | | | | | |
| 11 | | | カトリヤンマ | | | | | | ● | | | | | | |
| 12 | | | サラサヤンマ | ● | | | | | | | | | | | |
| 13 | | | ヤブヤンマ | | ● | | | | | | | | | | |
| 14 | | サナエトンボ科 | タイワンウチワヤンマ | | ● | | ● | | ● | | | | | | 掲載種 |
| 15 | | | ウチワヤンマ | | | | | | ● | | | | | | |
| 16 | | | タベサナエ | | ● | | | | | | | | NT | | |
| 17 | | オニヤンマ科 | オニヤンマ | | ● | | | | ● | | | | | | |
| 18 | | エゾトンボ科 | オオヤマトンボ | | ● | | | | ● | | | | | | |
| 19 | | トンボ科 | ショウジョウトンボ | | ● | ● | | | ● | | | | | | |
| 20 | | | コフキトンボ | | | | | | ● | | | | | | |
| 21 | | | ベッコウトンボ | | | | ● | | | | | 国内 | CR | CR+EN | 掲載種 |
| 22 | | | ハラビロトンボ | | ● | | | | ● | | | | | | |
| 23 | | | シオカラトンボ | | ● | ● | ● | | ● | | | | | | |
| 24 | | | オオシオカラトンボ | | | | | | ● | | | | | | |
| 25 | | | ウスバキトンボ | | ● | ● | ● | | ● | | | | | | |
| 26 | | | コシアキトンボ | | ● | | | | ● | | | | | | |
| 27 | | | チョウトンボ | | ● | | | | ● | | | | | | |
| 28 | | | ナツアカネ | | | | | | ● | | | | | | |
| 29 | | | マユタテアカネ | | | ● | ● | | ● | | | | | | |
| 30 | | | タイリクアカネ | | | ● | ● | | ● | | | | | | |
| 31 | | | ハネビロトンボ | | | | | | ● | | | | | | |
| 32 | カマキリ目 | カマキリ科 | チョウセンカマキリ | | | ● | | | | | | | | | |
| 33 | バッタ目 | キリギリス科 | ウスイロササキリ | | | ● | | | | | | | | | |
| 34 | | | クビキリギス | | | ● | | | | | | | | | |
| 35 | | ケラ科 | ケラ | | | ● | | | | | | | | | |
| 36 | | マツムシ科 | アオマツムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 37 | | コオロギ科 | エンマコオロギ | | | ● | | | | | | | | | |
| 38 | | ヒバリモドキ科 | キンヒバリ | | | ● | | | | | | | | | |
| 39 | | バッタ科 | ショウリョウバッタ | | | ● | | | | | | | | | |
| 40 | | | トノサマバッタ | | | | ● | | | | | | | | |
| 41 | | オンブバッタ科 | オンブバッタ | | | ● | ● | | | | | | | | |
| 42 | | ヒシバッタ科 | トゲヒシバッタ | | | ● | | | | | | | | | |
| 43 | カメムシ目 | ウンカ科 | ホソミドリウンカ | | | ● | | | | | | | | | |
| 44 | | セミ科 | クマゼミ | | | | ● | | | | | | | | |
| 45 | | | アブラゼミ | | | | ● | | | | | | | | |
| 46 | | | ツクツクボウシ | | | | ● | | | | | | | | |
| 47 | | | ハルゼミ | | | | | ● | | | | | | NT | 掲載種 |
| 48 | | アワフキムシ科 | ハマベアワフキ | | | ● | | | | | | | | | |
| 49 | | カスミカメムシ科 | Lygocoris属 | | | ● | | | | | | | | | |
| 50 | | ヘリカメムシ科 | ホソハリカメムシ | | | ● | | | | | | | | | |
| 51 | | イトカメムシ科 | イトカメムシ | | | ● | | | | | | | | | |
| 52 | | ナガカメムシ科 | コバネナガカメムシ | | | ● | | | | | | | | | |
| 53 | | | ヒメナガカメムシ | | | ● | | | | | | | | | |
| 54 | | メダカナガカメムシ科 | メダカナガカメムシ | | | ● | | | | | | | | | |
| 55 | | ツチカメムシ科 | チビツヤツチカメムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 56 | | | ヒメツチカメムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 57 | | | ツチカメムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 58 | | カメムシ科 | ハナダカカメムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 59 | | | キマダラカメムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 60 | | | アカスジカメムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 61 | | | オオクロカメムシ | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 62 | | | イネクロカメムシ | | | ● | | | | | | | | | |
| 63 | | キンカメムシ科 | オオキンカメムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 64 | | アメンボ科 | オオアメンボ | | | | | ● | | | | | | VU | 掲載種 |
| 65 | | | アメンボ | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 66 | | | ヒメアメンボ | | ● | | | | | | | | | | |
| 67 | | | ハネナシアメンボ | ● | | | | | | | | | | | |
| 68 | | | エサキアメンボ | | | | ● | | | | | | NT | VU | |
| 69 | | イトアメンボ科 | イトアメンボ | ● | | | | | | | | | VU | | |
| 70 | | | ヒメイトアメンボ | ● | | | | | | | | | | | |
| 71 | | カタビロアメンボ科 | ケシカタビロアメンボ | | ● | | | | | | | | | | |
| 72 | | ミズムシ科 | ハラグロコミズムシ | | ● | | | | | | | | | | |
| 73 | | | ミヤケミズムシ | | | ● | | | | | | | NT | | |
| 74 | | タイコウチ科 | ヒメミズカマキリ | | | ● | | | | | | | | | |
| 75 | | マツモムシ科 | マツモムシ | | ● | | | | | | | | | | |
| 76 | | マルミズムシ科 | マルミズムシ | | ● | | | | | | | | | | |

# 表 3.1.5-5(2)　事業実施区域周囲の昆虫類

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 77 | チョウ目 | スカシバガ科 | ヒメアトスカシバ | | | ● | | | | | | | | | |
| 78 | | マダラガ科 | ミノウスバ | ● | | | | | | | | | | | |
| 79 | | セセリチョウ科 | ダイミョウセセリ | | ● | | | | | | | | | | |
| 80 | | | ミヤマセセリ | ● | | | | ● | | | | | | VU | 掲載種 |
| 81 | | | クロセセリ | | | | ● | | | | | | | | 掲載種 |
| 82 | | | ヒメキマダラセセリ | ● | | | | ● | | | | | | VU | 掲載種 |
| 83 | | | イチモンジセセリ | ● | | ● | ● | | ● | | | | | | |
| 84 | | | ミヤマチャバネセセリ | | | | | ● | | | | | | VU | 掲載種 |
| 85 | | | チャバネセセリ | ● | | | | | ● | | | | | | |
| 86 | | | オオチャバネセセリ | ● | | | | ● | | | | | | NT | 掲載種 |
| 87 | | | キマダラセセリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 88 | | | コチャバネセセリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 89 | | マダラチョウ科 | ウスコモンマダラ | ● | | | | | | | | | | | |
| 90 | | シジミチョウ科 | コツバメ | | ● | | | ● | | | | | | VU | 掲載種 |
| 91 | | | サツマシジミ | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 92 | | | ルリシジミ | ● | | | ● | | ● | | | | | | |
| 93 | | | ウラギンシジミ | ● | | | | | ● | | | | | | |
| 94 | | | ツバメシジミ | ● | | | | | ● | | | | | | |
| 95 | | | オオミドリシジミ | | | | | ● | | | | | | NT | |
| 96 | | | アカシジミ | ● | | | | | | | | | | VU | 掲載種 |
| 97 | | | ウラナミシジミ | | | | | | ● | | | | | | |
| 98 | | | ベニシジミ | ● | | | ● | | ● | | | | | | |
| 99 | | | ムラサキツバメ | ● | | | | | ● | | | | | | |
| 100 | | | ムラサキシジミ | ● | | | | | ● | | | | | | |
| 101 | | | クロシジミ | | | | | ● | | | | | EN | CR+EN | 掲載種 |
| 102 | | | ヤマトシジミ本土亜種 | ● | | ● | ● | | ● | | | | | | |
| 103 | | | ゴイシシジミ | | | | | | ● | | | | | | |
| 104 | | | クロツバメシジミ | | | | | ● | | | | | NT | VU | 掲載種 |
| 105 | | | シルビアシジミ | | | | | ● | | | | | EN | CR+EN | 掲載種 |
| 106 | | タテハチョウ科 | コムラサキ | | | | | ● | ● | | | | | VU | 掲載種 |
| 107 | | | ツマグロヒョウモン | | | ● | ● | | ● | | | | | | |
| 108 | | | ウラギンスジヒョウモン | | | | | ● | | | | | VU | VU | 掲載種 |
| 109 | | | ヒメアカタテハ | ● | | | | | ● | | | | | | |
| 110 | | | メスグロヒョウモン | | | | | ● | | | | | | VU | 掲載種 |
| 111 | | | ウラギンヒョウモン | | | | | ● | | | | | | VU | 掲載種 |
| 112 | | | オオウラギンヒョウモン | | | | | ● | | | | | CR | CR+EN | |
| 113 | | | リュウキュウムラサキ | ● | | | | | | | | | | | |
| 114 | | | アオタテハモドキ | ● | | | | | | | | | | | |
| 115 | | | ルリタテハ本土亜種 | ● | | | | | | | | | | | |
| 116 | | | コミスジ | | | | | | ● | | | | | | |
| 117 | | | ヒオドシチョウ | ● | | | | ● | | | | | | NT | 掲載種 |
| 118 | | | キタテハ | | | ● | | | | | | | | | |
| 119 | | アゲハチョウ科 | ミカドアゲハ | ● | | | | | | | | | | | 掲載種 |
| 120 | | | アオスジアゲハ | | | | ● | | ● | | | | | | |
| 121 | | | カラスアゲハ本土亜種 | | | | | | ● | | | | | | |
| 122 | | | モンキアゲハ | | | | | | ● | | | | | | |
| 123 | | | ミヤマカラスアゲハ | ● | | | | | | | | | | | |
| 124 | | | キアゲハ | | | | | | ● | | | | | | |
| 125 | | | オナガアゲハ | ● | | | | ● | | | | | | NT | 掲載種 |
| 126 | | | ナガサキアゲハ | ● | | | ● | | ● | | | | | | |
| 127 | | | クロアゲハ本土亜種 | | | | | | ● | | | | | | |
| 128 | | | ナミアゲハ | ● | | ● | | | ● | | | | | | |
| 129 | | シロチョウ科 | ツマキチョウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 130 | | | ウラナミシロチョウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 131 | | | モンキチョウ | | | | | | ● | | | | | | |
| 132 | | | キチョウ | ● | | | ● | | ● | | | | | | |
| 133 | | | ツマグロキチョウ | | | | | ● | | | | | EN | VU | 掲載種 |
| 134 | | | スジグロシロチョウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 135 | | | モンシロチョウ | ● | | ● | | | ● | | | | | | |
| 136 | | ジャノメチョウ科 | クロヒカゲ本土亜種 | | | | | | ● | | | | | | |
| 137 | | | ヒカゲチョウ | | | | | ● | | | | | | CR+EN | |
| 138 | | | ウスイロコノマチョウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 139 | | | クロコノマチョウ | | | | | | ● | | | | | | |
| 140 | | | ジャノメチョウ | | | | | ● | | | | | | VU | 掲載種 |
| 141 | | | コジャノメ | | | | | | ● | | | | | | |
| 142 | | | ヒメジャノメ | | | | | | ● | | | | | | |
| 143 | | | サトキマダラヒカゲ | ● | | | | | ● | | | | | | |
| 144 | | | ヒメウラナミジャノメ | | | ● | ● | | ● | | | | | | |
| 145 | | | ウラナミジャノメ本土亜種 | | | | | ● | | | | | VU | VU | 掲載種 |
| 146 | | メイガ科 | ミサキクシヒゲシマメイガ | ● | | | | | | | | | | | |
| 147 | | | クロモンツヅリガ | ● | | | | | | | | | | | |
| 148 | | シャクガ科 | アシブトチズモンアオシャク | ● | | | | | | | | | | | |
| 149 | | | マエベニヒメシャク | ● | | | | | | | | | | | |
| 150 | | | ツマジロエダシャク | ● | | | | | | | | | | | |
| 151 | | | ウスネズミエダシャク | ● | | | | | | | | | | | |
| 152 | | スズメガ科 | クロホウジャク | ● | | | | | | | | | | | |
| 153 | | | モンシロモドキ | ● | | | | | | | | | | | |
| 154 | | ドクガ科 | ブチヒゲヤナギドクガ | ● | | | | | | | | | | | |
| 155 | | ヤガ科 | ヤガ科 | | ● | | | | | | | | | | |
| 156 | | | タマナヤガ | ● | | | | | | | | | | | |
| 157 | | | ハマオモトヨトウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 158 | | | ミツモンキンウワバ | ● | | | | | | | | | | | |
| 159 | | | エゾギクキンウワバ | ● | | | | | | | | | | | |
| 160 | | | シンジュキノカワガ | ● | | | | | | | | | | | |
| 161 | | | ツクシアオリンガ | ● | | | | | | | | | | | |
| 162 | | | ナンキンキノカワガ | ● | | | | | | | | | | | |
| 163 | | | アワヨトウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 164 | | | スジシロキヨトウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 165 | | | オオチャバネヨトウ | | | | | ● | | | | | VU | CR+EN | |
| 166 | | | ニセタマナヤガ | ● | | | | | | | | | | | |
| 167 | | | リュウキュウキノカワガ | ● | | | | | | | | | | | |
| 168 | | | ハスモンヨトウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 169 | | | キクキンウワバ | ● | | | | | | | | | | | |
| 170 | | | シロスジアオヨトウ | ● | | | | | | | | | | | |

# 表 3.1.5-5(3)　事業実施区域周囲の昆虫類

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 171 | ハエ目 | ユスリカ科 | ユスリカ科 | | ● | | | | | | | | | | |
| 172 | | ミズアブ科 | ミズアブ科 | | ● | | | | | | | | | | |
| 173 | | ハナアブ科 | ホソヒラタアブ | | | ● | | | | | | | | | |
| 174 | | | シマハナアブ | | | ● | | | | | | | | | |
| 175 | | ヤチバエ科 | ヒゲナガヤチバエ | | | ● | | | | | | | | | |
| 176 | | クロバエ科 | キンバエの一種 | | | ● | | | | | | | | | |
| 177 | コウチュウ目 | オサムシ科 | オオズケゴモクムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 178 | | | チビミズギワゴミムシ | | ● | | | | | | | | | | |
| 179 | | | コアオアトキリゴミムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 180 | | ハンミョウ科 | シロヘリハンミョウ | | | | | ● | | | | | NT | VU | 掲載種 |
| 181 | | | カワラハンミョウ | ● | | | | ● | | | | | EN | VU | 掲載種 |
| 182 | | ゲンゴロウ科 | クロズマメゲンゴロウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 183 | | | ホソセスジゲンゴロウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 184 | | | クロゲンゴロウ | | | | | ● | | | | | NT | VU | 掲載種 |
| 185 | | | コガタノゲンゴロウ | ● | | | | | | | | | VU | VU | 掲載種 |
| 186 | | | マルガタゲンゴロウ | ● | | | | | | | | | VU | CR+EN | |
| 187 | | | シマゲンゴロウ | ● | | | | | | | | | NT | VU | |
| 188 | | | コシマゲンゴロウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 189 | | | ウスイロシマゲンゴロウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 190 | | | スジゲンゴロウ | ● | | | | | | | | | EX | CR+EN | |
| 191 | | | キベリクロヒメゲンゴロウ | ● | | | | | | | | | NT | | |
| 192 | | | ツブゲンゴロウ | | ● | | | | | | | | | | |
| 193 | | | ゲンゴロウ科 | | ● | | | | | | | | | | |
| 194 | | コツブゲンゴロウ科 | コツブゲンゴロウ | | | ● | | | | | | | | | |
| 195 | | ナガヒラタムシ科 | ナガヒラタムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 196 | | ガムシ科 | タマガムシ | | | ● | | | | | | | | | |
| 197 | | | ゴマフガムシ | | ● | | | | | | | | | | |
| 198 | | | コガムシ | ● | | | | | | | | | DD | | |
| 199 | | | マルガムシ | | ● | | | | | | | | | | |
| 200 | | | マメガムシ | | | ● | | | | | | | | | |
| 201 | | | ヒメガムシ | | | ● | | | | | | | | | |
| 202 | | エンマムシ科 | ルリエンマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 203 | | シデムシ科 | オオヒラタシデムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 204 | | | オニヒラタシデムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 205 | | ハネカクシ科 | ヤマトデオキノコムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 206 | | マルハナノミ科 | トビイロマルハナノミ | | | ● | | | | | | | | | |
| 207 | | クワガタムシ科 | オオクワガタ | ● | | | | | | | | | VU | VU | 掲載種 |
| 208 | | | ノコギリクワガタ | ● | | | | | | | | | | | |
| 209 | | コガネムシ科 | ニセマグソコガネ | | | | | ● | | | | | | VU | 掲載種 |
| 210 | | | アオドウガネ | | | ● | | | | | | | | | |
| 211 | | | ダイコクコガネ | ● | | | | | | | | | VU | CR+EN | |
| 212 | | | コカブトムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 213 | | | ミツノエンマコガネ | ● | | | | | | | | | | | |
| 214 | | | マルエンマコガネ | ● | | | | | | | | | | | |
| 215 | | | マメコガネ | | | ● | | | | | | | | | |
| 216 | | | シロテンハナムグリ | | | ● | | | | | | | | | |
| 217 | | | セマルケシマグソコガネ | | | | | ● | | | | | | VU | 掲載種 |
| 218 | | マルトゲムシ科 | シラフチビマルトゲムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 219 | | タマムシ科 | ヒメヒラタタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 220 | | | ヤスマツケシタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 221 | | | クロタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 222 | | | ウバタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 223 | | | ムツボシタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 224 | | | タマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 225 | | | クロマダラタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 226 | | | マスダクロホシタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 227 | | | クズノチビタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 228 | | | ナミガタチビタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 229 | | | マメチビタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 230 | | | サシゲチビタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 231 | | | ヌスビトハギチビタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 232 | | | ズミチビタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 233 | | | ダンダラチビタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 234 | | コメツキムシ科 | シモフリコメツキ | ● | | | | | | | | | | | |
| 235 | | | ホソアシナガタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 236 | | | ヒメサビキコリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 237 | | | ハマベオオヒメサビキコリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 238 | | | クロハナコメツキ | ● | | | | | | | | | | | |
| 239 | | | ウバタマコメツキ | ● | | | | | | | | | | | |
| 240 | | | フタモンウバタマコメツキ | ● | | | | | | | | | | | |
| 241 | | | クロエグリタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 242 | | | ヒメクロツヤハダコメツキ | ● | | | | | | | | | | | |
| 243 | | | スナサビキコリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 244 | | | オオフタモンウバタマコメツキ | ● | | | | | | | | | | | |
| 245 | | | ヒゲコメツキ | ● | | | | | | | | | | | |
| 246 | | | クチブトコメツキ | ● | | | | | | | | | | | |
| 247 | | | ヒラタクシコメツキ | ● | | | | | | | | | | | |
| 248 | | | ヨシダチビタマムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 249 | | カツオブシムシ科 | シロオビマルカツオブシムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 250 | | | カマキリタマゴカツオブシムシ | | | ● | | | | | | | | | |
| 251 | | ナガシンクイムシ科 | ガロアヒメナガシンクイ | ● | | | | | | | | | | | |
| 252 | | カッコウムシ科 | ヤマトヒメメダカカッコウムシ | | | ● | | | | | | | | | |
| 253 | | キスイモドキ科 | ズグロキスイモドキ | ● | | | | | | | | | | | |
| 254 | | テントウムシ科 | ムーアシロホシテントウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 255 | | | ナナホシテントウ | ● | | ● | ● | | | | | | | | |
| 256 | | | ナミテントウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 257 | | | ジュウサンホシテントウ | | | | ● | | | | | | | VU | 掲載種 |
| 258 | | | ダンダラテントウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 259 | | | セスジヒメテントウ | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 260 | | | ヒメカメノコテントウ | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 261 | | | ルイスヒメテントウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 262 | | | ババヒメテントウ | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 263 | | | クロヘリヒメテントウ | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 264 | | | カワムラヒメテントウ | ● | | | | | | | | | | | |

# 表 3.1.5-5(4)　事業実施区域周囲の昆虫類

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 265 | コウチュウ目 | テントウムシ科 | オトヒメテントウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 266 | | | アラキヒメテントウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 267 | | | ニセツマアカヒメテントウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 268 | | | ヤマトヒメテントウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 269 | | | クロツヤテントウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 270 | | | ナガサキクロテントウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 271 | | | シロホシテントウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 272 | | テントウムシダマシ科 | キイロテントウダマシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 273 | | オオキノコムシ科 | ヒメオビオオキノコ | ● | | | | | | | | | | | |
| 274 | | | アカハバビロオオキノコ | ● | | | | | | | | | | | |
| 275 | | | フタホシチビオオキノコムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 276 | | ヒメハナムシ科 | トビイロヒメハナムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 277 | | ツチハンミョウ科 | キュウシュウツチハンミョウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 278 | | | マルクビツチハンミョウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 279 | | ゴミムシダマシ科 | コクヌストモドキ | ● | | | | | | | | | | | |
| 280 | | カミキリムシ科 | ビロウドカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 281 | | | センノキカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 282 | | | ツヤケシハナカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 283 | | | ゴマダラカミキリ | ● | | | ● | | | | | | | | |
| 284 | | | カノコサビカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 285 | | | クワカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 286 | | | キクスイモドキカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 287 | | | コブスジサビカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 288 | | | タテジマカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 289 | | | ルリカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 290 | | | シロスジカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 291 | | | ウスアヤカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 292 | | | ヒメスギカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 293 | | | ツシマムナクボカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 294 | | | オオアオカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 295 | | | タケトラカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 296 | | | エグリトラカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 297 | | | ヨツスジトラカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 298 | | | アカハナカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 299 | | | キスジトラカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 300 | | | ヨコヤマヒゲナガカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 301 | | | ニイジマチビカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 302 | | | ホシベニカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 303 | | | ベーツヒラタカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 304 | | | ヤツメカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 305 | | | クモガタケシカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 306 | | | フジヤマチビカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 307 | | | アトモンマルケシカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 308 | | | コジマヒゲナガコバネカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 309 | | | マルクビケマダラカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 310 | | | オオヨツスジカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 311 | | | ヤマカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 312 | | | ウスバカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 313 | | | スネケブカヒロコバネカミキリ | ● | | | | | | | | | | VU | |
| 314 | | | カタシロゴマフカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 315 | | | ナガゴマフカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 316 | | | チャゴマフカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 317 | | | ハラアカコブカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 318 | | | マツノマダラカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 319 | | | ヒメヒゲナガカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 320 | | | ケブカヒラタカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 321 | | | ヘリグロリンゴカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 322 | | | リンゴカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 323 | | | ホソキリンゴカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 324 | | | ムネホシシロカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 325 | | | オオシロカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 326 | | | チョウセンシロカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 327 | | | ベニバハナカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 328 | | | フクチセダカコブヤハズカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 329 | | | シロスジドウボソカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 330 | | | ノコギリカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 331 | | | キボシカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 332 | | | ワモンサビカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 333 | | | トガリシロオビサビカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 334 | | | ナカジロサビカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 335 | | | アトモンサビカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 336 | | | アトジロサビカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 337 | | | モンクロベニカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 338 | | | ヘリグロベニカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 339 | | | ベニカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 340 | | | クスベニカミキリ | ● | | | | | | | | | | VU | |
| 341 | | | スギカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 342 | | | クロカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 343 | | | カッコウメダカカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 344 | | | フタコブルリハナカミキリ | ● | | | | | | | | | | VU | |
| 345 | | | ヨツボシカミキリ | ● | | | | | | | | | EN | CR+EN | |
| 346 | | | ワタカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 347 | | | ヤハズカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 348 | | | チャボヒゲナガカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 349 | | | トラフカミキリ | ● | | | | ● | | | | | | VU | |
| 350 | | | ブドウトラカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 351 | | | アオスジカミキリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 352 | | ハムシ科 | カミナリハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 353 | | | キタカミナリハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 354 | | | スキバジンガサハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 355 | | | ウリハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 356 | | | クロウリハムシ | | | ● | | | | | | | | | |
| 357 | | | アオバネサルハムシ | ● | | | | | | | | | | | |

# 表 3.1.5-5(5)　事業実施区域周囲の昆虫類

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 358 | コウチュウ目 | ハムシ科 | ヒメジンガサハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 359 | | | カメノコハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 360 | | | セモンジンガサハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 361 | | | ツツジコブハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 362 | | | オオサルハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 363 | | | ハッカハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 364 | | | ヤナギハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 365 | | | イモサルハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 366 | | | キボシツツハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 367 | | | ヒゴトゲハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 368 | | | マダラアラゲサルハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 369 | | | キンイロネクイハムシ | ● | | | | | | | | | NT | CR+EN | |
| 370 | | | イネネクイハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 371 | | | イチゴハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 372 | | | ジュンサイハムシ | | ● | ● | | | | | | | | | |
| 373 | | | コガタルリハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 374 | | | ケブカクロナガハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 375 | | | キベリクビボソハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 376 | | | キバラルリクビボソハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 377 | | | トゲアシクビボソハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 378 | | | キオビクビボソハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 379 | | | キイロクビナガハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 380 | | | ケブカサルハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 381 | | | スイバトビハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 382 | | | フタスジヒメハムシ | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 383 | | | イチモンジハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 384 | | | アオガネヒメサルハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 385 | | | ウスグロチビカミナリハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 386 | | | セスジクビボソハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 387 | | | ヒメキバネサルハムシ | | | ● | | | | | | | | | |
| 388 | | | アトボシハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 389 | | | ヨツボシハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 390 | | | ダイコンサルハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 391 | | | タマアシトビハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 392 | | | ホソキスジノミハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 393 | | | ナトビハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 394 | | | アカタデハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 395 | | | カタクリハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 396 | | ヒゲナガゾウムシ科 | タマカイガラヒゲナガゾウムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 397 | | | イボタロウヒゲナガゾウムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 398 | | | アカアシヒゲナガゾウムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 399 | | | エグリバネヒゲナガゾウムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 400 | | | キノコヒゲナガゾウムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 401 | | | アカミヒゲナガゾウムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 402 | | | セマルヒゲナガゾウムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 403 | | | シロヒゲナガゾウムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 404 | | | ドウガネサルハムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 405 | | オトシブミ科 | ウスモンオトシブミ | ● | | | | | | | | | | | |
| 406 | | | カシルリオトシブミ | ● | | | | | | | | | | | |
| 407 | | | ゴマダラオトシブミ | ● | | | | | | | | | | | |
| 408 | | | アシナガオトシブミ | ● | | | | | | | | | | | |
| 409 | | ゾウムシ科 | ダイコンサルゾウムシ | | | ● | | | | | | | | | |
| 410 | | | カナムグラサルゾウムシ | | | ● | | | | | | | | | |
| 411 | | | カミヤチビシギゾウムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 412 | | | ガロアノミゾウムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 413 | | | マルメサルゾウムシ | | ● | | | | | | | | | | |
| 414 | | キクイムシ科 | キイロコキクイムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 415 | | | クロコキクイムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 416 | | | ヒメヨツメキクイムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 417 | | | サクラノホソキクイムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 418 | | | ユズリハノキクイムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 419 | | | ハンノキキクイムシ | ● | | | | | | | | | | | |
| 420 | ハチ目 | ハバチ科 | ハグロハバチ | | | ● | | | | | | | | | |
| 421 | | アリ科 | ノコギリハリアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 422 | | | アシナガアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 423 | | | ヤマトアシナガアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 424 | | | クロオオアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 425 | | | ウメマツオオアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 426 | | | ハリブトシリアゲアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 427 | | | ツヤシリアゲアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 428 | | | キイロシリアゲアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 429 | | | トゲズネハリアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 430 | | | ハヤシクロヤマアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 431 | | | クロヤマアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 432 | | | ニセハリアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 433 | | | トビイロケアリ | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 434 | | | ムネホソアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 435 | | | クロナガアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 436 | | | クロヒメアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 437 | | | ヒメアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 438 | | | イエヒメアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 439 | | | ルリアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 440 | | | コツノアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 441 | | | オオハリアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 442 | | | アメイロアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 443 | | | サクラアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 444 | | | オオズアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 445 | | | アミメアリ | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 446 | | | トカラウロコアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 447 | | | ハヤシナガアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 448 | | | ウロコアリの一種 | ● | | | | | | | | | | | |
| 449 | | | オオシワアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 450 | | | トビイロシワアリ | ● | | | | | | | | | | | |
| 451 | | | ウメマツアリ | ● | | | | | | | | | | | |

## 表 3.1.5-5(6)　事業実施区域周囲の昆虫類

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 452 | ハチ目 | ドロバチ科 | チビドロバチ | | | ● | | | | | | | | | |
| 453 | | スズメバチ科 | フタモンアシナガバチ | | | ● | ● | | | | | | | | |
| 454 | | | セグロアシナガバチ | | | ● | | | | | | | | | |
| 455 | | ベッコウバチ科 | タカチホヒメベッコウ | ● | | | | | | | | | | | |
| 456 | | アリマキバチ科 | キアシマエダテバチ | ● | | | | | | | | | | | |
| 457 | | アナバチ科 | コクロアナバチ | | | ● | | | | | | | | | |
| 458 | | | アメリカジガバチ | ● | | | | | | | | | | | |
| 459 | | コシブトハナバチ科 | Ceratina属 | | | ● | | | | | | | | | |
| 460 | | ミツバチ科 | キムネクマバチ | | | ● | | | | | | | | | |
| 計 | 9目 | 94科 | 460種 | 324種 | 35種 | 73種 | 28種 | 31種 | 54種 | 0種 | 0種 | 1種 | 29種 | 46種 | 35種 |

●印は、(注)1.に示す報告書等により事業実施区域周囲において生息が確認された種を示す。なお、当該報告書等において、具体の生息場所が明示されていない種についても、事業実施区域周囲において生息しているものとして抽出している。

(注)1.報告書等：

①「平成 9 年度自然環境調査（福岡市域における昆虫の生息状況調査）報告書」（平成 9 年度　福岡市環境局）
②「平成 11 年度 自然環境調査（ため池の貴重種生物の生息状況調査)」（平成 12 年 3 月　福岡市環境局）
③「平成 13 年度 自然環境調査（ため池の生態系調査）報告書」（平成 14 年 3 月　福岡市環境局）
④「福岡市環境配慮指針(改訂版)」（平成 19 年 2 月　福岡市環境局）
⑤「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-」（平成 13 年 3 月　福岡県環境部自然環境課）
⑥「平成 14 年度　市域生態系調査業務委託　報告書」（平成 15 年 3 月　福岡市環境局）
⑦「平成 15 年度　市域生態系調査業務委託　報告書」（平成 16 年 3 月　福岡市環境局）

2.選定基準：

天然記念物：「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種
種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において以下の項目に選定されている種及び亜種
　国内：国内希少野生動植物種…本邦における生息・生育状況が、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種
環 RL：「第 4 次レッドリストの公表について」（平成 24 年 8 月　環境省報道発表資料）
　EX：絶滅…我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
　CR：絶滅危惧 IA 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
　EN：絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
　VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種
　NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
　DD：評価するだけの情報が不足している種
県 RDB：「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-」（平成 13 年 3 月　福岡県環境部自然環境課）
　CR+EN：絶滅危惧 I 類…絶滅の危機に瀕している種
　VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種
　NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
　DD：情報不足…評価するだけの情報が不足している種
市指針：「福岡市環境配慮指針（改訂版)」（平成 19 年 2 月　福岡市環境局温暖化対策部 環境調整課）
　掲載種：市内の貴重・希少生物種等のリスト掲載種

### 5) 底生動物

事業実施区域周囲における底生動物の生息状況については、福岡市が実施した調査等がある。これらの概要は表 3.1.5-6 に示すとおりであり、5 門 7 綱 15 目 27 科 36 種の底生動物が確認されている。重要な種はカワザンショウガイ、ヒロクチカノコガイ、クシテガニ、ヒメアシハラガニ等の 21 種が確認された。

**表 3.1.5-6　事業実施区域周囲の底生動物**

| No. | 門和名 | 綱和名 | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | ① | ② | ③ | ④ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 1 | 海綿動物門 | 普通海綿綱 | ザラカイメン目 | タンスイカイメン科 | ヨワカイメン | ● | | | | | | | | |
| 2 | 線形動物門 | | | | 線形動物門 | ● | | | | | | | | |
| 3 | 軟体動物門 | 腹足綱 | アマオブネガイ目 | アマオブネガイ科 | ヒロクチカノコガイ | | ● | ● | | | | NT | VU | 掲載種 |
| 4 | | | 原始紐舌目 | ムシオイガイ科 | ミヤザキムシオイ | | | ● | | | | CR+EN | CR+EN | 掲載種 |
| 5 | | | 盤足目 | フトヘナタリ科 | ヘナタリガイ | | | ● | | | | NT | CR+EN | 掲載種 |
| 6 | | | | カワザンショウガイ科 | クリイロカワザンショウガイ | | | ● | | | | NT | NT | 掲載種 |
| 7 | | | | | カワザンショウガイ | | ● | ● | | | | | NT | 掲載種 |
| 8 | | | | | オオウスイロヘソカドガイ | | ● | ● | | | | | NT | 掲載種 |
| 9 | | | 柄眼目 | キセルガイ科 | キュウシュウナミコギセル | | | ● | | | | | VU | |
| 10 | | | | ベッコウマイマイ科 | タカハシベッコウ | | | ● | | | | CR+EN | CR+EN | |
| 11 | 環形動物門 | ゴカイ綱 | サシバゴカイ目 | サシバゴカイ科 | ホソミサシバ | ● | | | | | | | | |
| 12 | | ミミズ綱 | ナガミミズ目 | ミズミミズ科 | ミズミミズ科 | ● | | | | | | | | |
| 13 | 節足動物門 | 甲殻綱 | ホウネンエビ目 | ホウネンエビ科 | ホウネンエビ | | | ● | | | | | NT | |
| 14 | | | ワラジムシ目 | ミズムシ科 | ミズムシ | ● | | | | | | | | |
| 15 | | | エビ目 | テナガエビ科 | ミナミテナガエビ | | | ● | | | | | NT | 掲載種 |
| 16 | | | | アメリカザリガニ科 | アメリカザリガニ | | | | ● | | | | | |
| 17 | | | | ムツアシガニ科 | ヒメムツアシガニ | | | ● | | | | | DD | |
| 18 | | | | カクレガニ科 | オオヨコナガピンノ | | | ● | | | | | 危惧 | 掲載種 |
| 19 | | | | ムツハアリアケガニ科 | アリアケガニ | | | ● | | | | | 危惧 | |
| 20 | | | | オサガニ科 | オサガニ | | | ● | | | | | NT | 掲載種 |
| 21 | | | | スナガニ科 | シオマネキ | | | ● | | | | VU | 危惧 | 掲載種 |
| 22 | | | | | ハクセンシオマネキ | | | ● | | | | VU | NT | 掲載種 |
| 23 | | | | ベンケイガニ科 | ハマガニ | | | ● | | | | | NT | 掲載種 |
| 24 | | | | | ヒメアシハラガニ | | ● | ● | | | | | NT | 掲載種 |
| 25 | | | | | クシテガニ | | ● | ● | | | | | NT | 掲載種 |
| 26 | | | | | ベンケイガニ | | | ● | | | | | 危惧 | 掲載種 |
| 27 | | | | モクズガニ科 | ウモレベンケイガニ | | ● | ● | | | | | NT | 掲載種 |
| 28 | | 昆虫綱 | カゲロウ目 | コカゲロウ科 | ミツオミジカオフタバコカゲロウ | ● | | | | | | | | |
| 29 | | | | | ヨシノコカゲロウ | ● | | | | | | | | |
| 30 | | | | ヒラタカゲロウ科 | ユミモンヒラタカゲロウ | ● | | | | | | | | |
| 31 | | | トビケラ目 | ナガレトビケラ科 | ヤマナカナガレトビケラ | ● | | | | | | | | |
| 32 | | | ハエ目 | ユスリカ科 | エリユスリカ亜科 | ● | | | | | | | | |
| 33 | | | | | モンユスリカ亜科 | ● | | | | | | | | |
| 34 | | | | | ユスリカ亜科 | ● | | | | | | | | |
| － | | | | | ユスリカ科 | ● | | | | | | | | |
| 35 | | | | アシナガバエ科 | アシナガバエ科 | ● | | | | | | | | |
| 36 | | | コウチュウ目 | ヒラタドロムシ科 | マスダチビヒラタドロムシ | ● | | | | | | | | |
| 計 | 5門 | 7綱 | 15目 | 27科 | 36種 | 15種 | 6種 | 21種 | 1種 | 0種 | 0種 | 7種 | 21種 | 16種 |

●印は、(注)1.に示す報告書等により事業実施区域周囲において生息が確認された種を示す。なお、当該報告書等において、具体の生息場所が明示されていない種についても、事業実施区域周囲において生息しているものとして抽出している。

(注)1.報告書等：

①「平成 18 年度 自然環境調査結果（底生動物）」（平成 19 年 3 月　福岡市環境局）

②「福岡市環境配慮指針(改訂版)」（平成 19 年 2 月　福岡市環境局）

③「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-」（平成 13 年 3 月　福岡県環境部自然環境課）

④「平成 11 年度 自然環境調査（ため池の貴重種生物の生息状況調査）」（平成 12 年 3 月　福岡市環境局）

2.選定基準：

天然記念物：「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において選定されている種及び亜種

環 RL：「第 4 次レッドリストの公表について」（平成 24 年 8 月　環境省報道発表資料）

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類…絶滅の危機に瀕している種

VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

県 RDB：「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-」（平成 13 年 3 月　福岡県環境部自然環境課）

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類…絶滅の危機に瀕している種

VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

DD：評価するだけの情報が不足している種

危惧：絶滅危惧…絶滅の危険性が非常に高く、生息地が限定され、個体群の規模が小さく、生息地の環境の変化で今後更に危険性が増すもの

市指針：「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成 19 年 2 月　福岡市環境局温暖化対策部 環境調整課）

掲載種：市内の貴重・希少生物種等のリスト掲載種

### 6) 魚類

事業実施区域周囲における魚類の生息状況については、福岡市が実施した調査等がある。これらの概要は表 3.1.5-7 に示すとおりであり、10 目 20 科 52 種の魚類が確認されている。重要な種はウナギ、ニッポンバラタナゴ、アユ、メダカ等の 22 種が確認された。

**表 3.1.5-7　事業実施区域周囲の魚類**

| No. | 目和名 | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 1 | ヤツメウナギ目 | ヤツメウナギ科 | スナヤツメ | | | | | | | ● | | | VU | EN | 掲載種 |
| 2 | ウナギ目 | ウナギ科 | ウナギ | | ● | | | | ● | ● | | | DD | NT | 掲載種 |
| 3 | コイ目 | コイ科 | コイ | | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| － | | | コイ（飼育品種） | | | ● | | | | | | | | | |
| 4 | | | ゲンゴロウブナ | | ● | | | ● | | | | | | | |
| 5 | | | ギンブナ | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | | |
| 6 | | | オオキンブナ | | | | | ● | | | | | | | |
| 7 | | | キンギョ | | | | | ● | | | | | | | |
| 8 | | | ヤリタナゴ | | | | | | | ● | | | | NT | 掲載種 |
| 9 | | | カネヒラ | | ● | | | | ● | ● | | | | NT | 掲載種 |
| 10 | | | セボシタビラ | | | | | | ● | | | | CR | CR | 掲載種 |
| 11 | | | タイリクバラタナゴ | | | | | ● | | | | | | | |
| 12 | | | ニッポンバラタナゴ | | | | | ● | ● | | | | CR | VU | 掲載種 |
| 13 | | | カゼトゲタナゴ | | ● | | | | ● | | | | EN | VU | 掲載種 |
| 14 | | | オイカワ | | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 15 | | | カワムツ | | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 16 | | | タカハヤ | | ● | | | ● | | | | | | | |
| 17 | | | モツゴ | | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 18 | | | カワヒガイ | | ● | | | ● | | | | | NT | | |
| 19 | | | ムギツク | | ● | | | ● | | | | | | | |
| 20 | | | ゼゼラ | | ● | | | | | | | | | | |
| 21 | | | カマツカ | | ● | | | ● | | | | | | | |
| 22 | | | ツチフキ | | ● | | | | | | | | VU | | |
| 23 | | | イトモロコ | | ● | | | ● | | | | | | | |
| 24 | | ドジョウ科 | ヤマトシマドジョウ | | ● | | | ● | | | | | VU | | |
| 25 | ナマズ目 | ギギ科 | アリアケギバチ | | | | | | ● | | | | NT | NT | 掲載種 |
| 26 | | ナマズ科 | ナマズ | | ● | | | ● | | | | | | | |
| 27 | | アカザ科 | アカザ | | | | | | ● | ● | | | VU | EN | 掲載種 |
| 28 | サケ目 | アユ科 | アユ | | ● | | | ● | ● | ● | | | | UK | 掲載種 |
| 29 | | サケ科 | サケ | | | | | | | ● | | | | UK | 掲載種 |
| 30 | | | ヤマメ | | | | | | | ● | | | | UK | 掲載種 |
| 31 | カダヤシ目 | カダヤシ科 | カダヤシ | | | ● | ● | | | | | | | | |
| 32 | ダツ目 | メダカ科 | メダカ | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | VU | NT | 掲載種 |
| 33 | トゲウオ目 | トゲウオ科 | イトヨ(降海型) | | | | | | | ● | | | | NT | 掲載種 |
| 34 | カサゴ目 | カジカ科 | カジカ | | | | | ● | | ● | | | NT | VU | 掲載種 |
| 35 | スズキ目 | スズキ科 | オヤニラミ | | ● | | | ● | ● | ● | | | VU | NT | 掲載種 |
| 36 | | | スズキ | | ● | | | | | | | | | | |
| 37 | | シマイサキ科 | シマイサキ | | | | | ● | | | | | | | |
| 38 | | サンフィッシュ科 | ブルーギル | | ● | | | ● | | | | | | | |
| 39 | | | オオクチバス（ブラックバス） | | ● | | | ● | | | | | | | |
| 40 | | ボラ科 | ボラ | | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 41 | | ドンコ科 | ドンコ | | ● | | | ● | | | | | | | |
| 42 | | ハゼ科 | トビハゼ | | | | | | | ● | | | NT | EN | 掲載種 |
| 43 | | | シロウオ | | | | | | ● | ● | | | VU | NT | 掲載種 |
| 44 | | | クボハゼ | | | | | | | ● | | | EN | DD | 掲載種 |
| 45 | | | ビリンゴ | | ● | | | | | | | | | | |
| 46 | | | ウロハゼ | | ● | | | | | | | | | | |
| 47 | | | マハゼ | | ● | | | ● | | | | | | | |
| 48 | | | シマヨシノボリ | | ● | | | ● | | | | | | | |
| 49 | | | オオヨシノボリ | | ● | | | ● | | | | | | | |
| 50 | | | トウヨシノボリ（型不明） | | ● | ● | | ● | | | | | | | |
| 51 | | | カワヨシノボリ | | | | | ● | | | | | | | |
| 52 | | タイワンドジョウ科 | カムルチー | | ● | | | ● | | | | | | | |
| 計 | 10目 | 20科 | 52種 | 1種 | 33種 | 10種 | 3種 | 32種 | 11種 | 15種 | 0種 | 0種 | 16種 | 19種 | 19種 |

●印は、(注)1.に示す報告書等により事業実施区域周囲において生息が確認された種を示す。なお、当該報告書等において、具体の生息場所が明示されていない種についても、事業実施区域周囲において生息しているものとして抽出している。

(注)1.報告書等：

①「平成 11 年度 自然環境調査（ため池の貴重種生物の生息状況調査)」(平成 12 年 3 月　福岡市環境局)
②「自然環境調査（河川における水生生物の生息状況調査）報告書」(平成 12 年 3 月　福岡市環境局)
③「自然環境調査報告書（里地の細流等における貴重種魚類の生息状況調査)」(平成 13 年 3 月　福岡市環境局)
④「平成 13 年度 自然環境調査（ため池の生態系調査）報告書」(平成 14 年 3 月　福岡市環境局)
⑤「平成 18 年度 自然環境調査結果（淡水魚類)」(平成 19 年 3 月　福岡市環境局)
⑥「福岡市環境配慮指針(改訂版)」(平成 19 年 2 月　福岡市環境局)
⑦「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-」(平成 13 年 3 月　福岡県環境部自然環境課)

2.選定基準：

天然記念物：「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において選定されている種及び亜種

環 RL：「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰ及び植物 II のレッドリストの見直しについて」（平成 19 年 8 月　環境省報道発表資料）

「鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」（平成 18 年 12 月　環境省報道発表資料）

CR：絶滅危惧 IA 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

EN：絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

DD：情報不足…評価するだけの情報が不足している種

県 RDB：「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-」（平成 13 年 3 月　福岡県環境部自然環境課）

CR：絶滅危惧 IA 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

EN：絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

DD：評価するだけの情報が不足している種

UK：天然不明

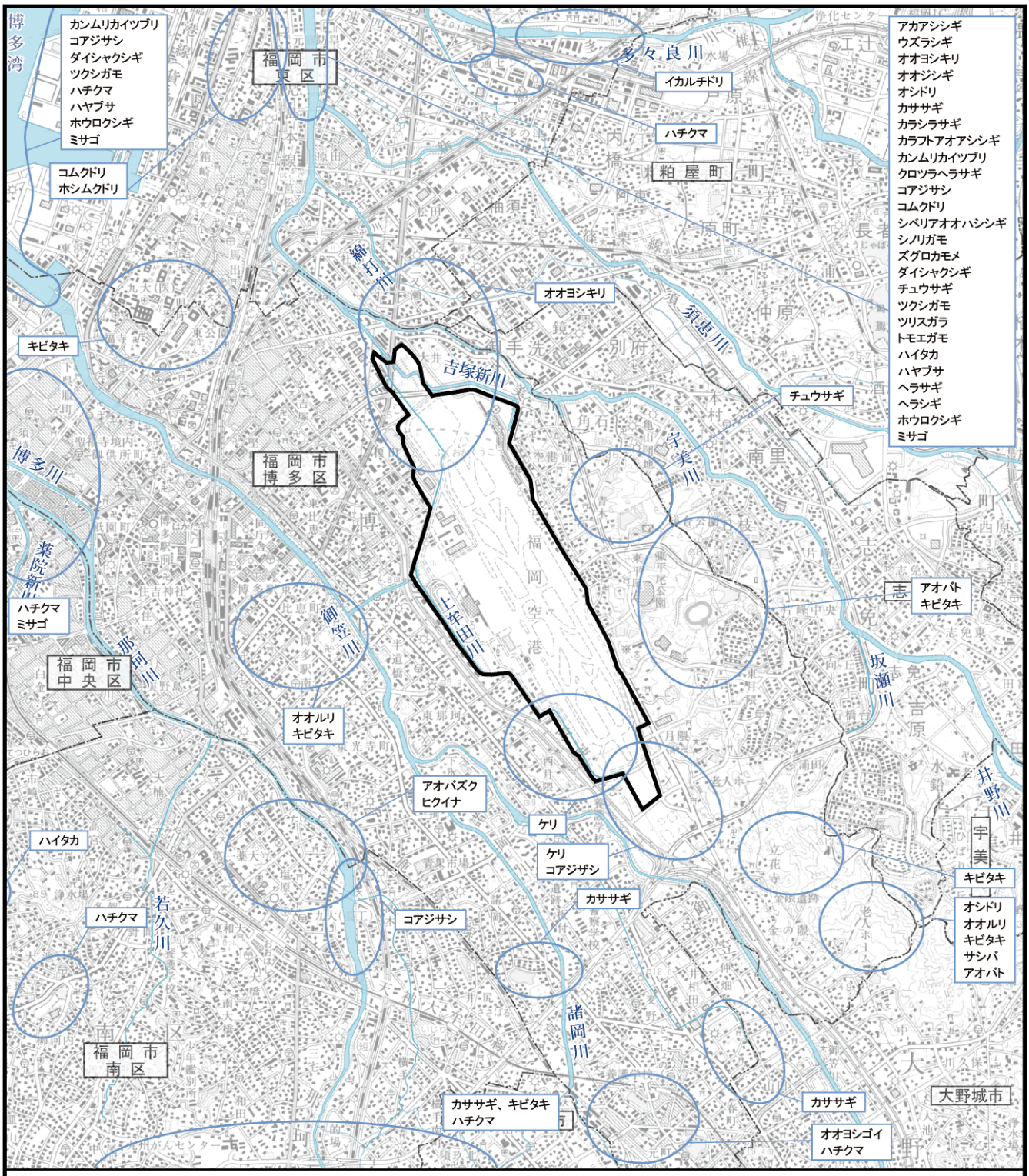
市指針：「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成 19 年 2 月　福岡市環境局温暖化対策部 環境調整課）

掲載種：市内の貴重・希少生物種等のリスト掲載種

### 7）重要な動物種

事業実施区域周囲の重要な動物種の生息状況は、「福岡市環境配慮指針　改訂版」において貴重生物等確認地図に図示されているものを対象としており、図 3.1.5-1(1)～図 3.1.5-1(4)に示すとおりである。

なお、「福岡市環境配慮指針　改訂版」では図 3.1.5-1 の範囲において、哺乳類、両生類及び爬虫類に係る重要な種の生息情報は確認されていないため図示していない。




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：鳥類

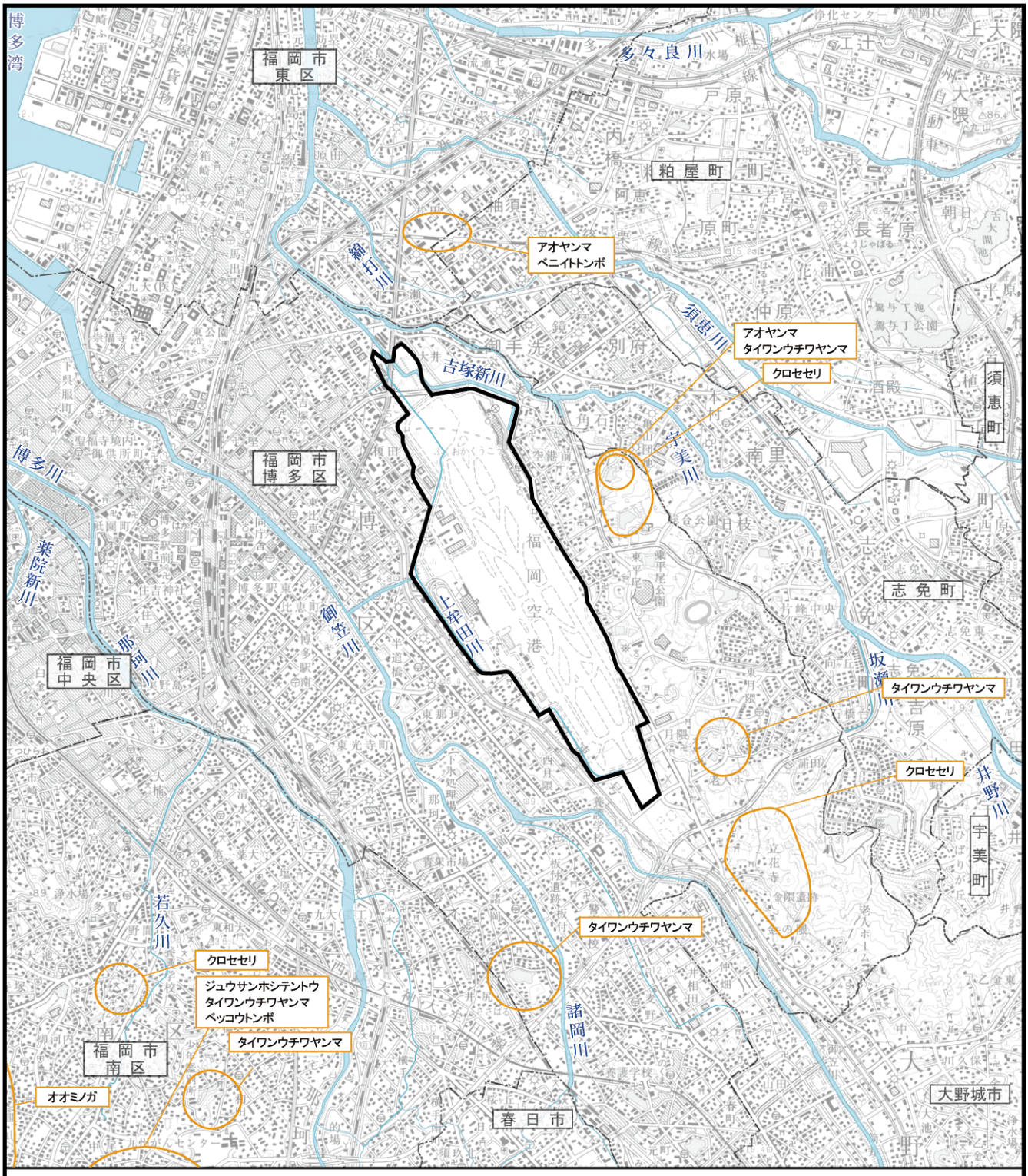
図3.1.5-1(1)　重要な種の生息状況
（鳥類）

N

1:50,000

0　1　2km

出典：「福岡市環境配慮指針　改訂版」(平成19年2月　福岡市)




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：昆虫類

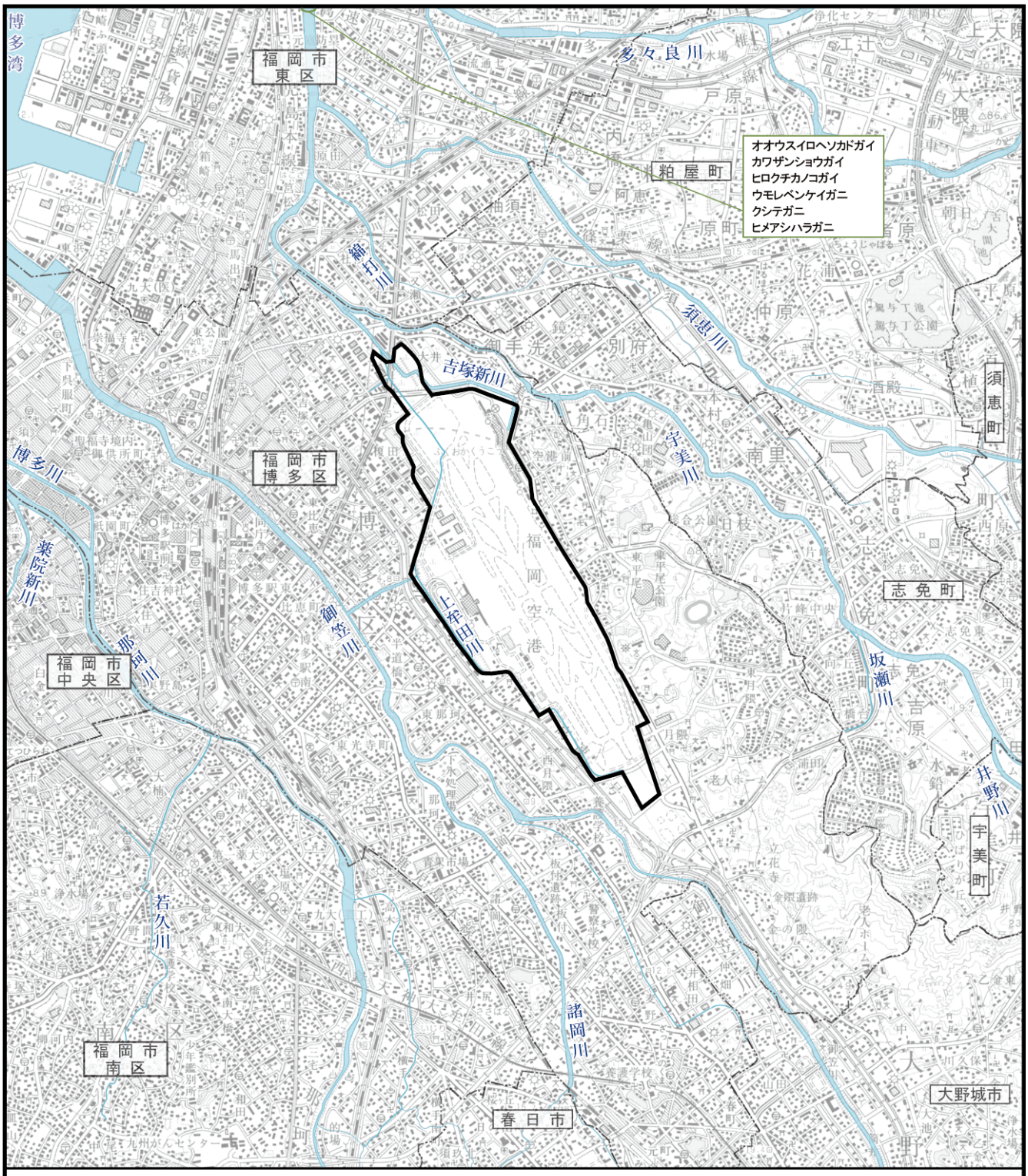
図3.1.5-1(2)　重要な種の生息状況
（昆虫類）

N

1:50,000

0　1　2km

出典：「福岡市環境配慮指針　改訂版」(平成19年2月　福岡市)




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：底生生物

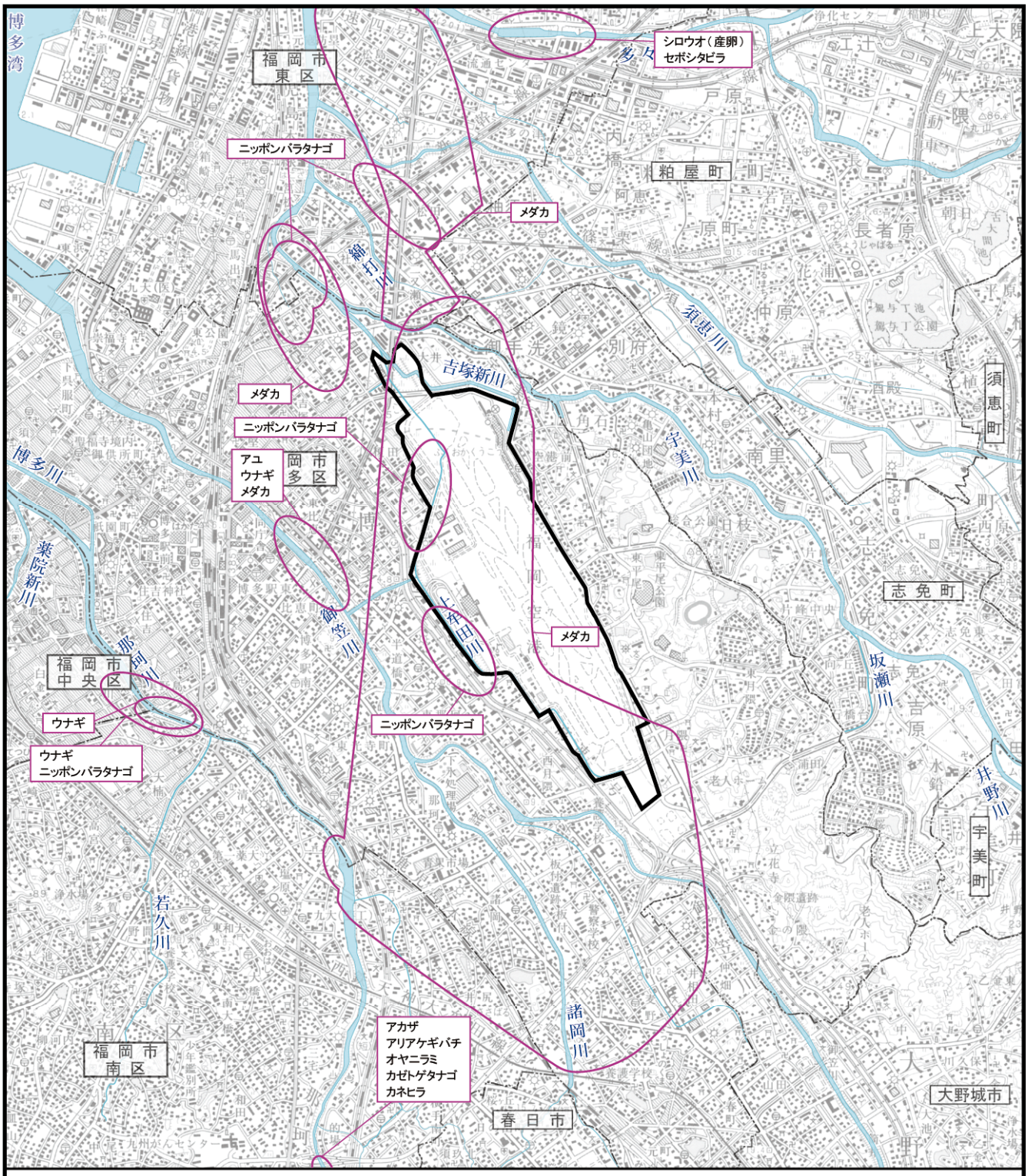
図3.1.5-1(3)　重要な種の生息状況
（底生動物）

N

1:50,000

0　1　2km

出典：「福岡市環境配慮指針　改訂版」(平成19年2月　福岡市)




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：河川

：魚類

図3.1.5-1(4)　重要な種の生息状況
（魚類）

N

1:50,000

0　1　2km

出典：「福岡市環境配慮指針　改訂版」(平成19年2月　福岡市)

## (2) 植物

### 1) 植物相

事業実施区域周囲における植物種の生育状況については、福岡市等が実施した調査等がある。これらの概要は表 3.1.5-8(1)～(8)に示すとおりであり、130 科 578 種の植物種が確認されている。重要な種は、ハンノキ、オケラ、コガマ等の 115 種が確認された。

**表 3.1.5-8(1)　事業実施区域周囲の植物**

| No. | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 1 | マツバラン科 | マツバラン | | | | | | | ● | | | | NT | EN | |
| 2 | ヒカゲノカズラ科 | ミズスギ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 3 | | トウゲシバ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 4 | トクサ科 | スギナ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 5 | | トクサ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 6 | ハナヤスリ科 | フユノハナワラビ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 7 | | ハマハナヤスリ | | | | | | | ● | | | | | CR | |
| 8 | ゼンマイ科 | ゼンマイ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 9 | キジノオシダ科 | キジノオシダ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 10 | ウラジロ科 | コシダ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 11 | | ウラジロ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 12 | フサシダ科 | カニクサ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 13 | コバノイシカグマ科 | イワヒメワラビ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 14 | | オドリコカグマ | | | | | | | ● | | | | | CR | |
| 15 | | フモトシダ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 16 | | ワラビ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 17 | ホングウシダ科 | ホラシノブ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 18 | ミズワラビ科 | ミズワラビ | | | | | | | ● | | | | | EN | |
| 19 | | イワガネゼンマイ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 20 | | イワガネソウ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 21 | イノモトソウ科 | アマクサシダ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 22 | | イノモトソウ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 23 | チャセンシダ科 | トラノオシダ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 24 | | トキワシダ | | | | | | | ● | | | | | CR | |
| － | | Asplenium属 | | | ● | | | | | | | | | | |
| 25 | シシガシラ科 | オオカグマ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 26 | オシダ科 | オトコシダ | | | | | | | ● | | | | | EN | |
| 27 | | ハカタシダ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 28 | | オニカナワラビ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 29 | | キヨスミヒメワラビ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 30 | | メヤブソテツ | | | | | | | ● | | | | | CR | |
| 31 | | オニヤブソテツ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 32 | | ヤブソテツ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 33 | | サイゴクベニシダ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 34 | | ツクシイワヘゴ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 35 | | オシダ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 36 | | ベニシダ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 37 | | タカサゴシダ | | | | | | | ● | | | | NT | CR | |
| 38 | | マルバベニシダ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 39 | | クマワラビ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 40 | | トウゴクシダ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 41 | | ホウノカワシダ | | | | | | | ● | | | | | EN | |
| 42 | | ナガバノイタチシダ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 43 | | オクマワラビ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 44 | | オオイタチシダ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 45 | | イノデ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 46 | | サイゴクイノデ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 47 | ヒメシダ科 | ミゾシダ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 48 | | ホシダ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 49 | | コハシゴシダ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 50 | | ハリガネワラビ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 51 | | アオハリガネワラビ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 52 | | ヤワラシダ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 53 | | ミドリヒメワラビ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 54 | メシダ科 | カラクサイヌワラビ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 55 | | タニイヌワラビ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 56 | | トゲヤマイヌワラビ | | | | | | | ● | | | | CR | CR | |
| 57 | | ホウライイヌワラビ | | | | | | | ● | | | | EN | CR | |
| 58 | | アオグキイヌワラビ | | | | | | | ● | | | | EN | CR | |
| 59 | | シケシダ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 60 | | ナチシケシダ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 61 | | ヘラシダ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 62 | | ダンドシダ | | | | | | | ● | | | | | | |
| 63 | | セフリワラビ | | | | | | | ● | | | | | | |

## 表 3.1.5-8 (2)　事業実施区域周囲の植物

| No. | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 64 | ウラボシ科 | マメヅタ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 65 | | ノキシノブ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 66 | デンジソウ科 | ナンゴクデンジソウ | | | | | | | ● | | | | EN | CR | |
| 67 | マツ科 | アカマツ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 68 | スギ科 | スギ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 69 | ヒノキ科 | ヒノキ | | | ● | | | | | | | | | NT | |
| 70 | | ハイビャクシン | | | ● | | | ● | | | | | | CR | |
| 71 | マキ科 | イヌマキ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 72 | ヤマモモ科 | ヤマモモ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 73 | クルミ科 | ノグルミ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 74 | ヤナギ科 | ジャヤナギ | | | | | ● | | | ● | | | | | |
| 75 | | カワヤナギ | | | | | ● | | | | | | | EN | |
| － | | Salix属 | | | | ● | | | | | | | | | |
| 76 | カバノキ科 | ハンノキ | ● | ● | ● | | | ● | ● | | | | | EN | |
| 77 | | オオバヤシャブシ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 78 | ブナ科 | クリ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 79 | | ツブラジイ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 80 | | スダジイ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 81 | | マテバシイ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 82 | | シリブカガシ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 83 | | クヌギ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 84 | | アラカシ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 85 | | ウバメガシ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 86 | | コナラ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 87 | | アベマキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 88 | ニレ科 | ムクノキ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 89 | | クワノハエノキ | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 90 | | エノキ | | | ● | ● | | | | | | | | | |
| 91 | | アキニレ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 92 | | ケヤキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 93 | クワ科 | コウゾ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 94 | | カジノキ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 95 | | クワクサ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 96 | | イヌビワ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 97 | | イタビカズラ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 98 | | カナムグラ | | | | ● | ● | | | | | | | | |
| 99 | | クワ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 100 | イラクサ科 | クサコアカソ | | | | | | | ● | | | | | NT | |
| 101 | | ゲンカイヤブマオ | | | | | | | ● | | | | | EN | |
| 102 | | アカソ | | | | | | | ● | | | | | NT | |
| 103 | ヤマモガシ科 | ヤマモガシ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 104 | ボロボロノキ科 | ボロボロノキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 105 | タデ科 | ヒメタデ | | | | | | | ● | | | | VU | NT | |
| 106 | | ナガバノウナギツカミ | | | | | | | ● | | | | NT | NT | |
| 107 | | ヤナギタデ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 108 | | シロバナサクラタデ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 109 | | オオイヌタデ | | ● | | | ● | | | | | | | | |
| 110 | | イヌタデ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 111 | | ヤノネグサ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 112 | | イシミカワ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 113 | | ホソバノウナギツカミ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 114 | | サナエタデ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 115 | | ミゾソバ | | ● | ● | | ● | | | ● | | | | | |
| 116 | | シマヒメタデ | | | | | | | ● | | | | | NT | |
| 117 | | スイバ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 118 | | ギシギシ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 119 | | コギシギシ | | | | | | | ● | | | | VU | VU | |
| 120 | オシロイバナ科 | オシロイバナ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 121 | ナデシコ科 | ゲンカイミミナグサ | | | | | | | ● | | | | NT | EN | |
| 122 | | タチハコベ | | | | | | | ● | | | | VU | CR | |
| 123 | | ノハラツメクサ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 124 | | ウシハコベ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 125 | | コハコベ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 126 | | ミヤマハコベ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 127 | アカザ科 | ケアリタソウ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 128 | | イソホウキギ | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 129 | ヒユ科 | ヒカゲイノコズチ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 130 | | ヒナタイノコズチ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 131 | モクレン科 | コブシ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 132 | マツブサ科 | サネカズラ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 133 | クスノキ科 | カゴノキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 134 | | クスノキ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 135 | | ヤブニッケイ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 136 | | タブノキ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 137 | | シロダモ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 138 | キンポウゲ科 | ヒメウズ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 139 | | ボタンヅル | | | ● | | | | | | | | | | |
| 140 | | センニンソウ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 141 | | ケキツネノボタン | | ● | ● | | | | | | | | | | |

## 表 3.1.5-8(3)　事業実施区域周囲の植物

| No. | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 142 | メギ科 | ルイヨウボタン | | | | | | | ● | | | | | EN | |
| 143 | | バイカイカリソウ | ● | | | | | | ● | | | | | EN | |
| 144 | | ナンテン | | | ● | | | | | | | | | | |
| 145 | アケビ科 | アケビ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 146 | | ミツバアケビ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 147 | | ムベ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 148 | ツヅラフジ科 | アオツヅラフジ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 149 | スイレン科 | オニバス | ● | | | | | ● | | | | | VU | EN | |
| 150 | | ハス | | | | ● | | | | | | | | | |
| 151 | ドクダミ科 | ドクダミ | | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 152 | | ハンゲショウ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 153 | センリョウ科 | キビヒトリシズカ | | | | | | | ● | | | | VU | CR | |
| 154 | ウマノスズクサ科 | ウンゼンカンアオイ | | | | | | | ● | | | | VU | NT | |
| 155 | ツバキ科 | ヤブツバキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 156 | | ツバキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 157 | | チャノキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 158 | | ヒサカキ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 159 | | モッコク | | | ● | | | | | | | | | | |
| 160 | オトギリソウ科 | トモエソウ | | | | | | | ● | | | | | CR | |
| 161 | | オトギリソウ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 162 | | コケオトギリ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 163 | | ツキヌキオトギリ | | | | | | | ● | | | | EN | EN | |
| 164 | ケシ科 | ナガミノツルキケマン | | | | | | | ● | | | | NT | EN | |
| 165 | アブラナ科 | セイヨウアブラナ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 166 | | タネツケバナ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 167 | | イヌナズナ | | | | | | | ● | | | | | EN | |
| 168 | | ショカツサイ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 169 | | コイヌガラシ | | | | | | | ● | | | | NT | VU | |
| 170 | | スカシタゴボウ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 171 | ベンケイソウ科 | イワレンゲ | | | | | | | ● | | | | VU | CR | |
| 172 | | コモチマンネングサ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 173 | ユキノシタ科 | アジサイ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 174 | トベラ科 | トベラ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 175 | バラ科 | キンミズヒキ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 176 | | ヤマブキショウマ | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 177 | | ヘビイチゴ | | | ● | ● | | | | | | | | | |
| 178 | | ビワ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 179 | | ダイコンソウ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 180 | | カナメモチ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 181 | | カワラサイコ | | | | | | | ● | | | | | EN | |
| 182 | | オヘビイチゴ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 183 | | カマツカ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 184 | | ヤマザクラ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 185 | | モモ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 186 | | ソメイヨシノ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 187 | | タチバナモドキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 188 | | シャリンバイ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 189 | | ノイバラ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 190 | | テリハノイバラ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 191 | | フユイチゴ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 192 | | ビロードイチゴ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 193 | | クサイチゴ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 194 | | ナガバモミジイチゴ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 195 | | ナワシロイチゴ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 196 | | カジイチゴ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 197 | | ワレモコウ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 198 | | コバナワレモコウ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 199 | | ウラジロノキ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 200 | | シモツケ | | | | | | | ● | | | | | NT | |
| 201 | マメ科 | ネムノキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 202 | | ヤブマメ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 203 | | ゲンゲ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 204 | | シバハギ | | | | | | | ● | | | | | EN | |
| 205 | | ヌスビトハギ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 206 | | ノササゲ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 207 | | ノアズキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 208 | | ツルマメ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 209 | | コマツナギ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 210 | | ヤハズソウ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 211 | | ヤマハギ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 212 | | ツクシハギ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 213 | | マキエハギ | | | | | | | ● | | | | | EN | |
| 214 | | ハネミイヌエンジュ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 215 | | ナツフジ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 216 | | クズ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 217 | | タンキリマメ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 218 | | ハリエンジュ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 219 | | ヤハズエンドウ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 220 | | ヤマフジ | | | ● | | | | | | | | | | |

## 表 3.1.5-8(4)　事業実施区域周囲の植物

| No. | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 221 | カタバミ科 | カタバミ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 222 | | アカカタバミ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 223 | | ムラサキカタバミ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 224 | フウロソウ科 | アメリカフウロ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 225 | トウダイグサ科 | エノキグサ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 226 | | オオニシキソウ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 227 | | コニシキソウ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 228 | | アカメガシワ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 229 | | ヒメミカンソウ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 230 | | コミカンソウ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 231 | | ナンキンハゼ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 232 | ユズリハ科 | ユズリハ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 233 | | ヒメユズリハ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 234 | ミカン科 | カラスザンショウ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 235 | センダン科 | センダン | | | | ● | | | | | | | | | |
| 236 | ウルシ科 | ヌルデ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 237 | | ハゼノキ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 238 | | ヤマハゼ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 239 | | ヤマウルシ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 240 | カエデ科 | イロハモミジ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 241 | トチノキ科 | トチノキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 242 | モチノキ科 | ナナミノキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 243 | | イヌツゲ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 244 | | モチノキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 245 | | アオハダ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 246 | | クロガネモチ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 247 | | イヌウメモドキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 248 | ニシキギ科 | ツルウメモドキ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 249 | | ニシキギ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 250 | ミツバウツギ科 | ゴンズイ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 251 | ブドウ科 | ノブドウ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 252 | | ヤブガラシ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 253 | | ツタ | | | ● | ● | | | | | | | | | |
| 254 | ホルトノキ科 | コバンモチ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 255 | | ホルトノキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 256 | アオイ科 | ハマボウ | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 257 | | フヨウ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 258 | | ムクゲ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 259 | アオギリ科 | アオギリ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 260 | グミ科 | ツルグミ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 261 | | マルバグミ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 262 | | ナワシログミ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 263 | | アキグミ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 264 | | ウラギンツルグミ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 265 | | ヒメスミレ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 266 | | ツボスミレ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 267 | | ノジスミレ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 268 | ウリ科 | ゴキヅル | | | | ● | | | | | | | | | |
| 269 | | アマチャヅル | | | ● | | | | | | | | | | |
| 270 | | カラスウリ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 271 | | キカラスウリ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 272 | ミソハギ科 | キカシグサ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 273 | | ホザキキカシグサ | | | | | | | ● | | | | EN | EN | |
| 274 | ヒシ科 | ヒシ | | ● | ● | ● | ● | | | ● | | | | | |
| 275 | | オニビシ | | ● | | | | | ● | | | | | EN | |
| 276 | アカバナ科 | チョウジタデ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 277 | | ミズユキノシタ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| － | | Ludwigia属 | | | ● | | | | | | | | | | |
| 278 | | コマツヨイグサ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 279 | アリノトウグサ科 | オオフサモ | | | | | | | | ● | | | | | |
| 280 | | タチモ | | | | | | | ● | | | | NT | CR | |
| 281 | ミズキ科 | アオキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 282 | | クマノミズキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 283 | ウコギ科 | コシアブラ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 284 | | タラノキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 285 | | カクレミノ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 286 | | ヤツデ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 287 | | キヅタ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 288 | | ハリギリ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 289 | セリ科 | ツボクサ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 290 | | ミツバ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 291 | | ノチドメ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 292 | | オオチドメ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 293 | | セリ | | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 294 | | ヤブニンジン | | ● | | | | | | | | | | | |
| 295 | | ムカゴニンジン | | | ● | | | | | | | | | | |
| 296 | | オヤブジラミ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 297 | ツツジ科 | ネジキ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 298 | | ヤマツツジ | | | ● | | | | | | | | | | |

## 表 3.1.5-8(5)　事業実施区域周囲の植物

| No. | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 299 | ツツジ科 | ヒラドツツジ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 300 | | シャシャンボ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 301 | | ナツハゼ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 302 | ヤブコウジ科 | マンリョウ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 303 | | ヤブコウジ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 304 | サクラソウ科 | ヌマトラノオ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 305 | | コナスビ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 306 | | サワトラノオ | | | | | | | ● | | | | EN | CR | |
| 307 | | オニコナスビ | | | | | | | ● | | | | EN | EN | |
| 308 | イソマツ科 | ハマサジ | | | | | | | ● | | | | NT | VU | |
| 309 | カキノキ科 | カキノキ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 310 | エゴノキ科 | エゴノキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 311 | ハイノキ科 | ミミズバイ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 312 | | クロキ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 313 | | クロバイ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 314 | モクセイ科 | レンギョウ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 315 | | ネズミモチ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 316 | | イボタノキ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 317 | | ヒイラギ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 318 | | シマモクセイ | | | | | | | ● | | | | | NT | |
| 319 | リンドウ科 | リンドウ | | | ● | | | ● | ● | | | | | VU | 身近 |
| 320 | | イヌセンブリ | | | | | | | ● | | | | VU | EN | |
| 321 | | ムラサキセンブリ | | | | | | | ● | | | | NT | VU | |
| 322 | | ツルリンドウ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 323 | ミツガシワ科 | アサザ | | | | | | | ● | | | | NT | CR | |
| 324 | キョウチクトウ科 | サカキカズラ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 325 | | テイカカズラ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 326 | ガガイモ科 | ツクシガシワ | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 327 | | イヨカズラ | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 328 | | ガガイモ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 329 | アカネ科 | オオアリドオシ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 330 | | ヒメヨツバムグラ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 331 | | ヤエムグラ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 332 | | ヨツバムグラ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 333 | | クチナシ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 334 | | ヘクソカズラ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 335 | ヒルガオ科 | ヒルガオ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 336 | | アオイゴケ | | | | | | | ● | | | | | NT | |
| 337 | | アサガオ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 338 | ムラサキ科 | チシャノキ | | | ● | ● | | | | | | | | | |
| 339 | | キュウリグサ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 340 | クマツヅラ科 | ムラサキシキブ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 341 | | ヤブムラサキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 342 | | クサギ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 343 | | ハマクサギ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 344 | | ヤナギハナガサ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 345 | | アレチハナガサ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 346 | アワゴケ科 | アワゴケ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 347 | シソ科 | トウバナ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 348 | | キセワタ | | | | | | | ● | | | | VU | VU | |
| 349 | | ヒメシロネ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 350 | | ヒメジソ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 351 | | ミゾコウジュ | | | | | | | ● | | | | NT | NT | |
| 352 | ナス科 | クコ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 353 | | ヒヨドリジョウゴ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 354 | | イヌホオズキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 355 | | アメリカイヌホオズキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 356 | ゴマノハグサ科 | アブノメ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 357 | | ヤマウツボ | | | | | | | ● | | | | | EN | |
| 358 | | シソクサ | | ● | | | | | | | | | | EN | |
| 359 | | キクモ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 360 | | スズメノトウガラシ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 361 | | ウリクサ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 362 | | アゼトウガラシ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 363 | | トキワハゼ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 364 | | イヌノフグリ | | | | | | | ● | | | | VU | EN | |
| 365 | | カワヂシャ | | | | | | | ● | | | | NT | NT | |
| 366 | キツネノマゴ科 | オギノツメ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 367 | | キツネノマゴ | | | ● | ● | | | | | | | | | |
| 368 | ハマウツボ科 | ハマウツボ | | | | | | | ● | | | | VU | CR | |
| 369 | オオバコ科 | オオバコ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 370 | | トウオオバコ | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 371 | スイカズラ科 | ハナツクバネウツギ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 372 | | ハマニンドウ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 373 | | キダチニンドウ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 374 | | スイカズラ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 375 | | コバノガマズミ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 376 | | ハクサンボク | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 377 | オミナエシ科 | オミナエシ | | | ● | | | | | | | | | | |

## 表 3.1.5-8(6)　事業実施区域周囲の植物

| No. | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 378 | キキョウ科 | サイヨウシャジン | | | ● | | | | | | | | | | |
| 379 | | ツルギキョウ | | | | | | | ● | | | | VU | CR | |
| 380 | | サワギキョウ | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 381 | キク科 | オオブタクサ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 382 | | フクド | | | | | | | ● | | | | NT | VU | |
| 383 | | ヨモギ | | | ● | ● | | | | | | | | | |
| 384 | | シラヤマギク | | | ● | | | | | | | | | | |
| 385 | | ダルマギク | | | | | | | ● | | | | | NT | |
| 386 | | ヒロハホウキギク | | | ● | ● | | | | | | | | | |
| 387 | | ホウキギク | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 388 | | ウラギク | | | | | | | ● | | | | NT | EN | |
| 389 | | オケラ | | | ● | | | ● | ● | | | | | EN | |
| 390 | | アメリカセンダングサ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 391 | | コセンダングサ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 392 | | シロバナセンダングサ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 393 | | ニシノヤマタイミンガサ | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 394 | | トキンソウ | | | ● | ● | | | | | | | | | |
| 395 | | ノアザミ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 396 | | アレチノギク | | ● | | | | | | | | | | | |
| 397 | | オオアレチノギク | | ● | | | | | | | | | | | |
| 398 | | ベニバナボロギク | | | ● | | | | | | | | | | |
| 399 | | タカサブロウ | | | ● | ● | | | | | | | | | |
| 400 | | ヒメムカシヨモギ | | | ● | ● | | | | | | | | | |
| 401 | | ヒヨドリバナ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 402 | | サケバヒヨドリ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 403 | | ツワブキ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 404 | | ハキダメギク | | | ● | | | | | | | | | | |
| 405 | | ハハコグサ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 406 | | チチコグサ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 407 | | チチコグサモドキ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 408 | | ウスベニチチコグサ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 409 | | イヌキクイモ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 410 | | キツネアザミ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 411 | | ブタナ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 412 | | オオヂシバリ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 413 | | ニガナ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 414 | | ヨメナ | | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 415 | | アキノノゲシ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 416 | | ムラサキニガナ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 417 | | コオニタビラコ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 418 | | ヤブタビラコ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 419 | | フキ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 420 | | ミヤコアザミ | | | | | | | ● | | | | | CR | |
| 421 | | タムラソウ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 422 | | セイタカアワダチソウ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 423 | | ノゲシ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 424 | | ヌマツルギク | | | ● | | | | | | | | | | |
| 425 | | ヒメジョオン | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 426 | | セイヨウタンポポ | | | ● | ● | | | | | | | | | |
| 427 | | オニタビラコ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 428 | トチカガミ科 | オオカナダモ | | | | | ● | | | ● | | | | | |
| 429 | | ウミヒルモ | | | | | | | ● | | | | NT | NT | |
| 430 | | クロモ | | | | | ● | | | ● | | | | | |
| 431 | ホロムイソウ科 | シバナ | | | | | | | ● | | | | NT | EN | |
| 432 | ヒルムシロ科 | エビモ | | | | | ● | | | ● | | | | | |
| 433 | | ヒルムシロ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 434 | | リュウノヒゲモ | | | | | | | ● | | | | NT | EN | |
| 435 | | エビアマモ | | | | | | | ● | | | | NT | NT | |
| 436 | | カワツルモ | | | | | | | ● | | | | NT | EN | |
| 437 | アマモ科 | アマモ | | | | | | | ● | | | | | NT | |
| 438 | イバラモ科 | Najas属 | | | ● | | | | | | | | | | |
| 439 | ユリ科 | ノビル | | | | ● | | | | | | | | | |
| 440 | | ヤマラッキョウ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 441 | | ニラ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 442 | | ホソバナコバイモ | | | | | | | ● | | | | NT | NT | |
| 443 | | キスゲ | | | | | | | ● | | | | | CR | |
| 444 | | オオバギボウシ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 445 | | ヤブラン | | | ● | | | | | | | | | | |
| 446 | | ナガバジャノヒゲ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 447 | | ウスギワニグチソウ | | | | | | | ● | | | | EN | EN | |
| 448 | | サルトリイバラ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 449 | | アマナ | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 450 | | バイケイソウ | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 451 | | ホソバシュロソウ | | | | | | | ● | | | | | CR | |
| 452 | ヒガンバナ科 | ハマオモト | | | | | | | ● | | | | | EN | |
| 453 | | ヒガンバナ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 454 | | キツネノカミソリ | | | | | | | ● | | | | | EN | |
| 455 | | シロバナマンジュシャゲ | | | | ● | | | | | | | | | |

## 表 3.1.5-8 (7)　事業実施区域周囲の植物

| No. | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 456 | ヒガンバナ科 | タマスダレ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 457 | | サフランモドキ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 458 | ヤマノイモ科 | ヤマノイモ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 459 | | カエデドコロ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 460 | ミズアオイ科 | ホテイアオイ | | | ● | | ● | | | | | | | | |
| 461 | アヤメ科 | シャガ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 462 | | キショウブ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 463 | | エヒメアヤメ | | | | | | | ● | | | | VU | CR | |
| 464 | | ニワゼキショウ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 465 | イグサ科 | イ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 466 | | コウガイゼキショウ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 467 | | アオコウガイゼキショウ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 468 | | クサイ | | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 469 | | スズメノヤリ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 470 | ツユクサ科 | ツユクサ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 471 | | オオボウシバナ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 472 | | イボクサ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 473 | | ノハカタカラクサ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 474 | イネ科 | アオカモジグサ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 475 | | カモジグサ | | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 476 | | コヌカグサ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 477 | | ヒメコヌカグサ | | | | | | | ● | | | | NT | EN | |
| 478 | | スズメノテッポウ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 479 | | メリケンカルカヤ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 480 | | コブナグサ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 481 | | トダシバ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 482 | | ミノゴメ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 483 | | イヌムギ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 484 | | ノガリヤス | | | ● | | | | | | | | | | |
| 485 | | ヒナザサ | | | | | | | ● | | | | NT | VU | |
| 486 | | ジュズダマ | | ● | ● | ● | | | | ● | | | | | |
| 487 | | ギョウギシバ | | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 488 | | メヒシバ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 489 | | コメヒシバ | | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 490 | | イヌビエ | | | ● | ● | ● | | | ● | | | | | |
| 491 | | ケイヌビエ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 492 | | オヒシバ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 493 | | ハマニンニク | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 494 | | カゼクサ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 495 | | ニワホコリ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 496 | | コバノウシノシッペイ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 497 | | チガヤ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 498 | | チゴザサ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 499 | | ハイチゴザサ | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 500 | | アゼガヤ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 501 | | ネズミムギ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 502 | | ササクサ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 503 | | アシボソ | | | ● | ● | | | | | | | | | |
| 504 | | トキワススキ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 505 | | オギ | | | | | | | | ● | | | | | |
| 506 | | ススキ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 507 | | コチヂミザサ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 508 | | ヌカキビ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 509 | | オオクサキビ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 510 | | シマスズメノヒエ | | | ● | ● | | | | | | | | | |
| 511 | | キシュウスズメノヒエ | | | ● | ● | | | | ● | | | | | |
| 512 | | スズメノコビエ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 513 | | スズメノヒエ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 514 | | タチスズメノヒエ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 515 | | チカラシバ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 516 | | クサヨシ | | ● | | | ● | | | ● | | | | | |
| 517 | | ヨシ | | ● | ● | ● | ● | | | ● | | | | | |
| 518 | | ツルヨシ | | | | | ● | | | | | | | | |
| 519 | | マダケ | | ● | ● | | ● | | | | | | | | |
| 520 | | モウソウチク | | | ● | | | | | | | | | | |
| 521 | | ネザサ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 522 | | メダケ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 523 | | スズメノカタビラ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 524 | | ハイヌメリ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 525 | | アキノエノコログサ | | ● | | ● | | | | | | | | | |
| 526 | | コササキビ | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 527 | | オカメザサ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 528 | | ネズミノオ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 529 | | カニツリグサ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 530 | | マコモ | | | | ● | ● | | | ● | | | | | |
| 531 | ヤシ科 | シュロ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 532 | サトイモ科 | セキショウ | | | ● | | ● | | | | | | | | |
| 533 | | ツクシマムシグサ | | | | | | | ● | | | | | VU | |

## 表 3.1.5-8(8)　事業実施区域周囲の植物

| No. | 科和名 | 種和名 | 報告書等 | | | | | | | | 選定基準 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | 天然記念物 | 種の保存法 | 環RL | 県RDB | 市指針 |
| 534 | ウキクサ科 | アオウキクサ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 535 | | ウキクサ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 536 | ミクリ科 | ヒメミクリ | | | | ● | | | ● | | | | VU | CR | |
| 537 | ガマ科 | ヒメガマ | | ● | ● | ● | | | | ● | | | | | |
| 538 | | ガマ | | ● | ● | | ● | | | | | | | | |
| 539 | | コガマ | | ● | | | | ● | ● | | | | | VU | |
| 540 | カヤツリグサ科 | イトテンツキ | | | | | | | ● | | | | NT | CR | |
| 541 | | アゼナルコ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 542 | | ナキリスゲ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 543 | | キノクニスゲ | | | | | | | ● | | | | NT | NT | |
| 544 | | ヒメスゲ | | | | | | | ● | | | | | EN | |
| 545 | | ツクシナルコ | | | | | | | ● | | | | EN | VU | |
| － | | Carex属 | | | ● | ● | | | | | | | | | |
| 546 | | シュロガヤツリ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 547 | | ヒメクグ | | ● | ● | ● | | | | | | | | | |
| 548 | | クグガヤツリ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 549 | | ヒナガヤツリ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 550 | | コアゼガヤツリ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 551 | | コゴメガヤツリ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 552 | | カヤツリグサ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 553 | | ツクシオオガヤツリ | ● | | | ● | | | ● | | | | EN | EN | |
| 554 | | オニガヤツリ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 555 | | ハマスゲ | | | | ● | | | | | | | | | |
| 556 | | カワラスガナ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 557 | | ヒメガヤツリ | | ● | | | | | | | | | | | |
| 558 | | セイタカハリイ | | | | | | | ● | | | | | CR | |
| 559 | | ヒメヌマハリイ | | | | | | | ● | | | | | EN | 数少 |
| 560 | | シカクイ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 561 | | ヒメヒラテンツキ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 562 | | クロテンツキ | | ● | ● | | | | | | | | | | |
| 563 | | ハタケテンツキ | | | | | | ● | ● | | | | EN | | |
| 564 | | トラノハナヒゲ | | | | | | | ● | | | | | CR | |
| 565 | | ホタルイ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 566 | | イヌホタルイ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 567 | | ヒメカンガレイ | | | ● | | | | ● | | | | VU | EN | |
| 568 | | シズイ | | | | | | | ● | | | | | EN | |
| 569 | | カンガレイ | | | ● | | | | | | | | | | |
| 570 | | サンカクイ | | | | | ● | | | | | | | | |
| 571 | ラン科 | エビネ | | | | | | | ● | | | | NT | VU | |
| 572 | | ギンラン | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 573 | | シュンラン | | | ● | | | | | | | | | | |
| 574 | | クロムヨウラン | | | | | | | ● | | | | | CR | |
| 575 | | コクラン | | | ● | | | | | | | | | | |
| 576 | | クモイジガバチ | | | | | | | ● | | | | CR | CR | |
| 577 | | ハツシマラン | | | | | | | ● | | | | CR | CR | |
| 578 | | コケイラン | | | | | | | ● | | | | | VU | |
| 計 | 130科 | 578種 | 4種 | 212種 | 357種 | 97種 | 19種 | 7種 | 112種 | 15種 | 0種 | 0種 | 54種 | 114種 | 2種 |

●印は、(注)1.に示す報告書等により事業実施区域周囲において生育が確認された種を示す。なお、当該報告書等において、具体の生育場所が明示されていない種についても、事業実施区域周囲において生育しているものとして抽出している。

(注)1.報告書等：

①「平成 8 年度福岡市自然環境調査報告書 市域における貴重植物及び今津塩沼地植物」
（平成 9 年 3 月　福岡市環境局）

②「平成 11 年度 自然環境調査（ため池の貴重種生物の生息状況調査)」（平成 12 年 3 月　福岡市環境局）

③「地域生態系等調査(東平尾･金隈地域) 報告書」（平成 13 年 3 月　福岡市環境局）

④「平成 13 年度 自然環境調査（ため池の生態系調査）報告書」（平成 14 年 3 月　福岡市環境局）

⑤「平成 18 年度 自然環境調査結果（水生植物)」（平成 19 年 3 月　福岡市環境局）

⑥「福岡市環境配慮指針(改訂版)」（平成 19 年 2 月　福岡市環境局）

⑦「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011 植物群落・植物・鳥類・哺乳類－」
（平成 23 年 11 月　福岡県環境部自然環境課）

⑧「自然環境調査（河川における水生生物の生息状況調査）報告書」（平成 12 年 3 月　福岡市環境局）

2.選定基準：

天然記念物：「文化財保護法」及び「文化財保護条例」により、保護されている種及び亜種

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において選定されている種及び亜種

環 RL：「第 4 次レッドリストの公表について」（平成 24 年 8 月　環境省報道発表資料）

CR：絶滅危惧 IA 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

EN：絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

県 RDB：「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-」（平成 23 年 11 月　福岡県環境部自然環境課）

CR：絶滅危惧 IA 類…ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

EN：絶滅危惧 IB 類…IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

VU：絶滅危惧 II 類…絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

市指針：「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成 19 年 2 月　福岡市環境局温暖化対策部 環境調整課）

掲載種：市内の貴重・希少生物種等のリスト掲載種

### 2) 植生

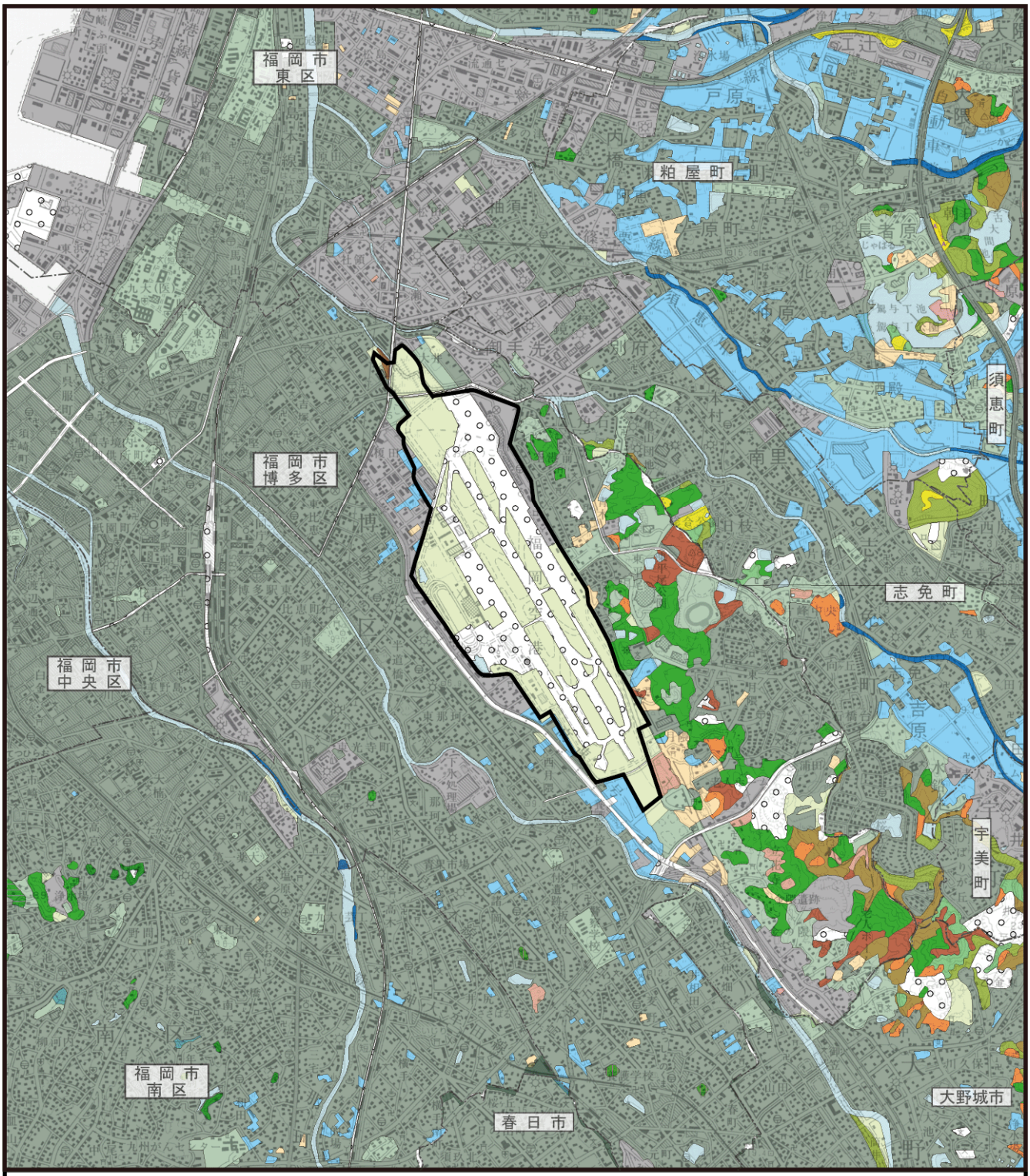
事業実施区域周囲の植生の状況は、図 3.1.5-2 に示すとおりである。

事業実施区域周囲には平野の市街地や工場地帯等の人工的な土地被覆が広く分布し、コンクリート護岸等を施された都市内河川が流下している。ただし、事業実施区域東側の丘陵地である東平尾公園一帯にシイやカシ、アカマツといった常緑樹の二次林からなる樹林がパッチ状に分布するほか、開発により造成された緑の多い住宅地等が分布している。

また、一部、事業実施区域の南側に水田雑草群落や畑地雑草群落といった都市内の耕作地が分布している。

### 3) 重要な植物種及び重要な植物群落

事業実施区域周囲の重要な植物種及び重要な植物群落の生育状況等は、「福岡市環境配慮指針　改訂版」において貴重生物等確認地図に図示されているものを対象としており、図 3.1.5-3 に示すとおりである。




凡　例

図3.1.5-2　現存植生図

：対象事業実施区域
：市町村界
：区界

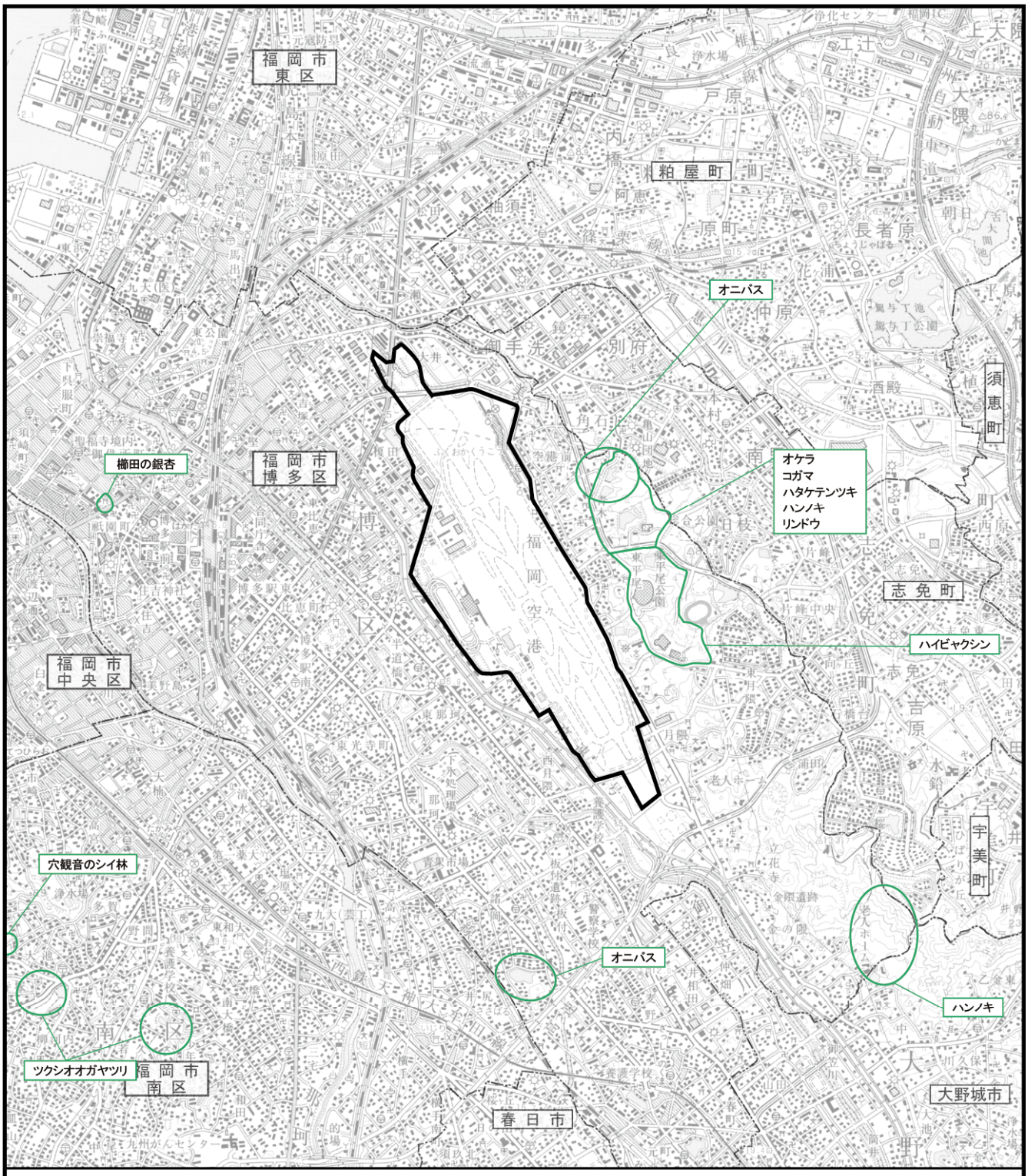
：ヤブコウジ－スダジイ群集
：ムサシアブミ－タブノキ群集
：ヤナギ高木群落(VI)
：シイ・カシ二次林
：ハクサンボク－マテバシイ群落
：コナラ群落(VII)
：アカメガシワ－カラスザンショウ群落
：アカマツ群落(VII)
：クズ群落
：ネザサ－ススキ群集
：チガヤ－ススキ群落
：ヨシクラス
：ミゾソバ－ヨシ群落
：ヒルムシロクラス
：スギ・ヒノキ・サワラ植林
：その他植林
：竹林
：ゴルフ場・芝地
：路傍・空地雑草群落
：果樹園
：畑地雑草群落
：水田雑草群落
：市街地
：緑の多い住宅地
：工場地帯
：造成地
：開放水域

N

1:50,000

0　1　2km

出典：「第6回・第7回自然環境保全基礎調査　植生図　福岡」(平成12年度　環境省)
「第6回・第7回自然環境保全基礎調査　植生図　福岡南部」(平成12年度　環境省)
「平成20年度　自然環境調査(植生)委託報告書」(平成21年3月　福岡市)




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：植物

図3.1.5-3　重要な植物種及び重要な植物群落

N

1:50,000

0　1　2km

出典：「福岡市環境配慮指針　改訂版」(平成19年2月　福岡市)

### (3) 生態系

事業実施区域周囲の生物が生育・生息する基盤環境について地形・地質、土壌、植生、土地利用形態等の観点から、表 3.1.5-9 に示すとおり類型区分を行った。

事業実施区域周囲は広く分布する平野の市街地、丘陵地の二次林・公園、平野の都市内耕作地、都市内河川に大別でき、各環境類型の代表的な生物種は表 3.1.5-10 に示すとおりである。

**表 3.1.5-9　事業実施区域周囲の自然環境の類型区分**

| 類型区分 | 地形区分 | 地質区分 | 土壌区分 | 植生区分 |
|---|---|---|---|---|
| 平野の市街地 | 平野 | 砂・泥・礫、火山灰 | 市街地その他 | 市街地、工場地帯 |
| 丘陵地の二次林・公園 | 丘陵地 | 砂岩、シルト岩、黒雲母花崗岩、緑色片岩 | 乾性褐色森林土、細粒黄色土壌 | シイ-カシ二次林、アカマツ群落、竹林 |
| 平野の都市内耕作地 | 平野 | 砂、泥、礫 | 中粗粒灰色低地土壌 | 水田雑草群落、畑地雑草群落 |
| 都市内河川 | - | - | - | - |

**表 3.1.5-10　事業実施区域周囲の環境類型ごとの代表的な生物種**

| | 平野の市街地 | 丘陵地の二次林・公園 | 平野の都市内耕作地 | 都市内河川 |
|---|---|---|---|---|
| 植物 | 植栽 | シイ-カシ二次林、アカマツ群落、竹林 | 水田雑草群落、畑地雑草群落 | - |
| 哺乳類、両生・爬虫類 | ドブネズミ、イタチ属、ネコ | アカネズミ、タヌキ、ヤマカガシ | コウベモグラ、ヌマガエル、シマヘビ | - |
| 鳥類 | スズメ、ドバト、ツバメ | ヒヨドリ、ヤマガラ | ケリ、ムクドリ、ツバメ | - |
| 昆虫類 | クマゼミ、ヤマトシジミ本土亜種 | ナミアゲハ、ハルゼミ、コガネムシ | アキアカネ、モンシロチョウ | - |
| 底生動物 | - | - | - | マルタニシ、アメリカザリガニ |
| 魚類 | - | - | - | メダカ、コイ、フナ属 |

### 3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

#### (1) 景観

##### 1) 主要な眺望点の状況

事業実施区域周囲において対象事業実施区域が見渡すことができ、かつ、「不特定多数の者が利用している景観資源を眺望する場所」である眺望点は、表 3.1.6-1 及び図 3.1.6-1 に示すとおりである。

**表 3.1.6-1　事業実施区域周囲の主要な眺望点**

| 番号 | 名称 | 対象事業実施区域からの距離 |
|---|---|---|
| 1 | 福岡県庁展望室 | 約 2,000m |
| 2 | 東平尾公園（貝花展望台） | 約 700m |
| 3 | 東平尾公園（アクシオン福岡） | 約 400m |
| 4 | 志免町総合スポーツ公園 | 約 1,100m |
| 5 | 福岡空港国際線送迎デッキ | 対象事業実施区域内 |
| 6 | 福岡空港国内線展望室、送迎デッキ | 対象事業実施区域内 |

出典：「福岡観光地検索」
（福岡県観光情報 クロスロードふくおか ホームページ、http://www.crossroadfukuoka.jp/jp/）

##### 2) 景観資源の状況

事業実施区域周囲に位置する主な景観資源は、表 3.1.6-2 に示すとおりであり、その位置は図 3.1.6-1 に示すとおりである。

事業実施区域周囲には「第 3 回自然環境保全基礎調査　自然景観資源調査報告書」（平成元年　環境省）により自然的構成要素として位置づけられる主な景観資源は確認されていない。

また、自然景観、歴史・文化の分野における福岡県の観光地として、国、福岡県、福岡市指定の史跡が点在している。

**表 3.1.6-2　事業実施区域周囲の主な景観資源**

| 番号 | 名称 | 指定・種別 |
|---|---|---|
| A | 金隈遺跡 | 国指定・史跡 |
| B | 板付遺跡 | 国指定・史跡 |
| C | 志免鉱業所跡竪坑及び第八坑関連地区 | 県指定・史跡 |
| D | 福岡藩主黒田家墓所 | 市指定・史跡 |

出典：「福岡観光地検索」
（福岡県観光情報 クロスロードふくおか ホームページ、http://www.crossroadfukuoka.jp/jp/）
「文化財情報」（福岡市の文化財ホームページ、http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/）
「志免町の史跡・文化財」
（志免町ホームページ、http://www.town.shime.lg.jp/soshiki/12/shiteibunkazai.html）




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：主要な眺望点

：主な景観資源

図3.1.6-1　主要な眺望地点及び主な景観資源位置図

出典：「福岡観光地検索」(福岡県観光情報 クロスロードふくおか ホームページ)
「文化財情報」(福岡市の文化財ホームページ)
「志免町の史跡・文化財」(志免町ホームページ)

N

1:50,000

0　1　2km

### (2) 人と自然との触れ合いの活動の場

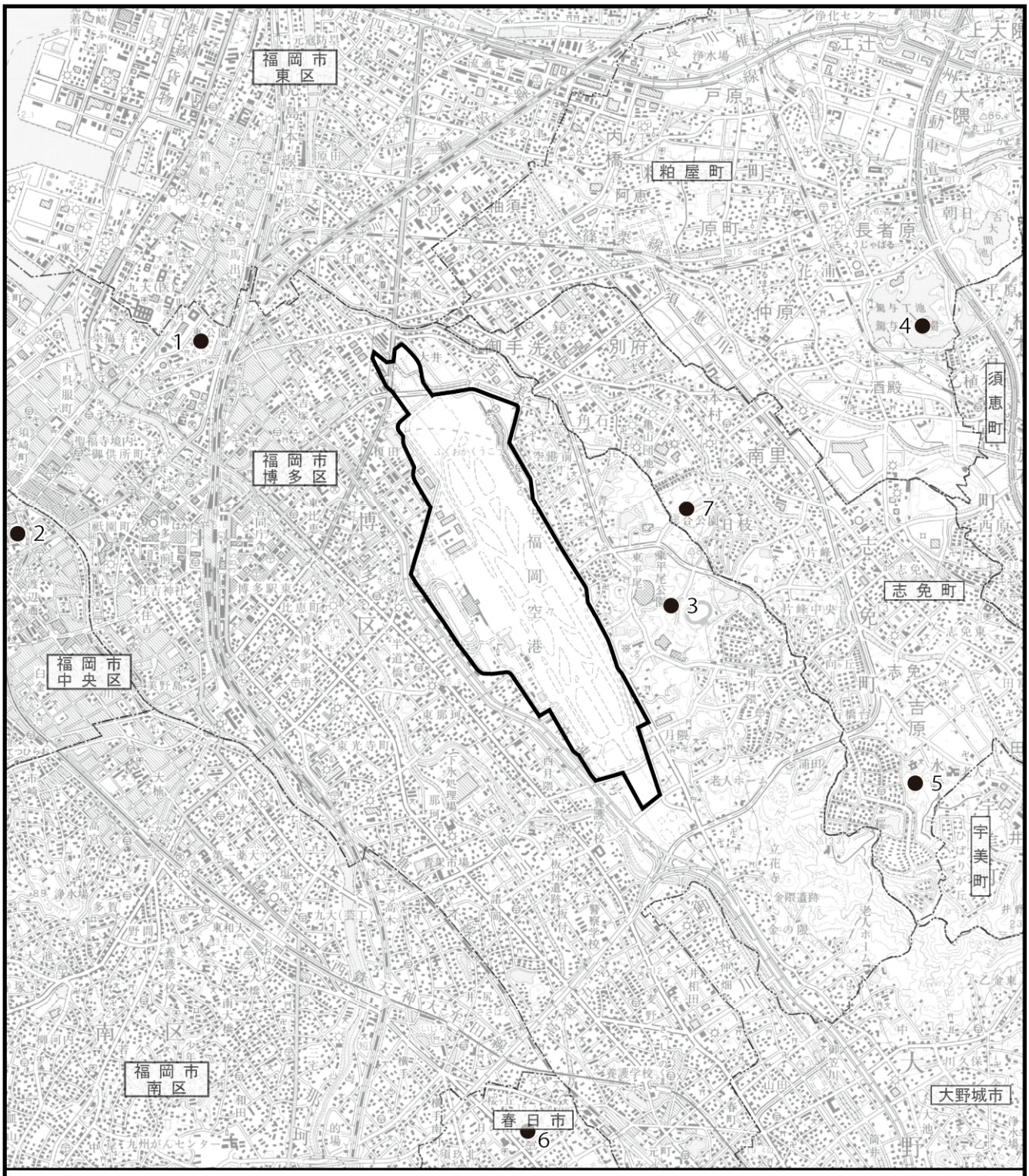
事業実施区域周囲に位置する主要な人と自然との触れ合いの活動の場は、表 3.1.6-3 に示すとおりであり、その位置は図 3.1.6-2 に示すとおりである。

事業実施区域近くには、自然のままの丘陵や池、樹林を生かし、市民に「博多の森」の愛称で親しまれている東平尾公園や、池や桜並木、遊歩道がある志免町総合スポーツ公園がある。

**表 3.1.6-3　主要な人と自然との触れ合いの活動の場**

| 種類 | 番号 | 名称 |
|---|---|---|
| 公園 | 1 | 県営東公園 |
| | 2 | 県営天神中央公園 |
| | 3 | 東平尾公園 |
| | 4 | 賀与丁公園 |
| | 5 | 志免平成の森公園 |
| | 6 | 日の出ふれあい公園 |
| | 7 | 志免町総合スポーツ公園 |

出典：「福岡県の公園緑地」（福岡県ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f13/fukuokakennnokouenryokuchi.html）
「福岡観光地検索」（福岡県観光情報 クロスロードふくおか ホームページ、
http://www.crossroadfukuoka.jp/jp/）
「市町村紹介」（よかとこ福岡 観光ガイド WEB ホームページ、
http://www.yokatoko-net.com/）




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

●　：主要な人と自然との触れ合いの活動の場

図3.1.6-2 主要な人と自然との触れ合いの活動の場位置図

N

1:50,000

0　1　2km

出典：「福岡県の公園緑地」（福岡県ホームページ）
「福岡観光地検索」（福岡県観光情報 クロスロードふくおか ホームページ）
「市町村紹介」（よかとこ福岡 観光ガイドWEB ホームページ）

## 3.2 社会的状況

### 3.2.1 人口及び産業の状況

#### (1) 人口

##### 1) 人口･人口密度･世帯数

周辺自治体における人口･世帯数の状況は、表 3.2.1-1 に示すとおりである。平成 23 年 3 月 31 日現在における対象事業実施区域が位置する福岡市博多区の人口は 197,780 人、世帯数は 110,712 世帯となっている。

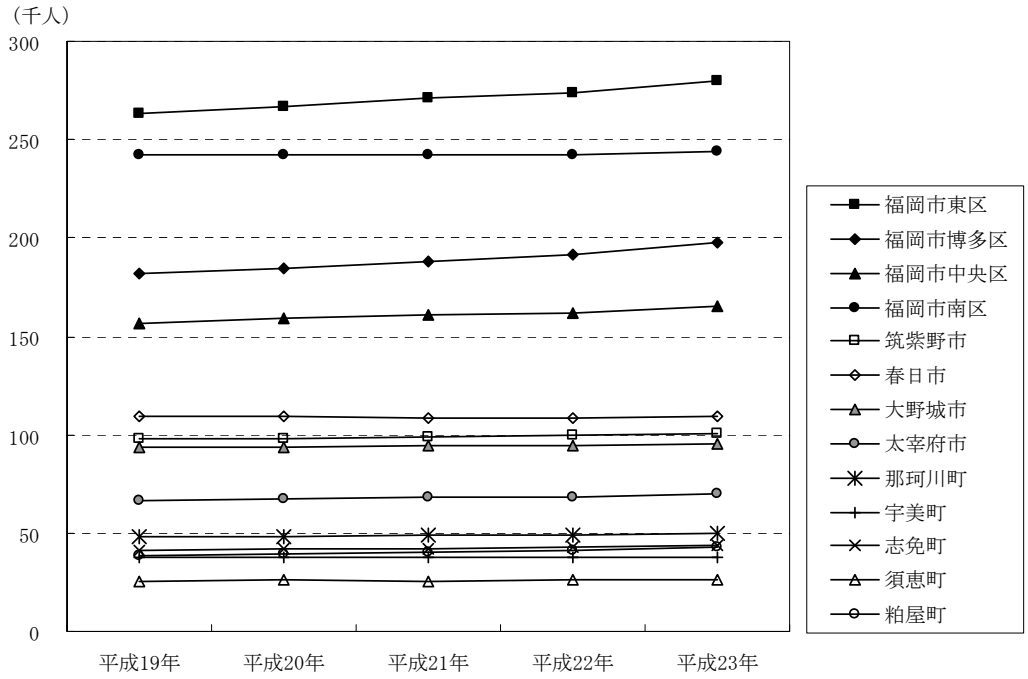
表 3.2.1-1　周辺自治体における人口・世帯数の状況

| 行政区分 | 人口<br>(人) | 世帯数<br>(世帯) |
|---|---|---|
| 福岡市 東区 | 280,179 | 128,237 |
| 福岡市 博多区 | 197,780 | 110,712 |
| 福岡市 中央区 | 165,496 | 94,276 |
| 福岡市 南区 | 244,144 | 113,643 |
| 筑紫野市 | 100,501 | 40,176 |
| 春日市 | 108,974 | 44,064 |
| 大野城市 | 95,616 | 39,194 |
| 太宰府市 | 69,886 | 28,713 |
| 那珂川町 | 50,005 | 19,105 |
| 宇美町 | 37,903 | 14,487 |
| 志免町 | 43,913 | 17,659 |
| 須恵町 | 26,382 | 10,004 |
| 粕屋町 | 42,628 | 17,128 |
| 合　計 | 1,463,407 | 677,398 |

(注)平成 23 年 3 月 31 日現在の値を示す。
出典：「住民基本台帳年報」(福岡県企画・地域振興部市町村支援課ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f11/juki-jukinenpou.html)

##### 2) 人口の推移

周辺自治体における平成 19 年以降の人口推移の状況は、図 3.2.1-1 に示すとおりである。福岡市東区、博多区及び中央区における増加が顕著である。




(注)各年の 3 月 31 日現在の値を示す。
出典：「住民基本台帳年報」(福岡県企画・地域振興部市町村支援課ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f11/juki-jukinenpou.html)

**図 3.2.1-1　周辺自治体における人口の推移**

## (2) 産業

### 1) 産業構造

周辺自治体における平成 21 年 7 月 1 日現在の産業別就業構造は、表 3.2.1-2 に示すとおりである。いずれの自治体においても、第 3 次産業の占める割合が高くなっている。

**表 3.2.1-2　周辺自治体における産業別従業者数の状況**

| 行政区分 | 第 1 次産業(人) | 第 2 次産業(人) | 第 3 次産業(人) | 合　計(人) |
|---|---|---|---|---|
| 福岡市 東区 | 80 | 15,277 | 104,853 | 120,210 |
| 福岡市 博多区 | 160 | 52,151 | 287,953 | 340,264 |
| 福岡市 中央区 | 98 | 16,357 | 210,755 | 227,210 |
| 福岡市 南区 | 92 | 13,413 | 63,313 | 76,818 |
| 筑紫野市 | 46 | 4,890 | 29,289 | 34,225 |
| 春日市 | 7 | 3,010 | 27,717 | 30,734 |
| 大野城市 | 9 | 7,274 | 27,457 | 34,740 |
| 太宰府市 | 6 | 3,069 | 17,633 | 20,708 |
| 那珂川町 | 54 | 4,051 | 12,304 | 16,409 |
| 宇美町 | 8 | 3,894 | 8,777 | 12,679 |
| 志免町 | 11 | 2,429 | 12,963 | 15,403 |
| 須恵町 | － | 3,267 | 6,156 | 9,423 |
| 粕屋町 | 17 | 3,736 | 16,411 | 20,164 |

(注)平成 21 年 7 月 1 日現在の値を示す。
出典：「ふくおかデータウェブ　第 5 章　事業所」(福岡県企画・地域振興部市町村支援課ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-5-3.html)より集計

### 2) 農業の状況

周辺自治体における平成 17 年 2 月 1 日現在の農家人口及び農家数の状況は表 3.2.1-3 に、経営耕地面積の状況は表 3.2.1-4 に示すとおりである。総農家数は筑紫野市が最も多く、いずれの自治体も専業農家より兼業農家の方が多い。耕地面積は、いずれの自治体も田が最も多くなっている。

**表 3.2.1-3　周辺自治体における農家数の状況**

| 区分 / 行政区分 | 農業就業人口 (人) | 総農家数 (戸) | 専業農家数 (戸) | 兼業農家数(戸) | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第 1 種兼業 | 第 2 種兼業 |
| 福岡市 東区 | 468 | 364 | 63 | 23 | 134 |
| 福岡市 博多区 | 177 | 160 | 7 | 2 | 69 |
| 福岡市 中央区 | × | 2 | × | × | × |
| 福岡市 南区 | 225 | 227 | 20 | 7 | 96 |
| 筑紫野市 | 1,135 | 982 | 114 | 54 | 541 |
| 春日市 | 61 | 119 | 6 | 3 | 27 |
| 大野城市 | 166 | 199 | 11 | － | 87 |
| 太宰府市 | 263 | 263 | 19 | 4 | 143 |
| 那珂川町 | 628 | 596 | 67 | 41 | 274 |
| 宇美町 | 177 | 215 | 15 | 5 | 92 |
| 志免町 | 129 | 169 | 9 | 4 | 66 |
| 須恵町 | 234 | 235 | 14 | 9 | 116 |
| 粕屋町 | 512 | 423 | 46 | 13 | 228 |

(注)平成 17 年 2 月 1 日現在の値を示す。
出典：「ふくおかデータウェブ　第 6 章　農林水産業」
(福岡県企画・地域振興部調査統計課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-6.html)

**表 3.2.1-4　周辺自治体における経営耕地面積の状況**

| 区分 / 行政区分 | 総数 (ha) | 田 (ha) | 畑 (ha) | 樹園地 (ha) |
|---|---|---|---|---|
| 福岡市 東区 | 156 | 112 | 34 | 11 |
| 福岡市 博多区 | 54 | 43 | 8 | 3 |
| 福岡市 中央区 | × | × | × | × |
| 福岡市 南区 | 90 | 66 | 11 | 13 |
| 筑紫野市 | 804 | 759 | 41 | 4 |
| 春日市 | 20 | 16 | 3 | 2 |
| 大野城市 | 61 | 54 | 5 | 2 |
| 太宰府市 | 126 | 120 | 6 | 1 |
| 那珂川町 | 294 | 262 | 25 | 7 |
| 宇美町 | 78 | 71 | 5 | 3 |
| 志免町 | 56 | 51 | 3 | 2 |
| 須恵町 | 129 | 122 | 6 | 1 |
| 粕屋町 | 261 | 231 | 29 | 1 |

(注)平成 17 年 2 月 1 日現在の値を示す。
出典：「ふくおかデータウェブ　第 6 章　農林水産業」
(福岡県企画・地域振興部調査統計課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-6.html)

### 3) 漁業の状況

周辺自治体における平成 20 年 11 月 1 日現在の漁業経営体数、就業者数及び漁船数は、表 3.2.1-5 に示すとおりである。福岡市の漁業経営体数は 442 経営体、漁業就業者数は 732 人となっている。

**表 3.2.1-5　周辺自治体における漁業の状況**

| 行政区分 | 組織別経営体数 | | 漁業就業者数 | 漁船数 |
|---|---|---|---|---|
| | 総数 | 個人 | (人) | (隻) |
| 福岡市 | 442 | 413 | 732 | 646 |

出典：「2008 年漁業センサス」
(農林水産省ホームページ、http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001026288&cycode=0)

### 4) 工業の状況

周辺自治体における平成 22 年 12 月 31 日現在の事業所数、従業者数及び製造品出荷額等は、表 3.2.1-6 に示すとおりである。事業所数及び従業者数は福岡市博多区が、製造品出荷額は筑紫野市が最も多くなっている。

**表 3.2.1-6　周辺自治体における工業の状況**

| 区分 / 行政区分 | 事業所数 (所) | 従業者数 (人) | 製造品総出荷額等 (百万円) |
|---|---|---|---|
| 福岡市 東区 | 218 | 5,562 | 149,938 |
| 福岡市 博多区 | 292 | 6,996 | 169,031 |
| 福岡市 中央区 | 100 | 1,917 | 62,049 |
| 福岡市 南区 | 138 | 3,087 | 66,558 |
| 筑紫野市 | 69 | 2,061 | 386,956 |
| 春日市 | 28 | 534 | 7,422 |
| 大野城市 | 140 | 3,250 | 39,457 |
| 太宰府市 | 33 | 963 | 38,292 |
| 那珂川町 | 48 | 662 | 7,014 |
| 宇美町 | 101 | 2,268 | 43,995 |
| 志免町 | 58 | 958 | 18,847 |
| 須恵町 | 115 | 1,969 | 34,509 |
| 粕屋町 | 60 | 1,760 | 35,238 |

(注)平成 22 年 12 月 31 日現在の値を示す。
出典：「ふくおかデータウェブ　平成 22 年福岡県の工業（統計表）」(福岡県企画・地域振興部調査統計課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/22kougyo.html)

### 5) 商業の状況

周辺自治体における平成 19 年 6 月 1 日現在の事業所数、従業者数及び年間商品販売額の状況は、表 3.2.1-7 に示すとおりである。事業所数、従業者数及び年間商品販売額は福岡市博多区が最も多くなっている。

**表 3.2.1-7　周辺自治体における商業の状況**

| 行政区分 | 事業所数<br>(所) | 従業者数<br>(人) | 年間商品販売額<br>(万円) |
|---|---|---|---|
| 福岡市 東区 | 2,667 | 25,687 | 112,266,985 |
| 福岡市 博多区 | 6,789 | 70,151 | 740,228,979 |
| 福岡市 中央区 | 4,645 | 43,857 | 404,565,104 |
| 福岡市 南区 | 2,199 | 15,798 | 48,107,849 |
| 筑紫野市 | 804 | 6,587 | 34,955,989 |
| 春日市 | 853 | 7,046 | 14,829,409 |
| 大野城市 | 1,007 | 8,959 | 34,517,632 |
| 太宰府市 | 596 | 4,569 | 11,042,578 |
| 那珂川町 | 408 | 3,295 | 7,262,996 |
| 宇美町 | 256 | 1,973 | 6,106,434 |
| 志免町 | 488 | 4,172 | 17,106,043 |
| 須恵町 | 162 | 1,202 | 5,190,422 |
| 粕屋町 | 461 | 5,294 | 21,217,096 |

(注)平成 19 年 6 月 1 日現在の値を示す。

出典：「ふくおかデータウェブ　第 11 章　商業・サービス業」(福岡県企画・地域振興部調査統計課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-11-1.html)

### 6) 林業の状況

周辺自治体における平成 22 年 2 月 1 日現在の所有形態別林野面積は、表 3.2.1-8 に示すとおりである。総林野面積は、那珂川町が最も多くなっている。

**表 3.2.1-8　周辺自治体における林野面積の状況**

| 行政区分 | 総林野面積<br>(ha) | 国有林野面積<br>(ha) | 民有林野面積<br>(ha) |
|---|---|---|---|
| 福岡市 東区 | 900 | 233 | 677 |
| 福岡市 博多区 | 218 | 81 | 137 |
| 福岡市 中央区 | 2 | 2 | － |
| 福岡市 南区 | 491 | 93 | 398 |
| 筑紫野市 | 4,362 | 436 | 3,926 |
| 春日市 | 70 | 5 | 65 |
| 大野城市 | 1,025 | 9 | 1,016 |
| 太宰府市 | 1,177 | 113 | 1,064 |
| 那珂川町 | 5,489 | 1,251 | 4,238 |
| 宇美町 | 1,840 | 692 | 1,148 |
| 志免町 | 15 | 7 | 8 |
| 須恵町 | 624 | 123 | 501 |
| 粕屋町 | 53 | － | 53 |

出典：「2010 年世界農林業センサス　農林水産業　都道府県別統計書」(農林水産省ホームページ、http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001036128&cycode=0)

### 3.2.2 土地利用の状況

#### (1) 土地利用の状況

周辺自治体における平成 21 年 1 月 1 日現在の地目別民有地面積の構成は、表 3.2.2-1 に示すとおりである。筑紫野市及び那珂川町においては、山林の面積が最も多く、その他の自治体は宅地の面積が最も多くなっている。

**表 3.2.2-1　周辺自治体における地目別民有地面積の構成**

単位：ha

| 区分 / 行政区分 | 総数 | 地目区分 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 田 | 畑 | 宅地 | 山林 | 原野 | 雑種地 | その他 |
| 福岡市 | 18,537.1 | 1968.4 | 962.2 | 8,826.2 | 4,824.4 | 575.6 | 1,371.7 | 8.5 |
| 筑紫野市 | 5,380.1 | 980.2 | 180.5 | 1,112.1 | 2,158.8 | 404.8 | 543.7 | 0.0 |
| 春日市 | 840.0 | 18.9 | 11.9 | 648.1 | 36.0 | 1.9 | 123.3 | − |
| 大野城市 | 1,465.0 | 54.9 | 19.2 | 791.8 | 536.7 | 4.0 | 58.4 | − |
| 太宰府市 | 1,611.0 | 173.3 | 28.2 | 678.2 | 471.5 | 133.3 | 126.2 | 0.2 |
| 那珂川町 | 4,359.0 | 399.4 | 78.7 | 480.0 | 3,018.6 | 56.0 | 326.4 | 0.0 |
| 宇美町 | 1,055.8 | 118.1 | 21.3 | 483.4 | 346.1 | 52.8 | 34.2 | − |
| 志免町 | 553.7 | 65.5 | 13.8 | 434.9 | 10.2 | 0.8 | 28.4 | − |
| 須恵町 | 759.8 | 169.9 | 17.6 | 394.3 | 157.3 | 8.5 | 12.2 | − |
| 粕屋町 | 918.9 | 244.0 | 49.2 | 499.3 | 45.7 | 0.6 | 79.9 | 0.2. |

(注)1.平成 21 年 1 月 1 日現在の値を示す。
2.「その他」は鉱泉地、池沼、牧場、塩田である。
出典：「ふくおかデータウェブ　第 1 章　土地・気象」(福岡県企画・地域振興部調査統計課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-1-5.html)

#### (2) 土地利用基本計画に基づく地域地区の指定状況

土地利用基本計画は、「国土利用計画法」(昭和 49 年 6 月法律第 92 号)に基づき土地利用に関する個別規制法である「都市計画法」(昭和 43 年 6 月法律第 100 号)、「農業振興地域の整備に関する法律」(昭和 44 年 7 月法律第 58 号)等に基づいた諸計画に対する上位計画として策定されている。

周辺自治体における土地利用基本計画に基づく地域地区の指定状況は、表 3.2.2-2 及び図 3.2.2-1 に示すとおりであり、いずれの自治体も都市地域及び森林地域の地域設定がなされている。福岡市、志免町、須恵町、粕屋町には農業地域、福岡市、大野城市、宇美町、須恵町には自然公園地域の地域設定がなされている。

表 3.2.2-2　周辺自治体における土地利用基本計画に基づく地域設定状況

| 行政区分 | 都市地域 | 農業地域 | 森林地域 | 自然公園地域 | 自然保全地域 |
|---|---|---|---|---|---|
| 福岡市 | ○ | ○ | ○ | ○ | － |
| 筑紫野市 | ○ | ○ | ○ | ○ | － |
| 春日市 | ○ | － | ○ | － | － |
| 大野城市 | ○ | － | ○ | ○ | － |
| 太宰府市 | ○ | － | ○ | ○ | － |
| 那珂川町 | ○ | ○ | ○ | － | － |
| 宇美町 | ○ | － | ○ | ○ | － |
| 志免町 | ○ | ○ | ○ | － | － |
| 須恵町 | ○ | ○ | ○ | ○ | － |
| 粕屋町 | ○ | ○ | ○ | － | － |

(注)○：当該市に地域設定がある。
　　－：当該市に地域設定がない。
出典：「土地利用調整総合支援ネットワークシステム(LUCKY)
　　(国土交通省ホームページ、http://lucky.tochi.mlit.go.jp/NewLucky/default.aspx)

### (3) 都市計画法に基づく地域地区の指定状況

周辺自治体における都市計画法に基づく都市計画区域及び用途地域の状況は、表 3.2.2-3 及び図 3.2.2-2 に示すとおりである。いずれの自治体も都市計画区域の指定がなされており、宇美町及び須恵町を除く市町で市街化区域と市街化調整区域の区分がなされている。対象事業実施区域周辺は第 1 種住居地域、準工業地域、工業地域等に指定されている。

表 3.2.2-3　周辺自治体における用途地域の指定状況

単位：ha

| 区分 / 行政区分 | 都市計画区域 | | | 用途地域 | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 都市計画区域 | 市街化区域 | 市街化調整区域 | 第1種低層住居専用地域 | 第2種低層住居専用地域 | 第1種中高層住居専用地域 | 第2種中高層住居専用地域 | 第1種住居地域 | 第2種住居地域 | 準住居地域 | 近隣商業地域 | 商業地域 | 準工業地域 | 工業地域 | 工業専用地域 | 計 |
| 福岡市 | 33,988 | 16,114 | 17,874 | 4,005.0 | 10.0 | 2,376.0 | 364.0 | 3,299.0 | 1,526.0 | 166.0 | 331.0 | 1,455.0 | 1,931.0 | 610.0 | 41.0 | 16,114.0 |
| 大野城市 | 2,688 | 1,422 | 1,266 | 524.0 | | 69.0 | 153.0 | 359.0 | 29.0 | 13.0 | 18.0 | 29.0 | 228.0 | | | 1,422.0 |
| 春日市 | 1,415 | 1,333 | 83 | 292.3 | 0.0 | 234.2 | 207.5 | 255.1 | 101.4 | 32.2 | 22.7 | 9.4 | 177.7 | 0.0 | 0.0 | 1,332.5 |
| 志免町 | 870 | 710 | 160 | 191.0 | 4.7 | 21.0 | | 278.0 | 66.0 | | 6.0 | 6.0 | 114.0 | | 23.0 | 709.7 |
| 粕屋町 | 1,412 | 675 | 737 | 122.0 | 44.0 | | 29.0 | 211.0 | 34.0 | | 4.0 | 4.8 | 217.0 | 9.0 | | 674.8 |
| 筑紫野市 | 4,393 | 1,417 | 2,976 | 539.0 | 39.0 | 71.0 | 153.0 | 386.0 | 23.0 | 34.0 | 30.0 | 33.0 | 109.0 | 0.0 | 0.0 | 1,417.0 |
| 太宰府市 | 2,253 | 1,182 | 1,071 | 503.0 | 82.0 | 0.0 | 0.0 | 445.0 | 28.0 | 21.0 | 26.0 | 10.0 | 67.0 | 0.0 | 0.0 | 1,182.0 |
| 那珂川町 | 1,902 | 566 | 1,336 | 164.0 | 59.8 | 63.3 | | 217.3 | | | 14.6 | | 47.0 | | | 566.0 |
| 須恵町 | 1,633 | | | 129.0 | 9.3 | 5.6 | | 224.0 | | | 7.1 | | 5.7 | 27.0 | 46.0 | 453.7 |
| 宇美町 | 2,159 | | | 251.0 | | 68.0 | | 271.0 | | 1.6 | 14.0 | 8.6 | 66.0 | 7.0 | 77.0 | 764.2 |

出典：「平成 22 年度 都市計画現況調査」(国土交通省都市計画課ホームページ、
　　http://www.mlit.go.jp/toshi/city_plan/toshi_city_plan_fr_000021.html)

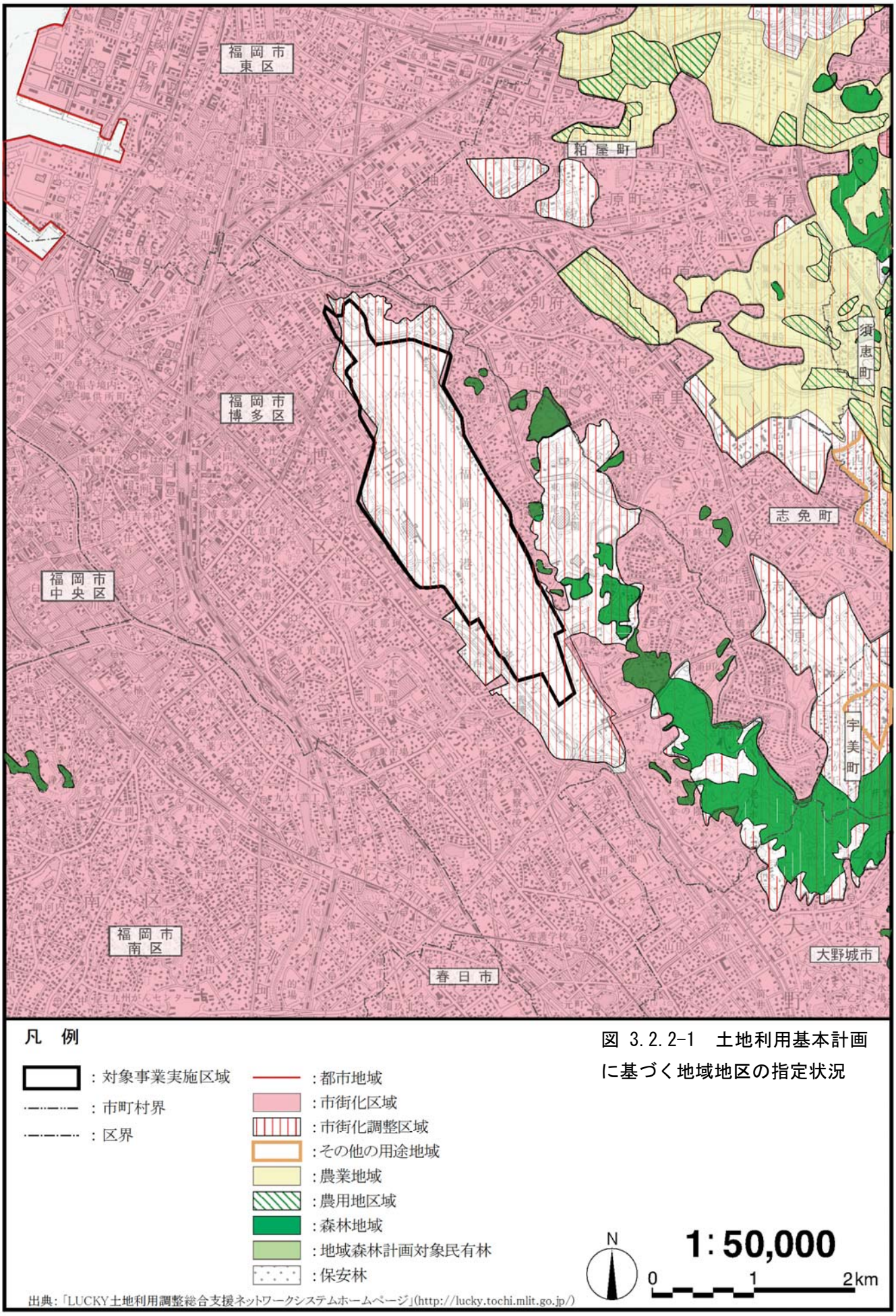
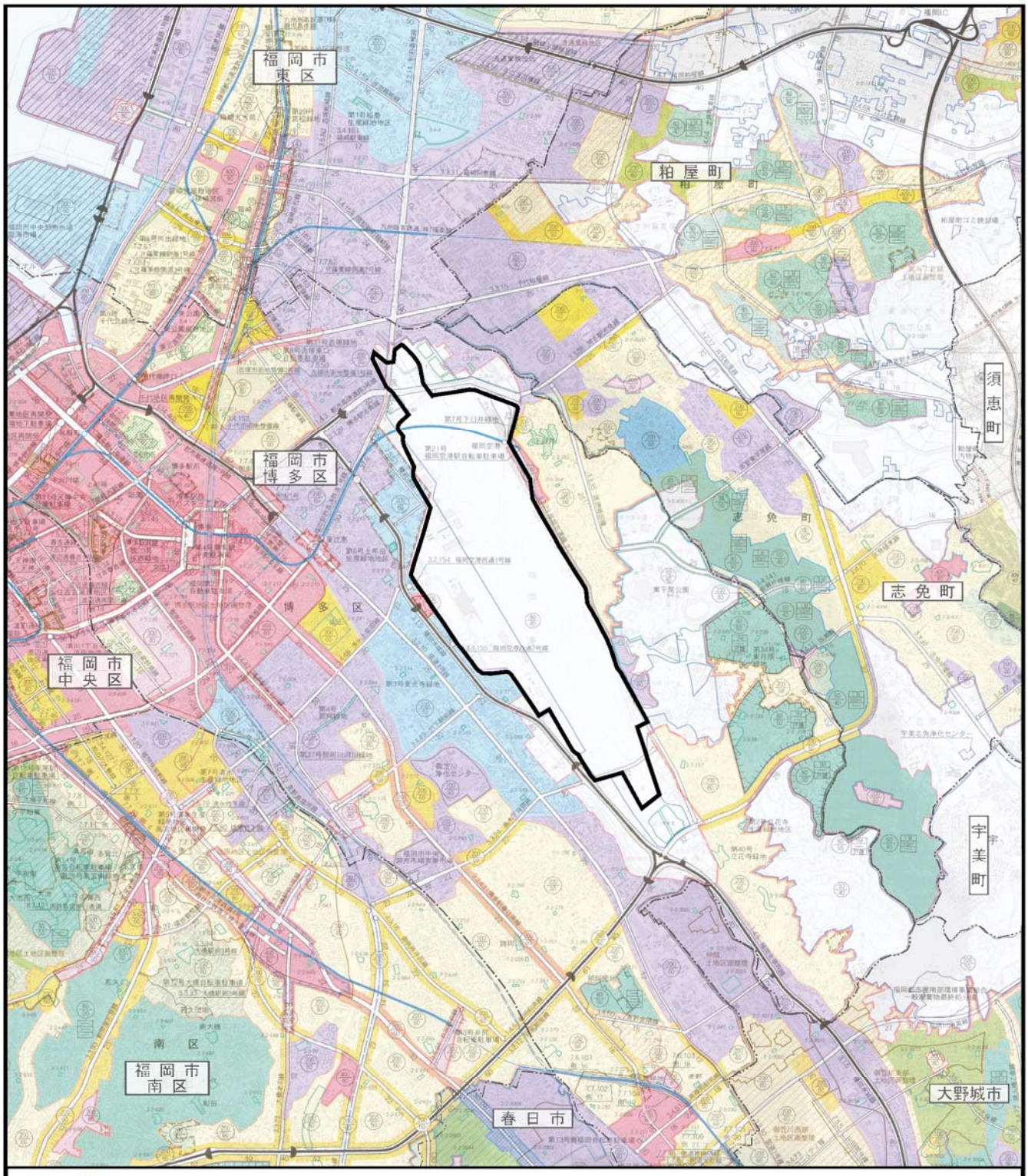



図 3.2.2-1　土地利用基本計画に基づく地域地区の指定状況




凡　例

- ：対象事業実施区域
- ：市町村界
- ：区界
- ：第一種低層住居専用地域
- ：第二種低層住居専用地域
- ：第一種中高層住居専用地域
- ：第二種中高層住居専用地域
- ：第一種住居地域
- ：第二種住居地域
- ：準住居地域
- ：近隣商業地域
- ：商業地域
- ：準工業地域
- ：工業地域
- ：工業専用地域

出典：「福岡県都市計画総括図」(平成24年5月　福岡県福岡市役所)
「福岡県都市計画総括図(春日市)」(平成24年3月　春日市)
「福岡県都市計画総括図(志免町)」(平成23年5月　福岡県志免町)
「宇美都市計画総括図」(平成21年6月　宇美町)
「須恵都市計画図」(平成21年5月　須恵町役場)

N

1:50,000

0　1　2km

図 3.2.2-2　都市計画法に基づく用途地域の指定状況

### 3.2.3 河川、湖沼及び海域の利用並びに地下水の利用の状況

#### (1) 河川、湖沼の利用の状況

周辺自治体における河川の利用状況は表 3.2.3-1(1)～表 3.2.3-1(2)に示すとおりである。各市町において、河川やダムからの取水が行われている。福岡市では那珂川からの取水量が最も多くなっている。

表 3.2.3-1(1)　河川利用の状況(上水、用水)

| 事業主体名 | 水道名 | 河川名 | | 取水口 | 取水量 | 関連ダム名 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 水系名 | 河川名 | 位置 | $m^3$/日 | 名称 | 有効貯水量($m^3$) | |
| 福岡市 | 上水 | 多々良川 | 多々良川 | 福岡市東区多の津<br>第１取水口 | 100,000 | 猪野ダム | 4,910 | |
| | | 那珂川 | 那珂川 | 福岡市南区塩原 | 13,650 | | | 塩原揚水機場 |
| | | | | 福岡市南区塩原<br>番托取水口 | 139,000 | | | |
| 大野城市 | 上水 | 御笠川 | 御笠川 | 大野城市御笠川三丁目<br>一ノ瀬堰 | 570 | | | |
| 志免町 | 上水 | 御笠川 | 御笠川 | 福岡市博多区西月隈四丁目 | 3,500 | | | |
| 粕谷町 | 上水 | 多々良川 | 須恵川 | 糟屋郡粕屋町大字酒殿字油デン | 4,400 | 古大間池<br>(予備) | 530 | |
| 福岡地区水道企業団 | 用水 | 多々良川 | 多々良川 | 福岡市東区多の津 | 22,000 | 鳴淵ダム | 4,160 | |

(注)上水：上水道、用水：用水供給

出典：「平成 22 年度 福岡県の水道」(福岡県県土整備部水資源対策課ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f12/fukuokakennosuido-22.html)

表 3.2.3-1(2)　河川利用の状況(工業用水)

| 事業主体名 | 水道名 | 河川名 | | 取水口 | 取水量 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 水系名 | 河川名 | 位置 | $m^3$/日 |
| 福岡市 | 工業用水 | 御笠川 | 御笠川 | 大野城市乙金台　乙金浄水場<br>福岡市博多区東那珂　金島浄水場 | 5,854 |

出典：「平成 22 年度版 福岡市水道事業統計年報」
(福岡市水道局ホームページ、http://www.city.fukuoka.lg.jp/mizu/eigyo/machi/002.html)より算出

### (2) 地下水の利用の状況

事業実施区域周囲における地下水利用の状況は以下に示すとおりである。

なお、「福岡市水質測定結果報告書　平成 22 年版」（平成 24 年 1 月、福岡市環境局）によると、福岡市には地下水の揚水が規制されている地域はない。

a. 上水道、用水供給

水道における地下水の取水量の状況は表 3.2.3-2 に示すとおりである。

**表 3.2.3-2　地下水利用の状況（上水道・用水供給）**

| 年間取水量（H22） | 地下水 |
|---|---|
| 福岡市 | 0 千$m^3$ |
| 春日那珂川水道事業団 | 7,756 千$m^3$ |
| 大野城市 | 2,904 千$m^3$ |
| 宇美町 | 648 千$m^3$ |
| 志免町 | 1,306 千$m^3$ |
| 須恵町 | 193 千$m^3$ |
| 粕屋町 | 3,192 千$m^3$ |
| 福岡県 | 50,275 千$m^3$ |

出典：「平成 22 年度 福岡県の水道」（福岡県県土整備部水資源対策課）
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/67/67883_14311351_misc.pdf(福岡県)

b. 工業用水

工業用水における地下水の使用量の状況は表 3.2.3-3 に示すとおりである。

**表 3.2.3-3　地下水利用の状況（工業用水）**

| 使用量（H22） | | 井戸水 |
|---|---|---|
| 福岡市 | 東区 | 252$m^3$/日 |
| | 博多区 | 575$m^3$/日 |
| | 中央区 | 0$m^3$/日 |
| | 南区 | 1,222$m^3$/日 |
| 福岡市 | | 4,514$m^3$/日 |
| 春日市 | | X$m^3$/日 |
| 大野城市 | | 551$m^3$/日 |
| 宇美町 | | 187$m^3$/日 |
| 志免町 | | 11$m^3$/日 |
| 須恵町 | | 85$m^3$/日 |
| 粕屋町 | | 509$m^3$/日 |
| 福岡県 | | 82,100$m^3$/日 |

(注)X：１又は２の事業所に関する数値で、これをそのまま掲げると個々の申告者の秘密が漏れるため秘匿した箇所であり、３以上の事業所に関する数値であっても、１又は２の事業所の数値が前後の関係から判明する箇所も秘匿とした数値。

出典：「ふくおかデータウェブ」http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/
（福岡県企画振興部調査統計課）

### (3) 海域の利用の状況

事業実施区域周囲における漁港数と漁港種別状況は表 3.2.3-4 に示すとおりである。筑前海は、対馬暖流の影響を受ける外洋性の海域であり、福岡県内の主要な沿岸漁業の漁場として利用されている。

**表 3.2.3-4　漁港数と漁港種別状況**

| 海区別 | 総　数 | 第 1 種 | 第 2 種 | 特定第 3 種 | 第 4 種 |
|---|---|---|---|---|---|
| 筑前海区 | 37 | 19 | 15 | 1 | 2 |
| 総漁港数 | 65 | 42 | 20 | 1 | 2 |

(注)1. 第１種漁港　　：利用が地元の漁業を主とするもの
2. 第２種漁港　　：利用範囲が第１種漁港より広く、第３種漁港に属さないもの
3. 第３種漁港　　：利用が全国的なもの
4. 特定第３種漁港：第３種漁港のうち水産業の振興上、特に重要な漁港で法令で定めるもの
5. 第４種漁港　　：離島その他辺地にあって漁場の開発または漁船避難上、特に必要なもの

出典：「福岡県の漁港について」http://www.pref.fukuoka.lg.jp/d07/fukuoka-gyoko.html
（福岡県農林水産部水産局水産振興課）

### 3.2.4 交通の状況

#### (1) 交通網

事業実施区域周囲における主要交通網は、図 3.2.4-1 に示すとおりである。鉄道は事業実施区域の西側に JR 博多駅があり、北東方向に山陽新幹線が、西側を九州新幹線、鹿児島本線及び博多南線が南北に、北側を篠栗線が東西に、東側を香椎線が南北に通っている。また、西鉄大牟田線が事業実施区域の西側を西から南東方向に通っている。

主要な道路としては、事業実施区域の西側を南北に通る福岡都市高速道路 2 号線があり、これに事業実施区域の南側で接続する福岡都市高速道路 5 号線、北側で接続する福岡都市高速道路 1 号線、北側を東西に通る福岡都市高速道路 4 号線がある。また、西側を南北に通る国道 3 号及び国道 385 号がある。

#### (2) 道路交通の状況

事業実施区域周囲における平成 22 年度の道路交通センサス(全国道路・街路交通情勢調査)による交通量の調査結果は、表 3.2.4-1 に示すとおりである。また、交通量の調査地点は図 3.2.4-2 に示すとおりである。

**表 3.2.4-1　事業実施区域周囲における交通量**

| 種類 | 路線名 | 調査地点番号 | 平成 22 年度 | | | | | | 平成 17 年度 | 平成 11 年度 | 平成 9 年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 12 時間交通量(台) | | | | 24 時間交通量合計(台) | 昼夜率(%) | 12 時間交通量(台) | | |
| | | | 乗用車類 | 貨物車類 | 合計 | 大型車混入率(%) | | | | | |
| 高速道路 | 福岡都市高速道路 1 号線 | 5020 | 52,689 | 7,952 | 60,641 | 13.1 | 74,343 | 1.23 | 60,594 | 52,549 | 48,123 |
| | 福岡都市高速道路 2 号線 | 5050 | 54,630 | 8,460 | 63,090 | 13.4 | 76,926 | 1.22 | 67,112 | 48,183 | 37,420 |
| | | 5060 | 47,019 | 8,570 | 55,589 | 15.4 | 68,107 | 1.23 | 57,105 | 39,852 | － |
| | 福岡都市高速道路 3 号線 | 5080 | 3,510 | 623 | 4,133 | 15.1 | 5,115 | 1.24 | 5,184 | 5,898 | 6,604 |
| | 福岡都市高速道路 4 号線 | 5030 | 11,850 | 3,649 | 15,499 | 23.5 | 18,592 | 1.20 | 11,926 | － | － |
| | 福岡都市高速道路 5 号線 | 5100 | 22,552 | 1,940 | 24,492 | 7.9 | 30,392 | 1.24 | 13,277 | － | － |
| 一般国道 | 一般国道 3 号 | 10060 | 36,693 | 3,583 | 40,276 | 8.9 | 58,400 | 1.45 | 44,486 | 44,635 | 44,642 |
| 主要地方道 | 大野城二丈線 | 40170 | 6,405 | 556 | 6,961 | 8.0 | 10,859 | 1.56 | 4,133 | 4,121 | 4,315 |
| | 福岡太宰府線 | 41810 | 12,280 | 1,561 | 13,841 | 11.3 | 19,516 | 1.41 | 15,454 | 16,754 | 16,934 |
| 一般県道 | 水城下臼井線 | 60420 | 14,487 | 1,205 | 15,692 | 7.7 | 21,341 | 1.36 | 16,215 | 15,160 | 16,745 |

(注)24 時間調査を実施した地点を示している。
出典：「平成 22 年度　道路交通センサス(全国道路・街路交通情勢調査)一般交通量調査」(国土交通省)

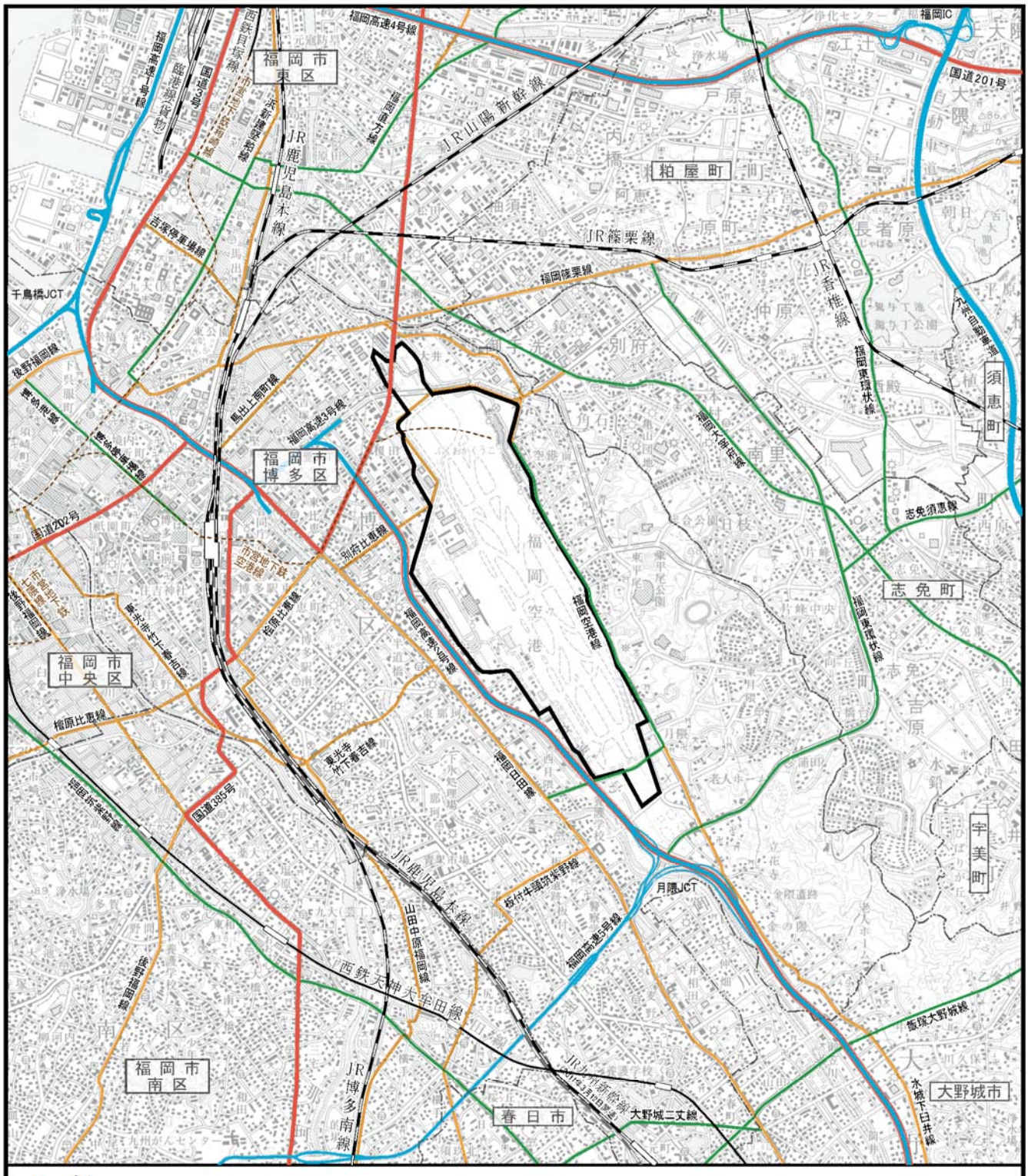
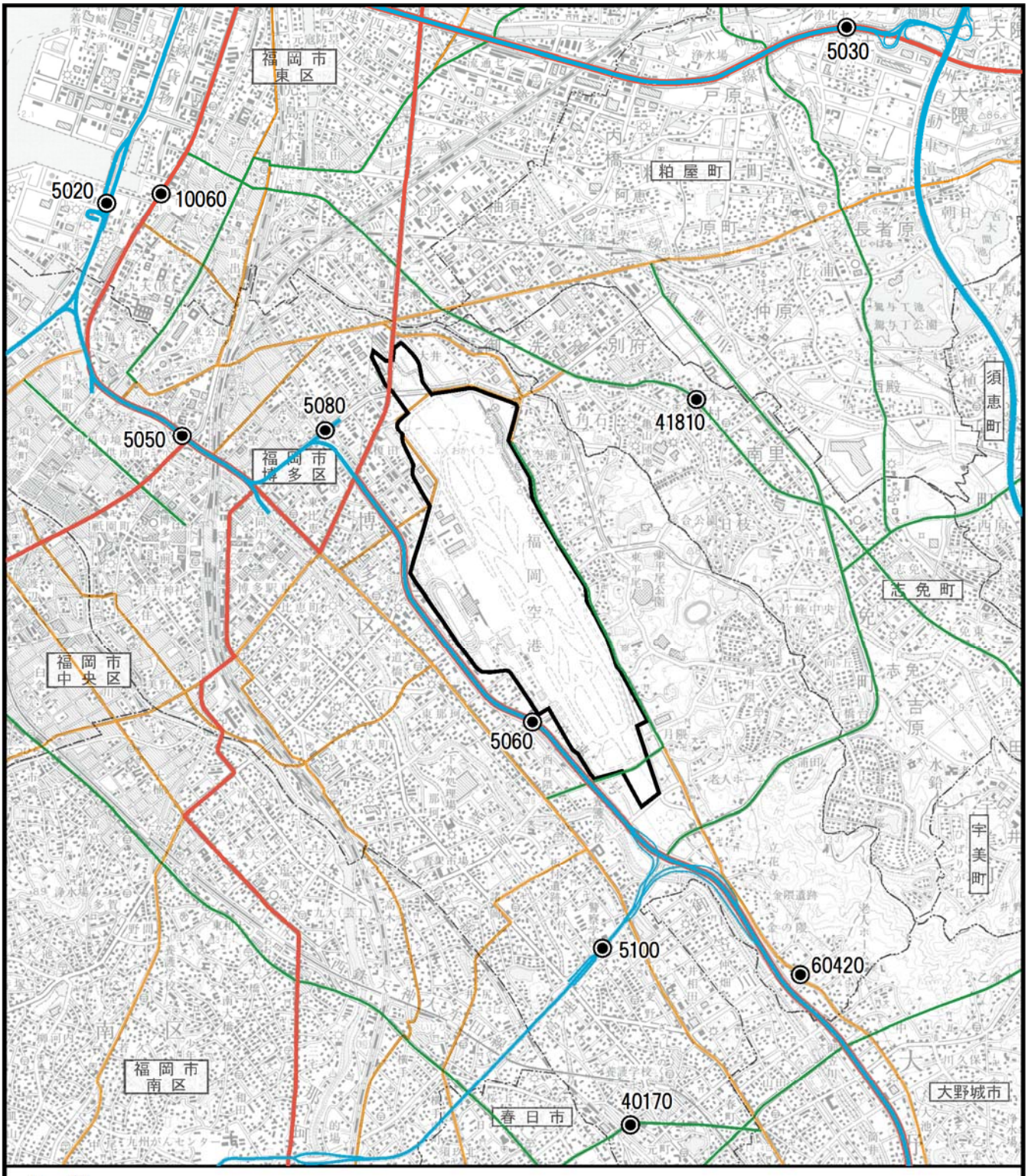



図 3.2.4-1　交通網図

出典：「福岡県土整備事務所管内図」(平成22年3月　福岡県福岡県土整備事務所)、
「那珂県土整備事務所管内図」(平成24年3月　福岡県那珂県土整備事務所)




凡　例

- ：対象事業実施区域
- ：市町村界
- ：区界
- ：高速道路
- ：一般国道
- ：主要地方道
- ：一般県道
- ：道路交通量調査地点（24時間測定）

出典：「平成22年度　道路交通センサス(全国道路・街路交通情勢調査)一般交通量調査」(国土交通省)

N

1:50,000

0　1　2km

図 3.2.4-2　交通量調査地点位置図

### (3) 鉄道輸送の状況

事業実施区域周囲の鉄道における乗降客数は、表 3.2.4-2(1)～表 3.2.4-2(3)に示すとおりである。

**表 3.2.4-2(1)　事業実施区域周囲における各駅乗車人員(1 日平均乗車人員・JR)**

単位：人

| 線名 | 駅名 | 平成 17 年度 | 平成 18 年度 | 平成 19 年度 | 平成 20 年度 | 平成 21 年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 博多南線<br>鹿児島本線 | 博多 | 97,988 | 99,019 | 98,653 | 98,353 | 96,518 |
| 鹿児島本線 | 吉塚 | 9,298 | 9,357 | 9,561 | 9,800 | 10,234 |
| 鹿児島本線 | 南福岡 | 8,059 | 8,133 | 8,198 | 8,341 | 8,319 |

出典：「ふくおかデータウェブ　第 10 章　運輸・通信」
（福岡県企画・地域振興部調査統計課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-10.html）

**表 3.2.4-2(2)　事業実施区域周囲における各駅乗降人員(市営地下鉄)**

単位：千人

| 線名 | 駅名 | 平成 19 年 | 平成 20 年 | 平成 21 年 | 平成 22 年 | 平成 23 年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 空港線 | 天神 | 43,087 | 43,591 | 41,782 | 42,064 | 43,217 |
| | 祇園 | 4,260 | 4,431 | 4,319 | 4,302 | 4,335 |
| | 博多 | 39,327 | 39,699 | 37,869 | 38,526 | 43,624 |
| | 東比恵 | 5,346 | 5,663 | 5,903 | 6,044 | 6,309 |
| | 福岡空港 | 14,275 | 14,343 | 13,667 | 13,586 | 13,886 |
| 箱崎線 | 中洲川端 | 8,824 | 9,353 | 9,324 | 9,408 | 9,824 |
| | 呉服町 | 2,009 | 1,986 | 1,985 | 2,013 | 2,051 |
| | 千代県庁口 | 2,194 | 2,315 | 2,291 | 2,417 | 2,510 |
| | 馬出九大病院前 | 2,842 | 2,912 | 2,955 | 3,018 | 3,134 |
| | 箱崎宮前 | 2,027 | 2,210 | 2,092 | 2,172 | 2,281 |
| | 箱崎九大前 | 2,245 | 2,325 | 2,422 | 2,476 | 2,610 |
| | 貝塚 | 2,808 | 2,890 | 3,031 | 3,652 | 4,047 |
| 七隈線 | 天神南 | 8,142 | 8,652 | 8,710 | 8,701 | 8,663 |
| | 渡辺通 | 1,554 | 1,648 | 1,661 | 1,728 | 1,784 |

出典：「福岡市統計書(平成 23 年版)　第 9 章　運輸・通信」
（福岡市統計調査課ホームページ、
http://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/tokeichosa/shisei/toukei/toukeisyo/2011/FukuokaCityAnnualStat_2011_9.html）

**表 3.2.4-2(3)　事業実施区域周囲における各駅乗降人員(西鉄)**

単位：千人

| 駅名 | 平成 18 年度 | 平成 19 年度 | 平成 20 年度 | 平成 21 年度 | 平成 22 年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 平尾 | 4,483 | 4,402 | 4,348 | 4,148 | 4,137 |
| 高宮 | 7,069 | 6,950 | 6,843 | 6,749 | 6,742 |
| 大橋 | 12,722 | 12,563 | 12,596 | 12,523 | 12,615 |
| 井尻 | 8,048 | 8,034 | 7,986 | 7,753 | 7,669 |
| 雑餉隈 | 5,721 | 5,620 | 5,653 | 5,521 | 5,470 |

出典：「福岡市統計書(平成 23 年版)　第 9 章　運輸・通信」
（福岡市統計調査課ホームページ、
http://www.city.fukuoka.lg.jp/soki/tokeichosa/shisei/toukei/toukeisyo/2011/FukuokaCityAnnualStat_2011_9.html）

### (4) 海上交通の状況

博多港における入港船舶、海上出入貨物量及び船舶乗降人員数の推移は表 3.2.4-3 に示すとおりである。平成 22 年の乗降人員の総数は約 200 万人、取扱貨物量の総トン数は約 3,000 万トンである。

**表 3.2.4-3　博多港における入港船舶、海上出入貨物量及び船舶乗降人員の推移**

| | | 平成 18 年 | 平成 19 年 | 平成 20 年 | 平成 21 年 | 平成 22 年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 入港船舶 | 隻数(隻) | 36,387 | 35,740 | 33,108 | 31,277 | 31,393 |
| | 総トン数(トン) | 54,575,526 | 52,185,501 | 50,526,771 | 50,839,683 | 55,938,128 |
| 海上出入貨物量(トン) | | 29,192,572 | 30,218,983 | 29,127,553 | 27,190,848 | 29,681,245 |
| 船舶乗降人員(人) | | 2,008,265 | 2,121,093 | 2,087,131 | 1,748,045 | 1,994,140 |

出典：「博多港統計年報－平成 22 年(2010 年)－」
(福岡市港湾局ホームページ、http://port-of-hakata.city.fukuoka.lg.jp/profile/data/pdf/h22kakutei.pdf)

### (5) 航空交通の状況

福岡空港における着陸回数、乗降客数、貨物取扱量の推移は、表 3.2.4-4 に示すとおりである。平成 22 年度における着陸回数は約 68,600 回、乗降客数は約 1,596 万人、貨物取扱量は約 24 万トンとなっている。

**表 3.2.4-4　福岡空港における乗降客数、貨物取扱量等の推移**

| 年度 | 着陸回数(回) | | | 乗降客数(人) | | | 貨物取扱量(トン) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 国際 | 国内 | 合計 | 国際 | 国内 | 合計 | 国際 | 国内 | 合計 |
| 平成 18 | 7,974 | 61,647 | 69,621 | 2,238,188 | 15,885,543 | 18,123,731 | 58,794 | 203,089 | 261,883 |
| 平成 19 | 8,397 | 62,442 | 70,839 | 2,274,954 | 15,551,128 | 17,826,082 | 56,804 | 207,306 | 264,110 |
| 平成 20 | 8,249 | 58,699 | 66,948 | 2,041,711 | 14,775,647 | 16,817,358 | 44,654 | 202,765 | 24,7419 |
| 平成 21 | 7,856 | 60,512 | 68,368 | 2,102,034 | 13,924,411 | 16,026,445 | 47,308 | 190,238 | 237,546 |
| 平成 22 | 8,504 | 60,073 | 68,577 | 2,426,396 | 13,527,260 | 15,953,656 | 52,125 | 189,970 | 242,095 |

出典：「暦年・年度別空港管理状況調書」
(国土交通省航空局ホームページ、http://www.mlit.go.jp/common/000030477.pdf)

### 3.2.5 学校、病院その他の環境の保全についての配慮が特に必要な施設の配置の状況及び住宅の配置の概況

#### (1) 学校、病院等

事業実施区域周囲における学校、病院等の数は表 3.2.5-1 に、施設の区分毎の施設名称一覧は表 3.2.5-2～表 3.2.5-5 に示すとおりである。

また、事業実施区域周囲における学校、病院等の位置は図 3.2.5-1 に示すとおりである。

**表 3.2.5-1　事業実施区域周囲における学校、病院等の施設の数**

| 区分／地域 | 学校 | | | | | | 社会福祉施設 | 病院 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 幼稚園 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 大学・短期大学 | 特別支援学校 | | |
| 福岡市東区 | 5 | 6 | 3 | 1 | 1 | 0 | 11 | 5 |
| 福岡市博多区 | 11 | 18 | 10 | 5 | 2 | 2 | 38 | 18 |
| 福岡市中央区 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 5 |
| 福岡市南区 | 14 | 13 | 9 | 4 | 5 | 1 | 29 | 10 |
| 春日市 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| 大野城市 | 2 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 |
| 宇美町 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 志免町 | 4 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 13 | 4 |
| 須恵町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 粕屋町 | 5 | 4 | 2 | 1 | 0 | 0 | 2 | 3 |

出典：「平成 23 年度 教育便覧」
(福岡県教育庁総務部総務課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f13/kyouiku-binran-23.html)
「幼稚園をさがそう！」(社団法人福岡県私立幼稚園振興協会ホームページ、http://www.fysk.or.jp/)
「福岡県内社会福祉施設等名簿」(平成 21 年 3 月　社会福祉法人福岡県社会福祉協議会)
「福岡県病院名簿(平成 24 年 4 月 1 日現在)」
(福岡県ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f13/byouinnmeibo.html)

表 3.2.5-2　事業実施区域周囲における幼稚園

| 区分 | 番号 | 名　　称 | 番号 | 名　　称 |
|---|---|---|---|---|
| 幼稚園 | 1 | 筥松幼稚園 | 24 | 大橋幼稚園 |
| | 2 | 貝塚幼稚園 | 25 | 清星幼稚園 |
| | 3 | 恵泉幼稚園 | 26 | 筑紫丘幼稚園 |
| | 4 | 箱崎幼稚園 | 27 | 若久幼稚園 |
| | 5 | 東福岡幼稚園 | 28 | 野間幼稚園 |
| | 6 | 吉塚ゆりの樹幼稚園 | 29 | みどりがおか幼稚園 |
| | 7 | 奈良屋幼稚園 | 30 | 宮竹幼稚園 |
| | 8 | 山王幼稚園 | 31 | 香蘭女子短期大学附属香蘭幼稚園 |
| | 9 | サルナート幼稚園 | 32 | 正法寺ルンビニー幼稚園 |
| | 10 | 玉水幼稚園 | 33 | 須玖幼稚園 |
| | 11 | 那珂幼稚園 | 34 | 春日小鳩幼稚園 |
| | 12 | 席田幼稚園 | 35 | みかさ幼稚園 |
| | 13 | つきぐま幼稚園 | 36 | 大野東幼稚園 |
| | 14 | 淡水幼稚園 | 37 | 博多第二幼稚園 |
| | 15 | 正光寺ひかり幼稚園 | 38 | 志免幼稚園 |
| | 16 | レバノン幼稚園 | 39 | 志免中央幼稚園 |
| | 17 | 春吉幼稚園 | 40 | 洞清寺あかつき幼稚園 |
| | 18 | しろがね幼稚園 | 41 | 博多第一幼稚園 |
| | 19 | カトリック聖クララ幼稚園 | 42 | 大川幼稚園 |
| | 20 | 高宮カトリック幼稚園 | 43 | 仲原幼稚園 |
| | 21 | 塩原幼稚園 | 44 | 西幼稚園 |
| | 22 | みやこ幼稚園 | 45 | 中央幼稚園 |
| | 23 | 聖心ウルスラ幼稚園 | 46 | はこぶね幼稚園 |

出典：「平成 23 年度 教育便覧」（福岡県教育庁総務部総務課ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f13/kyouiku-binran-23.html）
「幼稚園をさがそう！」（社団法人福岡県私立幼稚園振興協会ホームページ、http://www.fysk.or.jp/）

表 3.2.5-3(1)　事業実施区域周囲における小学校

| 区分 | 番号 | 名　　称 | 番号 | 名　　称 |
|---|---|---|---|---|
| 小学校 | 1 | 馬出小学校 | 27 | 西高宮小学校 |
| | 2 | 筥松小学校 | 28 | 大楠小学校 |
| | 3 | 箱崎小学校 | 29 | 玉川小学校 |
| | 4 | 多々良小学校 | 30 | 塩原小学校 |
| | 5 | 東箱崎小学校 | 31 | 大池小学校 |
| | 6 | 松島小学校 | 32 | 若久小学校 |
| | 7 | 東吉塚小学校 | 33 | 筑紫丘小学校 |
| | 8 | 千代小学校 | 34 | 高木小学校 |
| | 9 | 吉塚小学校 | 35 | 宮竹小学校 |
| | 10 | 博多小学校 | 36 | 横手小学校 |
| | 11 | 堅粕小学校 | 37 | 三宅小学校 |
| | 12 | 東光小学校 | 38 | 東若久小学校 |
| | 13 | 席田小学校 | 39 | 日佐小学校 |
| | 14 | 住吉小学校 | 40 | 春日北小学校 |
| | 15 | 東住吉小学校 | 41 | 日の出小学校 |
| | 16 | 春住小学校 | 42 | 大野北小学校 |
| | 17 | 美野島小学校 | 43 | 大野東小学校 |
| | 18 | 那珂小学校 | 44 | 御笠の森小学校 |
| | 19 | 弥生小学校 | 45 | 志免南小学校 |
| | 20 | 板付北小学校 | 46 | 志免東小学校 |
| | 21 | 月隈小学校 | 47 | 志免中央小学校 |
| | 22 | 東月隈小学校 | 48 | 志免西小学校 |
| | 23 | 板付小学校 | 49 | 仲原小学校 |
| | 24 | 三筑小学校 | 50 | 粕屋西小学校 |
| | 25 | 春吉小学校 | 51 | 粕屋中央小学校 |
| | 26 | 高宮小学校 | 52 | 大川小学校 |

出典：「平成 23 年度 教育便覧」（福岡県教育庁総務部総務課ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f13/kyouiku-binran-23.html）

表 3.2.5-3(2)　事業実施区域周囲における学校等

| 区分 | 番号 | 名　　称 | 番号 | 名　　称 |
|---|---|---|---|---|
| 中学校 | 1 | 箱崎清松中学校 | 16 | 春吉中学校 |
| | 2 | 博多女子中学校 | 17 | 純真中学校 |
| | 3 | 福岡中学校 | 18 | 野間中学校 |
| | 4 | 千代中学校 | 19 | 筑紫丘中学校 |
| | 5 | 吉塚中学校 | 20 | 宮竹中学校 |
| | 6 | 東福岡自彊館中学校 | 21 | 三宅中学校 |
| | 7 | 東光中学校 | 22 | 横手中学校 |
| | 8 | 東住吉中学校 | 23 | 春日北中学校 |
| | 9 | 沖学園中学校 | 24 | 御陵中学校 |
| | 10 | 那珂中学校 | 25 | 大野東中学校 |
| | 11 | 三筑中学校 | 26 | 志免東中学校 |
| | 12 | 板付中学校 | 27 | 志免中学校 |
| | 13 | 席田中学校 | 28 | 粕屋中学校 |
| | 14 | 高宮中学校 | 29 | 粕屋東中学校 |
| | 15 | 住吉中学校 | | |
| 高等学校 | 30 | 博多女子高等学校 | 36 | 福岡第一高等学校 |
| | 31 | 博多青松高等学校 | 37 | 第一薬科大学付属高等学校 |
| | 32 | 福岡高等学校 | 38 | 筑紫丘高等学校 |
| | 33 | 東福岡高等学校 | 39 | 純真高等学校 |
| | 34 | 精華女子高等学校 | 40 | 福岡魁誠高等学校 |
| | 35 | 沖学園高等学校 | | |
| 大学・短期大学 | 41 | 九州大学 | 45 | 純真短期大学・純真学園大学 |
| | 42 | 放送大学 福岡学習センター | 46 | 香蘭女子短期大学 |
| | 43 | 第一薬科大学 | 47 | 精華女子短期大学 |
| | 44 | 東和大学 | 48 | 九州大学（芸術工学部） |
| 特別支援学校 | 49 | 特別支援学校 博多高等学園 | | |
| | 50 | 南福岡特別支援学校 | | |
| | 51 | 若久特別支援学校 | | |

出典：「平成 23 年度 教育便覧」（福岡県教育庁総務部総務課ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f13/kyouiku-binran-23.html）

表 3.2.5-4　事業実施区域周囲における社会福祉施設

| 区分 | 番号 | 名　　称 | 番号 | 名　　称 |
|---|---|---|---|---|
| 社会福祉施設 | 1 | ふよう学園 | 56 | そよかぜのまち |
| | 2 | 福岡育児院 | 57 | 花の季苑 |
| | 3 | サンシャイン | 58 | 花菖蒲 |
| | 4 | ヒーリングハウス貝塚駅前 | 59 | 若久緑園 |
| | 5 | 老健はこざき | 60 | ライフエイドわかひさ |
| | 6 | 三日月苑 | 61 | 回生園 |
| | 7 | ジョブサポート（郷口） | 62 | エリーゼ大橋 |
| | 8 | ジョブサポート（馬出） | 63 | オーベル筑紫丘 |
| | 9 | 箱崎翔店 | 64 | 木の葉の里 |
| | 10 | 東障がい者フレンドホーム | 65 | アイポケット高宮東 |
| | 11 | グループホームオークマ | 66 | 清水ワークプラザ |
| | 12 | 光 | 67 | なのみ学園 |
| | 13 | あすか吉塚 | 68 | ケアホーム花うさぎ |
| | 14 | ケアセンターサンハウス | 69 | ケア・ラポート野間 |
| | 15 | オーベル諸岡 | 70 | しいのみ学園 |
| | 16 | 薔薇の樹苑 | 71 | あっとほ～む井尻 |
| | 17 | アンリ南福岡 | 72 | おおはし徳巣 |
| | 18 | 第一シルバーホーム百年橋 | 73 | ほっとステーションおひより |
| | 19 | ジョイ倶楽部プラザ | 74 | みらい |
| | 20 | めばえ学園 | 75 | こころん |
| | 21 | アシストリビング愛・あい | 76 | 工房まる |
| | 22 | シティケア博多 | 77 | 南障がい者フレンドホーム |
| | 23 | 福岡乳児院 | 78 | 第二ひまわり |
| | 24 | 大地 | 79 | もろおか |
| | 25 | 棲の家山ぼうし | 80 | よこて |
| | 26 | 月隈愛心の丘 | 81 | 若久荘 |
| | 27 | 月隈一番館 | 82 | 井尻上池ホーム |
| | 28 | ネオステージ博多 | 83 | こすもほーむ若久 |
| | 29 | さわやか立花館 | 84 | 夢ポケット |
| | 30 | 友愛苑 | 85 | クローバーハウス |
| | 31 | アットホーム博多の森 | 86 | アンクラージュ大橋南 |
| | 32 | リンゴの唄 | 87 | 悠生園 |
| | 33 | グットタイムホーム山王公園 | 88 | ラ・ナシカおとがな |
| | 34 | 博多さくら園 | 89 | 東風の宿 |
| | 35 | 洸寿園 | 90 | やすらぎの郷 |
| | 36 | ケアハウスエスペランザ | 91 | サンカルナ博多の森ケアステージ |
| | 37 | アビタシオン博多 | 92 | エスポワールメゾン |
| | 38 | アビタシオン博多Ⅲ号館 | 93 | ケアハウスみなみの里 |
| | 39 | フラワーハウス博多 | 94 | サンカルナ博多の森 |
| | 40 | 楽陽園 | 95 | グロリア |
| | 41 | 子ども発達支援施設　ＪＯＹひこばえ | 96 | かめやま |
| | 42 | 第一いわお園 | 97 | アイポケット亀山 |
| | 43 | 第二いわお園 | 98 | BFクローバー |
| | 44 | りんごの家 | 99 | 共生園 |
| | 45 | 桜花の宴　悠愛 | 100 | 障害者在宅介護支援センター |
| | 46 | 博多障がい者フレンドホーム | 101 | 柚の木学園 |
| | 47 | ワークショップたんぽぽ | 102 | コンフォート須恵 |
| | 48 | 美野島ハウス | 103 | 福岡あけぼの会　ステップアップ |
| | 49 | JOYホームインターナショナル | 104 | 緑の里 |
| | 50 | そよかぜホーム | | |
| | 51 | フェリオ天神 | | |
| | 52 | あっとほ～む平尾 | | |
| | 53 | カフェさくら就労継続支援事業 | | |
| | 54 | あとりえのぞみ就労継続支援B型事業 | | |
| | 55 | グループホームあおぞら | | |

出典：「福岡県内社会福祉施設等名簿」（平成 23 年 3 月　社会福祉法人福岡県社会福祉協議会）

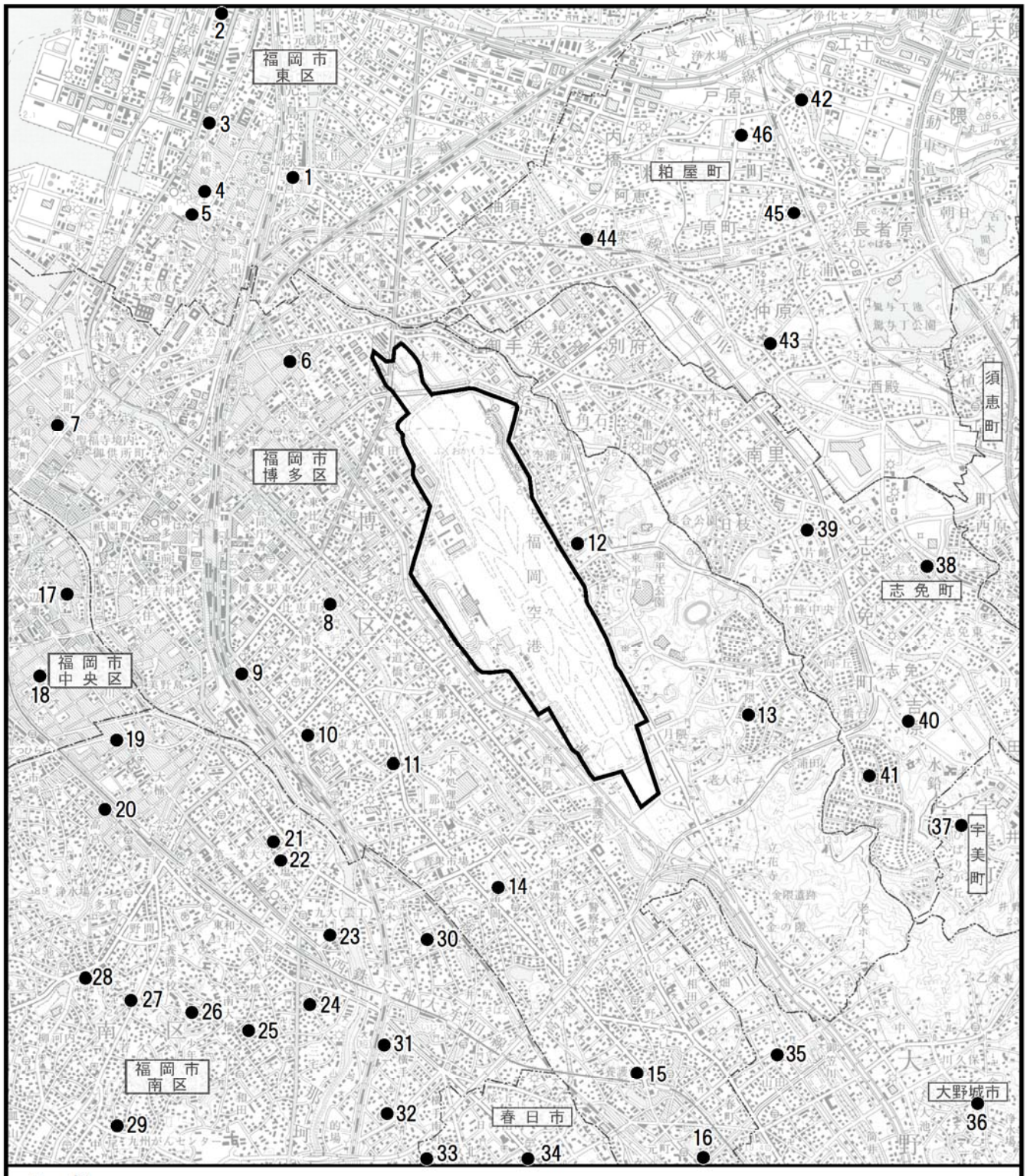
表 3.2.5-5　事業実施区域周囲における病院

| 区分 | 番号 | 名　　称 | 番号 | 名　　称 |
|---|---|---|---|---|
| 病院 | 1 | 福岡山田病院 | 26 | 及川病院 |
| | 2 | 松田病院 | 27 | 堤病院 |
| | 3 | 福岡共立病院 | 28 | 医療法人 寺沢病院 |
| | 4 | 八木病院 | 29 | 福岡赤十字病院 |
| | 5 | 九州大学病院 | 30 | 公立学校共済組合 九州中央病院 |
| | 6 | 千鳥橋病院 | 31 | 福岡保養院 |
| | 7 | 医療法人 原三信病院 | 32 | 南折立病院 |
| | 8 | 古森病院 | 33 | 独立行政法人国立病院機構九州がんセンター |
| | 9 | 博多心臓血管病院 | 34 | 医療法人恵光会 原病院 |
| | 10 | 医療法人松井医仁会 大島眼科病院 | 35 | 若久病院 |
| | 11 | 社会医療法人社団至誠会 木村病院 | 36 | 福岡整形外科外科病院 |
| | 12 | 医療法人 誠十字病院 | 37 | 井口野間病院 |
| | 13 | 福岡市民病院 | 38 | 医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院 |
| | 14 | 医療法人相生会　新吉塚病院 | 39 | 渡辺病院 |
| | 15 | 医療法人福岡桜十字 友愛病院 | 40 | 金隈病院 |
| | 16 | 医療法人博腎会 博腎会病院 | 41 | 上野外科胃腸科病院 |
| | 17 | 成田整形外科病院 | 42 | 医療法人社団緑風会 水戸病院 |
| | 18 | 林眼科病院 | 43 | 栄光病院 |
| | 19 | 医療法人 小野病院 | 44 | 社会保険仲原病院 |
| | 20 | さく病院 | 45 | 医療法人箱田会 箱田病院 |
| | 21 | 友田病院 | 46 | 医療法人社団三誠会 ひまわり病院 |
| | 22 | 医療法人 永野病院 | 47 | 福岡青洲会病院 |
| | 23 | 福岡県済生会 福岡総合病院 | | |
| | 24 | 医療法人社団広仁会 広瀬病院 | | |
| | 25 | 医療法人佐田厚生会 佐田病院 | | |

出典：「福岡県病院名簿(平成 24 年 4 月 1 日現在)」
(福岡県ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f13/byouinnmeibo.html)

### (2) 住宅

事業実施区域周囲は、住宅が多く分布している地域である。




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：幼稚園

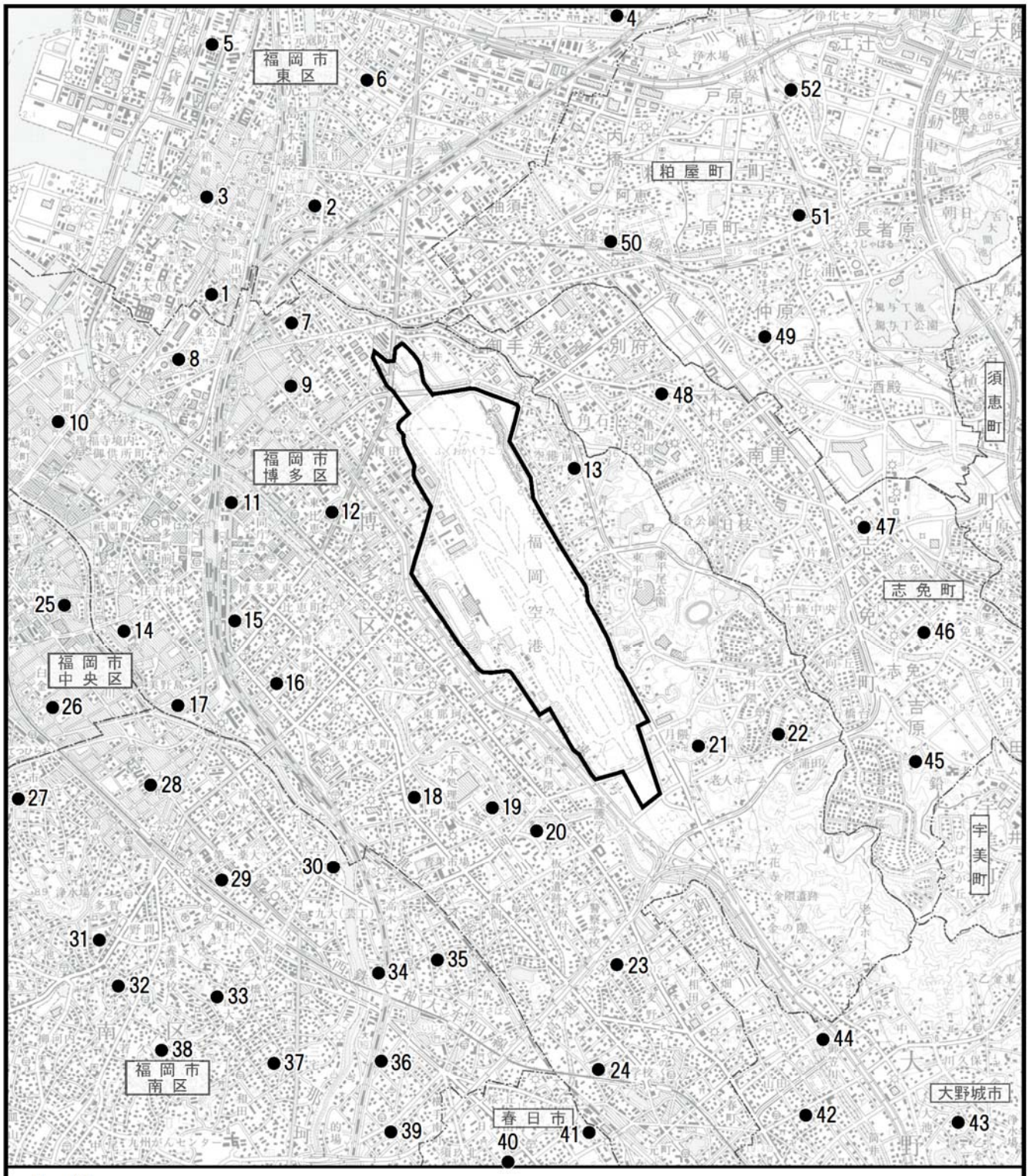
出典：「平成23年度 教育便覧」
（福岡県教育庁総務部総務課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f13/kyouiku-binran-23.html）
「幼稚園をさがそう！」（社団法人福岡県私立幼稚園振興協会ホームページ、http://www.fysk.or.jp/）

N

1:50,000

0　1　2km

図 3.2.5-1(1)　学校等位置図
（幼稚園）




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：小学校

出典：「平成23年度 教育便覧」
（福岡県教育庁総務部総務課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f13/kyouiku-binran-23.html）

N

1:50,000

0　1　2km

図 3.2.5-1(2)　学校等位置図
（小学校）

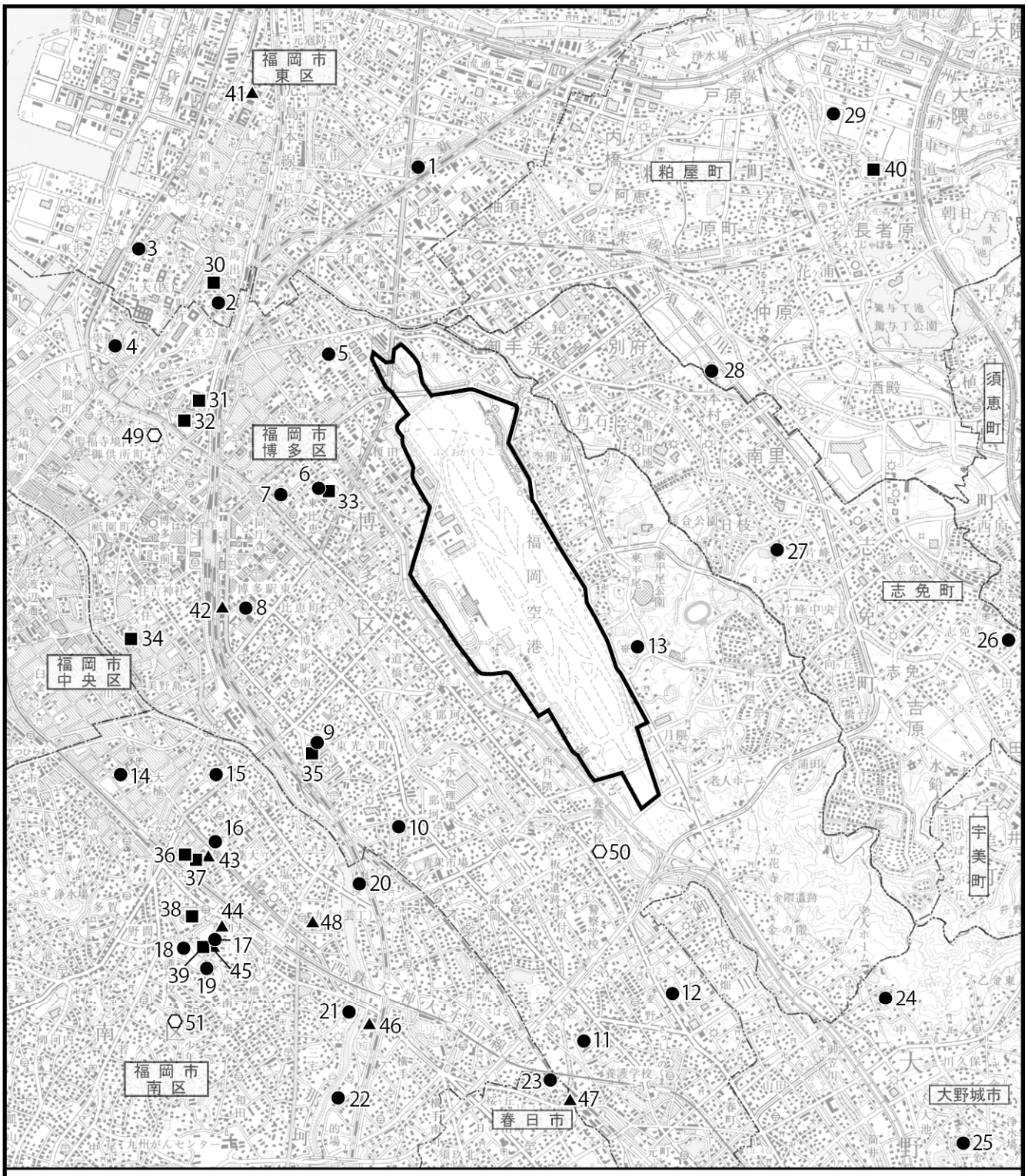



図3.2.5-1(3)　学校等位置図
（その他学校）

出典：「平成23年度 教育便覧」
（福岡県教育庁総務部総務課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f13/kyouiku-binran-23.html）

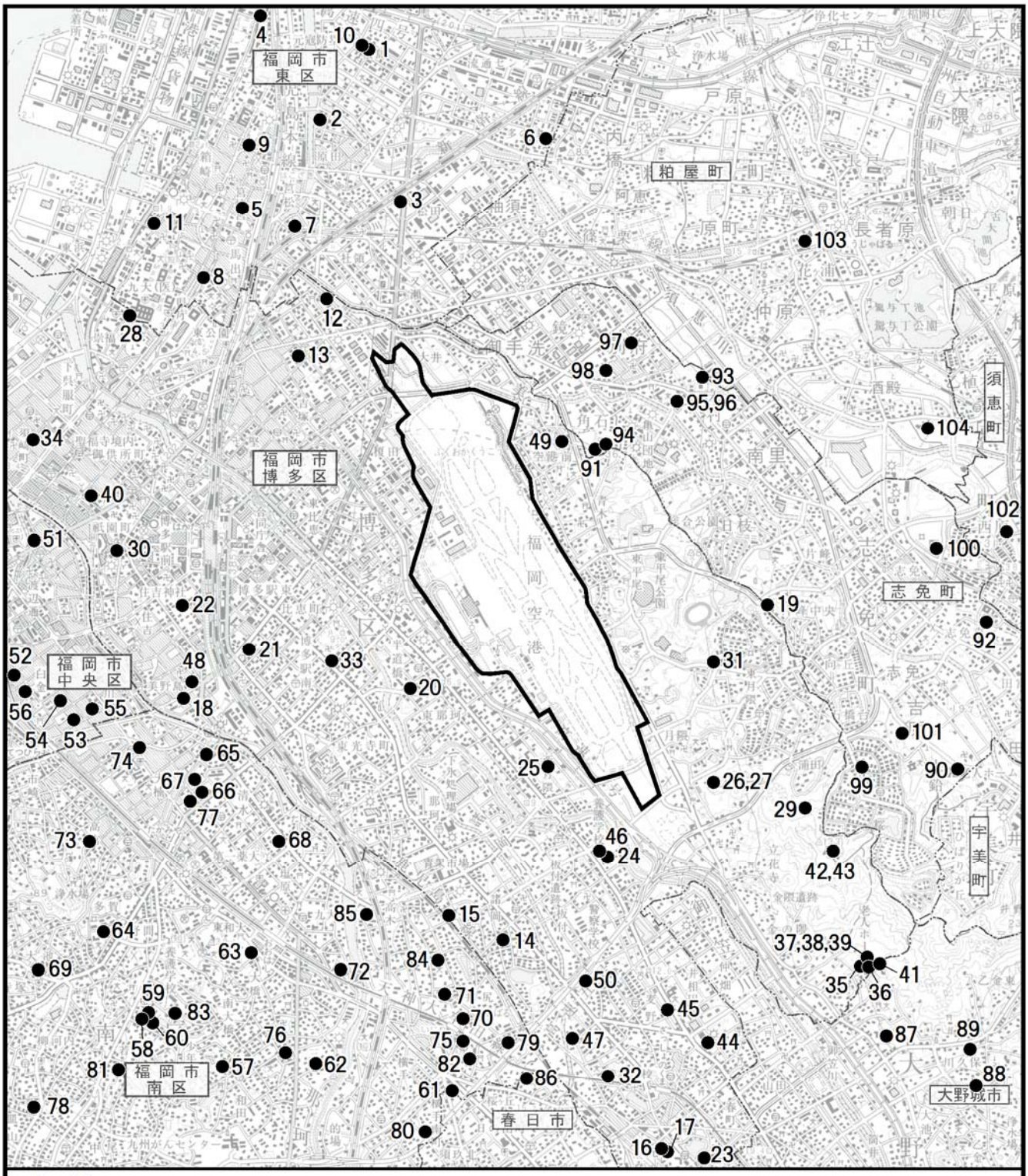
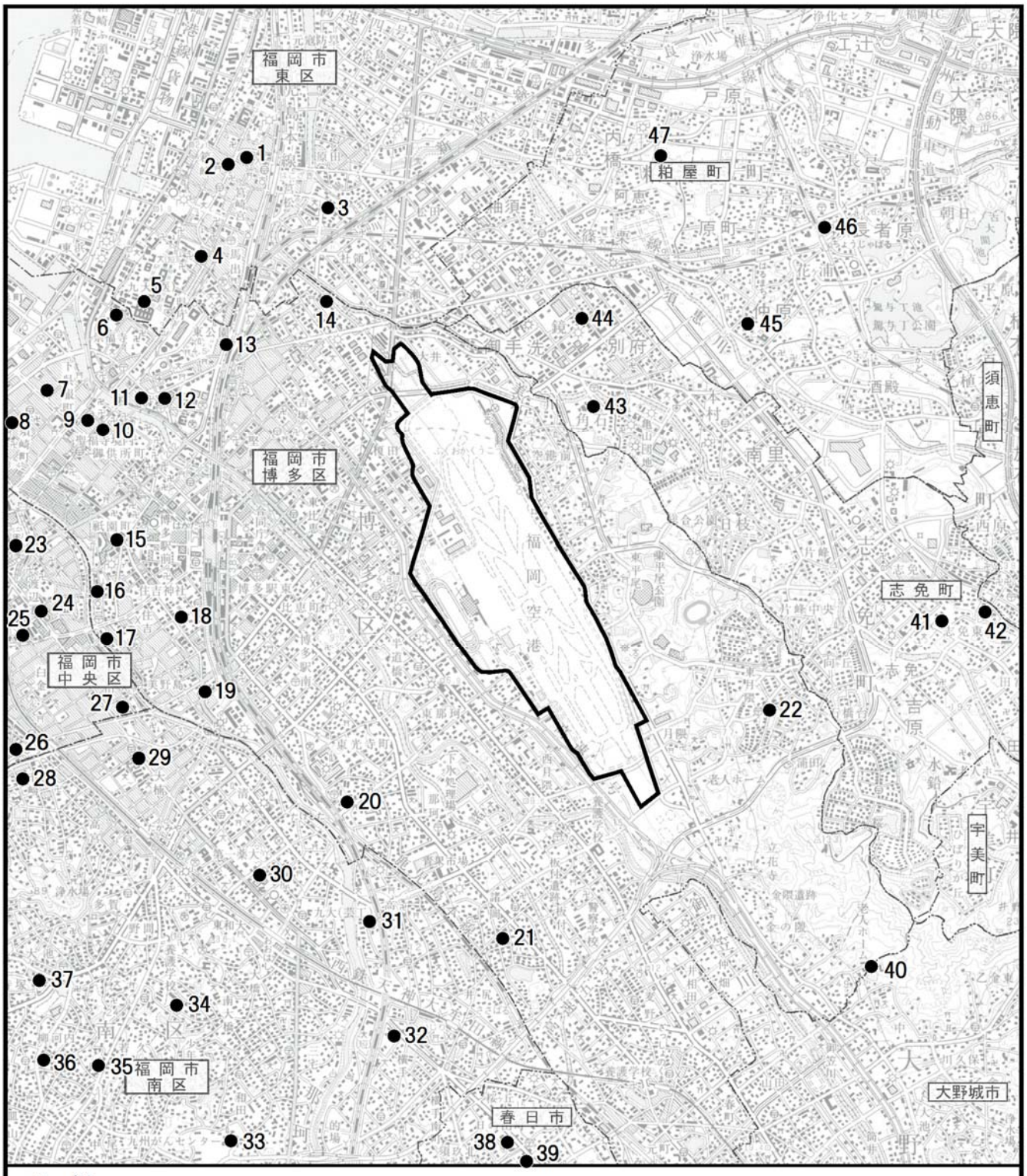



図 3.2.5-1(4)　学校等位置図
（社会福祉施設）




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：病院

出典：「福岡県病院名簿(平成24年4月1日現在)」
(福岡県ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f13/byouinnmeibo.html)

N

1:50,000

0　1　2km

図 3.2.5-1(5)　学校等位置図
(病院)

### 3.2.6 下水道の整備の状況

周辺自治体における公共下水道の整備の状況は表 3.2.6-1 に示すとおりである。下水道の普及率は春日市が最も高く 100.0%となっており、福岡市、大野城市、志免町、粕屋町においては 97%以上となっている。

**表 3.2.6-1　事業実施区域周囲の自治体における公共下水道の整備状況**

| 市町村名 | 行政人口<br>(人) | 処理人口<br>(人) | 整備面積<br>(ha) | 普及率<br>(%) |
|---|---|---|---|---|
| 福岡市 | 1,409,297 | 1,402,300 | 16,627 | 99.5 |
| 春日市 | 108,974 | 108,974 | 1,363 | 100.0 |
| 大野城市 | 95,616 | 95,546 | 1,394 | 99.9 |
| 宇美町 | 37,903 | 32,542 | 638 | 85.9 |
| 志免町 | 43,913 | 43,625 | 766 | 99.3 |
| 須恵町 | 26,382 | 16,000 | 307 | 60.6 |
| 粕屋町 | 42,628 | 41,472 | 697 | 97.3 |

(注)行政人口は平成 23 年 3 月 31 日現在。
出典：「福岡県下水道整備状況」(福岡県建築都市部下水道課ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/d11/18seibi-jokyo.html)

### 3.2.7 環境の保全を目的として法令等により指定された地域その他の対象及び当該対象に係る規制の内容その他の状況

#### (1) 環境基本法に基づく環境基準

##### 1) 大気汚染に係る環境基準

「環境基本法」(平成 5 年 11 月法律第 91 号　最終改正　平成 24 年 6 月法律第 47 号)第 16 条第 1 項の規定に基づき、大気汚染に係る環境上の条件について、人の健康を保護する上で維持することが望ましい基準として、二酸化いおう、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、二酸化窒素、光化学オキシダント、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン及び微小粒子状物質の 10 物質に関して、それぞれ環境基準が設定されている。

大気汚染に係る環境基準は、表 3.2.7-1 に示すとおりである。

**表 3.2.7-1　大気汚染に係る環境基準**

| 物質 | 環境上の条件 |
|---|---|
| 二酸化いおう | 1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。 |
| 一酸化炭素 | 1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。 |
| 浮遊粒子状物質 | 1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m$^3$ 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m$^3$ 以下であること。 |
| 二酸化窒素 | 1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。 |
| 光化学オキシダント | 1 時間値が 0.06ppm 以下であること。 |
| ベンゼン | 1 年平均値が 0.003mg/m$^3$ 以下であること。 |
| トリクロロエチレン | 1 年平均値が 0.2mg/m$^3$ 以下であること。 |
| テトラクロロエチレン | 1 年平均値が 0.2mg/m$^3$ 以下であること。 |
| ジクロロメタン | 1 年平均値が 0.15mg/m$^3$ 以下であること。 |
| 微小粒子状物質 | 1 年平均値が 15μg/m$^3$ 以下であり、かつ、1 日平均値が 35μg/m$^3$ 以下であること。 |

備考

1. 環境基準は、工業専用地域、車道その他一般公衆が通常生活していない地域または場所については、適用しない。
2. 浮遊粒子状物質とは大気中に浮遊する粒子状物質であってその粒径が 10μm以下のものをいう。
3. 二酸化窒素について、1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内にある地域にあっては、原則としてこのゾーン内において現状程度の水準を維持し、又はこれを大きく上回ることとならないよう努めるものとする。
4. 光化学オキシダントとは、オゾン、パーオキシアセチルナイトレート、その他の光化学反応により生成される酸化性物質(中性ヨウ化カリウム溶液からヨウ素を遊離するものに限り、二酸化窒素を除く。) をいう。
5. ベンゼン、トリクロロエチレン及びテトラクロロエチレンによる大気の汚染に係る環境基準は、継続的に摂取される場合には人の健康を損なうおそれがある物質に係るものであることにかんがみ、将来にわたって人の健康に係る被害が未然に防止されるようにすることを旨として、その維持又は早期達成に努めるものとする。
6. 微小粒子状物質とは、大気中に浮遊する粒子状物質であって、粒径が 25μm の粒子を 50%の割合で分離できる分粒装置を用いて、より粒径の大きい粒子を除去した後に採取される粒子をいう。

出典:「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和 48 年 5 月 8 日　環告第 25 号　最終改正　平成 8 年環告第 73 号)
「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和 53 年 7 月 11 日　環告第 38 号　最終改正　平成 8 年環告第 74 号)
「ベンゼン等による大気の汚染に係る環境基準について」(平成 9 年 2 月 4 日　環告第 4 号　最終改正　平成 13 年環告第 30 号)
「微小粒子状物質による大気の汚染に係る環境基準について」(平成 21 年 9 月 9 日　環告第 33 号)

### 2) 水質汚濁に係る環境基準

「環境基本法」第 16 条第 1 項の規定に基づき、水質汚濁に係る環境上の条件について、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として、「人の健康の保護に関する環境基準」及び「生活環境の保全に関する環境基準」が定められている。

「人の健康の保護に関する環境基準」は全ての公共用水域に適用され、「生活環境の保全に関する環境基準」は河川、湖沼及び海域別に水域の利用目的に応じて設定されている。

水質汚濁に係る環境基準は表 3.2.7-2 に、事業実施区域周囲の河川等における環境基準に係る水域類型の指定状況は図 3.2.7-1 に示すとおりである。

**表 3.2.7-2(1)　水質汚濁に係る環境基準**

○人の健康の保護に関する環境基準

| 項目 | 基準値 | 項目 | 基準値 |
|---|---|---|---|
| カドミウム | 0.003mg/L 以下 | 1,1,2-トリクロロエタン | 0.006mg/L 以下 |
| 全シアン | 検出されないこと。 | トリクロロエチレン | 0.03mg/L 以下 |
| 鉛 | 0.01mg/L 以下 | テトラクロロエチレン | 0.01mg/L 以下 |
| 六価クロム | 0.05mg/L 以下 | 1,3-ジクロロプロペン | 0.002mg/L 以下 |
| 砒素 | 0.01mg/L 以下 | チウラム | 0.006mg/L 以下 |
| 総水銀 | 0.0005mg/L 以下 | シマジン | 0.003mg/L 以下 |
| アルキル水銀 | 検出されないこと。 | チオベンカルブ | 0.02mg/L 以下 |
| ＰＣＢ | 検出されないこと。 | ベンゼン | 0.01mg/L 以下 |
| ジクロロメタン | 0.02mg/L 以下 | セレン | 0.01mg/L 以下 |
| 四塩化炭素 | 0.002mg/L 以下 | 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | 10mg/L 以下 |
| 1,2-ジクロロエタン | 0.004mg/L 以下 | ふっ素 | 0.8mg/L 以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン | 0.1mg/L 以下 | ほう素 | 1mg/L 以下 |
| シス-1,2-ジクロロエチレン | 0.04mg/L 以下 | 1,4 ジオキサン | 0.05mg/L 以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | 1 mg/L 以下 | | |

備考

1. 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。
2. 「検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。
3. 海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用しない。
4. 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、日本工業規格 K0102(以下「規格」という)43.2.1、43.2.3 又は 43.2.5 により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数 0.2259 を乗じたものと規格 43.1 により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数 0.3045 を乗じたものの和とする。

出典：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年 12 月 28 日　環告第 59 号　最終改正　平成 24 年環告第 84 号）

## 表 3.2.7-2(2)　水質汚濁に係る環境基準

○生活環境の保全に関する環境基準＜河川(湖沼を除く)＞

ア

| 項目／類型 | 利用目的の適応性 | 基準値 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 水素イオン濃度(pH) | 生物化学的酸素要求量(BOD) | 浮遊物質量(SS) | 溶存酸素量(DO) | 大腸菌群数 |
| AA | 水道１級<br>自然環境保全及び A 以下の欄に掲げるもの | 6.5 以上<br>8.5 以下 | 1mg/L 以下 | 25mg/L 以下 | 7.5mg/L<br>以上 | 50MPN<br>/100ml<br>以下 |
| A | 水道２級、水産１級<br>水浴及び B 以下の欄に掲げるもの | 6.5 以上<br>8.5 以下 | 2mg/L 以下 | 25mg/L 以下 | 7.5mg/L<br>以上 | 1,000MPN<br>/100ml<br>以下 |
| B | 水道３級、水産２級<br>及びC以下の欄に掲げるもの | 6.5 以上<br>8.5 以下 | 3mg/L 以下 | 25mg/L 以下 | 5mg/L 以上 | 5,000MPN<br>/100ml<br>以下 |
| C | 水産３級<br>工業用水1級及びD以下の欄に掲げるもの | 6.5 以上<br>8.5 以下 | 5mg/L 以下 | 50mg/L 以下 | 5mg/L 以上 | － |
| D | 工業用水２級<br>農業用水及び E の欄に掲げるもの | 6.0 以上<br>8.5 以下 | 8mg/L 以下 | 100mg/L<br>以下 | 2mg/L 以上 | － |
| E | 工業用水３級<br>環境保全 | 6.0 以上<br>8.5 以下 | 10mg/L 以下 | ごみ等の浮遊が認められないこと。 | 2mg/L 以上 | － |

備考
1. 基準値は、日間平均値とする(湖沼、海域もこれに準ずる)。
2. 農業用利水点については、水素イオン濃度 6.0 以上 7.5 以下、溶存酸素量 5mg/L 以上とする(湖沼もこれに準ずる)。

(注)
1. 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
2. 水道１級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
   水道２級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
   水道３級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
3. 水産１級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産２級及び水産３級の水産生物用
   水産２級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産３級の水産生物用
   水産３級：コイ、フナ等、β－中腐水性水域の水産生物用
4. 工業用水１級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
   工業用水２級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
   工業用水３級：特殊な浄水操作を行うもの
5. 環境保全：国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む。)において不快感を生じない限度

出典：「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和 46 年 12 月 28 日　環告第 59 号　最終改正　平成 24 年環告第 84 号)

イ

| 項目／類型 | 水生生物の生息状況の適応性 | 基準値 |
|---|---|---|
| | | 全亜鉛 |
| 生物 A | イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域 | 0.03mg/L 以下 |
| 生物特 A | 生物 A の水域のうち、生物 A の欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域 | 0.03mg/L 以下 |
| 生物 B | コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域 | 0.03mg/L 以下 |
| 生物特 B | 生物 A 又は生物 B の水域のうち、生物 B の欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域 | 0.03mg/L 以下 |

(注)1. 基準値は、年間平均値とする（湖沼、海域もこれに準ずる）。

出典：「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和 46 年 12 月 28 日　環境庁告示第 59 号　最終改正　平成 24 年環告第 84 号)

## 表 3.2.7-2(3)　水質汚濁に係る環境基準

○生活環境の保全に関する環境基準

＜湖沼(天然湖沼及び貯水量が 1,000 万 $m^3$ 以上であり、かつ、水の滞留時間が 4 日以上である人工湖)＞

ア

| 類型＼項目 | 利用目的の適応性 | 基準値 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 水素イオン濃度 (pH) | 化学的酸素要求量 (COD) | 浮遊物質量 (SS) | 溶存酸素量 (DO) | 大腸菌群数 |
| AA | 水道1級<br>水産1級<br>自然環境保全及び A 以下の欄に掲げるもの | 6.5 以上<br>8.5 以下 | 1mg/L 以下 | 1mg/L 以下 | 7.5mg/L 以上 | 50MPN/100mL 以下 |
| A | 水道2級、3級<br>水産2級<br>水浴及び B 以下の欄に掲げるもの | 6.5 以上<br>8.5 以下 | 3mg/L 以下 | 5mg/L 以下 | 7.5mg/L 以上 | 1,000MPN/100mL 以下 |
| B | 水産3級<br>工業用水1級<br>農業用水及び C の欄に掲げるもの | 6.5 以上<br>8.5 以下 | 5mg/L 以下 | 15mg/L 以下 | 5mg/L 以上 | － |
| C | 工業用水2級<br>環境保全 | 6.0 以上<br>8.5 以下 | 8mg/L 以下 | ごみ等の浮遊が認められないこと。 | 2mg/L 以上 | － |
| 備考)水産1級、水産2級及び水産3級については、当分の間、浮遊物質量の項目の基準値は適用しない。 | | | | | | |

(注)1.自然環境保全：自然探勝等の環境保全
2.水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
水道2級、3級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作、又は、前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
3.水産1級：ヒメマス等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
水産2級：サケ科魚類及びアユ等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産3級の水産生物用
水産3級：コイ、フナ等富栄養湖型の水域の水産生物用
4.工業用水1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
工業用水2級：薬品注入等による高度の浄水操作、又は、特殊な浄水操作を行うもの
5.環境保全：国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む。)において不快感を生じない限度

イ

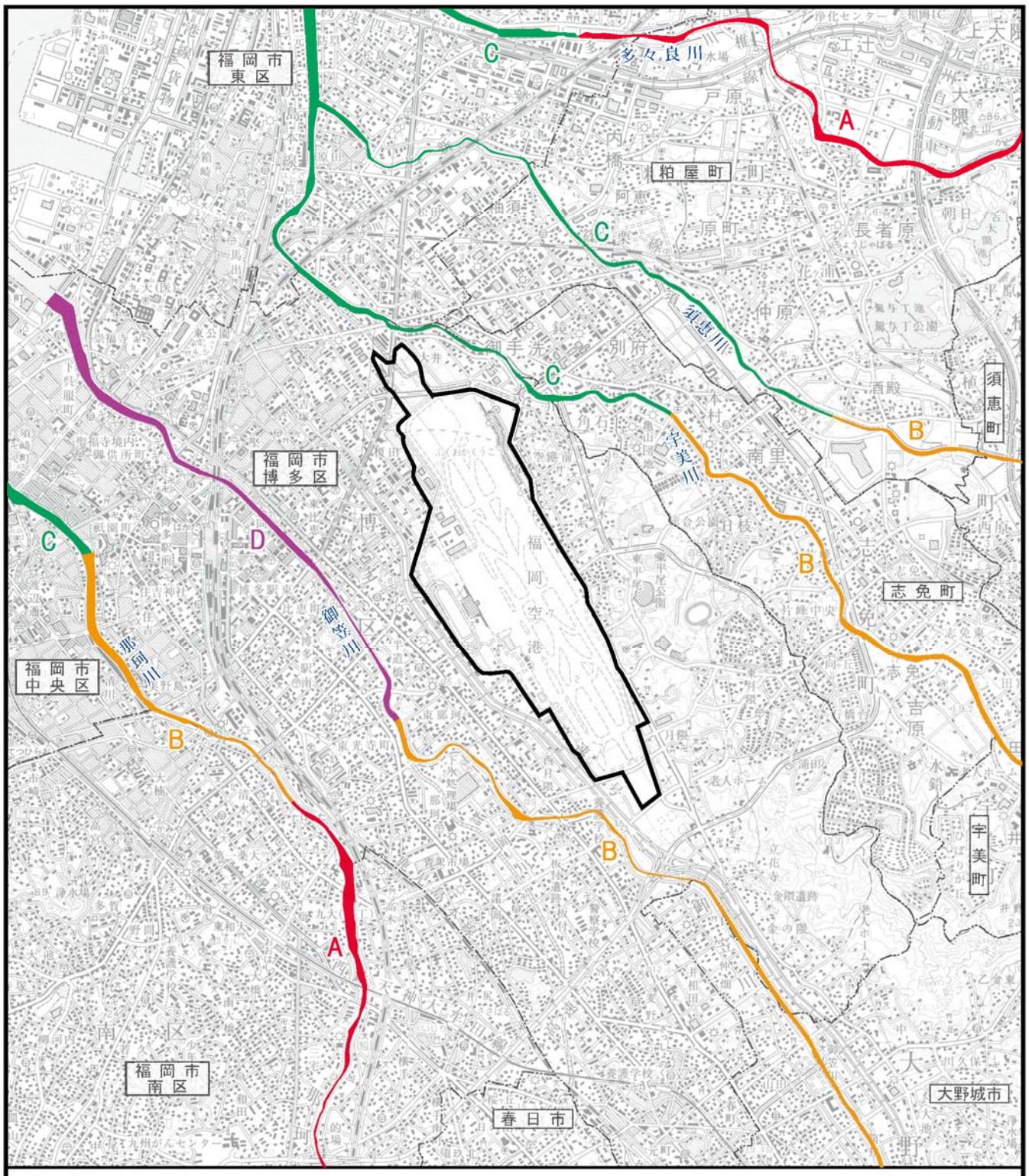
| 類型＼項目 | 利用目的の適応性 | 基準値 | |
|---|---|---|---|
| | | 全窒素 | 全燐 |
| Ⅰ | 自然環境保全及びⅡ以下の欄に掲げるもの | 0.1mg/L 以下 | 0.005mg/L 以下 |
| Ⅱ | 水道1、2、3級(特殊なものを除く。)<br>水産1種<br>水浴及びⅢ以下の欄に掲げるもの | 0.2mg/L 以下 | 0.01mg/L 以下 |
| Ⅲ | 水道3級(特殊なもの)及びⅣ以下の欄に掲げるもの | 0.4mg/L 以下 | 0.03mg/L 以下 |
| Ⅳ | 水産2種及びⅤの欄に掲げるもの | 0.6mg/L 以下 | 0.05mg/L 以下 |
| Ⅴ | 水産3種<br>工業用水<br>農業用水<br>環境保全 | 1mg/L 以下 | 0.1mg/L 以下 |
| 備考)1.基準値は、年間平均値とする。<br>2.水域類型の指定は、湖沼植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある湖沼について行うものとし、全窒素の項目の基準値は、全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼について適用する。<br>3.農業用水については、全燐の項目の基準値は適用しない。 | | | |

(注)1.自然環境保全：自然探勝等の環境保全
2.水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
水道2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
水道3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの(「特殊なもの」とは、臭気物質の除去が可能な特殊な浄水操作を行うものをいう。)
3.水産1種：サケ科魚類及びアユ等の水産生物用並びに水産2種及び水産3種の水産生物用
水産2種：ワカサギ等の水産生物用及び水産3種の水産生物用
水産3種：コイ、フナ等の水産生物用
4.環境保全：国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む。)において不快感を生じない限度

ウ

| 項目<br>類型 | 水生生物の生息状況の適応性 | 基準値<br>全亜鉛 |
|---|---|---|
| 生物 A | イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域 | 0.03mg/L 以下 |
| 生物特 A | 生物 A の水域のうち、生物 A の欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域 | 0.03mg/L 以下 |
| 生物 B | コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域 | 0.03mg/L 以下 |
| 生物特 B | 生物 A 又は生物 B の水域のうち、生物 B の欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域 | 0.03mg/L 以下 |

出典:「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和 46 年 12 月 28 日　環告第 59 号　最終改正　平成 24 年環告第 84 号)




凡　例

- ：対象事業実施区域
- ：市町村界
- ：区界

河川類型指定

- ：A類型
- ：B類型
- ：C類型
- ：D類型

N

1：50,000

0　1　2km

出典：「水域別環境基準類型指定」(福岡県ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/ruikeisitei.html)

図 3.2.7-1　水域類型指定状況

### 3) 地下水の水質汚濁に係る環境基準

「環境基本法」第 16 条第 1 項の規定に基づき、地下水の水質汚濁に係る環境上の条件について、人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準として環境基準が定められている。

地下水の水質汚濁に係る環境基準は表 3.2.7-3 に示すとおりである。

**表 3.2.7-3　地下水の水質汚濁に係る環境基準**

○人の健康の保護に関する環境基準

| 項 目 | 基 準 値 | 項 目 | 基 準 値 |
|---|---|---|---|
| カドミウム | 0.003mg/L 以下 | 1,1,1-トリクロロエタン | 1mg/L 以下 |
| 全シアン | 検出されないこと。 | 1,1,2-トリクロロエタン | 0.006mg/L 以下 |
| 鉛 | 0.01mg/L 以下 | トリクロロエチレン | 0.03mg/L 以下 |
| 六価クロム | 0.05mg/L 以下 | テトラクロロエチレン | 0.01mg/L 以下 |
| 砒素 | 0.01mg/L 以下 | 1,3-ジクロロプロペン | 0.002mg/L 以下 |
| 総水銀 | 0.0005mg/L 以下 | チウラム | 0.006mg/L 以下 |
| アルキル水銀 | 検出されないこと。 | シマジン | 0.003mg/L 以下 |
| ＰＣＢ | 検出されないこと。 | チオベンカルブ | 0.02mg/L 以下 |
| ジクロロメタン | 0.02mg/L 以下 | ベンゼン | 0.01mg/L 以下 |
| 四塩化炭素 | 0.002mg/L 以下 | セレン | 0.01mg/L 以下 |
| 塩化ビニルモノマー | 0.002mg/L 以下 | 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 | 10mg/L 以下 |
| 1,2-ジクロロエタン | 0.004mg/L 以下 | ふっ素 | 0.8mg/L 以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン | 0.1mg/L 以下 | ほう素 | 1mg/L 以下 |
| 1,2-ジクロロエチレン | 0.04mg/L 以下 | 1,4-ジオキサン | 0.05mg/L 以下 |

備考

1. 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。
2. 「検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。
3. 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、日本工業規格(以下「規格」という)K0102 の 43.2.1、43.2.3 又は 43.2.5 により測定された硝酸イオンの濃度に換算係数 0.2259 を乗じたものと規格 43.1 により測定された亜硝酸イオンの濃度に換算係数 0.3045 を乗じたものの和とする。
4. 1,2-ジクロロエチレンの濃度は、規格 K0125 の 5.1、5.2 又は 5.3.2 により測定されたシス体の濃度と規格 K0125 の 5.1、5.2 又は 5.3.1 により測定されたトランス体の濃度の和とする。

出典：「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成 9 年 3 月 13 日　環告第 10 号　最終改正　平成 24 年環告第 85 号）

### 4) 騒音に係る環境基準

#### ア. 一般住居環境

「環境基本法」第 16 条第 1 項の規定に基づき、騒音に係る環境上の条件について、生活環境を保全し、人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準として環境基準が定められている。

騒音に係る環境基準は表 3.2.7-4 に示すとおりである。

また、事業実施区域周囲における騒音に係る環境基準の地域類型は図 3.2.7-2 に示すとおりである。

**表 3.2.7-4(1) 騒音に係る環境基準**

・道路に面する地域以外の地域(一般地域)

| 地域の類型 | 基準値 | |
|---|---|---|
| | 昼間 | 夜間 |
| AA | 50 デシベル以下 | 40 デシベル以下 |
| A 及び B | 55 デシベル以下 | 45 デシベル以下 |
| C | 60 デシベル以下 | 50 デシベル以下 |

(注)1. 時間の区分は、昼間を午前 6 時から午後 10 時までの間とし、夜間を午後 10 時から翌日の午前 6 時までの間とする。
2. AA を当てはめる地域は、療養施設、社会福祉施設等が集合して設置される地域など特に静穏を要する地域とする。
3. A を当てはめる地域は、専ら住居の用に供される地域とする。
4. B を当てはめる地域は、主として住居の用に供される地域とする。
5. C を当てはめる地域は、相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域とする。

**表 3.2.7-4(2) 騒音に係る環境基準(道路に面する地域)**

| 地域の区分 | 基準値 | |
|---|---|---|
| | 昼間 | 夜間 |
| A 地域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する地域 | 60 デシベル以下 | 55 デシベル以下 |
| B 地域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する地域及び C 地域のうち車線を有する道路に面する地域 | 65 デシベル以下 | 60 デシベル以下 |
| 備考<br>車線とは、1 縦列の自動車が安全かつ円滑に走行するために必要な一定の幅員を有する帯状の車道部分をいう。 | | |

**表 3.2.7-4(3) 騒音に係る環境基準(幹線交通を担う道路に隣接する空間)**

| 基準値 | |
|---|---|
| 昼間 | 夜間 |
| 70 デシベル以下 | 65 デシベル以下 |
| 備考<br>個別の住居等において騒音の影響を受けやすい面の窓を主として閉めた生活が営まれていると認められるときは、屋内へ透過する騒音に係る基準(昼間にあっては 45 デシベル以下、夜間にあっては 40 デシベル以下)によることができる。 | |

(注)1.「幹線交通を担う道路」とは、次に掲げる道路をいう。
1) 道路法(昭和 27 年法律第 180 号)第 3 条に規定する高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び市町村道(市町村道にあっては 4 車線以上の区間に限る。)。
2) 前項に掲げる道路を除くほか、一般自動車道であって都市計画法施行規則(昭和 44 年建設省令第 49 号)第 7 条第 1 項に定める自動車専用道路。
2.「幹線道路を担う道路に近接する空間」とは、次の車線数の区分に応じ道路端からの距離によりその範囲を特定するものとする。
1) 2 車線以下の車線を有する幹線交通を担う道路 15m
2) 2 車線を超える車線を有する幹線交通を担う道路 20m

出典:「騒音に係る環境基準について」(平成 10 年 9 月 30 日 環告第 64 号 最終改正 平成 17 年環告第 45 号)

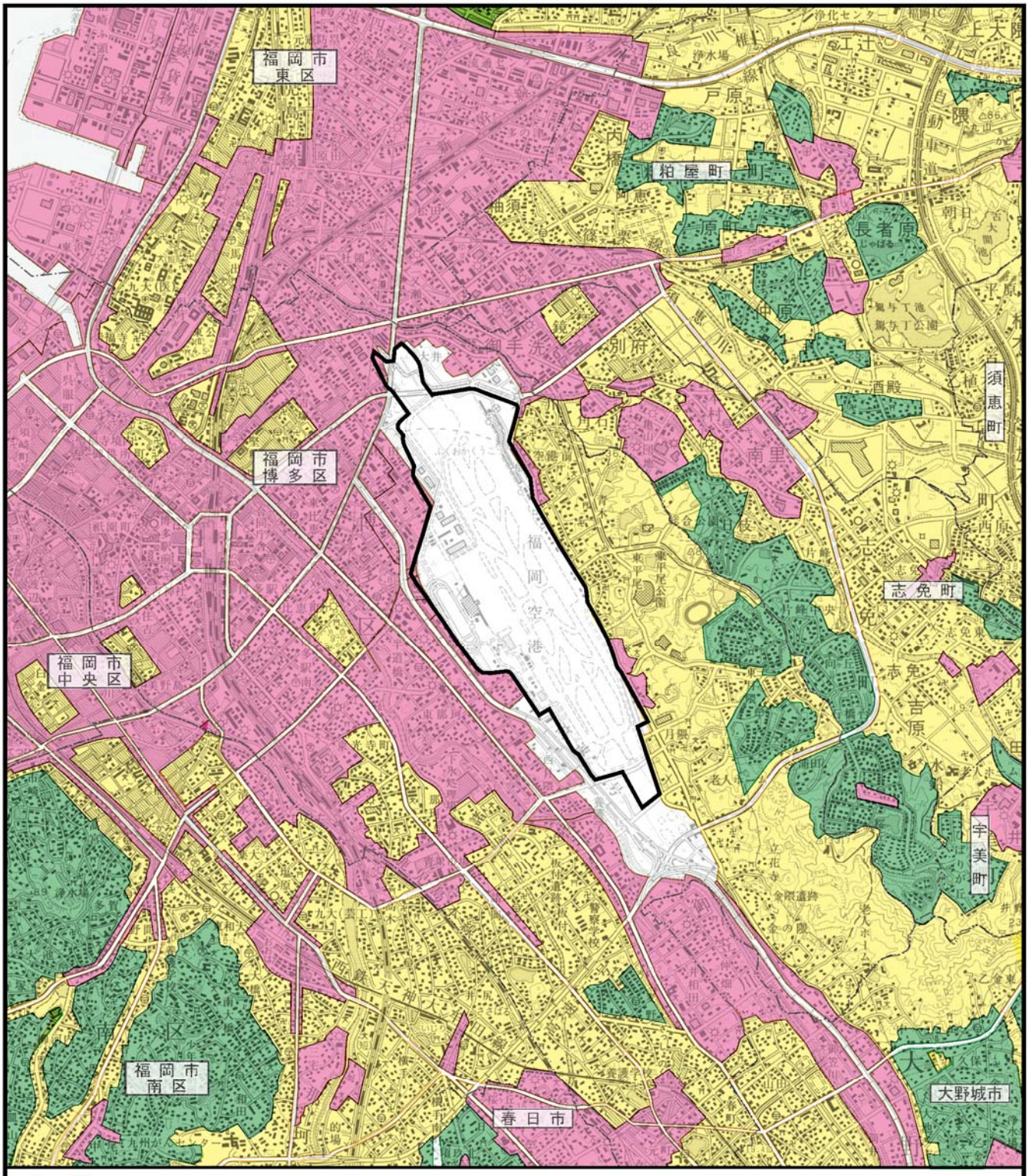



図 3.2.7-2　騒音に係る
環境基準類型指定状況

出典：「騒音規制法及び振動規制法に係る指定地域図」（平成24年5月 福岡市）
「騒音規制区域図」（春日市）
「騒音規制区域図」（大野城市）
「騒音規制区域指定図」（宇美町）
「騒音規制法に基づく規制地域の指定図」（志免町）
「須恵町全図」（須恵町）
「粕屋町全図」（須恵町全図）

### イ．航空機騒音

「環境基本法」第 16 条第 1 項の規定に基づき、航空機騒音に係る環境上の条件について、生活環境を保全し、人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準として環境基準が定められている。

航空機騒音に係る環境基準は表 3.2.7-5 に示すとおりである。

また、事業実施区域周囲における航空機騒音に係る環境基準の地域類型は、表 3.2.7-6 及び図 3.2.7-3 に示すとおりである。

なお、航空機騒音に係る環境基準については、環境省より平成 19 年 12 月 17 日付で一部改正が告示されている。改正内容について表 3.2.7-7 に示す。

**表 3.2.7-5　航空機騒音に係る環境基準**

| 地域の類型 | 基準値(単位 WECPNL) |
|---|---|
| Ⅰ | 70 以下 |
| Ⅱ | 75 以下 |

(注) Ⅰを当てはめる地域は専ら住宅の用に供される地域とし、Ⅱをあてはめる地域はⅠ以外の地域であって通常の成果を保全する必要がある地域とする。

出典：「航空機騒音に係る環境基準について」(昭和 48 年 12 月 27 日環境告第 154 号　最終改正　平成 12 年環告第 78 号)

**表 3.2.7-6　航空機騒音に係る環境基準の地域類型**

| 地域の類型 | 当てはめる地域 |
|---|---|
| Ⅰ | 福岡市（東区、博多区、中央区、南区)、筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川町、宇美町、志免町、須恵町、粕屋町のうち、第 1 種低層住居専用地域、第 2 種低層住居専用地域、第 1 種中高層住居専用地域及び第 2 種中高層住居専用地域 |
| Ⅱ | 福岡市（東区、博多区、中央区、南区)、筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川町、宇美町、志免町、須恵町、粕屋町のうち、類型Ⅰをあてはめた地域以外の地域。ただし、工業専用地域、市街化調整区域にある森林地域（国土利用計画法)、河川区域（河川法)、海上、湖沼及び福岡空港敷地は除く。 |

出典：「航空機騒音に係る環境基準の地域の類型ごとに指定する地域」(平成 4 年 4 月 6 日福岡県告示第 672 号　最終改正　平成 18 年福岡県告示第 523 号)

**表 3.2.7-7　航空機騒音に係る環境基準の改正内容**

| 地域の類型 | 基準値 |
|---|---|
| Ⅰ | 57 デシベル以下 |
| Ⅱ | 62 デシベル以下 |

(注) Ⅰを当てはめる地域は専ら住宅の用に供される地域とし、Ⅱをあてはめる地域はⅠ以外の地域であって通常の成果を保全する必要がある地域とする。

備考:1. 環境基準の改正により、評価指標を従来の WECPNL から時間帯補正等価騒音レベル(Lden)へ変更する。

2. 1 日平均着陸回数が 10 回以下の飛行場についても適用対象とする。

3. 平成 25 年 4 月 1 日施行

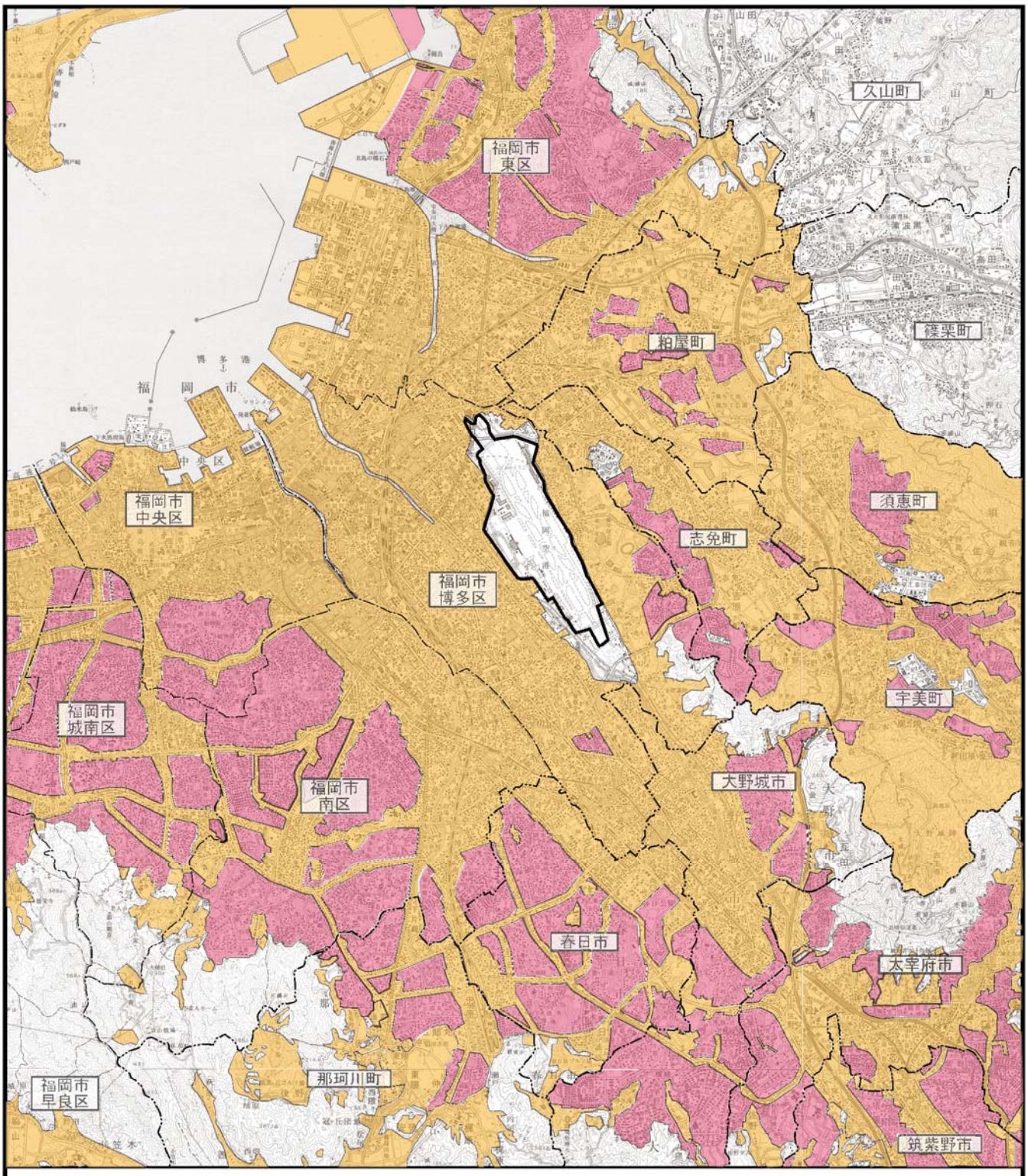



図 3.2.7-3　航空機騒音に係る
環境基準の類型指定状況

### 5) 土壌の汚染に係る環境基準

「環境基本法」第 16 条第 1 項の規定に基づき、土壌に係る環境上の条件について、生活環境を保全し、人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準として、カドミウム、全シアン、有機燐、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、銅等の 27 項目に関して環境基準が定められている。

土壌の汚染に係る環境基準は表 3.2.7-8 に示すとおりである。

**表 3.2.7-8　土壌の汚染に係る環境基準**

| 項　目 | 環境上の条件 |
|---|---|
| カドミウム | 検液 1L につき 0.01mg 以下であり、かつ、農用地においては、米１kg につき 0.4mg 未満であること。 |
| 全シアン | 検液中に検出されないこと。 |
| 有機燐 | 検液中に検出されないこと。 |
| 鉛 | 検液 1L につき 0.01mg 以下であること。 |
| 六価クロム | 検液 1L につき 0.05mg 以下であること。 |
| 砒素 | 検液 1L につき 0.01mg 以下であり、かつ、農用地(田に限る。)においては、土壌１ｋｇにつき 15mg 未満であること。 |
| 総水銀 | 検液 1L につき 0.0005mg 以下であること。 |
| アルキル水銀 | 検液中に検出されないこと。 |
| ＰＣＢ | 検液中に検出されないこと。 |
| 銅 | 農用地(田に限る。)において、土壌１ｋｇにつき 125mg 未満であること。 |
| ジクロロメタン | 検液 1L につき 0.02mg 以下であること。 |
| 四塩化炭素 | 検液 1L につき 0.002mg 以下であること。 |
| 1,2-ジクロロエタン | 検液 1L につき 0.004mg 以下であること。 |
| 1,1-ジクロロエチレン | 検液 1L につき 0.02mg 以下であること。 |
| シス-1,2-ジクロロエチレン | 検液 1L につき 0.04mg 以下であること。 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | 検液 1L につき１mg 以下であること。 |
| 1,1,2-トリクロロエタン | 検液 1L につき 0.006mg 以下であること。 |
| トリクロロエチレン | 検液 1L につき 0.03mg 以下であること。 |
| テトラクロロエチレン | 検液 1L につき 0.01mg 以下であること。 |
| 1,3-ジクロロプロペン | 検液 1L につき 0.002mg 以下であること。 |
| チウラム | 検液 1L につき 0.006mg 以下であること。 |
| シマジン | 検液 1L につき 0.003mg 以下であること。 |
| チオベンカルブ | 検液 1L につき 0.02mg 以下であること。 |
| ベンゼン | 検液 1L につき 0.01mg 以下であること。 |
| セレン | 検液 1L につき 0.01mg 以下であること。 |
| ふっ素 | 検液 1L につき 0.8mg 以下であること。 |
| ほう素 | 検液 1L につき 1mg 以下であること。 |

備考

1. 環境上の条件のうち検液中濃度に係るものにあっては付表に定める方法により検液を作成し、これを用いて測定を行うものとする。
2. カドミウム、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、セレン、ふっ素及びほう素に係る環境上の条件のうち検液中濃度に係る値にあっては、汚染土壌が地下水面から離れており、かつ、原状において当該地下水中のこれらの物質の濃度がそれぞれ地下水 1L につき 0.01mg、0.01mg、0.05mg、0.01mg、0.0005mg、0.01mg、0.8mg 及び１mg を超えていない場合には、それぞれ検液 1L につき 0.03mg、0.03mg、0.15mg、0.03mg、0.0015mg、0.03mg、2.4mg 及び 3mg とする。
3. 「検液中に検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。
4. 有機燐とは、パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及び EPN をいう。

出典：「土壌の汚染に係る環境基準について」（平成 3 年 8 月 23 日　環告第 46 号　最終改正　平成 22 年環告第 37 号）

### 6) ダイオキシン類による環境基準

「ダイオキシン類対策特別措置法」(平成 11 年 7 月法律第 105 号　最終改正　平成 23 年 8 月 30 日　法律第 105 号)第 7 条の規定に基づきダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁及び土壌の汚染に係る環境上の条件につき人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準として、表 3.2.7-9 に示すとおり環境基準が定められている。

**表 3.2.7-9　ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁及び土壌の汚染に係る環境基準**

| 媒体 | 基準値 |
|---|---|
| 大気 | 0.6pg-TEQ/$m^3$ 以下 |
| 水質(水底の底質を除く。) | 1pg-TEQ/L 以下 |
| 水底の底質 | 150pg-TEQ/g 以下 |
| 土壌 | 1,000pg-TEQ/g 以下 |
| 備考<br>1. 基準値は、2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性に換算した値とする。<br>2. 大気及び水質の基準値は、年間平均値とする。<br>3. 土壌にあっては、環境基準が達成されている場合であって、土壌中のダイオキシン類の量が 250pg-TEQ/g 以上の場合には、必要な調査を実施することとする。 | |

出典：「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁及び土壌の汚染に係る環境基準について」
(平成 11 年 12 月 27 日環告第 68 号　最終改正　平成 21 年環告第 11 号)

## (2) 大気汚染に係る規制

### 1) 工事等に対する規制

「大気汚染防止法」(昭和 43 年 6 月法律第 97 号　最終改正　平成 23 年 8 月法律第 105 号)では、同法で規定するばい煙発生施設及び粉じん発生施設を設置しようとする場合に届け義務を課すほか、ばい煙の排出基準及び粉じん発生施設の構造、使用、管理に関する基準を定めている。

また、「福岡県公害防止等生活環境の保全に関する条例」(平成 14 年 12 月条例第 79 号)では「大気汚染防止法」の規模要件に該当しない小規模の施設についても、同条例で規定する、ばい煙に係る特定施設として設置する場合に届出が義務づけられ、排出基準を定めている。

事業実施区域周囲において、大気汚染防止法及び条例で規制されている物質及びその規制基準の概要は、表 3.2.7-10 に示すとおりである。

また、ばい煙発生施設又は特定物質(アンモニア等 28 物質)を発生する施設を設置している者に対して、事故が発生した場合の応急措置及び復旧義務が課せられている。

表 3.2.7-10　規制対象物質及びその規制基準の概要

| 規制物質 | | 規制基準 | 法令 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 硫黄酸化物 | | 排出口の高さ（He）及び地域ごとに定める定数 K の値に応じて規制値（排出量）を設定。<br>$q=K\times10^{-3}\times He^2$<br><br>K 値:福岡市 8.76<br>その他の市町 17.5 | 大気汚染防止法施行規則第 3 条 | 汚染地域に厳しくするため地域ごとに基準値を定めている。 |
| ばいじん | | 0.04～0.5mg/m$^3$<br>(一般排出基準) | 同第 4 条 | 施設の種類及び規模ごとに基準値を定めている。 |
| 有害物質 | カドミウム及びその化合物 | 1.0mg/m$^3$ | 同第 5 条 | 施設を指定している。 |
| | 塩素 | 30mg/m$^3$ | 同第 5 条 | 施設を指定している。 |
| | 塩化水素 | 80mg/m$^3$<br>（700mg/m$^3$） | 同第 5 条 | 施設を指定している。（）内は廃棄物焼却施設のみ。 |
| | ふっ素、ふっ化水素及びふっ化けい素 | 1.0～20mg/m$^3$ | 同第 5 条 | 施設によって 4 種の基準がある。 |
| | 鉛及びその化合物 | 10～30mg/m$^3$ | 同第 5 条 | 施設を指定している。 |
| | 窒素化合物 | 新設：60～400ppm<br>既設：130～600ppm | 同第 5 条 | 施設を指定している。 |

出典：「昭和 46 年 6 月 22 日厚生省・通商産業省令第 1 号　最終改正　平成 19 年 4 月 20 日環境省令第 11 号

### 2) 自動車排出ガスの規制

現在、規制の対象となる「自動車」として、ガソリン、液化石油ガス又は軽油を燃料とする普通自動車、小型自動車及び軽自動車並びにガソリンを燃料とする原動機付自転車が定められており、「自動車排出ガス」として、一酸化炭素、炭化水素、鉛化合物、窒素酸化物及び粒子状物質が定められている。

自動車が一定の条件で運行する場合に排出される自動車排出ガスの量の「許容限度」が定められており、自動車の種類・重量・乗車定員及びエンジンの修理、使用燃料、並びに排出形態別に応じた所定の測定方法による場合の、自動車排出ガスの排出重量又は排出濃度として定められている。

自動車排出ガスの量は、自動車の構造、装置等と密接不可分の関係にあるので、その実施については「大気汚染防止法」では直接には行わず、「道路運送車両法」（昭和 26 年 6 月法律第 185 号）に基づいて規制を行うこととし、国土交通大臣は、同法に基づく規制の実施の際に、大気汚染の防止を図るべく自動車排出ガスの量の許容限度が確保されるように考慮しなければならないこととしている。

なお、「自動車等から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減に関する特別措置法」（平成 4 年 6 月法律第 70 号　最終改正　平成 23 年 8 月法律第 105 号）において規定される窒素酸化物対策地域及び粒子状物質対策地域は、事業実施区域周囲には指定されていない。

### (3) 水質汚濁に係る規制

#### 1) 工場排水等に対する規制

特定施設を設置し、公共用水域に排出水を排出する工場・事業場に対しては、「水質汚濁防止法」(昭和 45 年 12 月法律第 138 号　最終改正　平成 23 年 8 月法律第 105 号)に基づき排出水の規制が行われている。水質汚濁防止法に基づく排水基準は表 3.2.7-11 に示すとおりである。この他、「福岡県公害防止等生活環境の保全に関する条例」及び「水質汚濁防止法第 3 条第 3 項の規定に基づく排水基準を定める条例」(昭和 48 年 3 月条例第 8 号)によっても規制対象工場・事業場の追加及び排水基準の強化(上乗せ排水基準)が定められている。

「湖沼水質保全特別措置法」(昭和 59 年法律第 61 号　最終改正平成 17 年法律第 69 号)に基づく指定湖沼及び指定地域は、事業実施区域周囲では指定されていない。

「瀬戸内海環境保全特別措置法」(昭和 48 年法律第 110 号　最終改正平成 17 年 33 号)に規定された瀬戸内海の関係府県の区域は、事業実施区域周囲には指定されていない。

**表 3.2.7-11 (1)　水質汚濁防止法に基づく排水基準(有害物質による排出水の汚染状態)**

| 有害物質の種類 | 許容限度 |
|---|---|
| カドミウム及びその化合物 | カドミウム0.1mg/L |
| シアン化合物 | シアン1mg/L |
| 有機燐化合物(パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及び EPN に限る。) | 1mg/L |
| 鉛及びその化合物 | 鉛0.1mg/L |
| 六価クロム化合物 | 六価クロム0.5mg/L |
| 砒素及びその化合物 | 砒素0.1mg/L |
| 水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物 | 水銀0.005mg/L |
| アルキル水銀化合物 | 検出されないこと。 |
| PCB | 0.003mg/L |
| トリクロロエチレン | 0.3mg/L |
| テトラクロロエチレン | 0.1mg/L |
| ジクロロメタン | 0.2mg/L |
| 四塩化炭素 | 0.02mg/L |
| 1,2-ジクロロエタン | 0.04mg/L |
| 1,1-ジクロロエチレン | 1mg/L |
| シス-1,2-ジクロロエチレン | 0.4mg/L |
| 1,1,1-トリクロロエタン | 3mg/L |
| 1,1,2-トリクロロエタン | 0.06mg/L |
| 1,3-ジクロロプロペン | 0.02mg/L |
| チウラム | 0.06mg/L |
| シマジン | 0.03mg/L |
| チオベンカルブ | 0.2mg/L |
| ベンゼン | 0.1mg/L |
| セレン及びその化合物 | セレン0.1mg/L |
| ほう素及びその化合物 | 海域以外の公共用水域に排出されるもの　ほう素10mg/L<br>海域に排出されるもの　ほう素230mg/L |
| ふっ素及びその化合物 | 海域以外の公共用水域に排出されるもの　ふっ素8mg/L<br>海域に排出されるもの　ふっ素15mg/L |
| アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 | アンモニア性窒素に0.4を乗じたもの、亜硝酸性窒素及び硝酸性窒素の合計量　100mg/L |
| 1,4-ジオキサン | 0.5mg/L |

備考)1.「検出されないこと。」とは、第 2 条の規定に基づき環境大臣が定める方法により排出水の汚染状態を検定した場合において、その結果が当該検定方法の定量限界を下回ることをいう。

2. 砒素及びその化合物についての排水基準は、水質汚濁防止法施行令及び廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令の一部を改正する政令(昭和 49 年政令第 363 号)の施行の際現にゆう出している温泉(温泉法(昭和 23 年法律第 125 号)第二条第一項に規定するものをいう。)を利用する旅館業に属する事業場に係る排出水については、当分の間、適用しない。

表 3.2.7-11 (2)　水質汚濁防止法に基づく排水基準(その他の排出水の汚染状態)

| 項　目 | 許　容　限　度 |
|---|---|
| 水素イオン濃度(水素指数) | 海域以外の公共用水域に排出されるもの　5.8以上8.6以下<br>海域に排出されるもの　5.0以上9.0以下 |
| 生物化学的酸素要求量 | 160 mg/L(日間平均120mg/L) |
| 化学的酸素要求量 | 160 mg/L(日間平均120mg/L) |
| 浮遊物質量 | 200 mg/L(日間平均150mg/L) |
| ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量) | 5 mg/L |
| ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂類含有量) | 30 mg/L |
| フェノール類含有量 | 5 mg/L |
| 銅含有量 | 3 mg/L |
| 亜鉛含有量 | 2 mg/L |
| 溶解性鉄含有量 | 10 mg/L |
| 溶解性マンガン含有量 | 10 mg/L |
| クロム含有量 | 2 mg/L |
| 大腸菌群数 | 日間平均3,000 個／$cm^3$ |
| 窒素含有量 | 120 mg/L(日間平均60mg/L) |
| 燐含有量 | 16 mg/L(日間平均8mg/L) |

備考)1.「日間平均」による許容限度は、1日の排出水の平均的な汚染状態について定めたものである。
2. この表に掲げる排水基準は、1日当たりの平均的な排出水の量が50$m^3$以上である工場又は事業場に係る排出水について適用する。
3. 水素イオン濃度及び溶解性鉄含有量についての排水基準は、硫黄鉱業(硫黄と共存する硫化鉄鉱を掘採する鉱業を含む。)に属する工場又は事業場に係る排出水については適用しない。
4. 水素イオン濃度、銅含有量、亜鉛含有量、溶解性鉄含有量、溶解性マンガン含有量及びクロム含有量についての排水基準は、水質汚濁防止法施行令及び廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令の一部を改正する政令の施行の際現にゆう出している温泉を利用する旅館業に属する事業場に係る排出水については、当分の間、適用しない。
5. 生物化学的酸素要求量についての排水基準は、海域及び湖沼以外の公共用水域に排出される排出水に限って適用し、化学的酸素要求量についての排水基準は、海域及び湖沼に排出される排出水に限って適用する。
6. 窒素含有量についての排水基準は、窒素が湖沼植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある湖沼として環境大臣が定める湖沼、海洋植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある海域(湖沼であって水の塩素イオン含有量が9,000mg/Lを超えるものを含む。以下同じ。)として環境大臣が定める海域及びこれらに流入する公共用水域に排出される排出水に限って適用する。
7. 燐含有量についての排水基準は、燐が湖沼植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある湖沼として環境大臣が定める湖沼、海洋植物プランクトンの著しい増殖をもたらすおそれがある海域として環境大臣が定める海域及びこれらに流入する公共用水域に排出される排出水に限って適用する。

### (4) 騒音に係る規制

「騒音規制法」(昭和 43 年 6 月法律第 98 号　最終改正　平成 23 年 8 月法律第 105 号)により、騒音を防止する必要があるとして都道府県知事（市の区域にあっては、市長）により指定された地域内における工場・事業場の事業活動に伴う騒音及び建設工事に伴う騒音について規制が定められている。また、道路交通騒音については措置を要請する限度が定められている。

#### 1) 特定工場等の騒音に係る規制基準

「騒音規制法」の規定に基づく特定工場等[政令で定める特定施設(金属加工機械等 11 種類)を設置する工場又は事業場]において発生する騒音の福岡県及び福岡市内の規制基準は、表 3.2.7-12 に示すとおりである。

また、事業実施区域周囲における騒音規制地域の指定状況は、図 3.2.7-4 に示すとおりである。

**表 3.2.7-12　特定工場等の騒音に係る規制基準**

| 時間の区分 / 区域の区分 | 昼間 | 朝・夕 | 夜間 |
|---|---|---|---|
| 第 1 種区域 | 50ﾃﾞｼﾍﾞﾙ以下 | 45ﾃﾞｼﾍﾞﾙ以下 | 45ﾃﾞｼﾍﾞﾙ以下 |
| 第 2 種区域 | 60ﾃﾞｼﾍﾞﾙ以下 | 50ﾃﾞｼﾍﾞﾙ以下 | 50ﾃﾞｼﾍﾞﾙ以下 |
| 第 3 種区域 | 65ﾃﾞｼﾍﾞﾙ以下 | 65ﾃﾞｼﾍﾞﾙ以下 | 55ﾃﾞｼﾍﾞﾙ以下 |
| 第 4 種区域 | 70ﾃﾞｼﾍﾞﾙ以下 | 70ﾃﾞｼﾍﾞﾙ以下 | 65ﾃﾞｼﾍﾞﾙ以下 |

(注)1. 時間の区分は以下のとおりである。

朝：午前 6 時から午前 8 時　昼間：午前 8 時から午後 7 時　夕：午後 7 時から午後 11 時

夜間：午後 11 時から翌日の午前 6 時

2. 第 1 種、第 2 種、第 3 種及び第 4 種区域とは、次に掲げる区域をいい、区域毎に地域が指定されている。

- 第 1 種区域：良好な住居の環境を保全するため、特に静穏の保持を必要とする区域
- 第 2 種区域：住居の用に供されているため、静穏の保持を必要とする区域
- 第 3 種区域：住居の用にあわせて商業、工業等の用に供されている区域であって、その区域内の住民の生活環境を保全するため、騒音の発生を防止する必要がある区域
- 第 4 種区域：主として工業等の用に供されている区域であって、その区域内の住民の生活環境を悪化させないため、著しい騒音の発生を防止する必要がある区域

3. 第 2 種区域、第 3 種区域又は第 4 種区域の区域内に所在する学校教育法第 1 条に規定する学校、児童福祉法第 7 条に規定する保育所、医療法第 1 条の 5 第 1 項に規定する病院及び同条第 2 項に規定する診療所のうちの患者を入院させるための施設を有するもの、図書館法第 2 条第 1 項に規定する図書館並びに老人福祉法第 5 条の 3 に規定する特別養護老人ホームの敷地の周囲おおむね 50 メートルの区域内における規制基準は、当該各欄に定める当該値から 5 デシベルを減じた値とする。

(昭和 61 年 11 月 15 日　福岡県告示第 1713 号　最終改正　平成 23 年 3 月 23 日告示第 526 号)

### 2) 特定建設作業に伴って発生する騒音に係る規制

「騒音規制法」の規定に基づく、指定区域内における特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準は、表 3.2.7-13 に示すとおりである。

また、事業実施区域周囲における騒音規制地域の指定状況は、図 3.2.7-4 に示すとおりである。

**表 3.2.7-13　特定建設作業に伴って発生する騒音に係る規制基準**

| 規制種別 | 区域 | 基準 |
|---|---|---|
| 基準値 | 第1号区域 | 85デシベルを超える大きさのものでないこと。 |
| | 第2号区域 | |
| 作業時刻 | 第1号区域 | 午後7時から翌日の午前7時までの時間内でないこと。 |
| | 第2号区域 | 午後10時から翌日の午前6時までの時間内でないこと。 |
| 1日当たりの作業時間 | 第1号区域 | 1日10時間を超えないこと。 |
| | 第2号区域 | 1日14時間を超えないこと。 |
| 作業の期間 | 第1号区域 | 連続して6日を超えないこと。 |
| | 第2号区域 | |
| 作業日 | 第1号区域 | 日曜日その他の休日でないこと。 |
| | 第2号区域 | |

(注)1.特定建設作業とは、次に掲げる作業をいう。
- くい打機(もんけんを除く。)くい抜機又はくい打くい抜機(圧入式くい打くい抜機を除く。)を使用する作業(くい打機をアースオーガーと併用する作業を除く。)
- びょう打機を使用する作業
- さく岩機を使用する作業(作業地点が連続的に移動する作業にあっては、1日における当該作業に係る2地点間の最大距離が50mを超えない作業に限る。)
- 空気圧縮機(電動機以外の原動機を用いるものであって、その原動機の定格出力が 15kW以上のものに限る。)を使用する作業(さく岩機の動力として使用する作業を除く。)
- コンクリートプラント(混練機の混練容量が0.45m³以上のものに限る。)又はアスファルトプラント(混練機の混練重量が200Kg以上のものに限る。)を設けて行う作業(モルタルを製造するためにコンクリートプラントを設けて行う作業を除く。)
- バックホウ(一定の限度を超える大きさの騒音を発生しないものとして、環境大臣が指定するものを除き、原動機の定格出力が80kW以上のものに限る。)を使用する作業
- トラクターショベル(一定の限度を超える大きさの騒音を発生しないものとして環境大臣が指定するものを除き、原動機の定格出力が70kW以上のものに限る。)を使用する作業
- ブルドーザー(一定の限度を超える大きさの騒音を発生しないものとして環境大臣が指定するものを除き、原動機の定格出力が40kW以上のものに限る。)を使用する作業

2.基準値は、特定建設作業の場所の敷地の境界線における値。
3.基準値を超える大きさの騒音を発生する場合に勧告又は命令を行うに当たり、1日における作業時間を「1日当たりの作業時間」欄に定める時間未満4時間以上の間において短縮させることができる。
4.基準には、災害その他非常の事態の発生により当該特定建設作業を緊急に行う必要がある場合等に適用除外が設けられている。
5.第1号区域は、騒音規制地域において区分された区域のうち、次に示す区域。
1)第1種区域
2)第2種区域
3)第3種区域
4)第4種区域のうち、学校、保育所、病院及び診療所のうち患者を入院させるための施設を有するもの、図書館並びに特別養護老人ホームの敷地の周囲おおむね80mの区域。
なお、第1種及び第2種区域は表3.2.7-12に示す内容と同じである。
6.第2号区域は、指定地域のうち、第1号区域以外の区域。

### 3) 自動車騒音の要請限度

「騒音規制法」では、指定地域内において定められた方法で測定を行った自動車騒音が表 3.2.7-14 に示す限度を超えることにより、道路周辺の生活環境が著しく損なわれると認める時には、市町村長は都道府県公安委員会に対し、道路交通法の規定による措置(交通規制)を執るべきことを要請するものとし、また必要があると認められる時は道路管理者または管理行政機関の長に道路部分の構造の改善その他自動車騒音の大きさの減少に資する事項に関して意見を述べることができると定められている。

また、事業実施区域周囲における騒音規制区域の指定状況は、図 3.2.7-4 に示すとおりである。

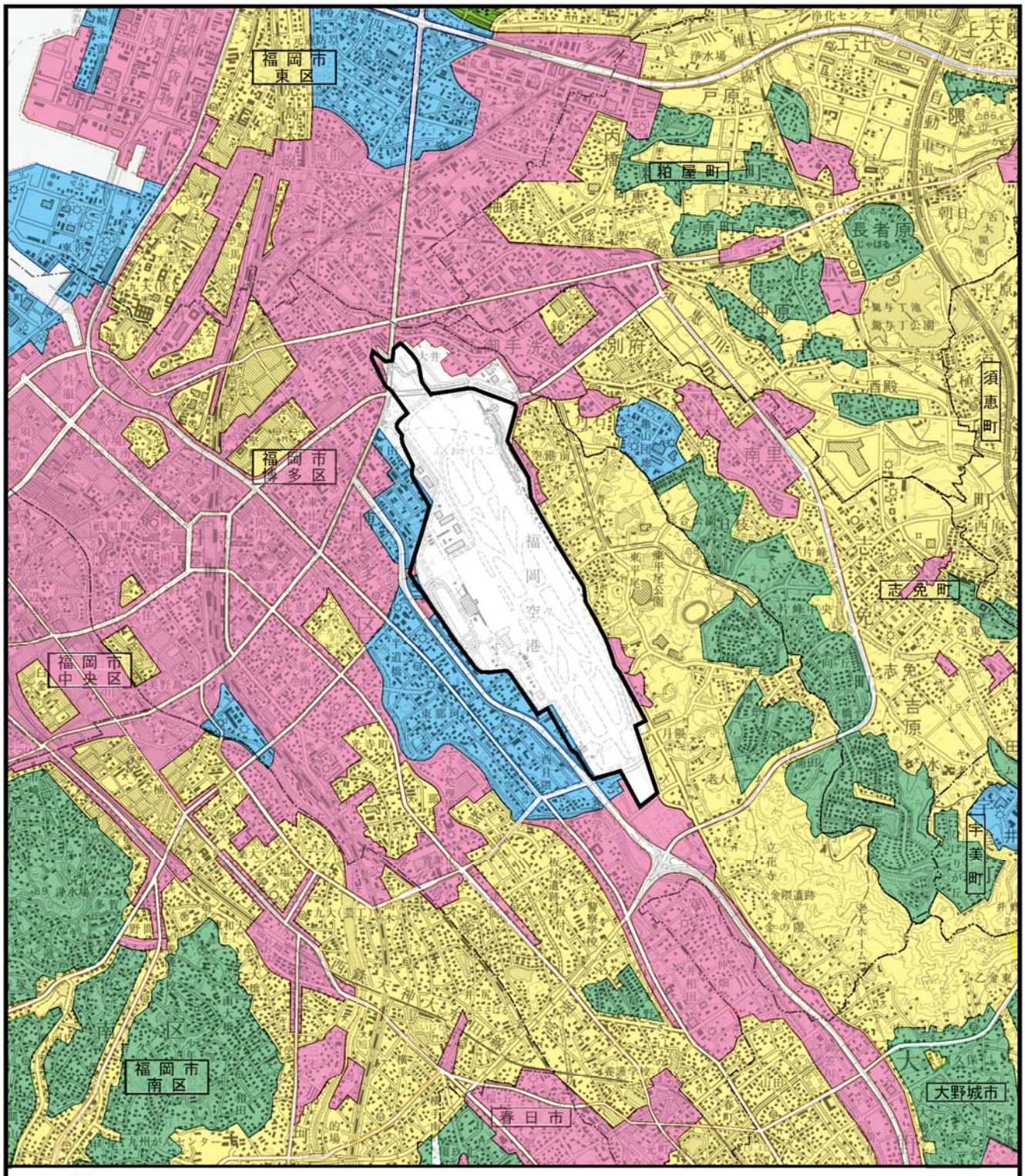
**表 3.2.7-14　自動車騒音の要請限度(等価騒音レベル($L_{Aeq}$))**

| 区域の区分 | 時間の区分 | |
|---|---|---|
| | 昼間 | 夜間 |
| 1.a 区域及び b 区域のうち 1 車線を有する道路に面する区域 | 65 デシベル | 55 デシベル |
| 2.a 区域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する区域 | 70 デシベル | 65 デシベル |
| 3.b 区域のうち 2 車線以上の車線を有する道路に面する区域及び c 区域のうち車線を有する道路に面する区域 | 75 デシベル | 70 デシベル |

上表に掲げる区域のうち幹線交通を担う道路に近接する区域(2 車線以下の車線を有する道路の場合は道路の敷地の境界線から 15m、2 車線を超える車線を有する道路の場合は道路の敷地の境界線から 20m までの範囲をいう。)に係る限度は上表にかかわらず、昼間においては 75 デシベル、夜間においては 70 デシベルとする。

(注)昼間：午前 6 時から午後 10 時、夜間：午後 10 時から翌日の午前 6 時

出典：「騒音規制法第 17 条第 1 項の規定に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める総理府令」(平成 12 年 3 月 2 日　総理府令第 15 号　最終改正　平成 23 年環令第 32 号)




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

| | 特定工場等 | 特定建設作業 | 要請限度 |
|---|---|---|---|
| | 第1種区域 | 第1号区域 | a区域 |
| | 第2種区域 | | b区域 |
| | 第3種区域 | | c区域 |
| | 第4種区域 | 第2号区域 | |

※学校等の周囲80m以内の区域は第1号区域

出典：「騒音規制法及び振動規制法に係る指定地域図」（平成24年5月 福岡市）
「騒音規制区域図」（春日市）
「騒音規制区域図」（大野城市）
「騒音規制区域指定図」（宇美町）
「騒音規制法に基づく規制地域の指定図」（志免町）
「須恵町全図」（須恵町）
「粕屋町全図」（須恵町全図）

N

1：50,000

0　1　2km

図 3.2.7-4　騒音規制区域図

### (5) 振動に係る規制

「振動規制法」(昭和 51 年 6 月法律第 64 号　最終改正　平成 23 年 12 月法律第 122 号)により、振動を防止する必要があるとして指定されている地域内における工場・事業場の事業活動に伴う振動及び建設工事に伴う振動について規制が定められているとともに、道路交通振動については措置を要請する限度が定められている。

#### 1) 特定工場等の振動に係る規制基準

「振動規制法」の規定に基づく特定工場等[政令で定める特定施設(金属加工機械等 10 種類)を設置する工場又は事業場]の敷地境界線において振動の規制基準は、表 3.2.7-15 に示すとおり定められている。

また、事業実施区域周囲における特定工場等の振動に係る規制地域の指定状況は、図 3.2.7-5 に示すとおりである。

**表 3.2.7-15　特定工場等の振動に係る規制基準**

| 区域の区分 | 時間の区分 | |
|---|---|---|
| | 昼間 | 夜間 |
| 第 1 種区域 | 60 デシベル | 55 デシベル |
| 第 2 種区域 | 65 デシベル | 60 デシベル |

(注)1. 時間の区分は以下のとおりである。
昼間：午前8時から午後7時　夜間：午後7時から翌日午前8時
2. 第1種、第2種区域とは、次に掲げる区域をいう。
第1種区域：良好な住居の環境を保全するため、特に静穏の保持を必要とする区域及び住居の用に供されているため、静穏の保持を必要とする区域
第2種区域：住居の用に合わせて商業、工業等の用に供されている区域であって、その区域内の住民の生活環境を保全するため、振動の発生を防止する必要がある区域及び主として工業等の用に供されている区域であって、その区域内の住民の生活環境を悪化させないため、著しい振動の発生を防止する必要がある区域
3. 振動規制法に規定する特定施設は以下のとおりである。
・金属加工機械：液圧プレス(矯正プレスを除く。)、機械プレス、せん断機(原動機の定格出力が 1 キロワット以上のものに限る。)、鍛造機、ワイヤーフォーミングマシン(原動機の定格出力が 37.5 キロワット以上のものに限る。)
・圧縮機(原動機の定格出力が 7.5 キロワット以上のものに限る。)
・土石用又は鉱物用の破砕機、摩砕機、ふるい及び分級機(原動機の定格出力が 7.5 キロワット以上のものに限る。)
・織機(原動機を用いるものに限る。)
・コンクリートブロックマシン(原動機の定格出力の合計が 2.95 キロワット以上のものに限る。)並びにコンクリート管製造機械及びコンクリート柱製造機械(原動機の定格出力の合計が 10 キロワット以上のものに限る。)
・木材加工機械：ドラムバーカー、チッパー(原動機の定格出力が 2.2 キロワット以上のものに限る。)
・印刷機械(原動機の定格出力が 2.2 キロワット以上のものに限る。)
・ゴム練用又は合成樹脂練用のロール機(カレンダーロール機以外のもので原動機の定格出力が 30 キロワット以上のものに限る。)
・合成樹脂用射出成形機
・鋳型造型機(ジョルト式のものに限る。)

(昭和 61 年 11 月 15 日　福岡県告示第 1717 号　最終改正　平成 23 年 3 月 23 日告示第 529 号)

#### 2) 特定建設作業に伴って発生する振動に係る規制

「振動規制法」の規定に基づき、特定建設作業に伴って発生する振動の規制に係る基準は表 3.2.7-16 に示すとおりである。

また、事業実施区域周囲における特定建設作業に伴って発生する振動に係る規制地域の指定状況は、図 3.2.7-5 に示すとおりである。

表 3.2.7-16　特定建設作業に伴って発生する振動の規制に係る規制基準

| 規制種別 | 区域 | 基準 |
|---|---|---|
| 基準値 | 第1号区域 | 75デシベルを超える大きさのものでないこと。 |
| | 第2号区域 | |
| 作業時刻 | 第1号区域 | 午後7時から翌日の午前7時までの時間内でないこと。 |
| | 第2号区域 | 午後10時から翌日の午前6時までの時間内でないこと。 |
| 1日当たりの作業時間 | 第1号区域 | 1日10時間を超えないこと。 |
| | 第2号区域 | 1日14時間を超えないこと。 |
| 作業の期間 | 第1号区域 | 連続して6日を超えないこと。 |
| | 第2号区域 | |
| 作業日 | 第1号区域 | 日曜日その他の休日でないこと。 |
| | 第2号区域 | |

(注)1. 特定建設作業とは、次に掲げる作業をいう。
・くい打機(もんけん及び圧入式くい打機を除く。)、くい抜機(油圧式くい抜機を除く。)又はくい打くい抜機(圧入式くい打くい抜機を除く。)を使用する作業
・鋼球を使用して建築物その他の工作物を破壊する作業
・舗装版破砕機を使用する作業(作業地点が連続的に移動する作業にあっては、1日における当該作業に係る2地点間の最大距離が50mを超えない作業に限る。)
・ブレーカー(手持式のものを除く。)を使用する作業(作業地点が連続的に移動する作業にあっては、1日における当該作業に係る2地点間の最大距離が50mを超えない作業に限る。)
2. 基準値は、特定建設作業の場所の敷地の境界線における値。
3. 基準値を超える大きさの振動を発生する場合に勧告又は命令を行うに当たり、1日における作業時間を「1日当たりの作業時間」欄に定める時間未満4時間以上の間において短縮させることができる。
4. 基準には、災害その他非常の事態の発生により当該特定建設作業を緊急に行う必要がある場合等に適用除外が設けられている。
5. 地域の区分において第1号区域及び第2号区域の内容は以下に示すとおり。
第1号地域：振動規制地域における規制基準による区域のうち、次に示す区域。
イ：第1種区域
ロ：第2種区域のうち、主として工業等の用に供されている区域を除く区域
ハ：第1種区域及び第2種区域のうち、学校教育法第1条に規定する学校、児童福祉法第7条に規定する保育所、医療法第1条の5第1項に規定する病院及び同条第2項に規定する診療所のうち患者を入院させるための施設を有するもの、図書館法第2条第1項に規定する図書館並びに老人福祉法第5条の3に規定する特別養護老人ホームの敷地の周囲おおむね80mの区域
第2号区域：指定地域のうち、上記第1号区域以外の区域
なお、第1種及び第2種区域は表 3.2.7-に示す内容と同じである。
出典：「振動規制法施行規則」(昭和51年11月10日　総理府令第58号　最終改正　平成19年環令第11号)

### 3) 道路交通振動の要請限度

「振動規制法」では、指定地域内における道路交通振動が表 3.2.7-17 に示す限度を超えることにより、道路周辺生活環境が著しく損なわれると認める時には、市町村長は道路管理者に対し、当該道路の道路部分につき道路交通振動の防止のための舗装、維持または修繕の措置をとるべきことを要請し、または都道府県公安委員会に対し、道路交通法の規定による措置(交通規制)を執るべきことを要請するものと定められている。

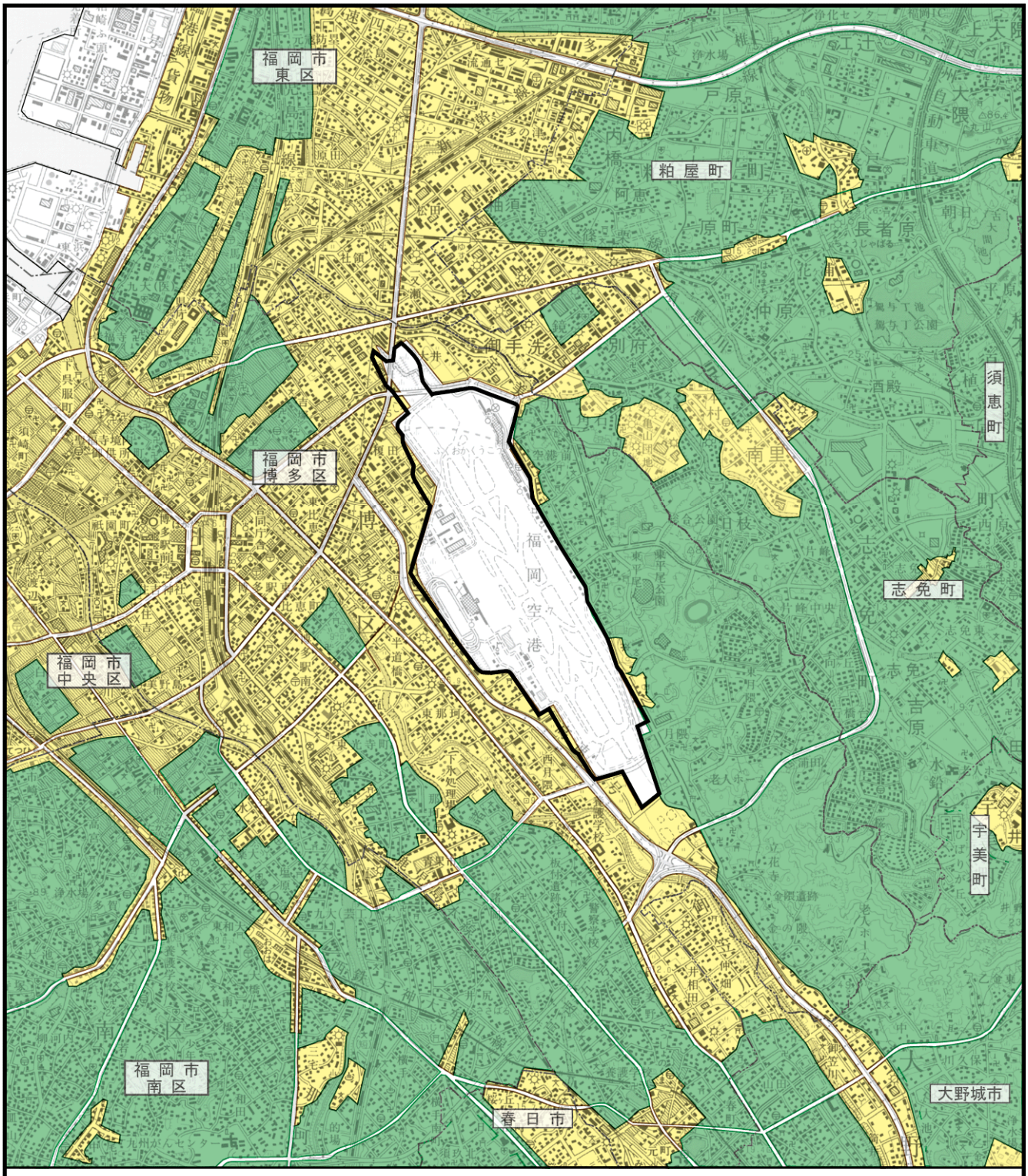
また、事業実施区域周囲における振動規制地域の指定状況は、図 3.2.7-5 に示すとおりである。

表 3.2.7-17　道路交通振動の要請限度

| 時間の区分 / 区域の区分 | 昼　間 | 夜　間 |
|---|---|---|
| 第 1 種区域 | 65 デシベル | 60 デシベル |
| 第 2 種区域 | 70 デシベル | 65 デシベル |

(注)1.時間の区分は以下のとおりである。
昼間：午前8時から午後7時　夜間：午後7時から翌日午前8時
2.第1種及び第2種区域とは、次に掲げる区域をいう。
第1種区域：主として第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、第2種住居地域、準住居地域、近隣商業地域（容積率200%）、市街化調整区域、都市計画区域外
第2種区域：近隣商業地域（容積率300%）、商業地域、準工業地域、工業地域、工業専用地域

(区域の区分：昭和 61 年 4 月 1 日　福岡市告示第 79 号　最終改正　平成 23 年 4 月 25 日告示第 139 号)
(時間の区分：昭和 61 年 4 月 1 日　福岡市告示第 79 号　最終改正　平成元年 12 月 21 日告示第 261 号)




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

| | 特定工場等 | 特定建設作業 | 要請限度 |
|---|---|---|---|
| | 第1種区域 | 第1号区域 | 第1種区域 |
| | 第2種区域 | | 第2種区域 |

※学校等の周囲80m以内の区域は第1号区域

図3.2.7-5　振動規制区域図

出典:「騒音規制法及び振動規制法に係る指定地域図」(平成24年5月 福岡市)
「振動規制区域図」(春日市)
「振動規制区域図」(大野城市)
「振動規制区域指定図」(宇美町)
「振動規制法に基づく規制地域の指定図」(志免町)
「須恵町全図」(須恵町)
「粕屋町全図」(須恵町全図)

N

1:50,000

0　1　2km

### (6) 悪臭に係る規制

「悪臭防止法」(昭和 46 年 6 月法律第 91 号)の規定に基づき、規制地域内の工場・事業場に係る悪臭の規制基準は、表 3.2.7-18 に示すとおり定められている。

また、事業実施区域周囲における悪臭の規制地域の指定は、福岡市、那珂川町、宇美町、志免町は全域で A 区域として、物質ごとに規制される物質濃度規制が行われており、筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、須恵町、粕屋町では、全域臭気指数 12(臭気強度 2.5 に相当し、約 16 倍希釈しなければにおいがなくならない値)で規制されている。

**表 3.2.7-18　悪臭に係る規制基準**

| 指定地域の区分<br>特定悪臭物質 | A 区域<br>(ppm) | B 区域<br>(ppm) |
|---|---|---|
| アンモニア | 1.0 | 2.0 |
| メチルメルカプタン | 0.002 | 0.004 |
| 硫化水素 | 0.02 | 0.06 |
| 硫化メチル | 0.01 | 0.05 |
| 二硫化メチル | 0.009 | 0.03 |
| トリメチルアミン | 0.005 | 0.02 |
| アセトアルデヒド | 0.05 | 0.1 |
| プロピオンアルデヒド | 0.05 | 0.1 |
| ノルマルブチルアルデヒド | 0.009 | 0.03 |
| イソブチルアルデヒド | 0.02 | 0.07 |
| ノルマルバレルアルデヒド | 0.009 | 0.02 |
| イソバレルアルデヒド | 0.003 | 0.006 |
| イソブタノール | 0.9 | 4.0 |
| 酢酸エチル | 3.0 | 7.0 |
| メチルイソブチルケトン | 1.0 | 3.0 |
| トルエン | 10 | 30 |
| スチレン | 0.4 | 0.8 |
| キシレン | 1.0 | 2.0 |
| プロピオン酸 | 0.03 | 0.07 |
| ノルマル酪酸 | 0.001 | 0.002 |
| ノルマル吉草酸 | 0.0009 | 0.002 |
| イソ吉草酸 | 0.001 | 0.004 |

(平成 14 年 3 月 27 日 福岡県告示第 473 号 最終改正 平成 23 年告示第 524 号)

### (7) 地下水の採取に係る規制

事業実施区域周囲は「工業用水法」(昭和 31 年 6 月法律第 146 号)及び「建物用地下水の採取の規制に関する法律」(昭和 37 年 5 月法律第 100 号)による地下水採取を規制されている地域はない。

### (8) 自然環境法令等による指定状況

#### 1) 自然公園、自然環境保全地域

事業実施区域周囲において、「自然公園法」(昭和 32 年 6 月法律第 161 号)に基づく国立公園等の指定はされていない。また、「自然環境保全法」(昭和 47 年 6 月法律第 85 号)及び「福岡県環境保全に関する条例」(昭和 47 年 10 月　条例第 28 号)に基づく自然環境保全地域の指定地域はない。

#### 2) 鳥獣保護区

事業実施区域周囲において、「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」(平成 14 年 7 月法律第 88 号)に基づく鳥獣保護区等は、福岡市、大野城市、粕屋町に指定されており、その位置は図 3.2.7-6 に示すとおりである。

#### 3) 保安林

事業実施区域周囲において、「森林法」(昭和 26 年 6 月法律第 249 号)に基づく保安林は、福岡市博多区、大野城市、宇美町、粕屋町に指定されており、その位置は図 3.2.7-7 に示すとおりである。

#### 4) 風致地区等

事業実施区域周囲において「都市計画法」(昭和 43 年 6 月法律第 100 号)に基づく風致地区は、福岡市に筥崎宮、東公園、住吉宮、鴻巣山が指定されており、その位置は図 3.2.7-8 に示すとおりである。

#### 5) 景観形成地域

事業実施区域周囲において、都市景観形成基本計画に基づく都市景観形成地域は、福岡市博多区に御供所地区、博多駅前通り地区、中央区に天神地区が指定されており、その位置は図 3.2.7-9 に示すとおりである。

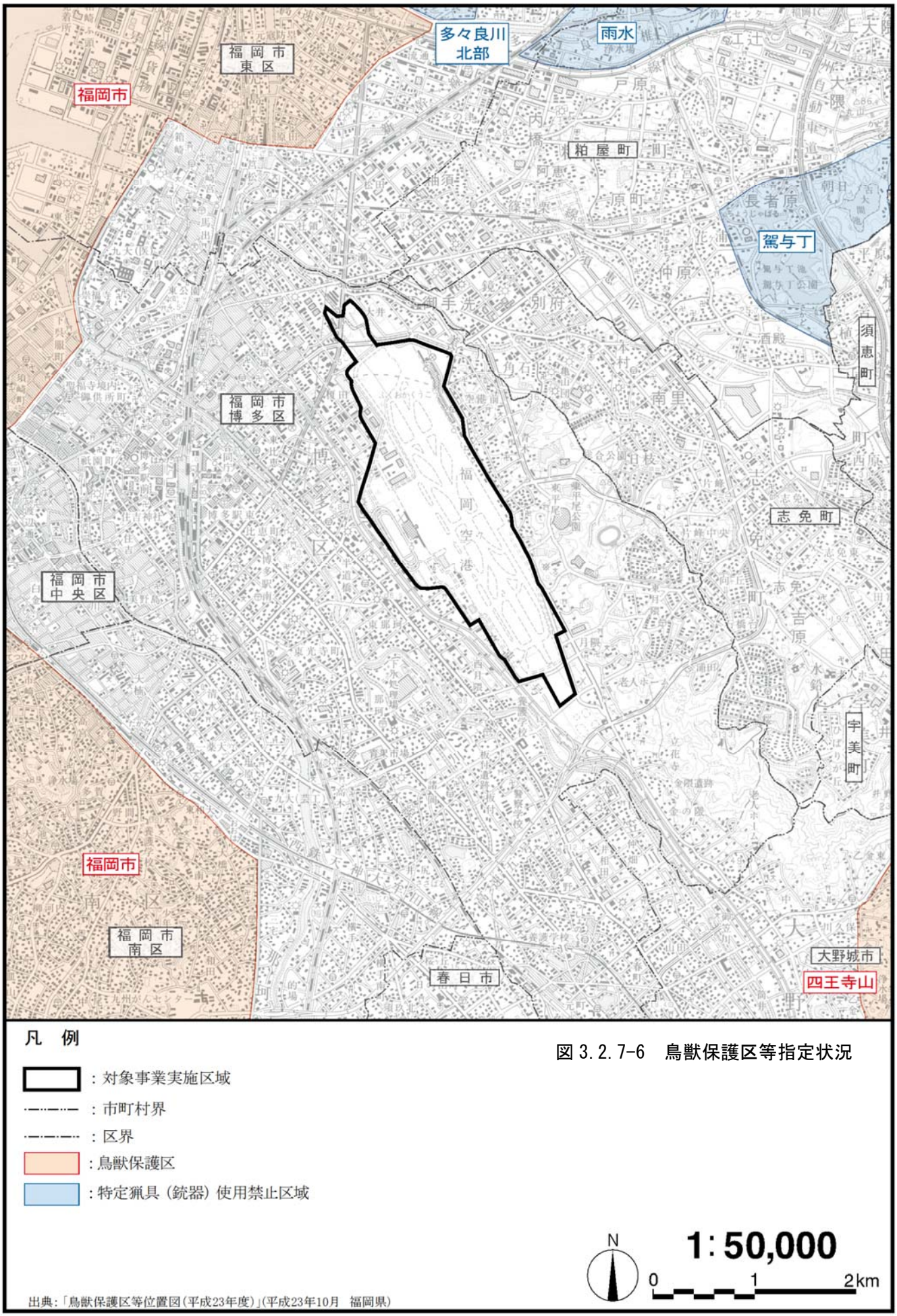



図 3.2.7-6　鳥獣保護区等指定状況

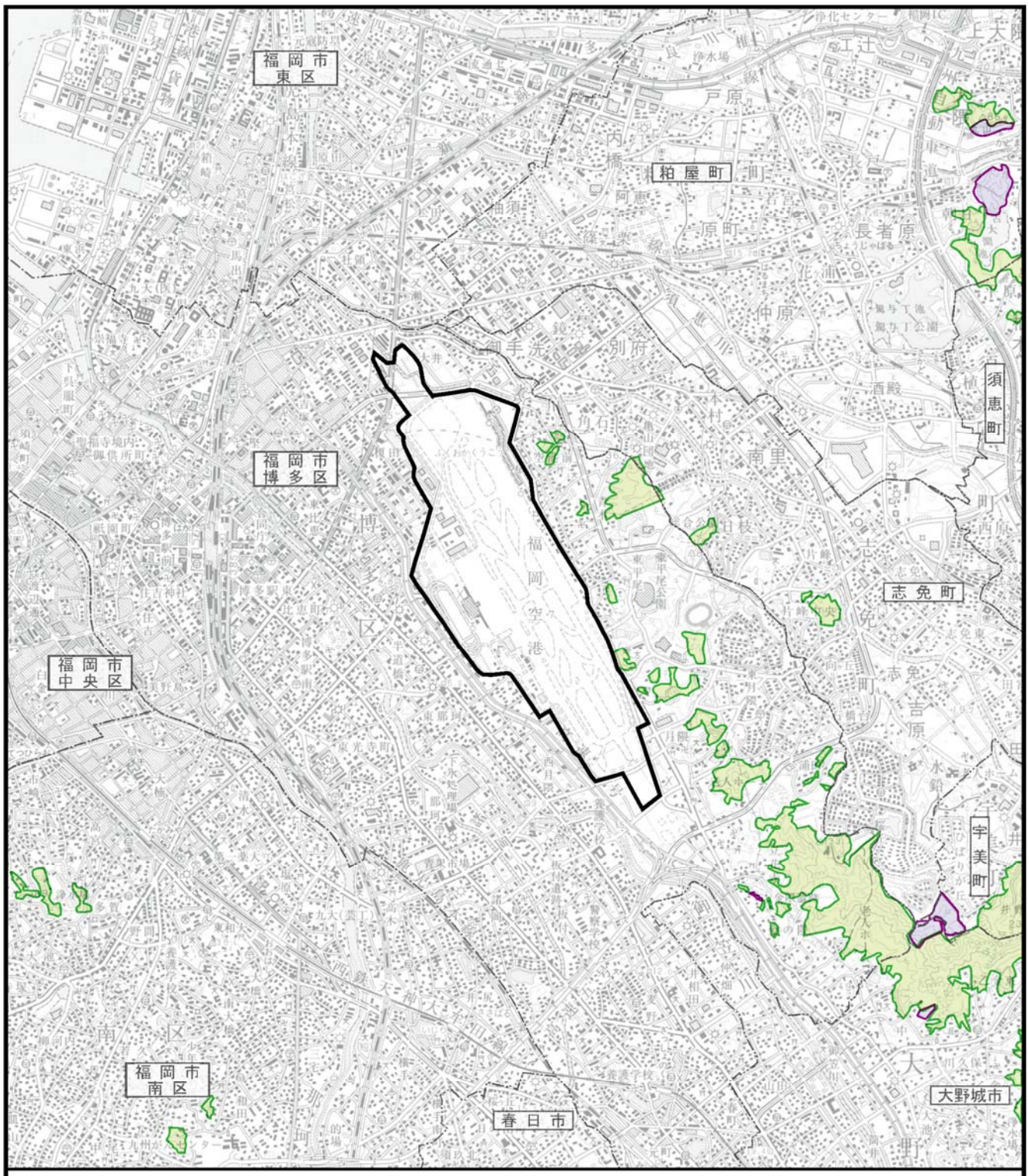
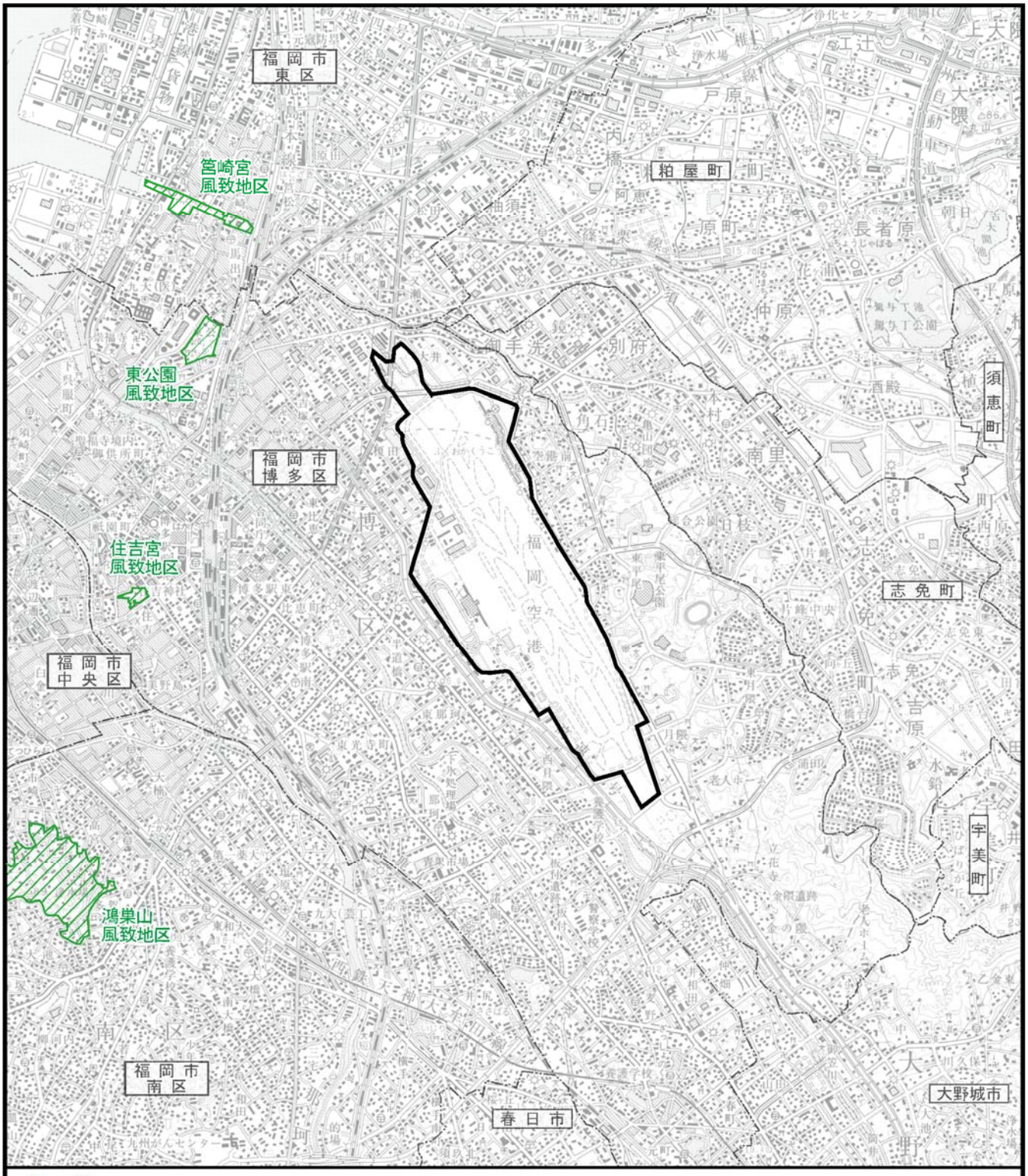



図 3.2.7-7　保安林指定状況




出典：「福岡県都市計画総括図」(平成24年5月　福岡県福岡市役所)

図 3.2.7-8　風致区域指定状況

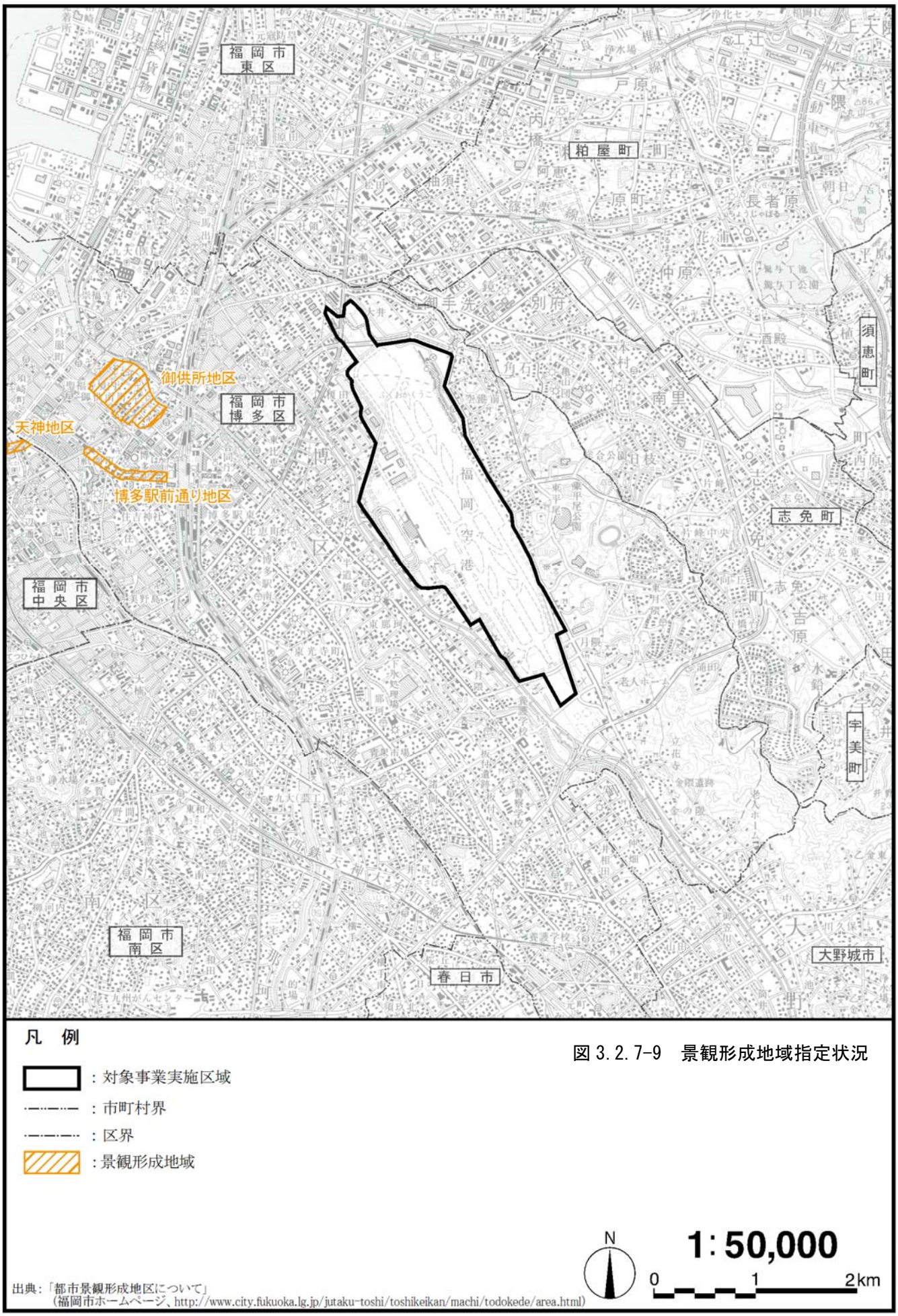



図 3.2.7-9　景観形成地域指定状況

### (9) 文化財保護法に基づく史跡・名勝・天然記念物等

事業実施区域周囲における「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月法律第 214 号)、「福岡県文化財保護条例」(昭和 30 年 4 月条例第 25 号)、「福岡市文化財保護条例」(昭和 48 年 3 月条例第 33 号)に基づく史跡・名勝・天然記念物等の指定状況は表 3.2.7-19(1)及び表 3.2.7-19(2)に示すとおりであり、その分布状況は図 3.2.7-10 に示すとおりである。

また、事業実施区域周囲に分布する「文化財保護法」に基づく埋蔵文化財包蔵地の分布状況は表 3.2.7-20 及び図 3.2.7-11 に示すとおりである。

**表 3.2.7-19(1)　事業実施区域周囲における指定文化財等の内容**

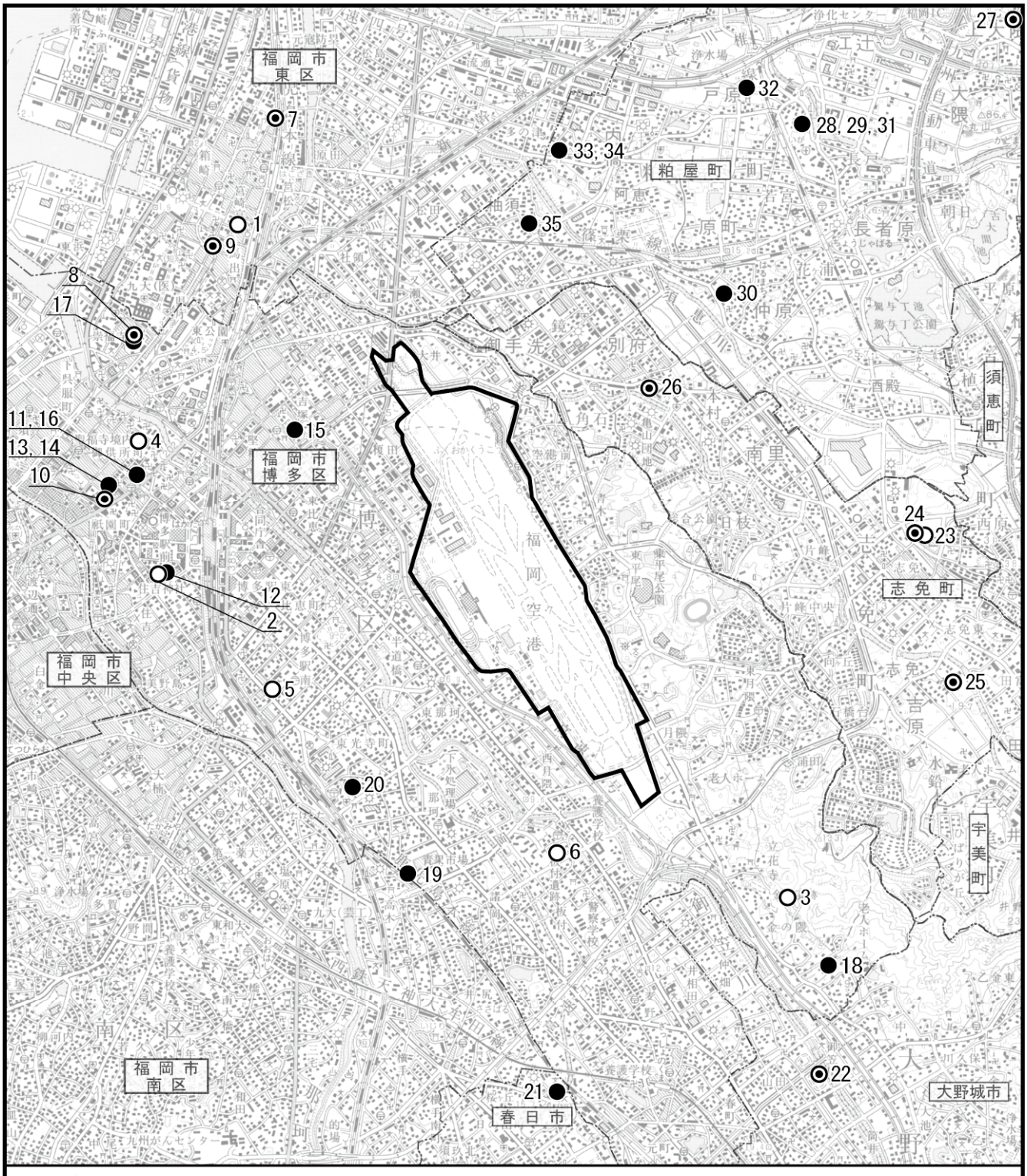
| 市 | 区分 | 国指定 | 県指定 | 市町指定 |
|---|---|---|---|---|
| 福岡市 | 建造物 | 2 | 2 | 4 |
| | 史跡 | 4 | 1 | 6 |
| | 名勝 | | | |
| | 天然記念物 | | 1 | |
| 春日市 | 建造物 | | | |
| | 史跡 | | | |
| | 名勝 | | | |
| | 天然記念物 | | | 1 |
| 大野城市 | 建造物 | | | |
| | 史跡 | | | |
| | 名勝 | | | |
| | 天然記念物 | | 1 | |
| 志免町 | 建造物 | 1 | | |
| | 史跡 | | 3 | |
| | 名勝 | | | |
| | 天然記念物 | | | |
| 粕屋町 | 建造物 | | | |
| | 史跡 | | 1 | 2 |
| | 名勝 | | | |
| | 天然記念物 | | | 6 |

出典：「福岡県の文化財」(福岡県ホームページ、http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/bunka/index.asp)
「文化財情報」(福岡市教育委員会ホームページ、http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/)
「福岡県教育委員会文化財保護課資料」
「指定文化財」(春日市奴国の丘歴史資料館ホームページ、
http://www.city.kasuga.fukuoka.jp/nakoku/siteibunkazai/index.html)
「大野城市の指定文化財」(大野城市教育委員会ホームページ、
http://www.city.onojo.fukuoka.jp/edu/kyoiku/rekishi/shitei.html)
「史跡・文化財」(宇美町ホームページ、http://www.town.umi.lg.jp/life/4/26/)
「指定文化財」(志免町ホームページ、
http://www.town.shime.lg.jp/soshiki/12/shiteibunkazai.html)
「文化財について」(須恵町ホームページ、http://www.town.sue.fukuoka.jp/soshiki/10/)
「指定文化財」(粕屋町ホームページ、
http://www.town.kasuya.fukuoka.jp/chiiki/rekishi/shiteibunkazai/index.html)

表 3.2.7-19(2)　事業実施区域周囲における指定文化財等の内容

| 番号 | 名称 | 指定 | 種別 | 所在 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 筥崎宮鳥居、拝殿、本殿、楼門 | 国指定 | 建造物 | 福岡市東区筥崎 1-22-1 |
| 2 | 住吉神社能本殿 | 国指定 | 建造物 | 福岡市博多区住吉 3-1-51 |
| 3 | 金隈遺跡 | 国指定 | 史跡 | 福岡市博多区金隈字観音浦、字日浦 |
| 4 | 聖福寺、聖福寺境内 | 国指定 | 史跡 | 福岡市博多区御供所町 6-1 |
| 5 | 比恵遺跡 | 国指定 | 史跡 | 福岡市博多区博多駅南 5-12 |
| 6 | 板付遺跡 | 国指定 | 史跡 | 福岡市博多区板付 2,3 |
| 7 | 石造九重塔（相輪欠） | 県指定 | 建造物 | 福岡市東区箱崎 6 |
| 8 | 崇福寺唐門、山門 | 県指定 | 建造物 | 福岡市博多区千代 4 |
| 9 | 枯野塚 | 県指定 | 史跡 | 福岡市東区馬出 5-228 |
| 10 | 櫛田の銀杏 | 県指定 | 天然記念物 | 福岡市博多区上川端町 1-41 |
| 11 | 東長寺六角堂 | 市指定 | 建造物 | 福岡市博多区御供所町 2-4 |
| 12 | 住吉神社能楽殿 | 市指定 | 建造物 | 福岡市博多区住吉 3-1-51 |
| 13 | 博多町家ふるさと館<br>（旧三浦家住宅） | 市指定 | 建造物 | 福岡市博多区冷泉町 6-10 |
| 14 | 旧三浦家住宅 | 市指定 | 建造物 | 福岡市博多区冷泉町 6-10 |
| 15 | 東光院境内 | 市指定 | 史跡 | 福岡市博多区吉塚 3-20-37 |
| 16 | 福岡藩主黒田家墓所 | 市指定 | 史跡 | 福岡市博多区御供所町 2-4 |
| 17 | 福岡藩主黒田家墓所 | 市指定 | 史跡 | 福岡市博多区千代四丁目 7-79 |
| 18 | 今里不動古墳 | 市指定 | 史跡 | 福岡市博多区大字金隈 2一2 |
| 19 | 那珂遺跡 | 市指定 | 史跡 | 福岡市博多区那珂 6-316,17 |
| 20 | 那珂八幡古墳 | 市指定 | 史跡 | 福岡市博多区那珂 1-44 |
| 21 | オオバヤドリギ | 市指定 | 天然記念物 | 福岡県春日市大字須玖字岡本山 781 |
| 22 | 御笠の森 | 県指定 | 天然記念物 | 大野城市山田 2-230 |
| 23 | 旧志免鉱業所竪坑櫓 | 国指定 | 建造物 | 福岡県糟屋郡志免町大字志免 |
| 24 | 志免鉱業所跡<br>（竪坑及び第八坑関連地区） | 県指定 | 史跡 | 福岡県糟屋郡志免町大字志免 715-12 |
| 25 | 観応三年銘梵字石碑 | 県指定 | 史跡 | 福岡県糟屋郡志免町大字吉原 892<br>（平成の森公園内） |
| 26 | 亀山石棺 | 県指定 | 史跡 | 福岡県糟屋郡志免町別府二丁目 98-2 |
| 27 | 平塚古墳 | 県指定 | 史跡 | 福岡県糟屋郡粕屋町大字上大隈 |
| 28 | 奉書写大乗妙典<br>一石一字経供養塔 | 町指定 | 史跡 | 福岡県糟屋郡粕屋町大字戸原 |
| 29 | 阿弥陀三尊梵字板碑 | 町指定 | 史跡 | 福岡県糟屋郡粕屋町大字戸原 |
| 30 | 志賀神社のクスノキ | 町指定 | 天然記念物 | 福岡県糟屋郡粕屋町大字仲原 |
| 31 | 伊賀薬師堂のクスノキ | 町指定 | 天然記念物 | 福岡県糟屋郡粕屋町大字戸原 |
| 32 | 戸原天神森のクスノキ | 町指定 | 天然記念物 | 福岡県糟屋郡粕屋町大字戸原 |
| 33 | 熊野神社のフジ | 町指定 | 天然記念物 | 福岡県糟屋郡粕屋町大字内橋 |
| 34 | 熊野神社のスダジイ | 町指定 | 天然記念物 | 福岡県糟屋郡粕屋町大字内橋 |
| 35 | 柚須区のゴヨウマツ | 町指定 | 天然記念物 | 福岡県糟屋郡粕屋町大字柚須 |

出典：「福岡県の文化財」（福岡県ホームページ、http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/bunka/index.asp）
「文化財情報」（福岡市教育委員会ホームページ、http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/）
「福岡県教育委員会文化財保護課資料」
「指定文化財」（春日市奴国の丘歴史資料館ホームページ、
http://www.city.kasuga.fukuoka.jp/nakoku/siteibunkazai/index.html）
「大野城市の指定文化財」（大野城市教育委員会ホームページ、
http://www.city.onojo.fukuoka.jp/edu/kyoiku/rekishi/shitei.html）
「史跡・文化財」（宇美町ホームページ、http://www.town.umi.lg.jp/life/4/26/）
「指定文化財」（志免町ホームページ、http://www.town.shime.lg.jp/soshiki/12/shiteibunkazai.html）
「文化財について」（須恵町ホームページ、http://www.town.sue.fukuoka.jp/soshiki/10/）
「指定文化財」（粕屋町ホームページ、
http://www.town.kasuya.fukuoka.jp/chiiki/rekishi/shiteibunkazai/index.html）




凡　例

図3.2.7-10　文化財位置図

| | |
|---|---|
| ：対象事業実施区域 | ○：文化財（国指定） |
| ：市町村界 | ◎：文化財（県指定） |
| ：区界 | ●：文化財（市・町指定） |

出典：「福岡県の文化財」（福岡県ホームページ、http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/bunka/index.asp）
「文化財情報」（福岡市教育委員会ホームページ、http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/）
「福岡県教育委員会文化財保護課資料」
「指定文化財」
（春日市奴国の丘歴史資料館ホームページ、http://www.city.kasuga.fukuoka.jp/nakoku/siteibunkazai/index.html）
「大野城市の指定文化財」
（大野城市教育委員会ホームページ、http://www.city.onojo.fukuoka.jp/edu/kyoiku/rekishi/shitei.html）
「史跡・文化財」（宇美町ホームページ、http://www.town.umi.lg.jp/life/4/26/）
「指定文化財」（志免町ホームページ、http://www.town.shime.lg.jp/soshiki/12/shiteibunkazai.html）
「文化財について」（須恵町ホームページ、http://www.town.sue.fukuoka.jp/soshiki/10/）
「指定文化財」
（粕屋町ホームページ、http://www.town.kasuya.fukuoka.jp/chiiki/rekishi/shiteibunkazai/index.html）

N

1:50,000

0　1　2km

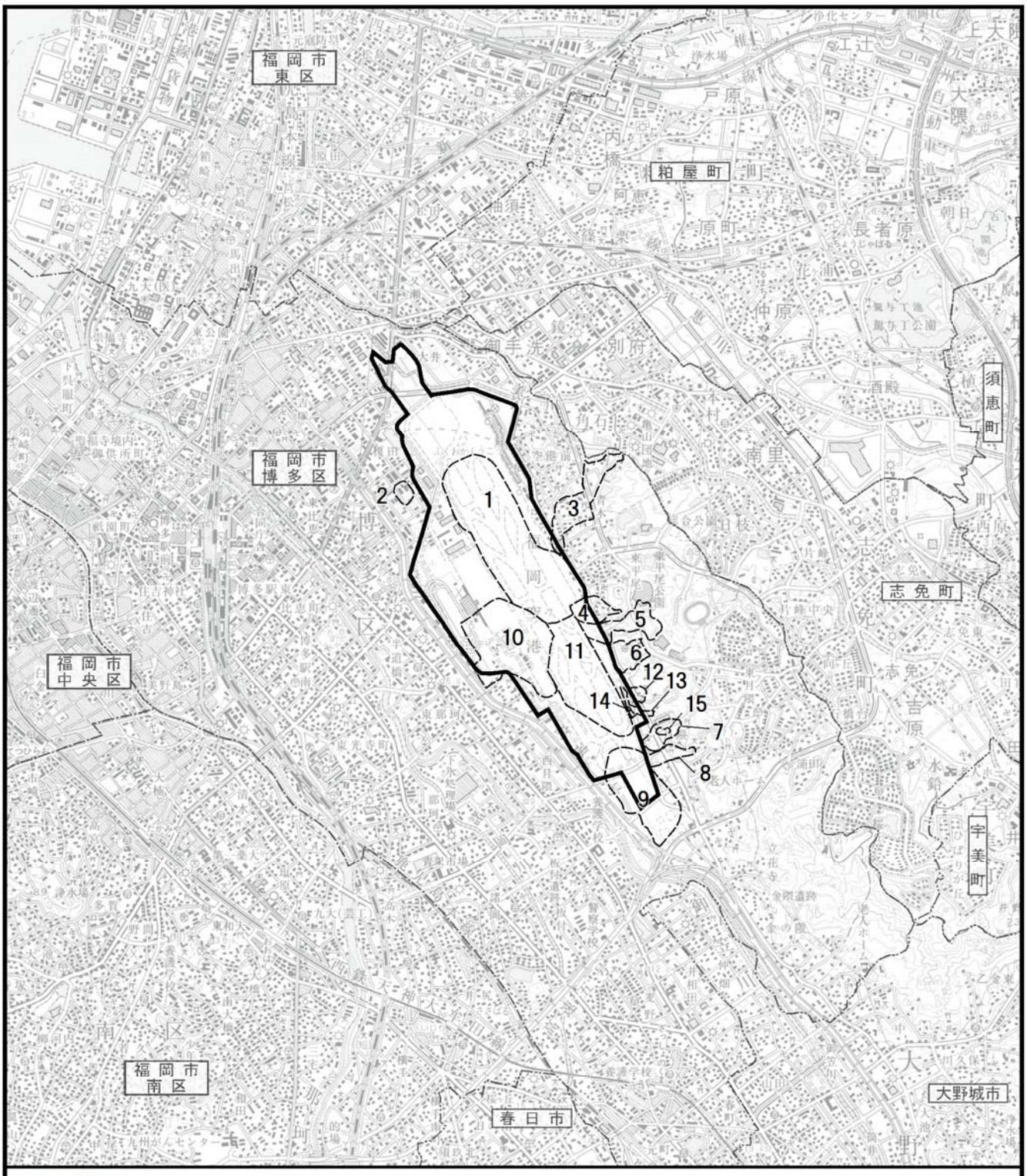



図 3.2.7-11　埋蔵文化財包蔵地の分布位置

表 3.2.7-20　事業実施区域周囲における周知の埋蔵文化財包蔵地

| 番号 | 名　称 |
|---|---|
| 1 | 上牟田遺跡 |
| 2 | 榎田遺跡 |
| 3 | 席田青木遺跡 |
| 4 | 久保園遺跡 |
| 5 | 席田大谷遺跡 |
| 6 | 宝満尾遺跡 |
| 7 | 天神森遺跡群 |
| 8 | 下月隈 B 遺跡群 |
| 9 | 下月隈 C 遺跡群 |
| 10 | 雀居遺跡 |
| 11 | 下月隈 D 遺跡 |
| 12 | 狐塚遺跡 |
| 13 | 水町古墳 |
| 14 | 下月隈鳥越遺跡 |
| 15 | 天神森古墳群 |

出典：「福岡市文化財分布地図」（平成 24 年 7 月現在　福岡市役所）

### (10) 防災関係の法令等による指定状況

#### 1) 急傾斜崩壊危険区域

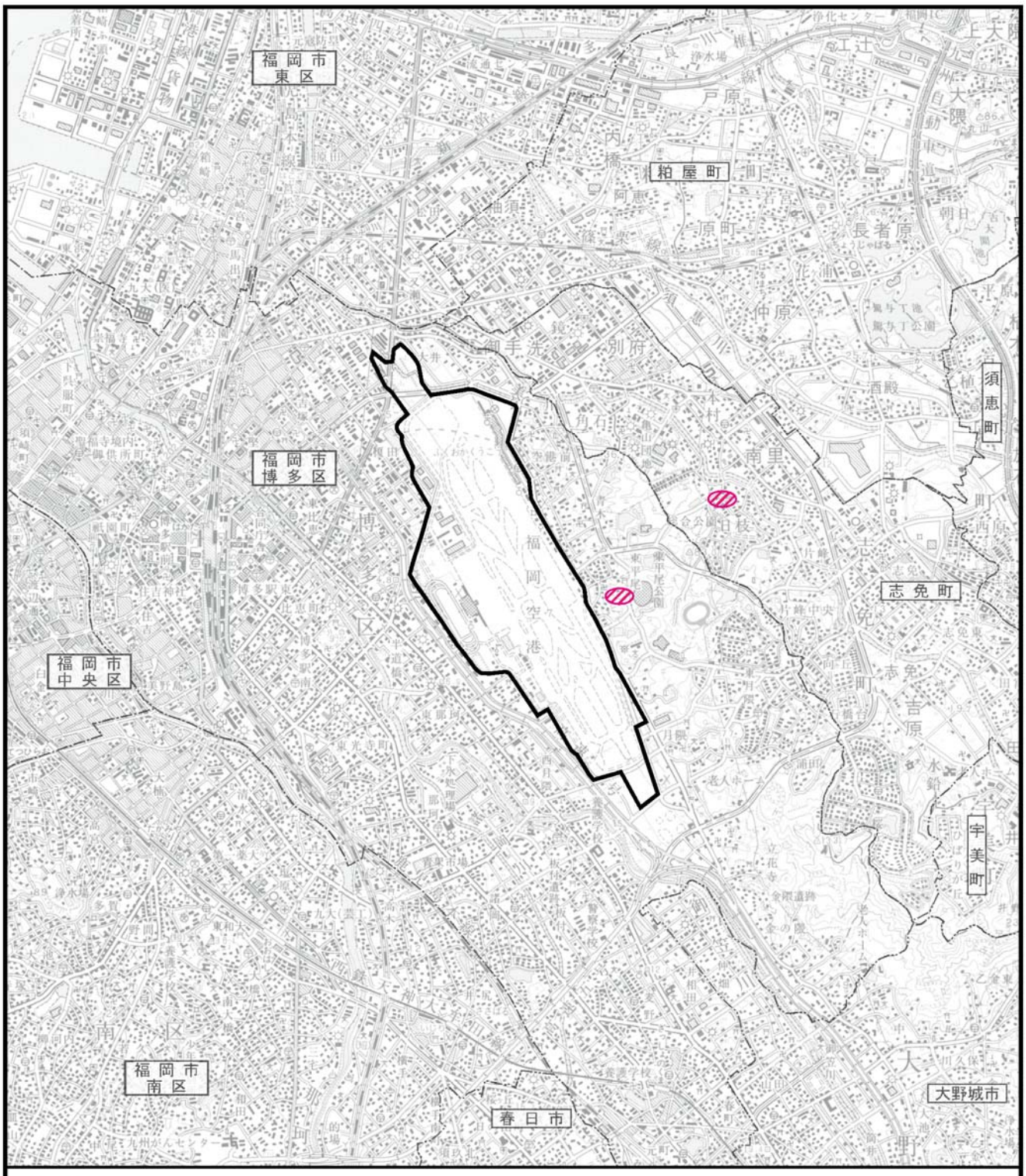
事業実施区域周囲においては「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」（昭和 44 年 7 月法律第 57 号）に基づく急傾斜崩壊防止区域は福岡市、志免町で指定されており、その位置は図 3.2.7-12 に示すとおりである。

#### 2) 砂防指定地

事業実施区域周囲においては「砂防法」（明治 30 年 3 月法律第 29 号）に基づく砂防指定地は指定されていない。

#### 3) 地すべり防止区域

事業実施区域周囲においては「地すべり等防止法」（昭和 33 年 3 月法律第 30 号）に基づく地すべり防止区域は指定されていない。




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：急傾斜地崩壊防止区域

図 3.2.7-12　急傾斜地崩壊
危険区域指定状況

出典：「福岡県土整備事務所管内図」(平成22年3月　福岡県福岡県土整備事務所)、
「那珂土木事務所管内図」(平成21年3月　福岡県那珂土木事務所)

N

1:50,000

0　1　2km

### 3.2.8 その他の事項

#### (1) 公害苦情件数

福岡県における公害苦情件数の状況は、表 3.2.8-1 に示すとおりである。平成 22 年度に県内で受け付けられた公害の総苦情件数は 3,910 件あり、典型 7 公害に係る件数は 2,343 件で、大気汚染が 784 件と最も多かった。

表 3.2.8-1　福岡県における公害苦情件数(平成 22 年度)

| 年度 | 大気汚染 | 水質汚濁 | 騒音 | 振動 | 地盤沈下・土壌汚染 | 悪臭 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 平成 21 年度 | 784 | 439 | 525 | 22 | 569 | 4 | 1,567 | 3,910 |

出典：「平成 23 年版　環境白書」(平成 23 年 12 月　福岡県環境部環境政策課)

## (2) 地方公共団体が実施する環境の保全に関する計画

### 1) 福岡県環境総合基本計画

福岡県は、行政の各分野における環境の保全と創造に関する共通認識を形成し、施策相互の連携に資するため、環境政策の長期的な目標と施策の具体的方向性を明らかにした環境総合基本計画を 1995 年(平成 7 年)に作成している。

その後、廃棄物問題や都市生活型の環境問題、地球温暖化などの地球環境問題など、生産から流通、消費、廃棄に至る各段階の社会経済システムや、各個人のライフスタイルなどに深く関係している課題が増加していることから、これらの課題解決のためには、必要な施設整備や規制の強化など、これまで取り組まれてきたさまざまな施策に加え、環境情報の共有や環境教育、経済的手法の活用、調査研究・環境産業の育成などを通じて、県民・民間団体、事業者、行政が協働して問題解決に当たっていく必要があることから、新たな基本計画として 2003 年(平成 15 年)に策定し直されている。

福岡県環境総合基本計画では、5 つの柱と、この柱ごとの 24 のテーマが設定され、各テーマの将来像(目標)と施策が明らかにされている。

計画期間は、2003～2012 年度(平成 15～24 年度)とされている。

●5 つの柱と 24 のテーマ

1 自然環境の保全と創造
- ①生物多様性の保全、希少野生生物の保護
- ②森林環境の保全・適正利用
- ③身近な自然の保全・再生
- ④まちの緑、水辺の保全・創造
- ⑤自然とのふれあいの推進

2 生活環境の保全
- ①きれいな空気の確保
- ②静かな居住環境の確保
- ③水環境の保全(健全な水循環の確保)
- ④土壌環境の保全
- ⑤化学物質の適正な管理
- ⑥快適な生活環境の創造

3 循環型社会の形成
- ①廃棄物等の発生の抑制
- ②リユース・リサイクルの推進
- ③技術開発の促進と環境産業の育成
- ④一般廃棄物の適正処理の推進
- ⑤産業廃棄物の適正処理の推進
- ⑥不法投棄の防止

4 地球環境問題への取組
①温室効果ガスの排出削減(省エネルギー社会の形成)
②温室効果ガス吸収源の確保
③フロンガス対策、酸性雨対策
④環境国際協力の推進
5 各主体の自主的な環境保全の取組とネットワーク化
①環境教育、環境学習の推進
②環境情報のネットワーク化と活用
③自主的取組の促進とパートナーシップ

ここでは、事業に関係が深いと考えられる
2 生活環境の保全-②静かな居住環境の確保
3 循環型社会の形成-②リユース・リサイクルの推進
4 地球環境問題への取組-①温室効果ガスの排出削減(省エネルギー社会の形成)
を特に取り上げて示す。

**ア. 生活環境の保全-②静かな居住環境の確保**

本テーマの目標は図 3.2.8-1 に示すとおりであり自動車、新幹線、航空機による騒音について、発生源対策、交通流対策、周辺の防音対策、土地利用の適正化による沿道対策などが行われ、騒音が低減された状態としている。また、この目標の実現に向けた施策は図 3.2.8-2 に示すとおりである。

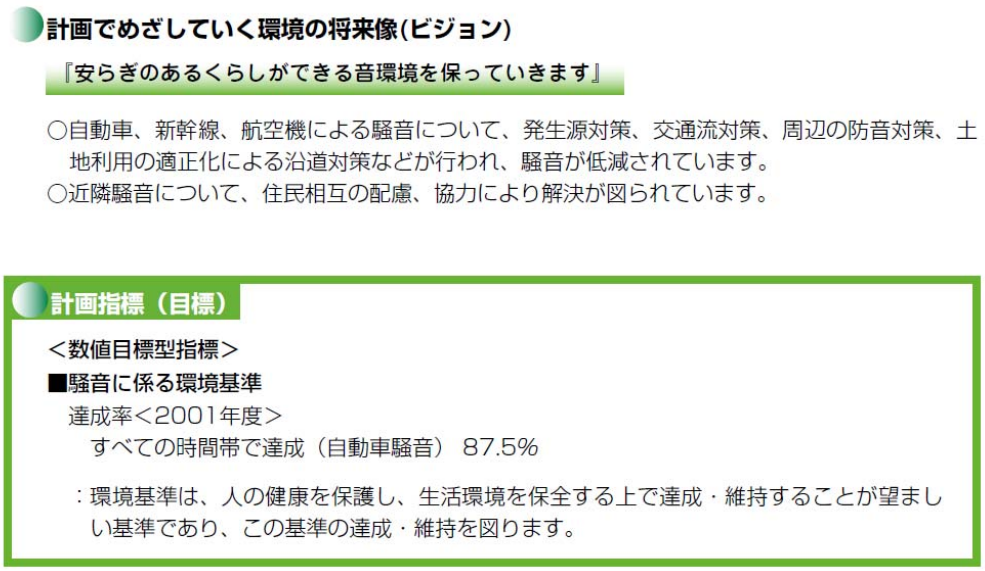



図 3.2.8-1 「静かな居住環境の確保」の環境の将来像

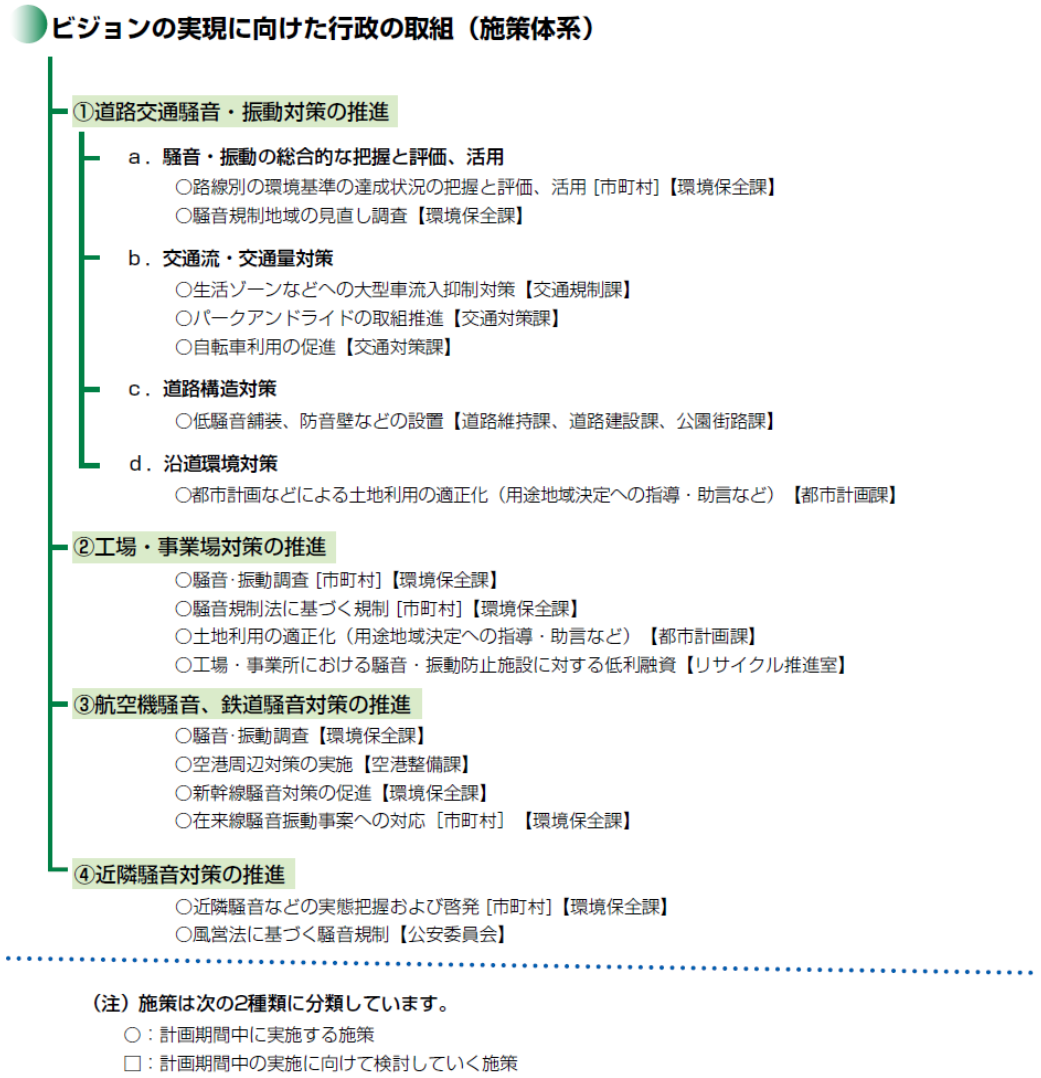



図 3.2.8-2　「静かな居住環境の確保」実現に向けた施策体型

### イ．循環型社会の形成-②リユース・リサイクルの推進

本テーマの目標は図 3.2.8-3 に示すとおりであり徹底した循環利用と、廃棄物等の高度かつ効率的な資源化、減量化を推進するためのリユース・リサイクル関連施設の整備があげられており、これによる産業廃棄物の資源化・減量化率は 2010 年度に 95%とされている。また、この目標の実現に向けた施策は図 3.2.8-4 に示すとおりである。

**計画でめざしていく環境の将来像(ビジョン)**

**『リユース・リサイクルを促進するシステムを定着していきます』**

○事業者は、リユース・リサイクルしやすい製品を製造・販売し、消費者は、そのような製品を選択的に利用することで、廃棄物等が、①リユース（再使用）、②リサイクル（再生利用）、③熱回収*の順に徹底して循環利用されています。

○廃棄物等の高度かつ効率的な資源化、減量化を推進するためのリユース・リサイクル関連施設が整備されています。

**計画指標（目標）**

**＜数値目標型指標＞**

**■ごみのリサイクル率**

：「ごみの集団回収量＋資源化量」をごみ発生量で割った値です。

| ＜2000年度＞ | | ＜2010年度＞ |
|---|---|---|
| 12% | ⇒ | 23% |

**■産業廃棄物の資源化・減量化率**

：「発生した産業廃棄物を脱水・焼却したりして減量化した量と資源として利用した量の合計」を産業廃棄物発生量で割った値です。

| ＜2000年度＞ | | ＜2010年度＞ |
|---|---|---|
| 87% | ⇒ | 95% |

**■ごみの最終処分率**

：「ごみの最終処分量」をごみ発生量で割った値です。

| ＜2000年度＞ | | ＜2010年度＞ |
|---|---|---|
| 16% | ⇒ | 9% |

**■産業廃棄物の最終処分量**

| ＜2000年度＞ | | ＜2010年度＞ |
|---|---|---|
| 1,628千トン／年 | ⇒ | 681千トン／年 |

図 3.2.8-3　「リユース・リサイクルの推進」の環境の将来像

**＜産業廃棄物＞**

**①リユースの促進**

**a．使用済部品の有効利用**

○エコタウンでの事業展開［北九州市、大牟田市］【リサイクル推進室】

**②リサイクルの促進**

**a．各種リサイクル法による再資源化の促進**

○建設工事における再資源化の促進指導　【監視指導課、企画検査課、建築指導課】

○食品廃棄物再利用の情報提供と事業化推進【生産流通課】

**b．産業廃棄物のリサイクル技術とシステムの研究開発**

○リサイクル総合研究センターにおける研究開発・実践支援【リサイクル推進室】

**c．リサイクル製品の活用促進**

○行政によるリサイクル製品の率先購入（グリーン購入の促進）【環境政策課】

○県営住宅建設によるリサイクル材の使用【住宅課】

□県事業におけるリサイクル製品の活用促進

□県民・事業者のグリーン購入の促進

**d．その他**

○農業用廃プラスチックのリサイクルによる適正処理の推進【農業技術課】

○家畜排せつ物の適正処理施設の整備と堆肥需給情報の提供【畜産課】

**（注）施策は次の2種類に分類しています。**

○：計画期間中に実施する施策

□：計画期間中の実施に向けて検討していく施策

図 3.2.8-4　「リユース・リサイクルの推進」実現に向けた施策体型

### ウ．地球環境問題への取組-①温室効果ガスの排出削減

本テーマの目標は図 3.2.8-5 に示すとおりであり、家庭、オフィスビルなどでの経済効率性の向上にもつながる省エネルギー対策や低公害車・低燃費車の普及が進められ、温暖化対策に取り組む事業者が社会的に評価され、多くの事業者が取組を始めているとしている。また、この目標の実現に向けた施策は図 3.2.8-6 に示すとおりである。

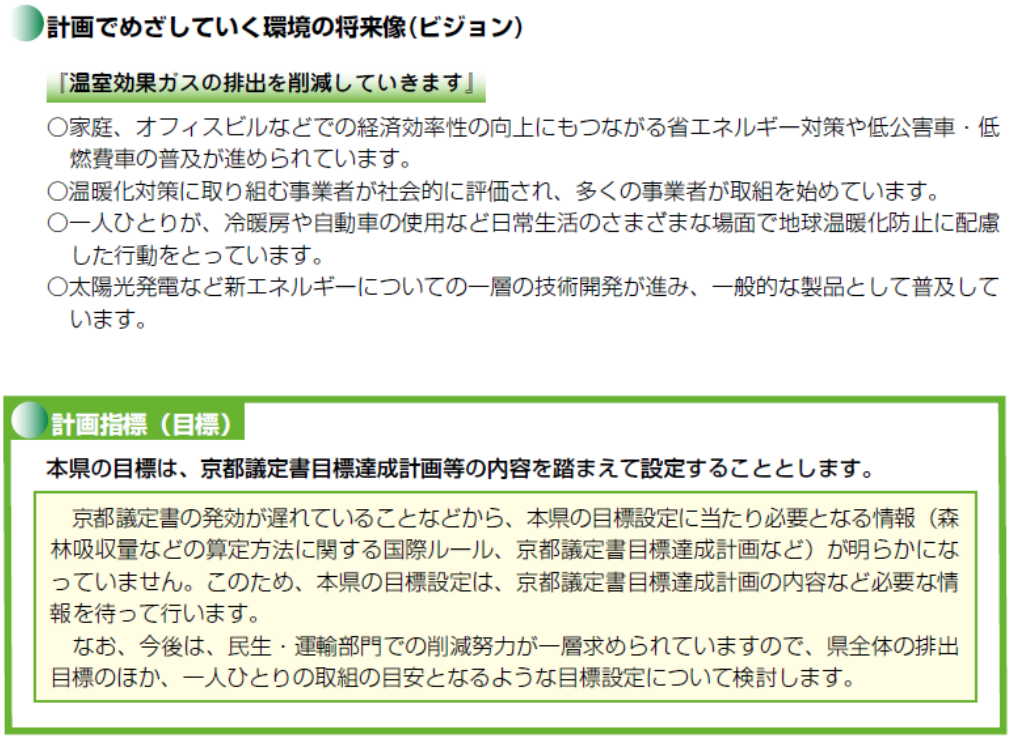



図 3.2.8-5　「温室効果ガスの排出削減」の環境の将来像

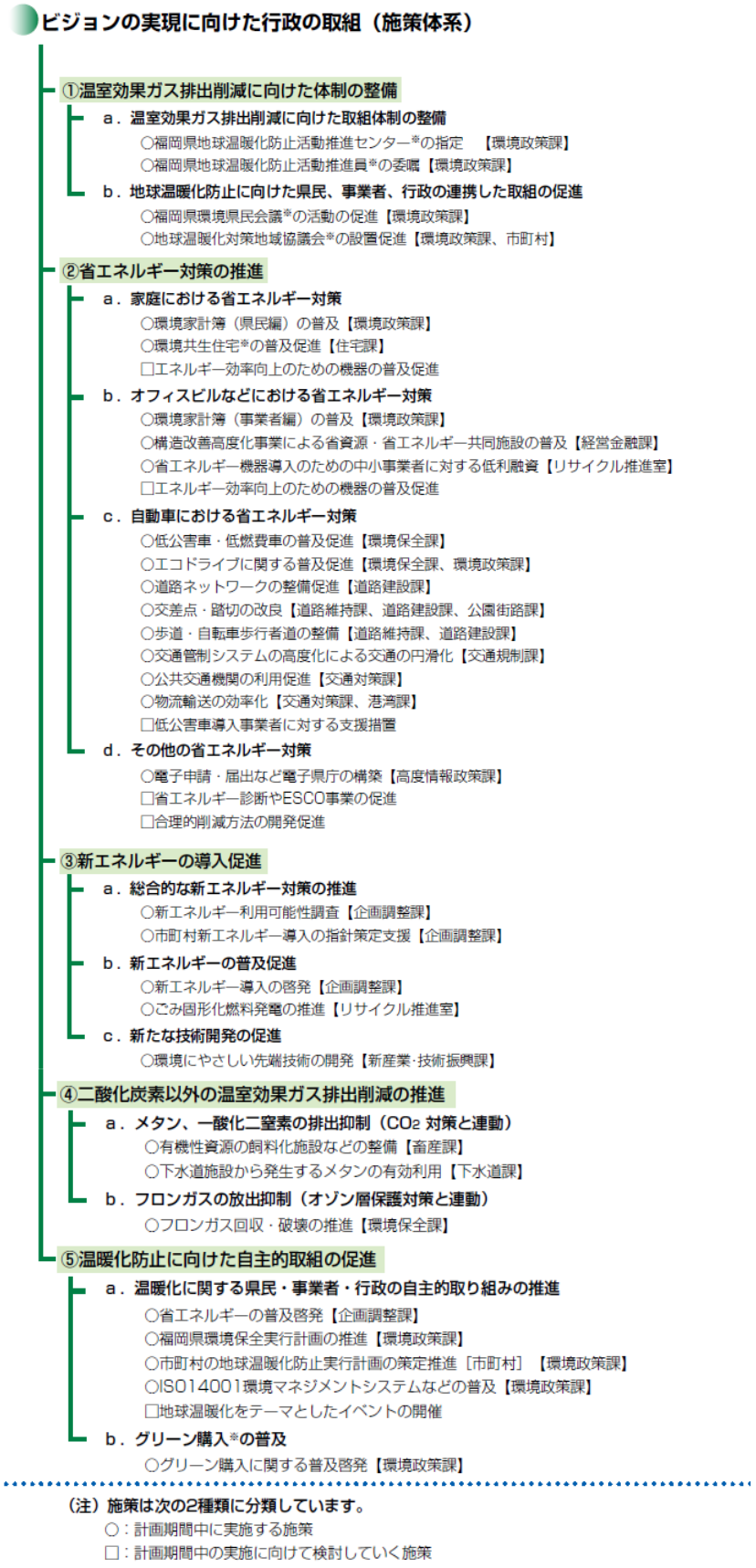



図 3.2.8-6　「温室効果ガスの排出削減」」実現に向けた施策体型

### 2) 福岡市環境基本計画

福岡市では「福岡市環境基本条例」(平成 8 年 9 月 26 日　条例第 41 号)に基づき「福岡市環境基本計画」が策定されている。この計画は、福岡市の環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、環境の保全及び創造に関する基本的な計画である。

平成 9 年に環境基本計画(第一次)が策定され、平成 18 年の改定を経て環境基本計画(第二次)が策定されている。

この計画は、環境基本条例第 7 条に定められた環境基本計画であり、「福岡市新・基本計画(全市編・区別編)」を、環境面から総合的・計画的に推進するための基本指針を示すとともに、福岡市の環境像の実現に向けて、市民・事業者・行政など各主体が、それぞれの果たすべき責務と公平な役割分担の下、自主的かつ積極的な取り組みを進めていく方向性を示している。また、環境基本条例第 7 条第 6 項に基づき策定された部門別計画の上位計画となる。

福岡市環境基本計画の位置付けは図 3.2.8-7 に、その特徴は表 3.2.8-2 に示すとおりである。

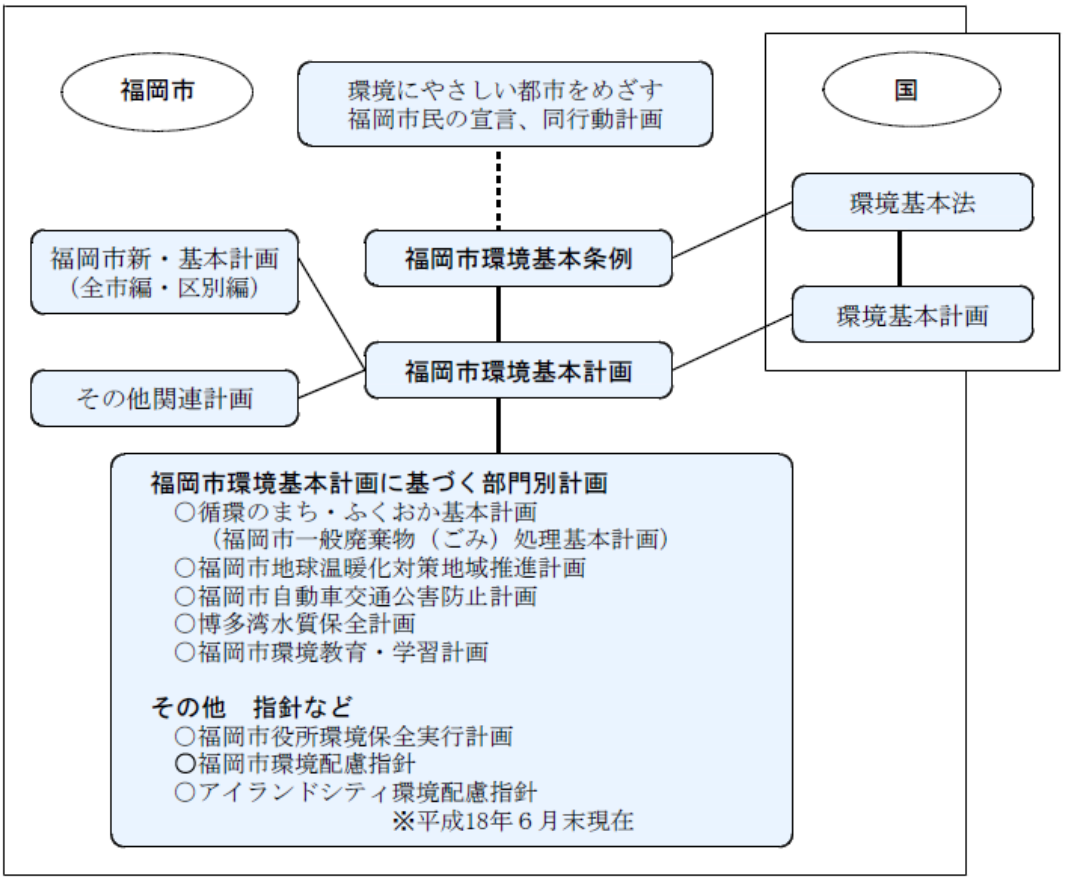



図 3.2.8-7　福岡市環境基本計画の位置付け

表 3.2.8-2　福岡市環境基本計画の特徴

| | |
|---|---|
| 環境像 | 「ときを超えて人が環境と共に生きるまち」(第一次の計画を踏襲) |
| 対象地域 | 福岡市新・基本計画の対象とする福岡市全域 |
| 計画期間 | 平成 27 年度まで |
| 主な特徴 | □環境政策の重点化<br>「福岡式循環型社会システムの構築」<br>「温暖化対策を考えた福岡のまちづくり」<br>「自然とのふれあいと生物多様性の保全」<br>を３つの柱として、重点的に政策を推進する<br>□地域環境力の発揮<br>地域の環境特性を活かした地域環境づくりを推進する<br>□共通手段の活用<br>環境教育・学習の推進、環境影響評価の推進など各分野に共通する政策を活用し、各主体の環境に配慮した行動を促進する<br>□成果指標による進行管理<br>新・基本計画等と連携した 30 項目の成果指標を掲げ、施策の進行管理を行う |

### 3) 「新循環のまち・ふくおか基本計画」（第 4 次福岡市一般廃棄物処理基本計画）

#### ア．計画の目的

福岡市では、平成 16 年 12 月に第 3 次の一般廃棄物処理基本計画となる「循環のまち・ふくおか基本計画」を策定し、循環型社会の構築に向け、ごみの削減目標を掲げるとともに、市の特性を踏まえ、市民・事業者と共同して、3R（リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再生利用））の推進に取り組んできた。

第 4 次計画においては、地球温暖化防止への配慮や循環型社会ビジネス振興など新たな視点も加味して、新たな、ごみ減量・リサイクルの数値目標を設定し、その達成に向けた重点施策として、家庭ごみについては、2R（リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）に重点をおいた 3R の意識向上と行動促進のための啓発を行うとともに、事業系ごみについては、資源化の余地があるごみの減量・資源化を促進する。

さらに、ごみ減量・リサイクルの推進に向けた新たな仕組みを検討するとともに、ごみ量や資源化の状況を踏まえた必要な見直しなどによる計画的な施設整備を行う。

#### イ．計画の概要

##### ア）目標年次

本計画の計画期間については、西部工場の更新時期（平成 39 年)、人口のピーク予測（平成 35 年)、循環型社会形成推進基本法に基づく第 2 次循環型社会形成推進基本計画による中長期的なイメージの時期（平成 37 年）を考慮して、平成 21 年度を基準年次とし、計画期間を平成 24 年度から平成 37 年度までの 14 年間としている。また、平成 27 年（第 1 次)、平成 32 年（第 2 次）に中間目標を設定している。

##### イ）基本方針

I）基本方針

「元気が持続する循環のまち・ふくおか」の実現に向け、次の 3 つの基本方針に基づき取り組む。

①循環型社会づくりの更なる推進

②処理の優先順位に基づく適正処理の推進

③持続可能な社会の実現に向けた施策の推進

#### ウ．計画の目標

I）数値目標

本計画の数値目標として、ごみ処理量を平成 21 年度の約 58 万トンから約 11 万トン削減し、平成 37 年度には約 47 万トン以下となることを目指す。

また、ごみのリサイクル率は平成 21 年度の 28%から 10 ポイント向上させ、平成 37 年度には 38%以上となることを目指す。

II）取組指標

ごみ減量に向けた 3R の取組状況及びごみの適正処理の取組状況について、多面的に把握し、これを施策に反映させるため、6 つの取組指標（3R 率、3R 実践度、有害廃棄物分別の実践度、家庭ごみの容積、埋立処分量、温室効果ガス排出量）を設定する。

#### エ．施策展開

目標達成に向け、以下に示す「4 つの柱」を連携させた施策を展開する。

①市民・事業者の自主的・自発的な取組みの促進

ごみ減量・リサイクルの推進に向け、市民・事業者が自ら考え、実践する取組みを支援する。

②3R の基盤整備

資源化ルートの拡充や事業者ネットワークの構築、新たな支援の仕組みづくりなど、市民・事業者の自主的なごみ減量・リサイクルの取組みにつなげる基盤の整備を促進する。

③経済的手法の活用

ごみ処理に係る市民・事業者の負担の公平性の確保を図るとともに、さらなるごみ減量・リサイクルを推進するため、ごみ処理手数料など経済的手法を活用する。

④人づくり

ごみ減量・リサイクルに取り組む市民・事業者のリーダーなど人材の育成に向けた環境教育・学習機会の提供や実践につながる情報発信を行う。

### 4) 福岡市地球温暖化対策地域推進計画(第三次)

#### ア. 計画の目的

京都議定書の発効を受け「地球温暖化対策の推進に関する法律」第 20 条に規定される、地方公共団体の「地球温暖化対策地域推進計画」として策定されたものである。

#### イ. 計画の概要

##### ア) 目標年次

計画の目標年次は環境基本計画に合わせた平成 27 年度(2015 年度)である。

なお、数値目標については、京都議定書目標達成計画との整合を図るため平成 22 年度(2010 年度)とする。

##### イ) 施策・取組み

福岡市では市民、事業者が、それぞれの行動を確実に実践していけるように重点部門である、家庭、業務、運輸の各部門別に、図 3.2.8-8～図 3.2.8-10 に示す施策を設定している。

I) 家庭部門の施策

| | |
|---|---|
| ○暮らしについての対策 | ・省エネ行動の実践<br>・省エネ機器の導入<br>・省資源行動の実践 |
| ○住まいについての対策 | ・新エネ、省エネ設備の導入<br>・集宅の省エネ性能向上 |
| ○マイカーについての対策 | ・マイカーの適正利用<br>・低燃費車の利用等 |

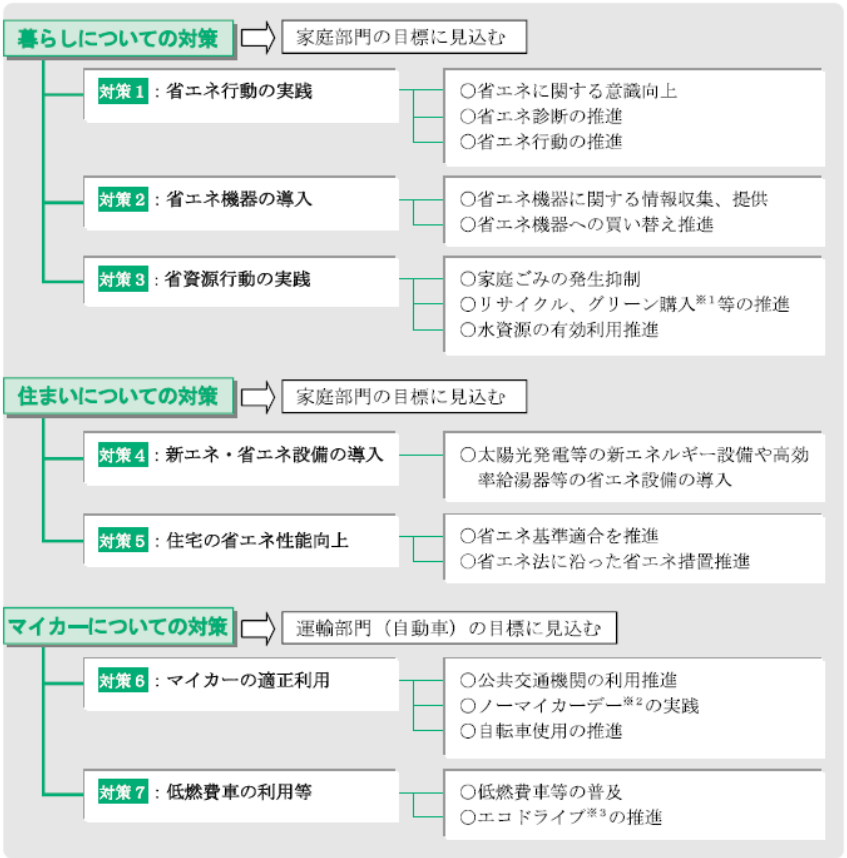



図 3.2.8-8　家庭部門の施策

II）業務部門の施策

| | |
|---|---|
| ○業務についての対策 | ・省エネ行動の実践<br>・省エネ機器の導入<br>・省資源行動の実践 |
| ○業務施設についての対策 | ・省エネ設備の導入<br>・建物の省エネ推進 |
| ○業務用車両についての対策 | ・業務用車両の適正利用<br>・物流の効率化<br>・低燃費車の利用等 |

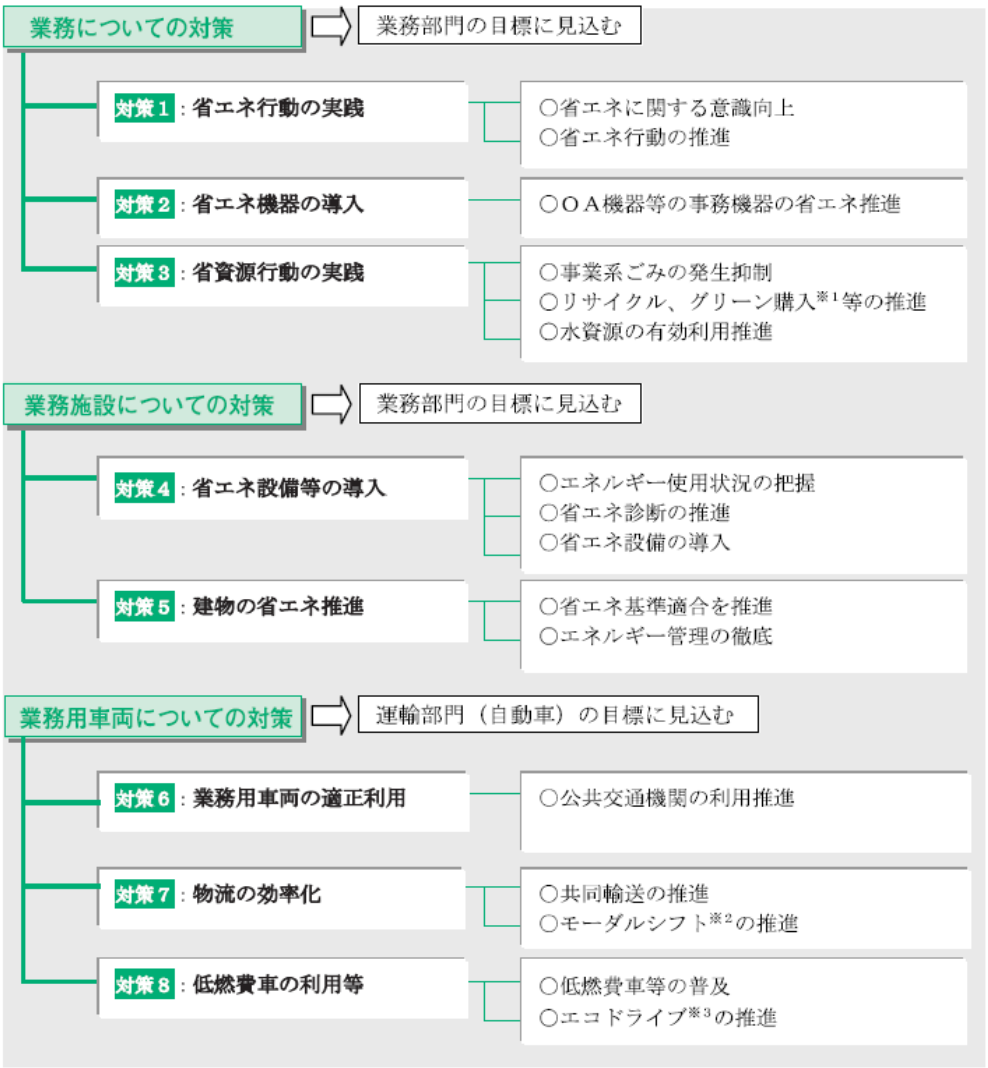



図 3.2.8-9　業務部門の施策

III) 運輸(自動車)部門の施策

| | |
|---|---|
| ○自動車走行削減対策 | ・自動車の適正利用<br>・物流の効率化 |
| ○自動車燃費改善等対策 | ・低燃費車の利用等<br>・交通の円滑化 |

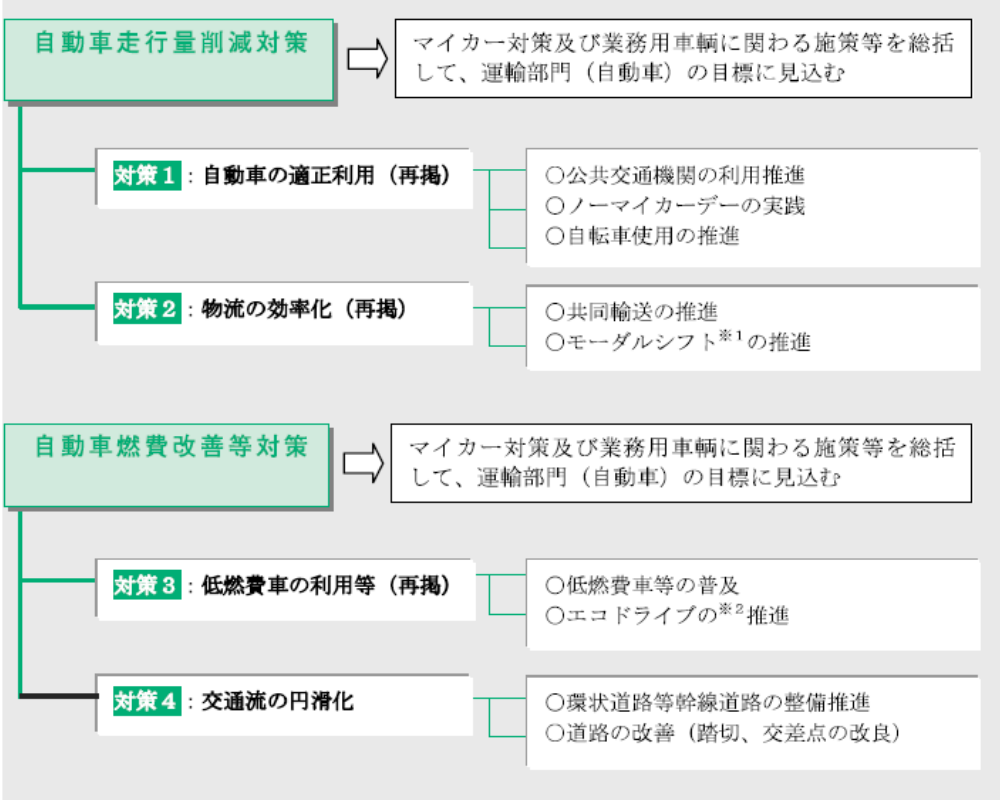



図 3.2.8-10　運輸部門の施策

## ウ. 計画の目標

福岡市において温室効果ガスの排出割合が高く、将来の伸びが著しい重点部門の家庭、業務、運輸(自動車)について、図 3.2.8-11 に示すとおり、具体的な数値目標を設定している。国においては温室効果ガス総排出量を 1990 年度から 6%削減することとしているが、福岡市では各重点部門で目標をわかりやすくするために、基準年度を 2004 年度とした削減目標を設定している。この各重点部門における目標を達成することで、国の定めた京都議定書目標達成計画における福岡市の役割を果たす計画としている。

### ア) 重点部門

I) 家庭部門

世帯あたりの二酸化炭素排出量を 8%削減する。

II) 業務部門

床面積あたりの二酸化炭素排出量を 14%削減する。

III) 運輸(自動車)部門

1 台あたりの二酸化炭素排出量を 8%削減する。

イ） 重点部門以外

重点部門以外のその他部門(産業部門、エネルギー転換部門、廃棄物部門)及び二酸化炭素以外の温室効果ガスについては京都議定書目標達成計画で示される国の部門別目標値に準拠して温室効果ガスの削減目標を設定している。

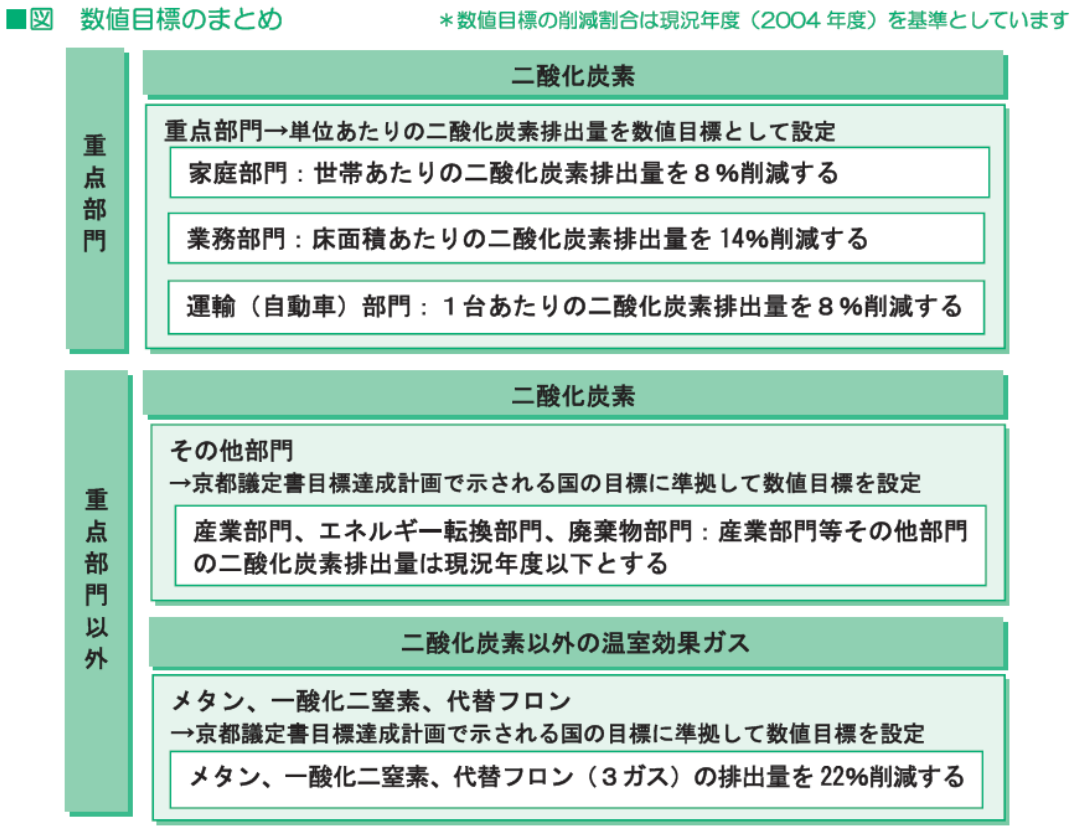



図 3.2.8-11　数値目標

### 5) 福岡市自動車交通公害防止計画

#### ア．計画の目的

福岡市では、自動車交通公害対策を総合的かつ計画的に推進するため、平成 5 年に「福岡市自動車交通公害防止計画」を、平成 14 年 4 月に「第二次福岡市自動車交通公害防止計画」（第二次計画）を策定している。

その後、国においては自動車排出ガス対策が段階的に実施・強化されるとともに、大気汚染の著しい大都市においては、ディーゼル車の走行規制など独自の先進的な取り組みが展開されている。また、平成 17 年 2 月には、京都議定書が発効されたことから、温室効果ガスの排出割合の大きい運輸部門での地球温暖化対策の実施が重要となっている。これらの状況をふまえ、第二次計画における問題点・課題を明確にし、より有効な対策を講じていくため、「福岡市自動車交通公害防止計画（第三次）」が策定された。

#### イ．計画の概要

##### ア）目標年次

計画の目標年次は環境基本計画に合わせた平成 27 年度である。また、進捗状況を踏まえた計画の点検等を行うため、平成 22 年度を中間目標年度としている。

##### イ）重点施策

福岡市の大気環境は、自動車排出ガス規制等により将来的には改善されるが、本計画に掲げる目標は達成できないと予想される。また、騒音については、環境基準を超過している地域がみられる。これらの現状を踏まえ、図 3.2.8-12 に示すとおり、優先的に取り組むべき「重点施策」を示し、計画の達成に向けて取り組むこととしている。

1. 低公害車の普及促進と自動車の低公害化
2. 都心部における大気環境の改善
3. 自動車騒音が著しい地域における騒音対策

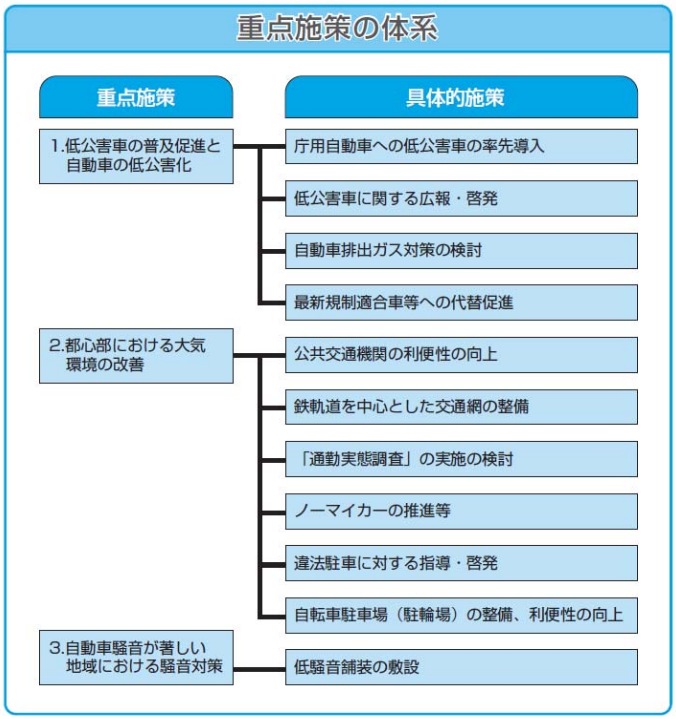



図 3.2.8-12　重点施策

### ウ. 計画の目標

計画の目標の体系は、図 3.2.8-13 に示すとおりである。

#### ア）大気環境の改善・維持

二酸化窒素、浮遊粒子状物質を対象とし、平成 22 年度までに環境基準を達成し維持する。

#### イ）温室効果ガスの削減

自動車 1 台あたりの二酸化炭素の排出量を平成 16 年度(2004 年度)レベルから平成 22 年度までに 8%削減することをめざす。

#### ウ）自動車騒音の低減

平成 22 年度までに要請限度以下に低減する。また、面的評価による環境基準を平成 22 年度までに 85%、平成 27 年度までに達成維持をめざす。

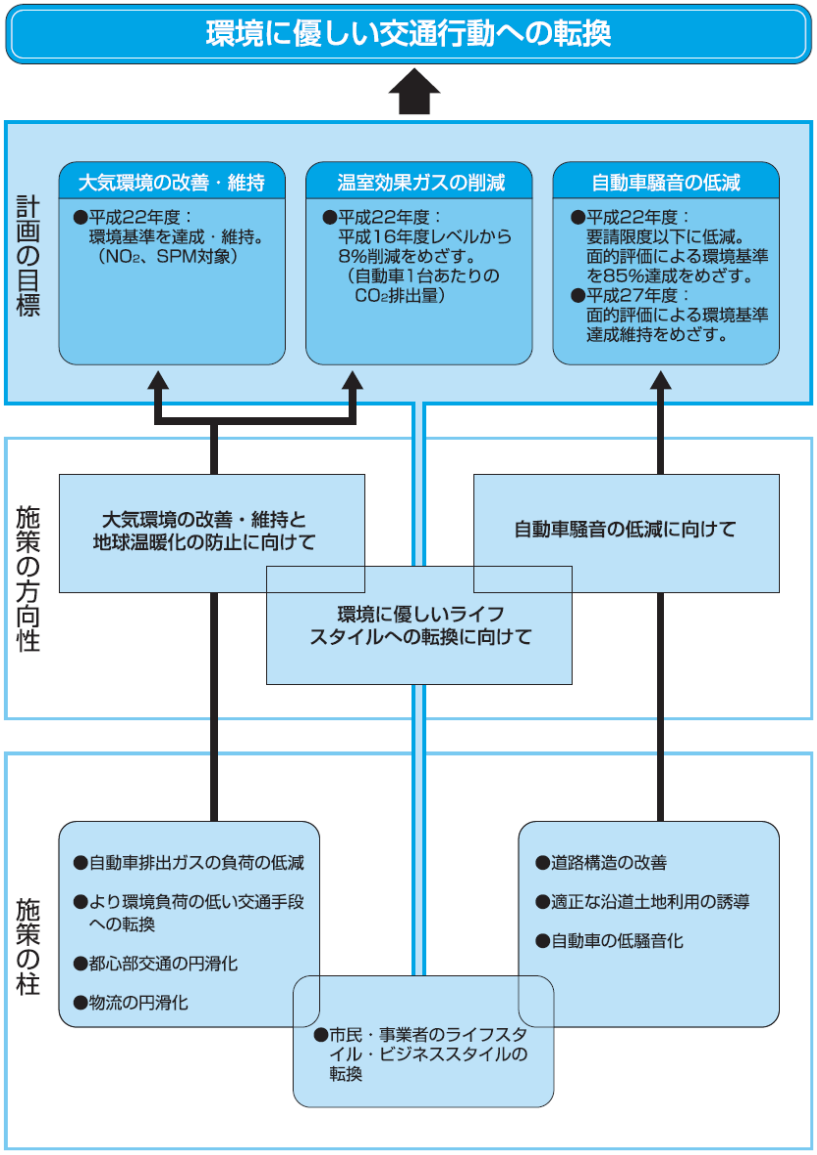



図 3.2.8-13　目標の体系

### 6) 「福岡市環境配慮指針（改訂版）」

#### ア．指針の位置づけ

本指針は、「福岡市環境基本計画」に示す環境像「ときを越えて人が環境と共に生きるまち」を実現するために、都市基盤整備事業や民間の開発事業等における環境配慮を誘導するためのガイドラインである。

#### イ．ゾーン別環境配慮方向

自然的・社会的条件を考慮して、市域を大きく 4 つのゾーンに区分し、各ゾーンの特性に従い、それぞれの地域で必要な環境配慮の方向を示している。

対象事業実施区域は、「内陸部(人が日常の中で身近な生きものと出会える、自然とのふれあいにあふれるまち)」に該当し、以下のような環境特性及び環境配慮方向が示されている。

**ア）概要**

市街地、住宅地、農地等が広がる地域。地区毎に個性的な空間が形成されている。公園や寺社境内、水田等に身近な自然が存在する。また、史跡や文化財が多く残されている。

**イ）方向性**

身近な生きものの生息・生育の場の整備
歴史的文化資源の保全
緑化の推進、大木・名木の保全
学術的に価値の高い地形・地質の保全
優れた自然景観資源の保全
河川・ため池等の保全・整備
農地の保全・整備

#### ウ．事業別配慮方向

市内で実施される開発事業等を 11 に区分し、自己チェックポイント、環境配慮事項から構成される環境配慮マトリックスが整理されており、事業者がそれぞれの事業と環境との関わり方を明らかにし、「計画」「工事」「供用・管理」といった事業進行の各段階に応じて事業対象地の特性、施工内容・工事の特性等を自己チェックポイントを用いてチェックし、それをもとにスコーピング(対象項目の絞り込み)の手法により、適切な環境配慮事項を検討できるように、取りまとめられている。

開発事業等の 11 区分のうち、「空港」としての区分は挙げられていないが、「交通基盤整備事業」の区分では「施工時に自然環境(生物生息地、植生、水脈など)の損傷・消失をもたらす可能性」に対する配慮が求められている。

# 第 4 章　環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

# 第4章　環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法

## 4.1環境影響評価の項目の選定

### 4.1.1　環境影響評価の項目

本事業に関わる環境影響評価の項目は、当該事業の内容並びに対象事業実施区域及びその周囲の自然的社会的状況を把握した上で、「飛行場及びその施設の設置又は変更の事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」（平成 10 年 6 月 12 日 運輸省令第 36 号）（以下、「主務省令」という。）の参考項目（別表第 1）を基本として、表 4.1.1-1 に示すとおり選定した。

**表 4.1.1-1 環境影響評価の項目の選定**

| 環境要素の区分 ＼ 影響要因の区分 | | | | | 工事の実施 | | | 土地又は工作物の存在及び供用 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 一時的な影響造成等の施工による | 建設機械の稼働 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 | 飛行場の存在 | 航空機の運航 | 飛行場の施設の供用 |
| 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 大気環境 | 大気質 | 窒素酸化物 | | | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ |
| | | | 粉じん等 | | ◎ | | ◎ | | | |
| | | | 浮遊粒子状物質 | | | ● | ● | | ● | ● |
| | | 騒音 | 騒音 | | | ◎ | ◎ | | ◎ | |
| | | 低周波音 | | | | | | | ● | |
| | | 振動 | 振動 | | | ◎ | ◎ | | | |
| | 水環境 | 水質 | 土砂による水の濁り | | ◎ | | | | | |
| | | | 水の汚れ | | | | | | | ◎ |
| | 土壌に係る環境その他の環境 | 地形及び地質 | 重要な地形及び地質 | | | | | | | |
| 生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素 | 動物 | | 重要な種及び注目すべき生息地 | 陸生動物 | | | | ◎ | ○ | |
| | | | | 水生動物 | ○ | | | ◎ | | ○ |
| | 植物 | | 重要な種及び群落 | 陸生植物 | | | | ◎ | | |
| | | | | 水生植物 | ○ | | | ◎ | | ○ |
| | 生態系 | | 地域を特徴づける生態系 | | ○ | | | ◎ | | ○ |
| 人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価すべき環境要素 | 景観 | | 主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観 | | | | | ◎ | | |
| | 人と自然との触れ合いの活動の場 | | 主要な人と自然との触れ合いの活動の場 | | | | | ◎ | | |
| 環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素 | 廃棄物等 | | 建設工事に伴う副産物 | | ◎ | | | | | |
| | 温室効果ガス等 | | 二酸化炭素 | | | | | | | □ |
| | | | その他の温室効果ガス | | | | | | | □ |

［備考］
◎○□●印は、各欄に挙げる環境要素が、影響要因の項に挙げる各要因により影響を受けるおそれがあるものとして、環境影響評価項目として選定した項目を示す。
なお、◎印は主務省令に基づく参考項目で選定した項目を示し、主務省令に基づく参考項目以外では、○印は福岡県環境影響評価技術指針の参考項目として選定した項目であり、□印は福岡市環境影響評価技術指針の参考項目として選定した項目を示す。●印は既存アセス書を参考に選定した項目を示す。

### 4.1.2　選定の理由

環境影響評価の項目の選定にあたっての理由は、工事の実施に伴う項目については表 4.1.2-1(1)及び表 4.1.2-1(2)に、土地又は工作物の存在及び供用に伴う項目については表 4.1.2-2(1)及び表 4.1.2-2(2)に示すとおりである。

**表 4.1.2-1(1)　環境影響評価の項目の選定にあたっての理由（工事の実施）**

| 環境影響評価の項目 | | | 環境影響評価の項目の選定理由 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | | 影響要因の区分 | | |
| 大気質 | 窒素酸化物 | 建設機械の稼働 | 建設機械の稼働に伴う窒素酸化物の排出が考えられ、対象事業実施区域及びその周囲に住居等が分布していることを勘案し、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| | | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う窒素酸化物の排出が考えられ、資材等の運搬車両が走行すると想定される道路沿いに住居等が分布していることを勘案し、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| | 粉じん等 | 造成等の施工による一時的な影響及び建設機械の稼働 | 造成等の施工及び建設機械の稼働に伴う粉じん等の発生が考えられ、対象事業実施区域及びその周囲に住居等が分布していることを勘案し、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| | | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う粉じん等の発生が考えられ、資材等の運搬車両が走行すると想定される道路沿いに住居等が分布していることを勘案し、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| | 浮遊粒子状物質 | 建設機械の稼働 | 建設機械の稼働に伴う浮遊粒子状物質の排出が考えられ、対象事業実施区域及びその周囲に住居等が分布していることを勘案し、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ●事例参考項目<br>・H13 百里　・H14 美保<br>・H16 羽田　・H22 那覇<br><br>既環境影響評価でも選定されている。<br>これまでの飛行場事業の事例によれば、建設機械の稼働による影響は小さいが、周辺環境（市街地）に配慮して念のため選定する。 |
| | | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う浮遊粒子状物質の排出が考えられ、資材等の運搬車両が走行すると想定される道路沿いに住居等が分布していることを勘案し、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ●事例参考項目<br>・H13 百里　・H14 美保<br>・H16 羽田　・H22 那覇<br><br>既環境影響評価でも選定されている。<br>これまでの飛行場事業の事例によれば、車両の運行による影響は小さいが、周辺環境（市街地）に配慮して念のため選定する。 |

表 4.1.2-1(2)　環境影響評価の項目の選定にあたっての理由（工事の実施）

| 環境影響評価の項目 | | | | 環境影響評価の項目の選定理由 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | | | 影響要因の区分 | | |
| 騒音 | 騒音 | | 建設機械の稼働 | 建設機械の稼働に伴う騒音の発生が考えられ、対象事業実施区域及びその周囲に住居等が分布していることを勘案し、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| | | | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う騒音の発生が考えられ、資材等の運搬車両が走行すると想定される道路沿いに住居等が分布していることを勘案し、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| 振動 | 振動 | | 建設機械の稼働 | 建設機械の稼働に伴う、振動の発生が考えられ、対象事業実施区域及びその周囲に住居等が分布していることを勘案し、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| | | | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う振動の発生が考えられ、資材等の運搬車両が走行すると想定される道路沿いに住居等が分布していることを勘案し、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| 水質 | 土砂による水の濁り | | 造成等の施工による一時的な影響 | 河川等の公共用水域が存在し、造成等の施工に伴い、雨水等により発生する濁水等が下流の河川に流出する可能性が考えられ、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| 動物 | 重要な種及び注目すべき生息地 | 水生動物 | 造成等の施工による一時的な影響 | 造成等の施工に伴い、雨水等により発生する濁水等が下流の河川に流出し、水生動植物及びその生息地や群落に影響を及ぼす可能性が考えられ、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ○県環境影響評価技術指針参考項目に選定されており、地域の特性を踏まえて選定する。 |
| 植物 | 重要な種及び群落 | 水生植物 | | | |
| 生態系 | 地域を特徴づける生態系 | | 造成等の施工による一時的な影響 | 造成等の施工に伴い、雨水等により発生する濁水等が下流の河川に流出し、地域を特徴づける生態系に影響を及ぼす可能性が考えられ、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ○県環境影響評価技術指針参考項目に選定されており、地域の特性を踏まえて選定する。 |
| 廃棄物等 | 建設工事に伴う副産物 | | 造成等の施工による一時的な影響 | 造成等の施工に伴い、副産物が発生すると考えられ、その発生量を把握するため選定する。 | ◎省令参考項目 |

## 表 4.1.2-2(1)　環境影響評価の項目の選定にあたっての理由
## （土地又は工作物の存在及び供用）

| 環境影響評価の項目 | | | | 環境影響評価の項目の選定理由 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | | 影響要因の区分 | | | |
| 大気質 | 窒素酸化物 | 航空機の運航 | | 航空機の運航に伴う窒素酸化物の排出が考えられ、対象事業実施区域及びその周囲に住居等が分布していることを勘案し、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| | | 飛行場の施設の供用 | | 飛行場の施設の供用に伴う窒素酸化物の排出が考えられ、対象事業実施区域及びその周囲に住居等が分布していることを勘案し、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| | 浮遊粒子状物質 | 航空機の運航 | | 航空機の運航に伴う浮遊粒子状物質の排出が考えられ、対象事業実施区域及びその周囲に住居等が分布していることを勘案し、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ●事例参考項目<br>・H13 百里　・H14 美保<br>・H16 羽田　・H22 那覇<br><br>既環境影響評価でも選定されている。<br>　これまでの飛行場事業の事例によれば、航空機からの排出量による影響は小さいが、周辺環境（市街地）に配慮して念のため選定する。 |
| | | 飛行場の施設の供用 | | 飛行場の施設の供用に伴う浮遊粒子状物質の排出が考えられ、対象事業実施区域及びその周囲に住居等が分布していることを勘案し、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ●事例参考項目<br>・H13 百里　・H14 美保<br>・H16 羽田　・H22 那覇<br><br>既環境影響評価でも選定されている。<br>　これまでの飛行場事業の事例によれば、駐車場利用車両等からの排出量による影響は小さいが、周辺環境(市街地)に配慮して念のため選定する。 |
| 騒音 | 騒音 | 航空機の運航 | | 航空機の運航に伴う騒音の発生が考えられ、対象事業実施区域及びその周囲に住居等が分布していることを勘案し、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| 低周波音 | | 航空機の運航 | | 航空機の運航に伴う低周波音が発生する可能性が考えられ、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ●事例参考項目<br>・H16 羽田　・H22 那覇<br><br>既環境影響評価でも選定されている。<br>　これまでの飛行場事業の事例によれば、航空機からの低周波音の影響は小さいが、周辺環境（市街地）に配慮して念のため選定する。 |
| 水質 | 水の汚れ | 飛行場の施設の供用 | | 河川等の公共用水域が存在し、飛行場の施設の供用に伴い使用する防除雪氷剤等が下流の河川に流入する可能性が考えられ、その影響を予測評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| 動物 | 重要な種及び注目すべき生息地 | 陸生動物 | 飛行場の存在 | 飛行場の存在により、対象事業実施区域及びその周囲に存在する陸生動物及びその生息地に影響を及ぼす可能性が考えられ、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |

表 4.1.2-2(2)　環境影響評価の項目の選定にあたっての理由
（土地又は工作物の存在及び供用）

| 環境影響評価の項目 | | | | 環境影響評価の項目の選定理由 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | | 影響要因の区分 | | | |
| 動物 | 重要な種及び注目すべき生息地 | 陸生動物 | 航空機の運航 | 航空機の年間発着回数の増加や運用方法の変更に伴い、航空機と鳥との衝突による鳥類の重要な種への影響を及ぼす可能性が考えられ、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ○県環境影響評価技術指針参考項目に選定されており、地域の特性を踏まえて選定する。 |
| | | 水生動物 | 飛行場の存在 | 飛行場の存在により、対象事業実施区域及びその周囲に存在する水生動物及びその生息地に影響を及ぼす可能性が考えられ、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| | | | 飛行場の施設の供用 | 飛行場の施設の供用に伴い使用する防除雪氷剤等が下流の河川に流入し、水生動物及びその生息地に影響を及ぼす可能性が考えられ、その影響を予測評価するため選定する。 | ○県環境影響評価技術指針参考項目に選定されており、地域の特性を踏まえて選定する。 |
| 植物 | 重要な種及び群落 | 陸生植物 | 飛行場の存在 | 飛行場の存在により、対象事業実施区域及びその周囲に存在する陸生植物及びその群落に影響を及ぼす可能性が考えられ、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| | | 水生植物 | 飛行場の存在 | 飛行場の存在により、対象事業実施区域及びその周囲に存在する水生植物及びその群落に影響を及ぼす可能性が考えられ、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| | | | 飛行場の施設の供用 | 飛行場の施設の供用に伴い使用する防除雪氷剤等が下流の河川に流入し、水生植物及びその群落に影響を及ぼす可能性が考えられ、その影響を予測評価するため選定する。 | ○県環境影響評価技術指針参考項目に選定されており、地域の特性を踏まえて選定する。 |
| 生態系 | 地域を特徴づける生態系 | | 飛行場の存在 | 飛行場の存在により、対象事業実施区域及びその周囲に成立する地域を特徴づける生態系に影響を及ぼす可能性が考えられ、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| | | | 飛行場の施設の供用 | 飛行場の施設の供用に伴い使用する防除雪氷剤等が下流の河川に流入し、対象事業実施区域及びその周囲に成立する地域を特徴づける生態系に影響を及ぼす可能性が考えられ、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ○県環境影響評価技術指針参考項目に選定されており、地域の特性を踏まえて選定する。 |
| 景観 | 主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観 | | 飛行場の存在 | 飛行場の存在により、対象事業実施区域及びその周囲に存在する主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観に影響を及ぼす可能性が考えられ、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| 人と自然との触れ合いの活動の場 | 主要な人と自然との触れ合いの活動の場 | | 飛行場の存在 | 飛行場の存在により、対象事業実施区域の周囲に存在する主要な人と自然との触れ合いの活動の場に影響を及ぼす可能性が考えられ、その影響を予測及び評価するため選定する。 | ◎省令参考項目 |
| 温室効果ガス等 | 二酸化炭素 | | 飛行場の施設の供用 | 飛行場の施設の供用に伴い、二酸化炭素の排出が考えられ、その状況を把握するため選定する。 | □市環境影響評価技術指針参考項目に選定されており、地域の特性を踏まえて選定する。 |
| | その他の温室効果ガス等 | | 飛行場の施設の供用 | 飛行場の施設の供用に伴い、メタン及び一酸化二窒素等の排出が考えられ、その状況を把握するため選定する。 | □市環境影響評価技術指針参考項目に選定されており、地域の特性を踏まえて選定する。 |

## 4.2調査及び予測の手法

環境影響評価の項目ごとの調査、予測並びに評価の手法は、「飛行場及びその施設の設置又は変更の事業に係る環境影響評価の項目並びに当該項目に係る調査、予測及び評価を合理的に行うための手法を選定するための指針、環境の保全のための措置に関する指針等を定める省令」（平成 10 年 6 月 12 日 運輸省令第 36 号)の参考手法(別表第 2)を基本として選定した。

各環境影響評価の項目ごとの調査、予測並びに評価の手法等については、「4.2.1 大気質」～「4.2.12 温室効果ガス等」の各項目に示すとおりである。

### 4.2.1　大気質

大気質に係る調査及び予測の手法並びにその選定理由については、表 4.2.1-1～表 4.2.1-10 に示すとおりである。

**表 4.2.1-1　大気質（窒素酸化物：建設機械の稼働）に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 窒素酸化物 | 建設機械の稼働 | 調査すべき情報 | 1)二酸化窒素の濃度の状況<br>2)気象の状況 | 工事の実施にあたっては、一般的な工法を採用し、一般的な建設機械を使用するため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1)二酸化窒素の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]「環境白書」(各自治体)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　二酸化窒素の濃度の測定、整理及び解析による方法とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]気象庁データ等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　風向・風速、気温、湿度の測定、整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて、窒素酸化物に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。建設機械の排出源高さはおおむね 5m 以下であるため、影響を受けるおそれがある地域は、対象事業実施区域のごく近傍になると考えられる。ただし、文献調査地域については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて調査地域における窒素酸化物に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)二酸化窒素の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す一般環境大気測定局である 5 地点とする。<br>[現地調査]　図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す福岡管区気象台及び福岡航空測候所の 2 地点とする。<br>[現地調査]　図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて調査地域における窒素酸化物に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期とする。<br>1)二酸化窒素の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の 10 年間とする。<br>[現地調査]　四季の年 4 回、各 7 日間とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。ただし、異常年検定に用いる情報については、至近の10年間とする。<br>[現地調査]　四季の年 4 回、各 7 日間とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 事例の引用又は解析による方法とする。拡散式はプルーム式及びパフ式を用いる。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて窒素酸化物に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測地点 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて予測地域における窒素酸化物に係る環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 建設機械の稼働による窒素酸化物に係る環境影響が最大となる時期とする。 | |




凡　例

- ：対象事業実施区域
- ：市町村界
- ：区界
- ■：気象観測所
- ●：一般環境大気測定局
- ◎：自動車排出ガス測定局
- ◇：降下ばいじん測定局

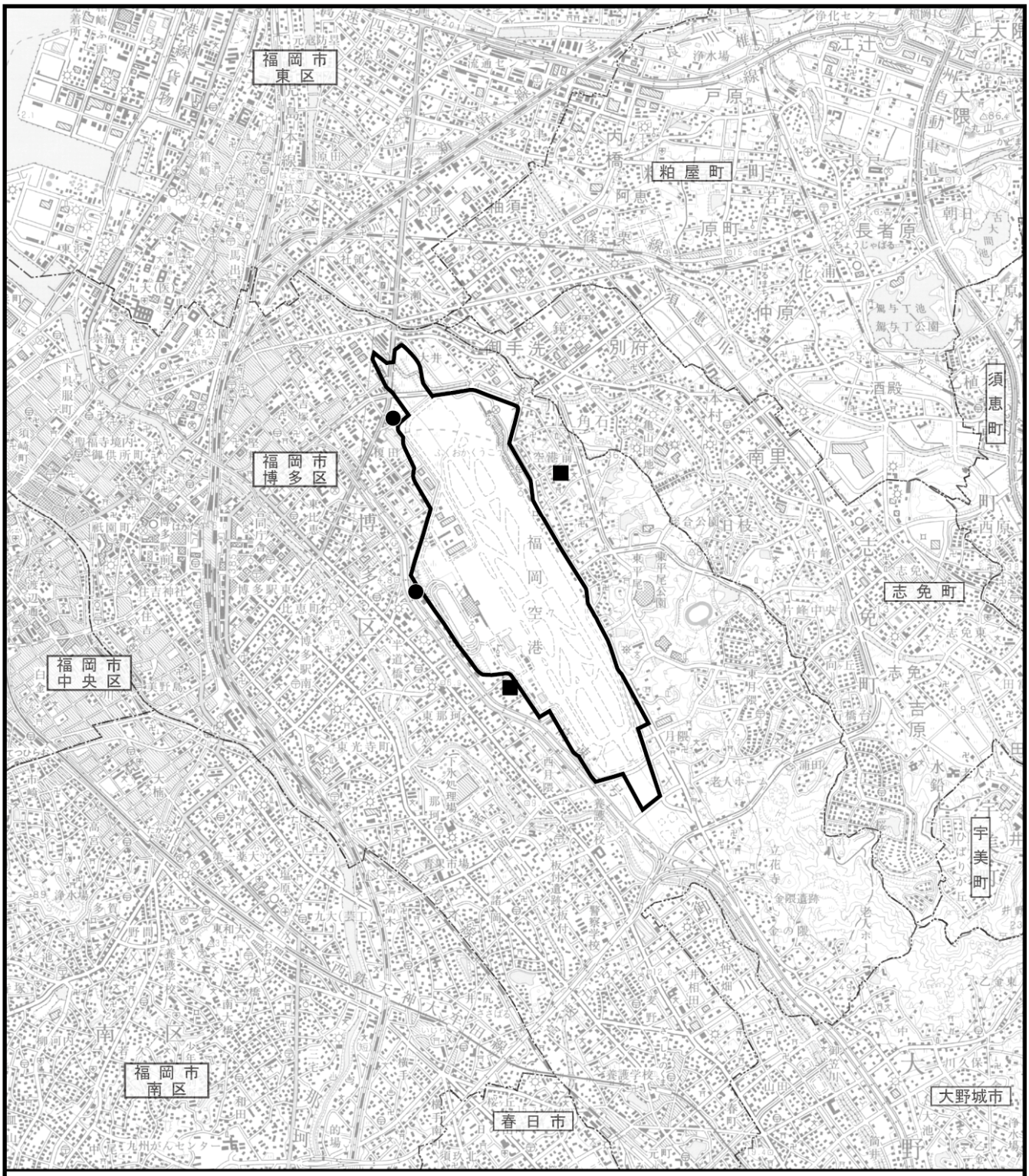
N

1:100,000

0　2.5　5km

出典:「平成22年版日本の大気汚染状況」（平成23年11月　環境省水・大気環境局）

図 4.2.1-1　大気質調査地点位置図
（文献その他の資料調査）




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

■　：一般環境大気測定地点

●　：道路沿道大気測定地点

N

1:50,000

0　1　2km

図 4.2.1-2　大気質調査地点位置図（現地調査）

**表 4.2.1-2　大気質（窒素酸化物：資材等運搬車両の運行）に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 窒素酸化物 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 | 調査すべき情報 | 1)二酸化窒素の濃度の状況<br>2)気象の状況 | 工事の実施にあたっては、資材及び機械の運搬には一般的な車両を使用するため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1)二酸化窒素の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]「環境白書」(各自治体)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査] 二酸化窒素の濃度の測定、整理及び解析による方法とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]気象庁データ等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査] 風向・風速、気温、湿度の測定、整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて、窒素酸化物に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。資材及び機械の運搬に用いる車両の走行ルートとして想定される道路沿道を調査地域とする。ただし、文献調査地域については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて調査地域における窒素酸化物に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)二酸化窒素の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す一般環境大気測定局である 5 地点及び自動車排出ガス測定局である 4 地点とする。<br>[現地調査] 図 4.2.1-2 に示す道路沿道大気質調査地点の 2 地点とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す福岡管区気象台及び福岡航空測候所の 2 地点とする。<br>[現地調査] 図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて調査地域における窒素酸化物に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期とする。<br>1)二酸化窒素の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の 10 年間とする。<br>[現地調査] 四季の年 4 回、各 7 日間とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。ただし、異常年検定に用いる情報については、至近の 10 年間とする。<br>[現地調査] 四季の年 4 回、各 7 日間とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 事例の引用又は解析による方法とする。拡散式はプルーム式及びパフ式を用いる。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて窒素酸化物に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測地点 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて予測地域における窒素酸化物に係る環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による窒素酸化物に係る環境影響が最大となる時期とする。 | |

表 4.2.1-3　大気質（窒素酸化物:航空機の運航）に係る調査、予測手法等

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 窒素酸化物 | 航空機の運航 | 調査すべき情報 | 1)二酸化窒素の濃度の状況<br>2)気象の状況 | 当該飛行場の利用を予定する航空機については、一般的な運航が行われるため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1)二酸化窒素の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]「環境白書」(各自治体)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査] 二酸化窒素の濃度の測定、整理及び解析による方法とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]気象庁データ等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査] 風向・風速、気温、湿度の測定、整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて、窒素酸化物に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。ただし、文献調査地域については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて調査地域における窒素酸化物に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)二酸化窒素の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す一般環境大気測定局である 5 地点とする。<br>[現地調査] 図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す福岡管区気象台及び福岡航空測候所の 2 地点とする。<br>[現地調査] 図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて調査地域における窒素酸化物に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期とする。<br>1)二酸化窒素の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の 10 年間とする。<br>[現地調査] 四季の年 4 回、各 7 日間とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。ただし、異常年検定に用いる情報については、至近の 10 年間とする。<br>[現地調査] 四季の年 4 回、各 7 日間とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | プルーム式及びパフ式による計算を行う方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて窒素酸化物に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測地点 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて予測地域における窒素酸化物に係る環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 飛行場の施設の供用が定常状態にあり、窒素酸化物に係る環境影響を適切に予測できる時期とする。 | |

表 4.2.1-4　大気質（窒素酸化物：飛行場の施設の供用）に係る調査、予測手法等

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 窒素酸化物 | 飛行場の施設の供用 | 調査すべき情報 | 1)二酸化窒素の濃度の状況<br>2)気象の状況 | 飛行場の供用に伴い一般的な施設の供用が行われるため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1)二酸化窒素の濃度の状況<br>［文献その他の資料調査］「環境白書」(各自治体)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>［現地調査］　二酸化窒素の濃度の測定、整理及び解析による方法とする。<br>2)気象の状況<br>［文献その他の資料調査］気象庁データ等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>［現地調査］　風向・風速、気温、湿度の測定、整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて、窒素酸化物に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。ただし、文献調査地域については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて調査地域における窒素酸化物に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)二酸化窒素の濃度の状況<br>［文献その他の資料調査］図 4.2.1-1 に示す一般環境大気測定局である 5 地点とする。<br>［現地調査］　図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。<br>2)気象の状況<br>［文献その他の資料調査］図 4.2.1-1 に示す福岡管区気象台及び福岡航空測候所の 2 地点とする。<br>［現地調査］　図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて調査地域における窒素酸化物に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期とする。<br>1)二酸化窒素の濃度の状況<br>［文献その他の資料調査］至近の 10 年間とする。<br>［現地調査］　四季の年 4 回、各 7 日間とする。<br>2)気象の状況<br>［文献その他の資料調査］至近の情報とする。ただし、異常年検定に用いる情報については、至近の 10 年間とする。<br>［現地調査］　四季の年 4 回、各 7 日間とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | プルーム式及びパフ式による計算を行う方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて窒素酸化物に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測地点 | 窒素酸化物の拡散の特性を踏まえて予測地域における窒素酸化物に係る環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 飛行場の施設の供用が定常状態にあり、窒素酸化物に係る環境影響を適切に予測できる時期とする。 | |

表 4.2.1-5　大気質（粉じん等：造成等の一時的影響、建設機械の稼働）に係る調査、予測手法等

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 粉じん等 | 造成等の施工による一時的な影響及び建設機械の稼働 | 調査すべき情報 | 1)降下ばいじん量の状況<br>2)気象の状況 | 工事の実施にあたっては、一般的な工法の採用及び一般的な建設機械を使用するため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1)降下ばいじん量の状況<br>[文献その他の資料調査]「環境白書」(各自治体)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　デポジットゲージ法による試料の捕集及び分析による方法とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]気象庁データ等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　風向・風速、気温、湿度の測定、整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 粉じん等の拡散の特性を踏まえて粉じん等に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。ただし、文献調査地域については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 粉じん等の拡散の特性を踏まえて調査地域における粉じん等に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)降下ばいじん量の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す 1 地点とする。<br>[現地調査]　図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す福岡管区気象台及び福岡航空測候所の 2 地点とする。<br>[現地調査]　図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 粉じん等の拡散の特性を踏まえて調査地域における粉じん等に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期とする。<br>1)降下ばいじん量の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の 10 年間とする。<br>[現地調査]　四季の年 4 回、各 1 ヶ月間とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。ただし、異常年検定に用いる情報については、至近の 10 年間とする。<br>[現地調査]　四季の年 4 回、各 1 ヶ月間とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 事例の引用又は解析により、降下ばいじん量を計算する方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、粉じん等の拡散の特性を踏まえて粉じんに係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測地点 | 粉じん等の拡散の特性を踏まえて予測地域における粉じん等に係る環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 造成等の施工による一時的な影響及び建設機械の稼働による粉じん等に係る環境影響が最大となる時期とする。 | |

**表 4.2.1-6　大気質（粉じん等：資材等運搬車両の運行）に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 粉じん等 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 | 調査すべき情報 | 1)降下ばいじん量の状況<br>2)気象の状況 | 工事の実施にあたっては、資材及び機械の運搬には一般的な車両を使用するため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1)降下ばいじん量の状況<br>[文献その他の資料調査]「環境白書」(各自治体)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　デポジットゲージ法による試料の捕集及び分析による方法とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]気象庁データ等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　風向・風速、気温、湿度の測定、整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 粉じん等の拡散の特性を踏まえて粉じん等に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。資材及び機械の運搬に用いる車両の走行ルートとして想定される道路沿道を調査地域とする。ただし、文献調査地域については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 粉じん等の拡散の特性を踏まえて調査地域における粉じん等に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)降下ばいじん量の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す 1 地点とする。<br>[現地調査]　図 4.2.1-2 に示す道路沿道大気質調査地点の 2 地点とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す福岡管区気象台及び福岡航空測候所の 2 地点とする。<br>[現地調査]　図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 粉じん等の拡散の特性を踏まえて調査地域における粉じん等に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期とする。<br>1)降下ばいじん量の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の 10 年間とする。<br>[現地調査]　四季の年 4 回、各 1 ヶ月間とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。ただし、異常年検定に用いる情報については、至近の 10 年間とする。<br>[現地調査]　四季の年 4 回、各 1 ヶ月間とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 事例の引用又は解析により、降下ばいじん量を計算する方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、粉じん等の拡散の特性を踏まえて粉じんに係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測地点 | 粉じん等の拡散の特性を踏まえて予測地域における粉じん等に係る環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による粉じん等に係る環境影響が最大となる時期とする。 | |

**表 4.2.1-7　大気質（浮遊粒子状物質：建設機械の稼働）に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 浮遊粒子状物質 | 建設機械の稼働 | 調査すべき情報 | 1)浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>2)気象の状況 | 工事の実施にあたっては、一般的な工法を採用及び一 般的な建設機械を使用するため、標準的な手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1) 浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]「環境白書」(各自治体)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。なお、微小粒子状物質（PM2.5）の測定結果についても、情報を収集・整理する。<br>[現地調査] 浮遊粒子状物質の濃度の測定、整理及び解析による方法とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]気象庁データ等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査] 風向・風速、気温、湿度の測定、整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 浮遊粒子状物質等の拡散の特性を踏まえて、浮遊粒子状物質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。建設機械の排出源高さはおおむね 5m 以下であるため、影響を受けるおそれがある地域は、対象事業実施区域のごく近傍になると考えられる。ただし、文献調査地域については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて調査地域における浮遊粒子状物質に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す一般環境大気測定局である 5 地点とする。<br>[現地調査] 図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す福岡管区気象台及び福岡航空測候所の 2 地点とする。<br>[現地調査] 図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 浮遊粒子状物質等の拡散の特性を踏まえて調査地域における浮遊粒子状物質等に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期とする。<br>1)浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の 10 年間とする。<br>[現地調査] 四季の年 4 回、各 7 日間とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。ただし、異常年検定に用いる情報については、至近の 10 年間とする。<br>[現地調査] 四季の年 4 回、各 7 日間とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | プルーム式及びパフ式による計算を行う方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて浮遊粒子状物質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測地点 | 浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて予測地域における浮遊粒子状物質に係る環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 建設機械の稼働による浮遊粒子状物質に係る環境影響が最大となる時期とする。 | |

**表 4.2.1-8　大気質（浮遊粒子状物質:資材等運搬車両の運行）に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 浮遊粒子状物質 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 | 調査すべき情報 | 1)浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>2)気象の状況 | 工事の実施にあたっては、資材及び機械の運搬には一般的な車両を使用するため、標準的な手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1) 浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]「環境白書」(各自治体)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。なお、微小粒子状物質（PM2.5）の測定結果についても、情報を収集・整理する。<br>[現地調査] 浮遊粒子状物質の濃度の測定、整理及び解析による方法とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]気象庁データ等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査] 風向・風速、気温、湿度の測定、整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて、浮遊粒子状物質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。資材及び機械の運搬に用いる車両の走行ルートとして想定される道路沿道を調査地域とする。ただし、文献調査地域については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて調査地域における浮遊粒子状物質に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2-1-1 に示す一般環境大気測定局である 5 地点及び自動車排出ガス測定局である 4 地点とする。<br>[現地調査] 図 4.2.1-2 に示す道路沿道大気質調査地点の 2 地点とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す福岡管区気象台及び福岡航空測候所の 2 地点とする。<br>[現地調査] 図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて調査地域における浮遊粒子状物質に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期とする。<br>1)浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の 10 年間とする。<br>[現地調査] 四季の年 4 回、各 7 日間とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。ただし、異常年検定に用いる情報については、至近の 10 年間とする。<br>[現地調査] 四季の年 4 回、各 7 日間とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | プルーム式及びパフ式による計算を行う方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて浮遊粒子状物質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測地点 | 浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて予測地域における浮遊粒子状物質に係る環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による浮遊粒子状物質に係る環境影響が最大となる時期とする。 | |

**表 4.2.1-9　大気質（浮遊粒子状物質：航空機の運航）に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 浮遊粒子状物質 | 航空機の運航 | 調査すべき情報 | 1)浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>2)気象の状況 | 当該飛行場の利用を予定する航空機については、一般的な運航が行われるため、標準的な手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1) 浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]「環境白書」(各自治体)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。なお、微小粒子状物質（PM2.5）の測定結果についても、情報を収集・整理する。<br>[現地調査] 浮遊粒子状物質の濃度の測定、整理及び解析による方法とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]気象庁データ等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査] 風向・風速、気温、湿度の測定、整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて、浮遊粒子状物質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。ただし、文献調査地域については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて調査地域における浮遊粒子状物質に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す一般環境大気測定局である 5 地点とする。<br>[現地調査] 図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す福岡管区気象台及び福岡航空測候所の 2 地点とする。<br>[現地調査] 図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて調査地域における浮遊粒子状物質に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期とする。<br>1)浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の 10 年間とする。<br>[現地調査] 四季の年 4 回、各 7 日間とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。ただし、異常年検定に用いる情報については、至近の 10 年間とする。<br>[現地調査] 四季の年 4 回、各 7 日間とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | プルーム式及びパフ式による計算を行う方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて浮遊粒子状物質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測地点 | 浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて予測地域における浮遊粒子状物質に係る環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 飛行場の施設の供用が定常状態にあり、浮遊粒子状物質に係る環境影響を適切に予測できる時期とする。 | |

表 4.2.1-10　大気質（浮遊粒子状物質:飛行場の施設の供用）に係る調査、予測手法等

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 浮遊粒子状物質 | 飛行場の施設の供用 | 調査すべき情報 | 1)浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>2)気象の状況 | 飛行場の供用に伴い一般的な施設の供用が行われるため、標準的な手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1) 浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]「環境白書」(各自治体)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。なお、微小粒子状物質（PM2.5）の測定結果についても、情報を収集・整理する。<br>[現地調査] 浮遊粒子状物質の濃度の測定、整理及び解析による方法とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]気象庁データ等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査] 風向・風速、気温、湿度の測定、整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて、浮遊粒子状物質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。ただし、文献調査地域については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて調査地域における浮遊粒子状物質に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す一般環境大気測定局である 5 地点とする。<br>[現地調査] 図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す福岡管区気象台及び福岡航空測候所の 2 地点とする。<br>[現地調査] 図 4.2.1-2 に示す一般環境大気質調査地点の 2 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて調査地域における浮遊粒子状物質に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期とする。<br>1)浮遊粒子状物質の濃度の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の 10 年間とする。<br>[現地調査] 四季の年 4 回、各 7 日間とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。ただし、異常年検定に用いる情報については、至近の 10 年間とする。<br>[現地調査] 四季の年 4 回、各 7 日間とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | プルーム式及びパフ式による計算を行う方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて浮遊粒子状物質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測地点 | 浮遊粒子状物質の拡散の特性を踏まえて予測地域における浮遊粒子状物質に係る環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 飛行場の施設の供用が定常状態にあり、浮遊粒子状物質に係る環境影響を適切に予測できる時期とする。 | |

### 4.2.2　騒音

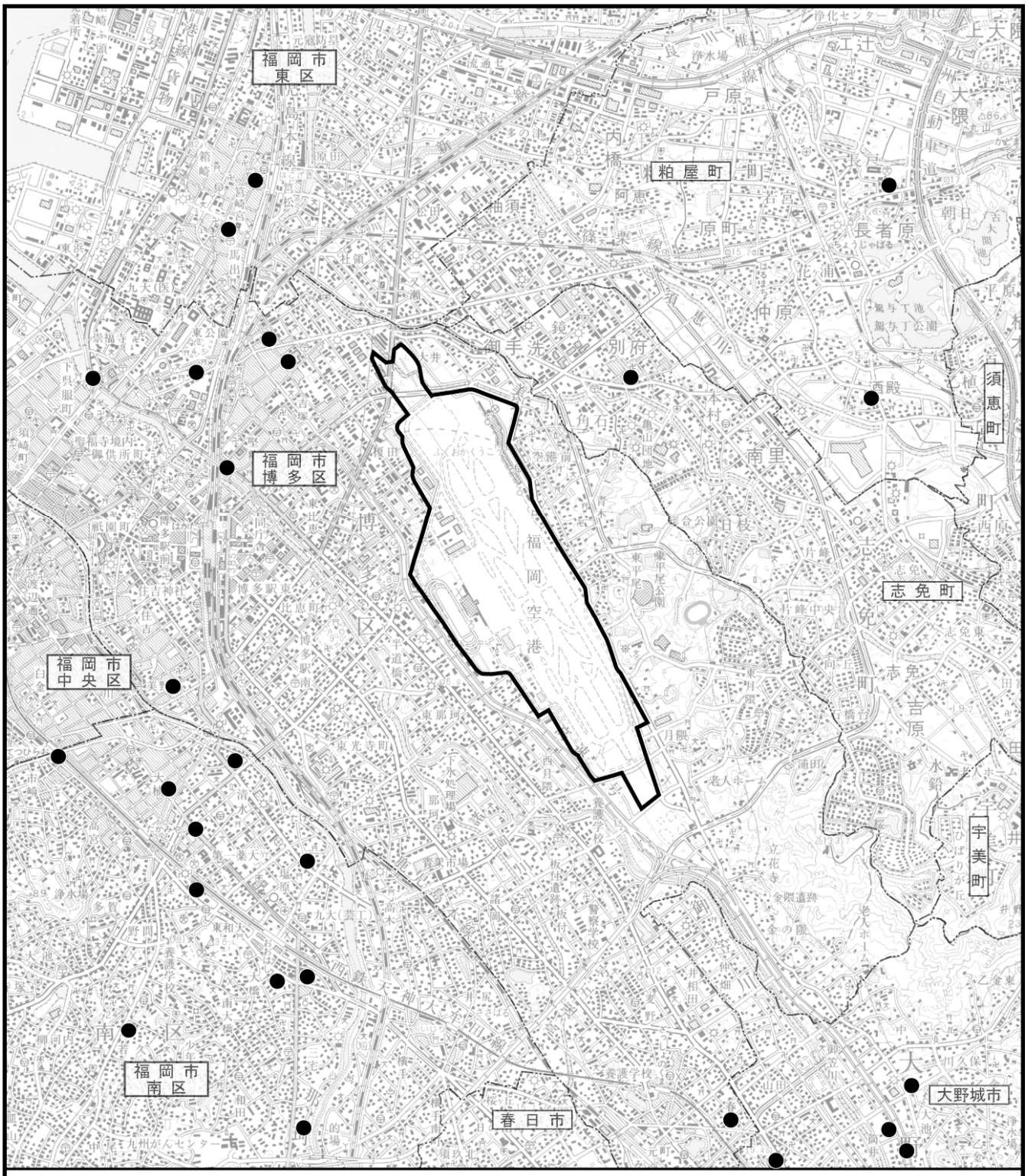
騒音に係る調査、予測の手法並びにその選定理由については、表 4.2.2-1～表 4.2.2-3 に示すとおりである。

**表 4.2.2-1　騒音（建設機械の稼働）に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 騒音 | 建設機械の稼働 | 調査すべき情報 | 1)騒音の状況<br>2)地表面の状況 | 工事の実施にあたっては、一般的な建設機械を使用することから、標準的な手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1)騒音の状況<br>[現地調査]　騒音の測定、整理及び解析による方法とする。<br>2)地表面の状況<br>[文献その他の資料調査]土地利用図等の文献その他の資料により、地表面の状況に関する情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 音の伝搬の特性を踏まえて騒音に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。ただし、文献調査地域については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 音の伝搬の特性を踏まえて調査地域における騒音に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)騒音の状況<br>[現地調査]　図 4.2.2-2 に示す 4 地点とする（環境騒音）。<br>2)地表面の状況<br>[文献その他の資料調査]騒音の状況の調査地点周辺において地表面の状況を適正かつ効果的に把握できる地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 音の伝搬の特性を踏まえて調査地域における騒音に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>1)騒音の状況<br>[現地調査]　秋季の 2 日（平日・休日各 1 日）とし、毎時測定とする。<br>2)地表面の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 音の伝搬理論に基づく予測式により計算する方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、音の伝搬の特性を踏まえて騒音に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測地点 | 音の伝搬の特性を踏まえて予測地域における騒音に係る環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 建設機械の稼働による騒音に係る環境影響が最大となる時期とする。 | |

表 4.2.2-2　騒音（資材等運搬車両の運行）に係る調査、予測手法等

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 騒音 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 | 調査すべき情報 | 1)騒音の状況<br>2)資材及び機械の運搬に用いる車両の運搬に用いる車両の運行が予想される道路の沿道の状況(以下「沿道の状況」という。)<br>3)その他(交通量の状況) | 工事の実施にあたっては、資材及び機械の運搬には一般的な車両を使用するため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1)騒音の状況<br>[文献その他の資料調査]「環境白書」(各自治体)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　騒音の測定､整理及び解析による方法とする。<br>2)沿道の状況<br>[文献その他の資料調査]住宅、学校、病院等の状況を示す資料による情報の収集並びに当該情報の整理を行う。<br>[現地調査]　道路形状、住宅状況等を調査し、整理する。<br>3)その他(交通量の状況)<br>[現地調査]　騒音現地調査時に大型車類、小型車類、二輪車の車種別、上下線方向別に毎時間の交通量及び平均走行速度を計測する。 | |
| | | 調査地域 | 音の伝搬の特性を踏まえて騒音に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。資材及び機械の運搬に用いる車両の走行ルートとして想定される道路沿道を調査地域とする。ただし、文献調査地域については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 音の伝搬の特性を踏まえて調査地域における騒音に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)騒音の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.2-1 に示す 26 地点とする(道路交通騒音)。<br>[現地調査]　図 4.2.2-2 に示す 2 地点とする（道路交通騒音)。<br>2)沿道の状況<br>[文献その他の資料調査]資材等運搬車両が走行すると想定される道路の沿道とする。<br>[現地調査]　図 4.2.2-2 に示す 2 地点とする（道路交通騒音)。<br>3)その他(交通量の状況)<br>[現地調査]　騒音の状況の調査地点と同様とする。 | |
| | | 調査期間等 | 音の伝搬の特性を踏まえて調査地域における騒音に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>1)騒音の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　秋季の２日（平日・休日各１日）とし、毎時測定とする。<br>2)沿道の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　騒音の状況と同様とする。<br>3)その他(交通量の状況)<br>[現地調査]　騒音の状況と同様とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 音の伝搬理論に基づく予測式により計算する方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、音の伝搬の特性を踏まえて騒音に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測地点 | 音の伝搬の特性を踏まえて予測地域における騒音に係る環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による騒音に係る環境影響が最大となる時期とする。 | |




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：騒音測定地点

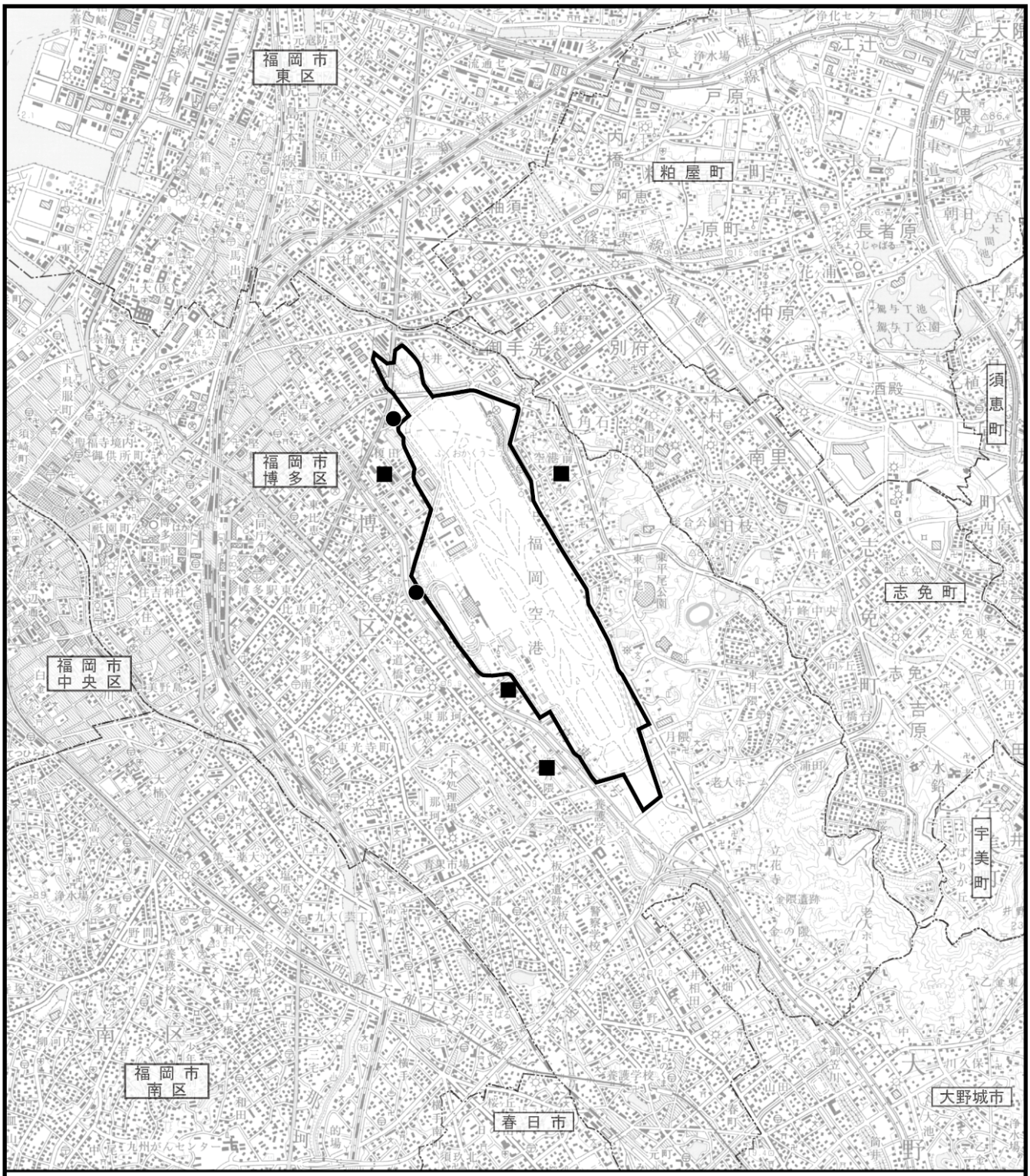
図 4.2.2-1　騒音調査地点（道路交通騒音）位置図
（文献その他の資料調査）

N

1:50,000

0　1　2km

出典:「平成23年版公害関係測定結果」(平成24年3月　福岡県)




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：環境騒音調査地点

：道路交通騒音調査地点

N

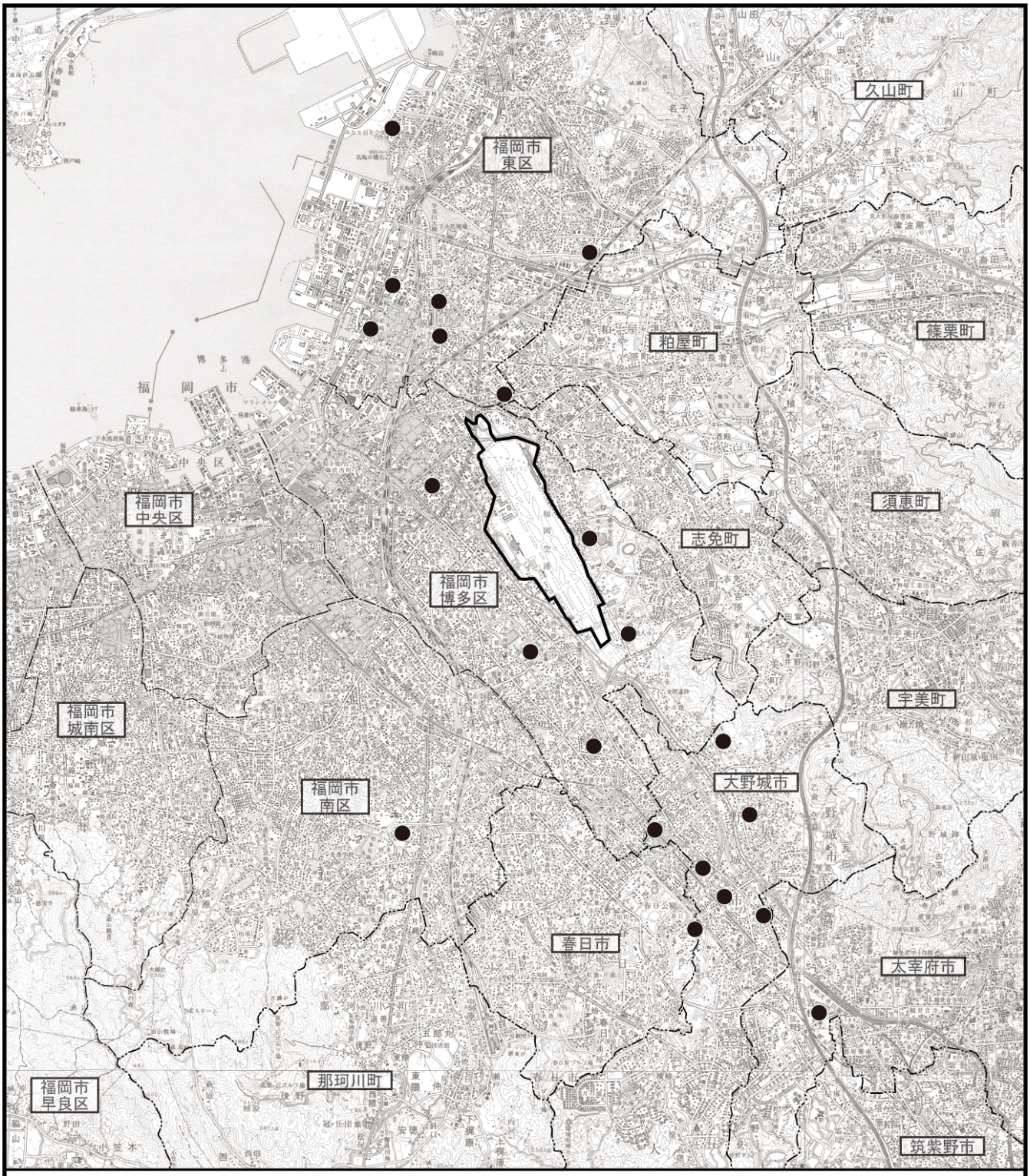
1:50,000

0　1　2km

図 4.2.2-2　騒音調査地点（環境、道路交通騒音）位置図（現地調査）

**表 4.2.2-3　騒音（航空機の運航）に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 騒音 | 航空機の運航 | 調査すべき情報 | 騒音の状況 | 当該飛行場の利用を予定する航空機については、一般的な運航が行われるため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[文献その他の資料調査]「環境白書」(各自治体)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　騒音の測定、整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 音の伝搬の特性を踏まえて騒音に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 調査地点 | 音の伝搬の特性を踏まえて調査地域における騒音に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.2-3 に示す 21 地点(航空機騒音)とする。<br>[現地調査]　図 4.2.2-4 に示す 25 地点(航空機騒音)とする。 | |
| | | 調査期間等 | 音の伝搬の特性を踏まえて、調査地域における騒音に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　夏季及び冬季の年 2 回、各 7 日間とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 「航空機騒音測定・評価マニュアル」(平成 21 年 7 月、環境省）に示される算定方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、音の伝搬の特性を踏まえて騒音に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 飛行場の施設の供用が定常状態にあり、騒音に係る環境影響を適切に予測できる時期とする。 | |




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：航空機騒音測定地点

図 4.2.2-3　騒音調査地点（航空機騒音）位置図
（文献その他の資料調査）

N

1:100,000

0　2.5　5km

出典:「平成22年版公害関係測定結果」（平成23年3月　福岡県）
「平成23年版公害関係測定結果」（平成24年3月　福岡県）

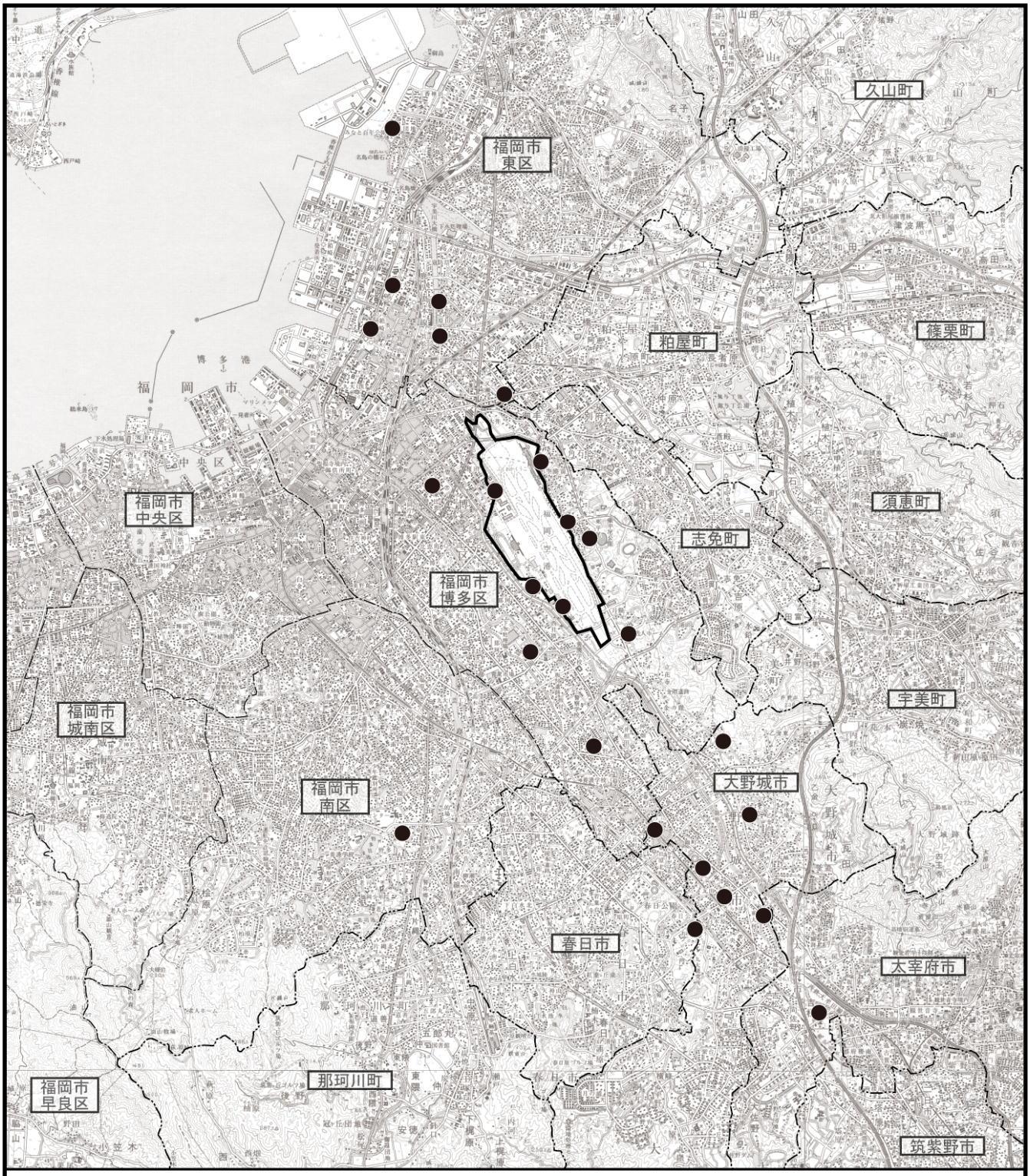



図 4.2.2-4　騒音調査地点（航空機騒音）位置図（現地調査）

### 4.2.3　低周波音

低周波音に係る調査、予測の手法並びにその選定理由については、表 4.2.3-1 に示すとおりである。

**表 4.2.3-1　低周波音（航空機の運航）に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 低周波音 | 航空機の運航 | 調査すべき情報 | 1)航空機運航時の低周波音(G 特性音圧レベル及び 1/3 オクターブバンド音圧レベル)<br>2)バックグラウンドとしての低周波音(G 特性音圧レベル及び 1/3 オクターブバンド音圧レベル) | 当該飛行場の利用を予定する航空機については、一般的な運航が行われるため、標準的な手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1)航空機運航時の低周波音<br>［現地調査］　航空機による低周波音の測定、整理及び解析による方法とする。<br>2)バックグラウンドとしての低周波音<br>［現地調査］　バックグラウンドとしての低周波音の測定、整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 低周波音の伝搬の特性を踏まえて低周波音に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 調査地点 | 低周波音の伝搬の特性を踏まえて調査地域における低周波音に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)航空機運航時の低周波音<br>［現地調査］　低周波音の音圧レベルを想定し、図 4.2.3-1 に示す 11 地点とする。<br>2)バックグラウンドとしての低周波音<br>［現地調査］　航空機運航時の低周波音と同じ図 4.2.3-1 に示す 11 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 低周波音の伝搬の特性を踏まえて、調査地域における低周波音に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>1)航空機運航時の低周波音<br>［現地調査］　夏季及び冬季の年 2 回、各 1 日とする。<br>2)バックグラウンドとしての低周波音<br>［現地調査］　夏季及び冬季の年 2 回、各 1 日とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 音の伝搬理論に基づく予測計算式もしくは事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、低周波音の伝搬の特性を踏まえて低周波音に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 飛行場の施設の供用が定常状態にあり、低周波音に係る環境影響を適切に予測できる時期とする。 | |

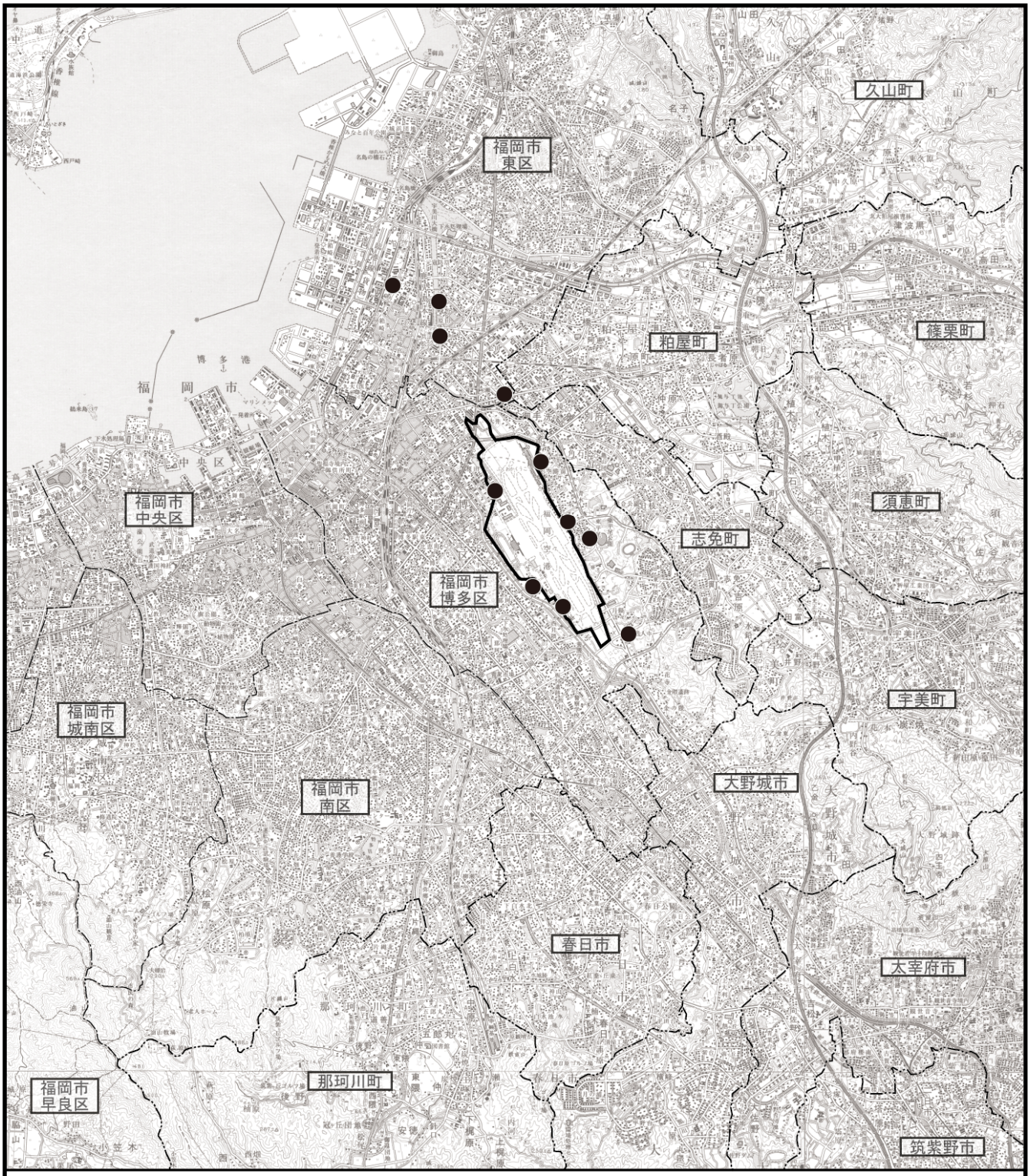


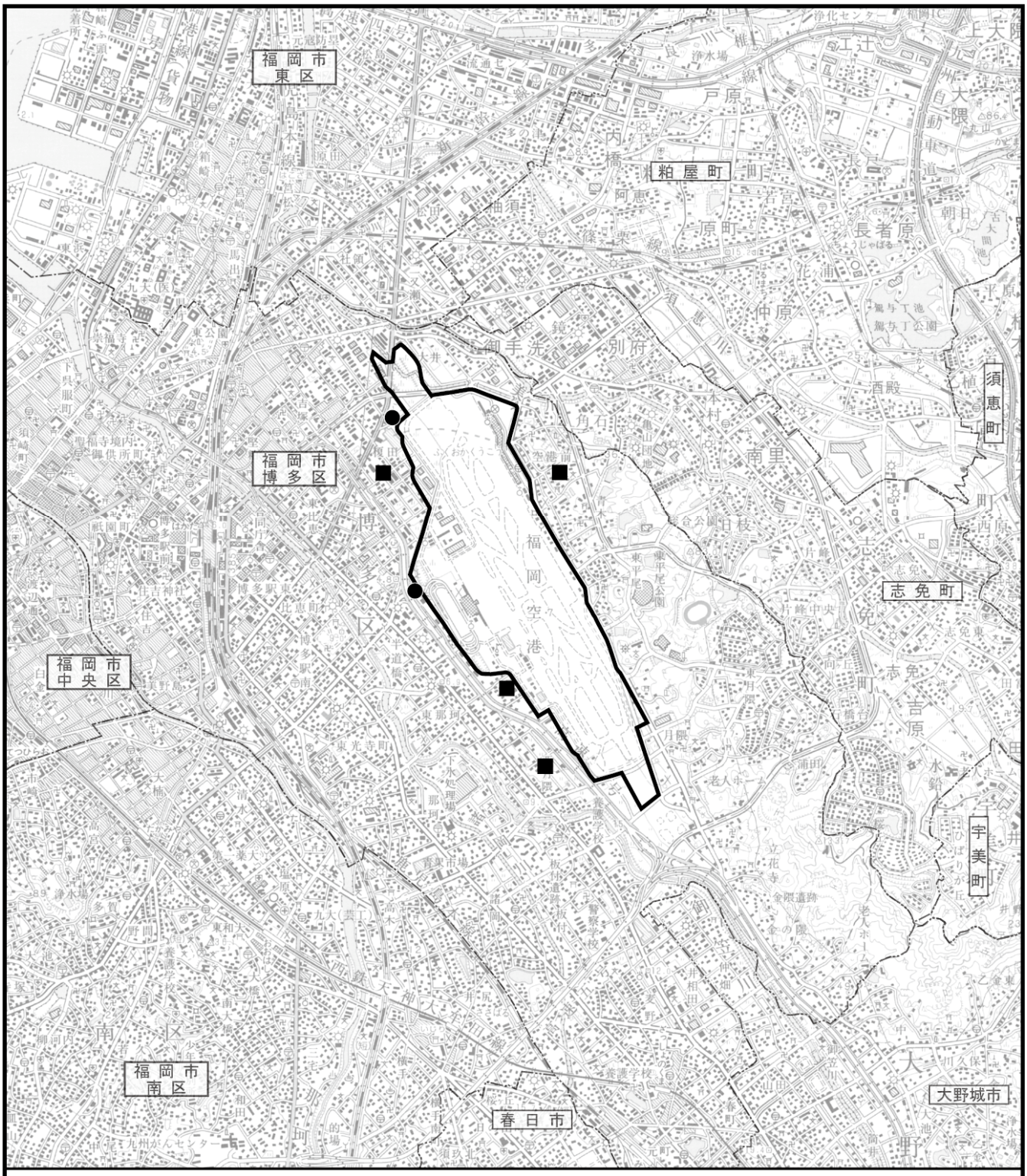

図 4.2.3-1　低周波音調査地点（航空機低周波音）位置図
（現地調査）

### 4.2.4　振動

振動に係る調査、予測の手法並びにその選定理由については、表 4.2.4-1～表 4.2.4-2 に示すとおりである。

**表 4.2.4-1　振動（建設機械の稼働）に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 振動 | 建設機械の稼働 | 調査すべき情報 | 1)振動の状況<br>2)地盤の状況 | 工事の実施にあたっては、一般的な建設機械を使用するため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1)振動の状況<br>[現地調査]　振動の測定、整理及び解析による方法とする。<br>2)地盤の状況<br>[文献その他の資料調査]文献による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 振動の伝搬の特性を踏まえて振動に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 調査地点 | 振動の伝搬の特性を踏まえて調査地域における振動に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)振動の状況<br>[現地調査]　図 4.2.4-1 に示す 4 地点とする(環境振動)。<br>2)地盤の状況<br>[文献その他の資料調査]対象事業実施区域及びその周囲とする。 | |
| | | 調査期間等 | 振動の伝搬の特性を踏まえて調査地域における振動に係る環境影響を予測及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>1)振動の状況<br>[現地調査]　秋季の 2 日（平日・休日各 1 日）とし、毎時測定とする。<br>2) 地盤の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 振動の伝搬理論に基づく予測計算式もしくは事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、振動の伝搬の特性を踏まえて振動に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測地点 | 振動の伝搬の特性を踏まえて予測地域における振動に係る環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 建設機械の稼働による振動に係る環境影響が最大となる時期とする。 | |




凡　例

図 4.2.4-1　振動調査地点（環境、道路交通振動）位置図（現地調査）

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

■　：環境振動調査地点

●　：道路交通振動調査地点

**表 4.2.4-2　振動（資材等運搬車両の運行）に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 振動 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行 | 調査すべき情報 | 1)振動の状況<br>2)地盤の状況<br>3)その他(交通量の状況) | 工事の実施にあたっては、資材及び機械の運搬には一般的な車両を使用するため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1)振動の状況<br>[現地調査]　振動の測定、整理及び解析による方法とする。<br>2)地盤の状況<br>[文献その他の資料調査]文献その他の資料調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　地盤卓越振動数の測定、整理及び解析による方法とする。<br>3)その他(交通量の状況)<br>[現地調査]　振動現地調査時に大型車類、小型車類、二輪車の車種別、上下線方向別に毎時間の交通量及び平均走行速度を計測する。 | |
| | | 調査地域 | 振動の伝搬の特性を踏まえて振動に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。資材及び機械の運搬に用いる車両の走行ルートとして想定される道路沿道を調査地域とする。ただし、文献調査地域については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 振動の伝搬の特性を踏まえて調査地域における振動に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)振動の状況<br>[現地調査]　図 4.2.4-1 に示す 2 地点とする(道路交通振動)。<br>2)地盤の状況<br>[文献その他の資料調査]対象事業実施区域及びその周辺とする。<br>[現地調査]　振動の状況の調査地点と同様とする。<br>3)その他(交通量の状況)<br>[現地調査]　振動の状況の調査地点と同様とする。 | |
| | | 調査期間等 | 振動の伝搬の特性を踏まえて調査地域における振動に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>1)振動の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　秋季の 2 日（平日・休日各 1 日）とし、毎時測定とする。<br>2)地盤の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　振動の調査時に 1 回とする。<br>3)その他(交通量の状況)<br>[現地調査]　振動の状況と同様とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 振動レベルの 80%レンジの上端値を予測するための式を用いて計算する方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、振動の伝搬の特性を踏まえて振動に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測地点 | 振動の伝搬の特性を踏まえて予測地域における振動に係る環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による振動に係る環境影響が最大となる時期とする。 | |

## 4.2.5　水質

水質に係る調査、予測の手法並びにその選定理由については、表 4.2.5-1～表 4.2.5-2 に示すとおりである。

**表 4.2.5-1(1)　水質（土砂による水の濁り：造成等の一時的影響）に係る調査、予測手法等**

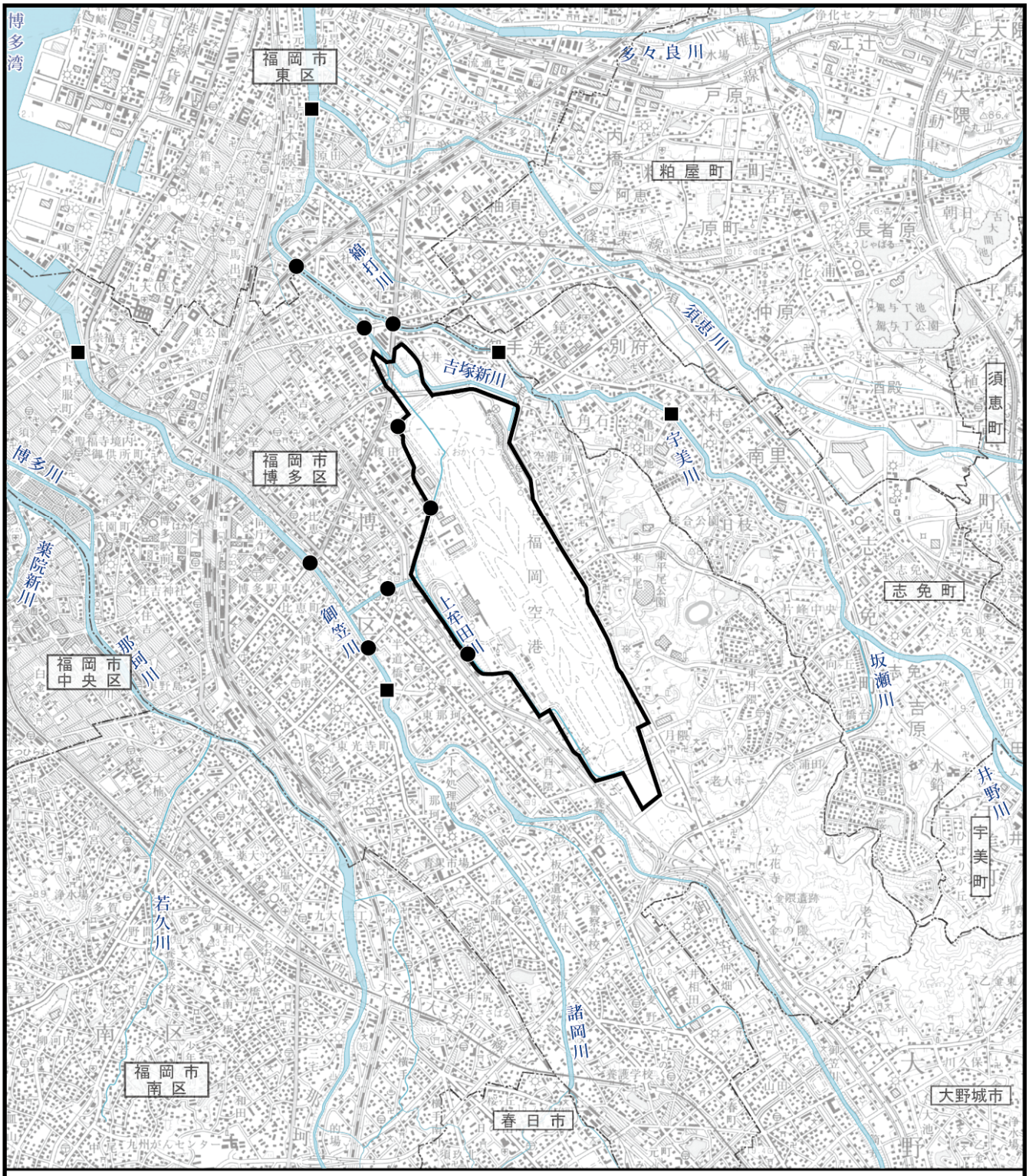
| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 土砂による水の濁り | 造成等の施工による一時的な影響 | 調査すべき情報 | 1)浮遊物質量（SS）、流量の状況<br>2)流れの状況<br>3)気象の状況<br>4)土質の状況 | 工事の実施にあたっては、一般的な工法を採用するため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1)浮遊物質量（SS）、流量の状況<br>［文献その他の資料調査］「環境白書」（各自治体）等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>［現地調査］　浮遊物質及び流量の状況を測定し、整理及び解析による方法とする。あわせて試料採取地点の浮遊物等の状況を写真撮影等により記録する。<br>2)流れの状況<br>［現地調査］　現地調査により流れの状況を確認し、整理を行う。<br>3)気象の状況<br>［文献その他の資料調査］「観測所気象年報」（気象庁）等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>4)土質の状況<br>［現地調査］　土砂等の粒度組成・沈降速度を測定し、当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 地域の特性及び土砂による水の濁りの変化の特性を踏まえて、土砂による水の濁りに係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。造成等の施工による降雨時の濁水は吉塚新川、宇美川、上牟田川及び御笠川に流出するおそれがあることから、それらの河川付近を調査地域とする。 | |
| | | 調査地点 | 地域の特性及び土砂による水の濁りの変化の特性を踏まえて調査地域における土砂による水の濁りに係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)浮遊物質量（SS）、流量の状況<br>［文献その他の資料調査］図 4.2.5-1 に示す 5 地点とする。<br>［現地調査］　図 4.2.5-1 に示す 9 地点とする。<br>2)流れの状況<br>［現地調査］　吉塚新川、宇美川、上牟田川及び御笠川の河川周辺とする。<br>3)気象の状況<br>［文献その他の資料調査］図 4.2.1-1 に示す福岡管区気象台及び福岡航空測候所の 2 地点とする。<br>4)土質の状況<br>［現地調査］　造成等の施工を行う地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 地域の特性及び土砂による水の濁りの変化の特性を踏まえて調査地域における土砂による水の濁りに係る環境影響を予測し及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期とする。<br>1)浮遊物質量（SS）、流量の状況<br>［文献その他の資料調査］至近の 1 年間とする。<br>［現地調査］　四季の年 4 回及び降雨時の 3 回とする。<br>2)流れの状況<br>［現地調査］　浮遊物質量（SS）、流量の状況の調査期間と同様とする。<br>3)気象の状況<br>［文献その他の資料調査］至近の 10 年間とする。<br>4)土質の状況<br>［現地調査］　1 回とする。 | |

表 4.2.5-1(2)　水質（土砂による水の濁り：造成等の一時的影響）に係る調査、予測手法等

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 土砂による水の濁り | 造成等の施工による一時的な影響 | 予測の基本的な手法 | 浮遊物質の物質の収支に関する計算又は事例の引用若しくは解析を行うこととし、完全混合式を用い、河川における SS 濃度を予測する方法とする。 | 工事の実施にあたっては、一般的な工法を採用するため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、地域の特性及び土砂による水の濁りの変化の特性を踏まえて、土砂による水の濁りに係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とし、降雨時の濁水が流出するおそれがある吉塚新川、宇美川、上牟田川及び御笠川とする。 | |
| | | 予測地点 | 地域の特性及び土砂による水の濁りの変化の特性を踏まえて、予測地域における土砂による水の濁りに係る環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 造成等の施工により土砂による水の濁りに係る環境影響が最大となる時期とする。 | |

表 4.2.5-2　水質（水の汚れ：飛行場の施設の供用）に係る調査、予測手法等

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 水の汚れ | 飛行場の施設の供用 | 調査すべき情報 | 1)全窒素、生物化学的酸素要求量（BOD)、化学的酸素要求量（COD）の濃度及び流量の状況<br>2)気象の状況<br>3)国又は地方公共団体による水質に係る規制等の状況 | 飛行場の供用に伴い一般的な施設の供用が行われるため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>1)全窒素、生物化学的酸素要求量（BOD)、化学的酸素要求量（COD）の濃度及び流量の状況<br>[文献その他の資料調査]「環境白書」(各自治体)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　全窒素、生物化学的酸素要求量（BOD)、化学的酸素要求量（COD）の濃度及び流量を測定し、整理及び解析による方法とする。なお、併せて防除雪氷剤等の使用量を把握する。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]「観測所気象年報」(気象庁)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>3)国又は地方公共団体による水質に係る規制等の状況<br>[文献その他の資料調査]法令等による情報の収集を行う。 | |
| | | 調査地域 | 飛行場の施設の供用に伴う対象事業実施区域からの汚水は吉塚新川、宇美川、上牟田川及び御笠川に合流するおそれがあることから、それらの河川付近を調査地域とする。 | |
| | | 調査地点 | 対象事業実施区域からの汚水の流出状況を踏まえて、調査地域における全窒素、生物化学的酸素要求量（BOD)、化学的酸素要求量（COD）に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>1)全窒素、生物化学的酸素要求量（BOD)、化学的酸素要求量（COD）の濃度及び流量の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.5-1 に示す 5 地点とする。<br>[現地調査]　図 4.2.5-1 に示す 9 地点とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]図 4.2.1-1 に示す福岡管区気象台及び福岡航空測候所の 2 地点とする。<br>3)国又は地方公共団体による水質に係る規制等の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。 | |
| | | 調査期間等 | 対象事業実施区域からの汚水の流出状況を踏まえて、調査地域における全窒素、生物化学的酸素要求量（BOD)、化学的酸素要求量（COD）の状況に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間及び時期とする。<br>1)全窒素、生物化学的酸素要求量（BOD)、化学的酸素要求量（COD）の濃度及び流量の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　四季の年 4 回及び防除雪氷剤等の使用時期に 1 回とする。<br>2)気象の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の 10 年間とする。<br>3)国又は地方公共団体による水質に係る規制等の状況<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 防除雪氷剤等による全窒素、生物化学的酸素要求量（BOD)、化学的酸素要求量（COD）について、流域、使用量等を考慮した事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、地域の特性及び対象事業実施区域からの汚水の特性を踏まえて、環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とし、汚水が流入するおそれがある吉塚新川、宇美川、上牟田川及び御笠川とする。 | |
| | | 予測地点 | 地域の特性及び対象事業実施区域からの汚水の特性を踏まえて、環境影響を的確に把握できる地点とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 飛行場の施設の供用による水の汚れに係る環境影響が最大となる時期とする。 | |




凡　例

- ：対象事業実施区域
- ：市町村界
- ：区界
- ：河川
- ■：水質調査地点（文献その他の資料調査）
- ●：水質調査地点（現地調査）

図 4.2.5-1　水質調査地点位置図
（文献その他の資料調査、現地調査）

N

1:50,000

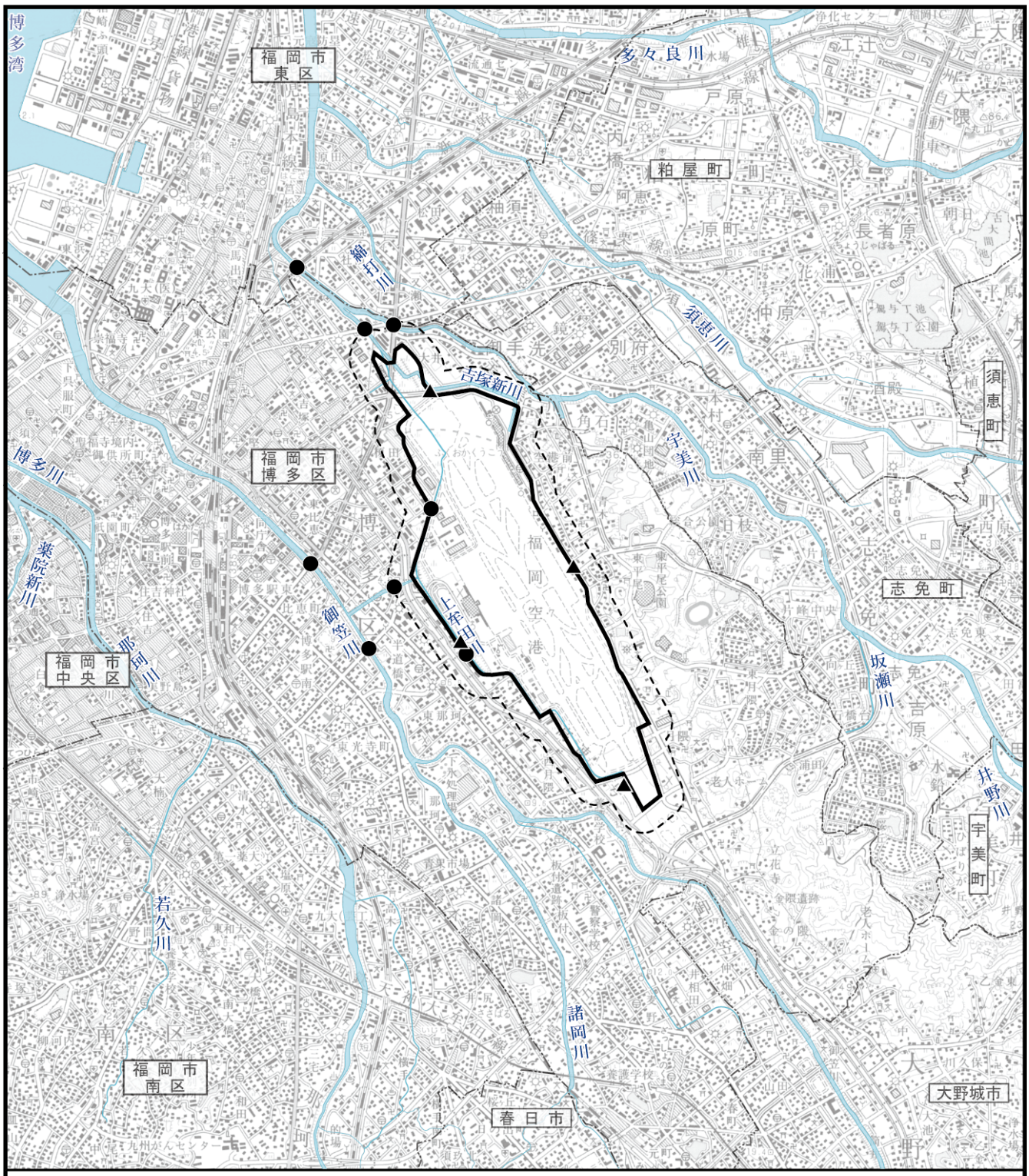
0　1　2km

### 4.2.6　動物

動物に係る調査、予測の手法並びにその選定理由については、表 4.2.6-1～表 4.2.6-5 に示すとおりである。

**表 4.2.6-1　動物（陸生動物：飛行場の存在）に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 陸生動物 | 飛行場の存在 | 調査すべき情報 | 1)陸生動物相の状況<br>2)陸生動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況<br>3)注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である陸生動物の種の生息状況及び生息環境の状況 | 滑走路等を整備することにより、土地の改変を行うため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査] 哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類及び昆虫類について現地で観察や採集を行うことにより情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 対象事業実施区域の周囲約 200m の範囲とし、図 4.2.6-1 に示す地域とする。なお、広範囲な行動圏を有する鳥類では、定点において他の陸生動物相調査よりも広い調査範囲を確認するものとする。ただし、文献調査については、さらに広域的な情報を得るため、より広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 陸生動物の生息の特性を踏まえて調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。また、鳥類については、広範囲な行動圏を有することを考慮し、他の陸生動物相よりも広い調査範囲とする。<br>[文献その他の資料調査]対象事業実施区域及びその周辺を対象とする。<br>[現地調査] 調査地域内に生息する陸生動物を確認しやすい場所に調査地点又は調査ルートを設定する。鳥類の広域的な情報を得るため、図 4.2.6-1 に示す 4 地点に観察定点を設定する。 | |
| | | 調査期間等 | 陸生動物の生息の特性を踏まえて調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査] 哺乳類：春季、夏季、秋季、冬季<br>鳥　類：春季、繁殖季、夏季、秋季、冬季<br>両生類・爬虫類：春季、夏季、秋季<br>昆虫類：春季、夏季、秋季 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 陸生動物の重要な種及び注目すべき生息地について、分布又は生息環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、陸生動物の生息の特性を踏まえて重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 滑走路の増設が完了した後の飛行場の存在による重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。 | |




凡　例

- ：対象事業実施区域
- ：市町村界
- ：区界
- ：河川
- ：動物調査地域
- ▲：鳥類定点調査地点
- ●：水生動物調査地点

N

1:50,000

0　1　2km

図 4.2.6-1　動物調査地点位置図（現地調査）

表 4.2.6-2　動物（陸生動物：航空機の運航）に係る調査、予測手法等

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 陸生動物 | 航空機の運航 | 調査すべき情報 | 1)陸生動物相の状況<br>2)陸生動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況<br>3)注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である陸生動物の種の生息状況及び生息環境の状況 | 当該飛行場の利用を予定する航空機については、一般的な運航が行われるため、標準的な手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　鳥類について現地で定点観察を行うことにより情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 広範囲な行動圏を有する鳥類を、図 4.2.6-1 に示す定点において確認するものとする。ただし、文献調査については、さらに広域的な情報を得るため、より広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 陸生動物の生息の特性を踏まえて調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>[文献その他の資料調査]対象事業実施区域及びその周辺を対象とする。<br>[現地調査]　鳥　類：図 4.2.6-1 に示す 4 地点に観察定点を設定する。 | |
| | | 調査期間等 | 陸生動物の生息の特性を踏まえて調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　鳥　類：春季、繁殖季、夏季、秋季及び冬季の年 5 回とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 陸生動物の重要な種及び注目すべき生息地について、分布又は生息環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、陸生動物の生息の特性を踏まえて重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 航空機の運航が定常状態に達した後の重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。 | |

**表 4.2.6-3　動物（水生動物：造成等の一時的影響）に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 水生動物 | 造成等の施工による一時的な影響 | 調査すべき情報 | 1)水生動物相の状況<br>2)水生動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況<br>3)注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である水生動物の種の生息状況及び生息環境の状況 | 工事の実施にあたっては、一般的な工法を採用するため、標準的な手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　魚類、底生動物・その他の水生動物(水生昆虫、貝類、甲殻類、ゴカイ類、ヒル類、ミミズ類、両生・爬虫類等)について現地で観察や採集を行うことにより情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 造成等の施工による降雨時の濁水は吉塚新川、宇美川、上牟田川及び御笠川に流出するおそれがあることから、それらの河川付近を調査地域とする。 | |
| | | 調査地点 | 水生動物の生息の特性を踏まえて調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>[文献その他の資料調査]調査地域内を対象とする。<br>[現地調査]　魚類、底生動物・その他の水生動物：図 4.2.6-1 に示す 8 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 水生動物の生息の特性を踏まえて調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　魚　類　：春季、夏季、秋季、冬季<br>底生動物・その他の水生動物：春季、夏季、秋季、冬季 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 水生動物の重要な種及び注目すべき生息地について、分布又は生息環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、水生動物の生息の特性を踏まえて重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 造成等の施工による生息環境の変化が最大となる時期とする。 | |

表 4.2.6-4　動物（水生動物：飛行場の存在）に係る調査、予測手法等

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 水生動物 | 飛行場の存在 | 調査すべき情報 | 1)水生動物相の状況<br>2)水生動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況<br>3)注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である水生動物の種の生息状況及び生息環境の状況 | 滑走路等を整備することにより、土地の改変を行うため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　魚類、底生動物・その他の水生動物（水生昆虫、貝類、甲殻類、ゴカイ類、ヒル類、ミミズ類、両生・爬虫類等)について現地で観察や採集を行うことにより情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 吉塚新川、宇美川、上牟田川及び御笠川と、それらの河川付近を調査地域とする。 | |
| | | 調査地点 | 水生動物の生息の特性を踏まえて調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>[文献その他の資料調査]調査地域内を対象とする。<br>[現地調査]　魚類、底生動物・その他の水生動物：図 4.2.6-1 に示す 8 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 水生動物の生息の特性を踏まえて調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　魚　類　：春季、夏季、秋季、冬季<br>底生動物・その他の水生動物：春季、夏季、秋季、冬季 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 水生動物の重要な種及び注目すべき生息地について、分布又は生息環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、水生動物の生息の特性を踏まえて重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 滑走路の増設が完了した後の飛行場の存在による重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。 | |

**表 4.2.6-5　動物（水生動物：飛行場の施設の供用）に係る調査、予測手法等**

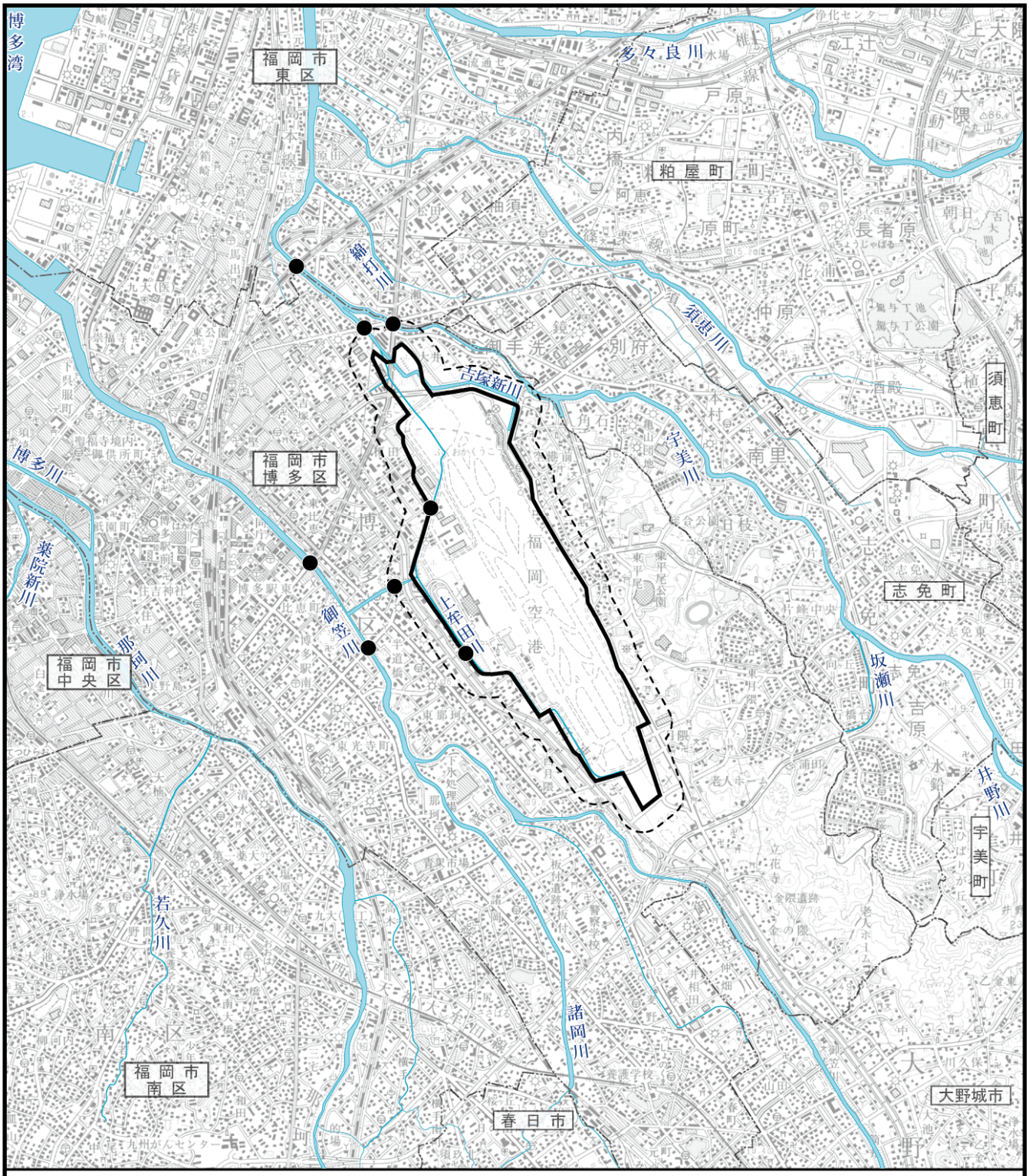
| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 水生動物 | 飛行場の施設の供用 | 調査すべき情報 | 1)水生動物相の状況<br>2)水生動物の重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況<br>3)注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である水生動物の種の生息状況及び生息環境の状況 | 飛行場の供用に伴い一般的な施設の供用が行われるため、標準的な手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　魚類、底生動物・その他の水生動物(水生昆虫、貝類、甲殻類、ゴカイ類、ヒル類、ミミズ類、両生・爬虫類等)について現地で観察や採集を行うことにより情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 飛行場の施設の供用に伴う対象事業実施区域からの流出水は吉塚新川、宇美川、上牟田川及び御笠川に合流するおそれがあることから、それらの河川付近を調査地域とする。 | |
| | | 調査地点 | 水生動物の生息の特性を踏まえて調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>[文献その他の資料調査]調査地域内を対象とする。<br>[現地調査]　魚類、底生動物・その他の水生動物：図 4.2.6-1 に示す 8 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 水生動物の生息の特性を踏まえて調査地域における重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　魚　類　：春季、夏季、秋季、冬季<br>底生動物・その他の水生動物：春季、夏季、秋季、冬季 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 水生動物の重要な種及び注目すべき生息地について、分布又は生息環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、水生動物の生息の特性を踏まえて重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 滑走路の増設が完了した後の飛行場の施設の供用による重要な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。 | |

## 4.2.7　植物

植物に係る調査、予測の手法並びにその選定理由については、表 4.2.7-1～表 4.2.7-4 に示すとおりである。

**表 4.2.7-1　植物（陸生植物：飛行場の存在）に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 陸生植物 | 飛行場の存在 | 調査すべき情報 | 1)陸生植物相及び植生の状況<br>2)陸生植物の重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況 | 滑走路等を整備することにより、土地の改変を行うため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　陸生植物について現地で観察を行うことによる情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 対象事業実施区域の周囲約 200m の範囲とし、図 4.2.7-1 に示す地域とする。ただし、文献調査については広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 陸生植物の生育及び植生の特性を踏まえて調査地域における重要な種及び群落に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>[文献その他の資料調査]調査地域内を対象とする。<br>[現地調査]　調査地域内に生息する陸生植物を確認しやすい場所に調査地点又は調査ルートを設定する。 | |
| | | 調査期間等 | 陸生植物の生育及び植生の特性を踏まえて調査地域における重要な種及び群落に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする<br>[現地調査]　植物相：春季、夏季、秋季<br>植　生：夏季 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 陸生植物の重要な種及び群落について、分布又は生育環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、陸生植物の生育及び植生の特性を踏まえて重要な種及び群落にかかる環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 滑走路の増設が完了した後の飛行場の存在による重要な種及び群落に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。 | |




凡　例

- ：対象事業実施区域
- ：市町村界
- ：区界
- ：河川
- ：植物調査地域
- ：水生植物調査地点

N

1:50,000

0　1　2km

図 4.2.7-1　植物調査地点位置図（現地調査）

表 4.2.7-2　植物（水生植物：造成等の一時的影響）に係る調査、予測手法等

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 水生植物 | 造成等の施工による一時的な影響 | 調査すべき情報 | 1)水生植物相及び植生の状況<br>2)水生植物の重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況 | 工事の実施にあたっては、一般的な工法を採用するため、標準的な手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　水生植物について現地で観察を行うことによる情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 造成等の施工による降雨時の濁水は吉塚新川、宇美川、上牟田川及び御笠川に流出するおそれがあることから、それらの河川付近を調査地域とする。 | |
| | | 調査地点 | 地域の特性及び土砂による水の濁りの変化の特性を踏まえて調査地域における水生植物に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>[文献その他の資料調査]調査地域内を対象とする。<br>[現地調査]　図 4.2.7-1 に示す 8 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 水生植物の生育及び植生の特性を踏まえて調査地域における重要な種及び群落に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　植物相：春季、夏季、秋季<br>植　生：夏季 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 水生植物の重要な種及び群落について、分布又は生育環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、水生植物の生育及び植生の特性を踏まえて重要な種及び群落にかかる環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 造成等の施工による生育環境の変化が最大となる時期とする。 | |

表 4.2.7-3　植物（水生植物：飛行場の存在）に係る調査、予測手法等

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 水生植物 | 飛行場の存在 | 調査すべき情報 | 1)水生植物相及び植生の状況<br>2)水生植物の重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況 | 滑走路等を整備することにより、土地の改変を行うため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　水生植物について現地で観察を行うことによる情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 飛行場の施設の供用に伴う対象事業実施区域からの汚水は吉塚新川、宇美川、上牟田川及び御笠川に流入するおそれがあることから、それらの河川付近を調査地域とする。 | |
| | | 調査地点 | 水生植物の生育及び植生の特性を踏まえて調査地域における水生植物に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>[文献その他の資料調査]調査地域内を対象とする。<br>[現地調査]　図 4.2.7-1 に示す 8 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 水生植物の生育及び植生の特性を踏まえて調査地域における重要な種及び群落に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　植物相：春季、夏季、秋季<br>植　生：夏季 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 水生植物の重要な種及び群落について、分布又は生育環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、水生植物の生育及び植生の特性を踏まえて重要な種及び群落にかかる環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 滑走路の増設が完了した後の飛行場の存在による重要な種及び群落に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。 | |

表 4.2.7-4　植物（水生植物：飛行場の施設の供用）に係る調査、予測手法等

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 水生植物 | 飛行場の施設の供用 | 調査すべき情報 | 1)水生植物相及び植生の状況<br>2)水生植物の重要な種及び群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況 | 飛行場の供用に伴い一般的な施設の供用が行われるため、標準的な手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　水生植物について現地で観察を行うことによる情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 飛行場の施設の供用に伴う対象事業実施区域からの汚水は吉塚新川、宇美川、上牟田川及び御笠川に流入するおそれがあることから、それらの河川付近を調査地域とする。 | |
| | | 調査地点 | 水生植物の生育及び植生の特性を踏まえて調査地域における水生植物に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>[文献その他の資料調査]調査地域内を対象とする。<br>[現地調査]　図 4.2.7-1 に示す 8 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 水生植物の生育及び植生の特性を踏まえて調査地域における重要な種及び群落に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　植物相：春季、夏季、秋季<br>植　生：夏季 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 水生植物の重要な種及び群落について、分布又は生育環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、水生植物の生育及び植生の特性を踏まえて重要な種及び群落にかかる環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 滑走路の増設が完了した後の飛行場の施設の供用による重要な種及び群落に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。 | |

## 4.2.8　生態系

生態系に係る調査、予測の手法並びにその選定理由については、表 4.2.8-1～表 4.2.8-3 に示すとおりである。

**表 4.2.8-1　生態系（造成等の一時的影響）に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 地域を特徴づける生態系 | 造成等の施工による一時的な影響 | 調査すべき情報 | 1)動植物その他の自然環境に係る概況<br>2)複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息環境もしくは生育環境の状況 | 工事の実施にあたっては、一般的な工法を採用するため、標準的な手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]「動物」「植物」の現地調査結果による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 対象事業実施区域及びその周囲とする。生態系構成要素や食物連鎖の検討のための調査地域としては植生及び動物が主要な構成要素であることから「動物」「植物」と同様の調査地域とする。ただし、文献調査については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえて調査地域における注目種等に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路とし、「動物」「植物」と同様とする。 | |
| | | 調査期間等 | 動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえて調査地城における注目種等に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　調査期間は、「動物」「植物」と同様とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 注目種等について、分布、生息環境又は生育環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえて注目種等に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 造成等の施工による生息・生育環境の変化が最大となる時期とする。 | |

表 4.2.8-2　生態系（飛行場の存在）に係る調査、予測手法等

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 地域を特徴づける生態系 | 飛行場の存在 | 調査すべき情報 | 1)動植物その他の自然環境に係る概況<br>2)複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息環境もしくは生育環境の状況 | 滑走路等を整備することにより、土地の改変を行うため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]「動物」「植物」の現地調査結果による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 対象事業実施区域及びその周囲とする。生態系構成要素や食物連鎖の検討のための調査地域としては植生及び動物が主要な構成要素であることから「動物」「植物」と同様の調査地域とする。ただし、文献調査については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえて調査地域における注目種等に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路とし、「動物」「植物」と同様とする。 | |
| | | 調査期間等 | 動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえて調査地城における注目種等に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　調査期間は、「動物」「植物」と同様とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 注目種等について、分布、生息環境又は生育環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえて注目種等に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 滑走路の増設が完了した後の飛行場の存在による注目種等に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。 | |

表 4.2.8-3　生態系（飛行場の施設の供用）に係る調査、予測手法等

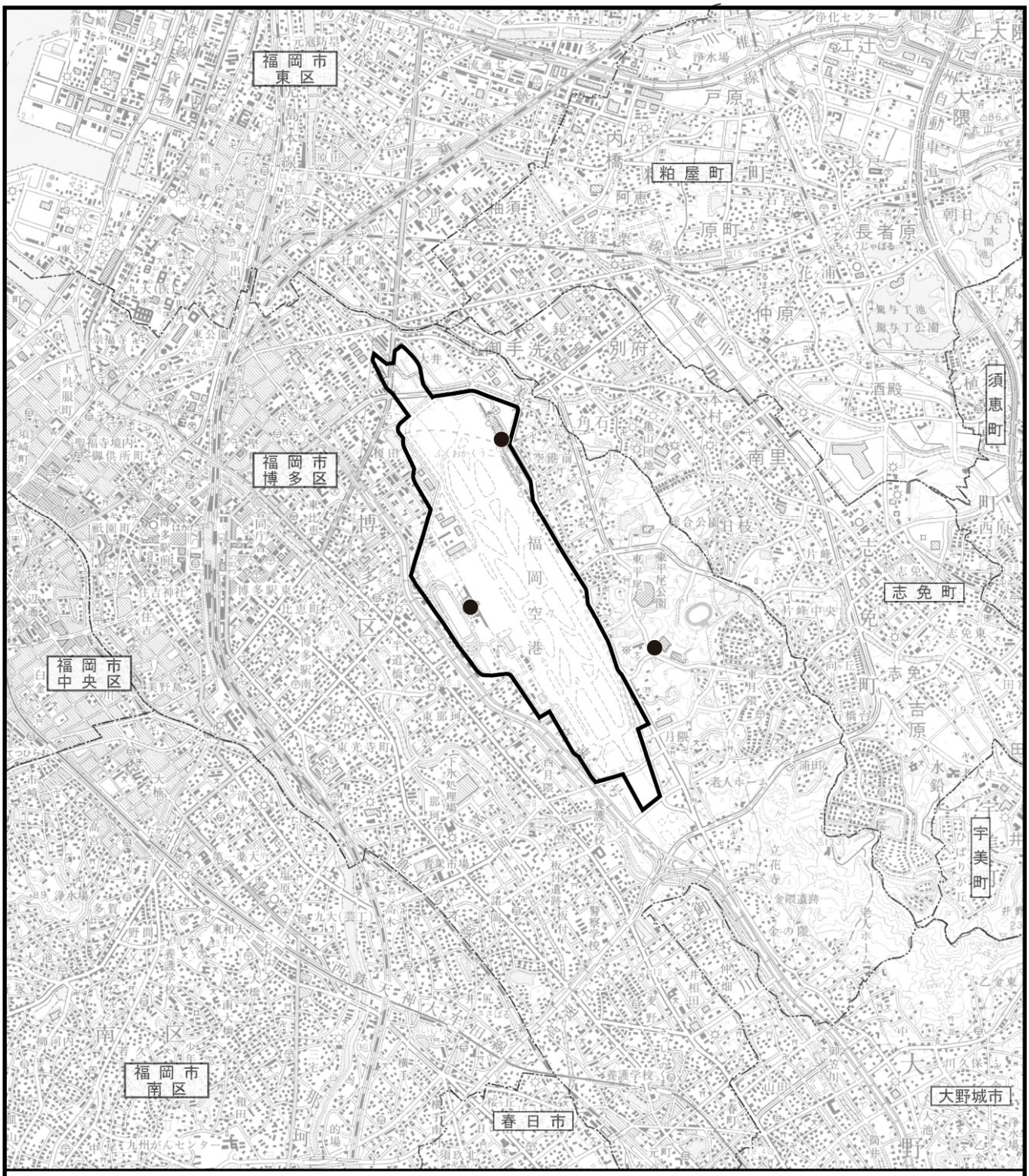
| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 地域を特徴づける生態系 | 飛行場の施設の供用 | 調査すべき情報 | 1)動植物その他の自然環境に係る概況<br>2)複数の注目種等の生態、他の動植物との関係又は生息環境もしくは生育環境の状況 | 飛行場の供用に伴い一般的な施設の供用が行われるため、標準的な手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]「動物」「植物」の現地調査結果による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 対象事業実施区域及びその周囲とする。生態系構成要素や食物連鎖の検討のための調査地域としては植生及び動物が主要な構成要素であることから「動物」「植物」と同様の調査地域とする。ただし、文献調査については、広域的な情報を得るため広範囲に設定する。 | |
| | | 調査地点 | 動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえて調査地域における注目種等に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路とし、「動物」「植物」と同様とする。 | |
| | | 調査期間等 | 動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえて調査地城における注目種等に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　調査期間は、「動物」「植物」と同様とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 注目種等について、分布、生息環境又は生育環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえて注目種等に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 飛行場の施設の供用による注目種等に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。 | |

### 4.2.9　景観

景観に係る調査、予測の手法並びにその選定理由については、表 4.2.9-1 に示すとおりである。

**表 4.2.9-1　景観(飛行場の存在)に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観 | 飛行場の存在 | 調査すべき情報 | 1)主要な眺望点の状況<br>2)景観資源の状況<br>3)主要な眺望景観の状況 | 滑走路等を整備することによる土地の改変及びターミナル施設等飛行場施設の変更を行うため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[文献その他の資料調査]「自然環境保全基礎調査」(環境庁)等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]　現地踏査及び景観写真撮影等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 主要な眺望点の状況、景観資源の状況及び主要な眺望景観の状況を適切に把握できる地域とし、対象事業実施区域を眺望できる地域とする。 | |
| | | 調査地点 | 景観の特性を踏まえて調査地域における主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とする。<br>[現地調査]　図 4.2.9-1 に示す 3 地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 景観の特性を踏まえて調査地域における主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観に係る環境影響を予測し、及び評価するために必察な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]　主要な眺望景観：夏季、冬季 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 主要な眺望点及び景観資源についての分布の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。また、主要な眺望景観についてはフォトモンタージュ法又はその他の視覚的な表現方法により予測する方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、景観の特性を踏まえて、主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 飛行場の存在による主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。 | |




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：景観調査地点

N

1:50,000

0　1　2km

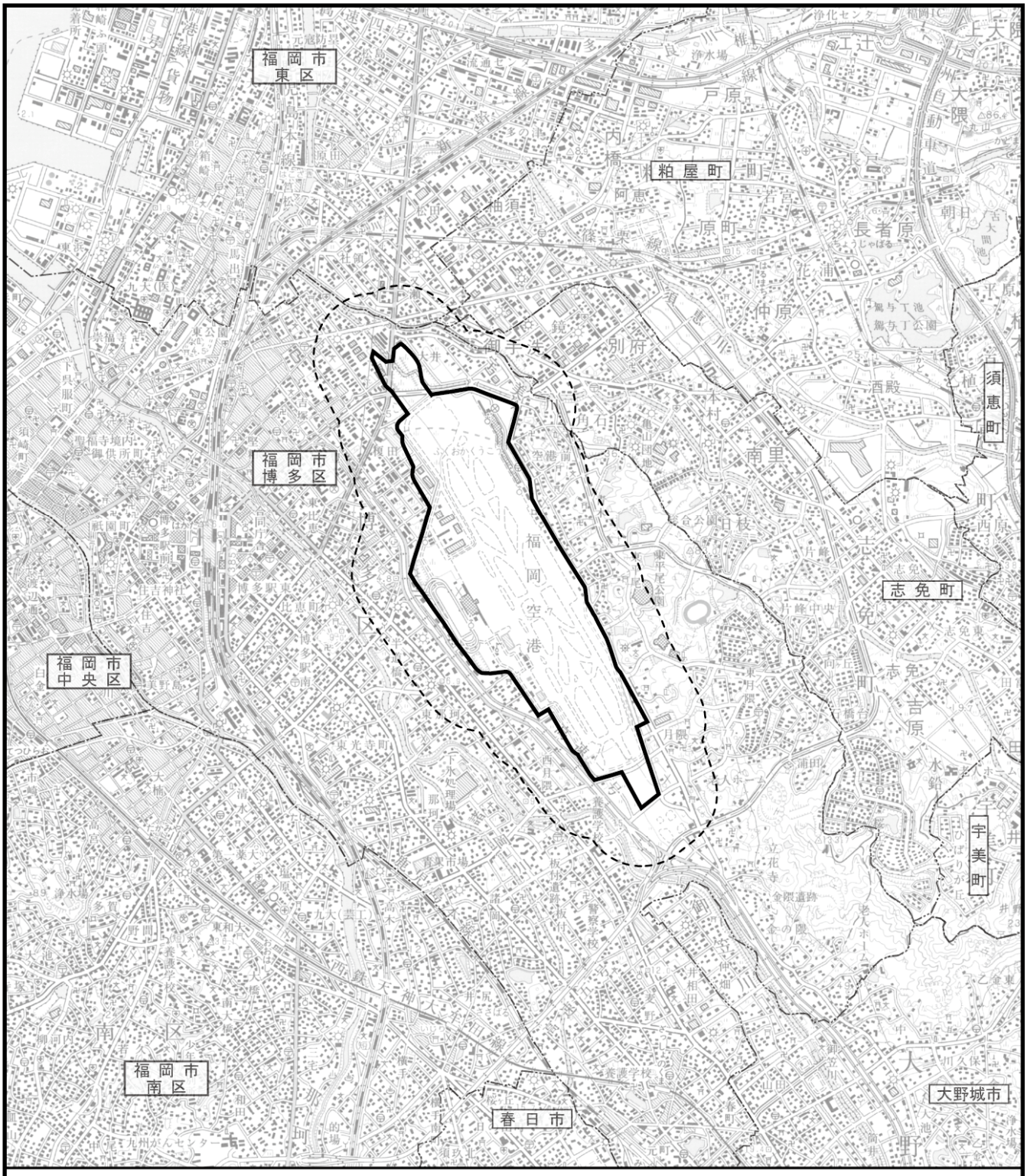
図 4.2.9-1　景観調査地点位置図（現地調査）

## 4.2.10　人と自然との触れ合いの活動の場

人と自然との触れ合いの活動の場に係る調査、予測の手法並びにその選定理由については、表 4.2.10-1 に示すとおりである。

**表 4.2.10-1　人と自然との触れ合いの活動の場(飛行場の存在)に係る調査、予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 調査及び予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 主要な人と自然との触れ合いの活動の場 | 飛行場の存在 | 調査すべき情報 | 1)人と自然との触れ合いの活動の場の概況<br>2)主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用の状況及び利用環境の状況 | 滑走路等を整備することによる土地の改変及びターミナル施設等飛行場施設の変更を行うため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 調査の基本的な手法 | 文献その他の資料及び現地調査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[文献その他の資料調査]観光案内図等による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。<br>[現地調査]ヒアリング及び現地踏査による情報の収集並びに当該情報の整理及び解析による方法とする。 | |
| | | 調査地域 | 対象事業実施区域の周囲約 500m の範囲とし、図 4.2.10-1 に示す地域とする。 | |
| | | 調査地点 | 人と自然との触れ合いの活動の場の特性を踏まえて調査地域における主要な人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点とし、調査地域内の自然との触れ合いの活動の場とする。<br>[文献その他の資料調査]調査地域内とする。<br>[現地調査]調査地域内において、飛行場施設の変化を把握できる地点とする。 | |
| | | 調査期間等 | 人と自然との触れ合いの活動の場の特性を踏まえて調査地域における主要な人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響を予測し、及び評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる期間、時期及び時間帯とする。<br>[文献その他の資料調査]至近の情報とする。<br>[現地調査]休日（1 日）の 1 回とする。 | |
| | | 予測の基本的な手法 | 主要な人と自然との触れ合いの活動の場について、分布又は利用環境の変化の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とする。 | |
| | | 予測地域 | 調査地域のうち、人と自然との触れ合いの活動の場の特性を踏まえて主要な人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 飛行場の存在による主要な人と自然との触れ合いの活動の場に係る環境影響を的確に把握できる時期とする。 | |




凡　例

：対象事業実施区域

：市町村界

：区界

：人と自然との触れ合いの活動の場の調査地域

N

1:50,000

0　1　2km

図 4.2.10-1　人と自然との触れあいの活動の場
調査地域位置図（現地調査）

### 4.2.11　廃棄物等

廃棄物等に係る予測の手法並びにその選定理由については、表 4.2.11-1 に示すとおりである。

**表 4.2.11-1　廃棄物等（建設工事に伴う副産物：造成等の一時的影響）に係る予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 建設工事に伴う副産物 | 造成等の施工による一時的な影響 | 予測の基本的な手法 | 建設工事に伴う副産物の種類ごとの発生の状況の把握を行う。 | 工事の実施にあたっては、一般的な工法を採用するため、主務省令に基づく参考手法を選定する。 |
| | | 予測地域 | 対象事業実施区域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 造成等の施工の工事期間とする。 | |

### 4.2.12　温室効果ガス等

温室効果ガス等に係る予測の手法並びにその選定理由については、表 4.2.12-1～表 4.2.12-2 に示すとおりである。

**表 4.2.12-1　温室効果ガス等（二酸化炭素：飛行場の施設の供用）に係る予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| 二酸化炭素 | 飛行場の施設の供用 | 予測の基本的な手法 | 対象発生源毎にエネルギー使用量等の活動量を把握し、排出係数を乗じて排出量を算出する方法とする。 | 飛行場の供用に伴い一般的な施設の供用が行われるため、標準的な手法を選定する。 |
| | | 予測地域 | 対象事業実施区域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 飛行場の施設の供用が定常状態にあり、二酸化炭素に係る環境影響を適切に予測できる時期とする。 | |

**表 4.2.12-2　温室効果ガス等（その他：飛行場の施設の供用）に係る予測手法等**

| 環境影響評価の項目 | | 予測の手法 | | 選定の理由 |
|---|---|---|---|---|
| 環境要素の区分 | 影響要因の区分 | | | |
| その他の温室効果ガス等 | 飛行場の施設の供用 | 予測の基本的な手法 | 対象発生源毎にエネルギー使用量等の活動量を把握し、排出係数を乗じて排出量を算出する方法とする。 | 飛行場の供用に伴い一般的な施設の供用が行われるため、標準的な手法を選定する。 |
| | | 予測地域 | 対象事業実施区域とする。 | |
| | | 予測対象時期等 | 飛行場の施設の供用が定常状態にあり、その他の温室効果ガス等に係る環境影響を適切に予測できる時期とする。 | |

## 4.3評価の手法の選定

### 4.3.1　環境影響の回避、低減に係る評価

調査及び予測の結果並びに環境保全措置を検討した場合においては、その結果を踏まえ、対象事業の実施により選定項目に係る環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて検討する。環境要素毎の評価の手法は、表 4.3.1-1(1)及び表 4.3.1-1(2)に示すとおりである。

**表 4.3.1-1(1)　評価の手法**

| 環境要素の区分 | | 評価の手法 |
|---|---|---|
| 大気環境 | 大気質（窒素酸化物、浮遊粒子状物質） | 調査及び予測の結果（建設機械の稼働、資機材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う大気汚染物質の寄与濃度、航空機の運航、飛行場の施設の供用に伴う大気汚染物質の寄与濃度）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |
| | 大気質(粉じん等) | 調査及び予測の結果（造成等の施工による一時的な影響、建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴う大気汚染物質の寄与濃度）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |
| | 騒音 | 調査及び予測の結果（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴い増加する騒音レベルの寄与分、航空機の運航による寄与分）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |
| | 低周波音 | 調査及び予測の結果（航空機の運航による寄与分）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |
| | 振動 | 調査及び予測の結果（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行に伴い増加する振動レベルの寄与分）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |
| 水環境 | 土砂による水の濁り | 調査及び予測の結果（造成等の施工による一時的な影響により発生する濁り(SS)の拡散状況）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |
| | 水の汚れ | 調査及び予測の結果(飛行場の施設の供用による水質の変化）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |

表 4.3.1-1(2)　評価の手法

| 環境要素の区分 | | | 評価の手法 |
|---|---|---|---|
| 動物 | 陸生動物 | 哺乳類、両生類・爬虫類、昆虫類 | 調査及び予測の結果（飛行場の存在による動物(哺乳類、両生類・爬虫類、昆虫類)への影響）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |
| | | 鳥類 | 調査及び予測の結果（飛行場の存在、航空機の運航による動物(鳥類)への影響）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |
| | 水生動物 | 魚類、底生動物・その他の水生動物 | 調査及び予測の結果（造成等の施工による一時的な影響、飛行場の存在、飛行場の施設の供用による動物(魚類、底生動物・その他の水生動物)への影響）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |
| 植物 | 陸生植物 | | 調査及び予測の結果（飛行場の存在による植物(陸生植物)への影響）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |
| | 水生植物 | | 調査及び予測の結果（造成等の施工による一時的な影響、飛行場の存在、飛行場の施設の供用による植物(水生植物)への影響）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |
| 生態系 | | | 調査及び予測の結果（造成等の施工による一時的な影響、飛行場の存在、飛行場の施設の供用による生態系への影響）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |
| 景観 | | | 調査及び予測の結果（飛行場の存在による景観への影響）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素によって及ぶおそれのある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |
| 人と自然との触れ合いの活動の場 | | | 調査及び予測の結果（飛行場の存在による人と自然との触れ合いの活動の場への影響）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素によって及ぶおそれのある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |
| 廃棄物等 | | | 調査及び予測の結果（造成等の施工による一時的な影響による廃棄物等への影響）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |
| 温室効果ガス等 | | | 調査及び予測の結果（飛行場の施設の供用による温室効果ガス等への影響）並びに環境保全措置の検討結果を踏まえ、環境要素に及ぶおそれがある影響が、実行可能な範囲内でできる限り回避され、または低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて評価する。 |

### 4.3.2　国、県又は関係する市町村が実施する環境の保全に関する施策との整合性

国、福岡県、福岡市、春日市、大野城市、太宰府市、志免町及び粕屋町が実施する環境の保全に関する施策によって、選定項目に係る環境要素に関して基準又は目標が示されている場合には、当該基準又は目標と調査及び予測結果との間に整合が図られているかどうかを検討する。環境要素毎の評価の手法は、表 4.3.2-1(1)及び表 4.3.2-1(2)に示すとおりである。

**表 4.3.2-1(1)　評価の手法**

| 環境要素の区分 | | 評価の手法 |
|---|---|---|
| 大気環境 | 大気質（窒素酸化物、粉じん等、浮遊粒子状物質） | 「粉じん等（降下ばいじん量）の参考値」及び「大気の汚染に係る環境基準」等と予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。 |
| | 騒音 | 「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準値」及び「騒音に係る環境基準」等と予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。 |
| | 振動 | 「特定建設作業に伴って発生する振動の規制に関する基準値」及び「道路交通振動の要請限度」と予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。 |
| | 低周波音 | 国又は福岡県による低周波音に係る規制値や環境基準は定められていないが、文献その他の資料を参考に整合性が図られているかについて評価する。 |
| 水環境 | 土砂による水の濁り | 対象事業は「水質汚濁防止法」（昭和 45 年 12 月法律第 138 号）又は「福岡県公害防止等生活環境の保全に関する条例」（平成 14 年 12 月条例第 79 号）における「特定施設」に該当せず、土砂による水の濁りに係る規制値や環境基準は定められていないが、文献その他の資料を参考に整合性が図られているかについて評価する。 |
| | 水の汚れ | 「水質汚濁による環境基準」等と予測結果を比較することにより、環境保全に係る施策との整合性が図られているかについて評価する。 |
| 動物 | ・陸生動物（哺乳類、両生類・爬虫類、昆虫類、鳥類）<br>・水生動物（魚類、底生動物・その他の水生動物） | 「福岡市環境配慮指針（改訂版）」において、「内陸部」のゾーン区分の「人が日常の中で身近な生きものと出会える、自然とのふれあいにあふれるまち」と示されている環境保全の目標や、「事業別環境配慮事項」の「交通基盤整備事業」での「施工時に自然環境（生物生息地、植生、水脈など）の損傷・消失をもたらす可能性」に対する配慮として示されている環境との関わりの予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。 |
| 植物 | ・陸生植物<br>・水生植物 | 「福岡市環境配慮指針（改訂版）」において、「内陸部」のゾーン区分の「人が日常の中で身近な生きものと出会える、自然とのふれあいにあふれるまち」と示されている環境保全の目標や、「事業別環境配慮事項」の「交通基盤整備事業」での「施工時に自然環境（生物生息地、植生、水脈など）の損傷・消失をもたらす可能性」に対する配慮として示されている環境との関わりと予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。 |
| 生態系 | | 「福岡市環境配慮指針（改訂版）」において、「内陸部」のゾーン区分の「人が日常の中で身近な生きものと出会える、自然とのふれあいにあふれるまち」と示されている環境保全の目標や、「事業別環境配慮事項」の「交通基盤整備事業」での「施工時に自然環境（生物生息地、植生、水脈など）の損傷・消失をもたらす可能性」に対する配慮として示されている環境との関わりと予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。 |

表 4.3.2-1(2)　評価の手法

| 環境要素の区分 | 評価の手法 |
|---|---|
| 景観 | 「福岡市環境基本計画(第二次)」において「自然とのふれあいと生物多様性の保全」といった施策による「人と海・山との豊かなふれあいを保ち、生きものと共生するまちづくり」と示されている環境保全の目標と予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。 |
| 人と自然との<br>触れ合いの活動の場 | 「福岡市環境基本計画(第二次)」において「自然とのふれあいと生物多様性の保全」といった施策による「人と海・山との豊かなふれあいを保ち、生きものと共生するまちづくり」と示されている環境保全の目標と予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。 |
| 廃棄物等 | 「福岡市環境基本計画(第二次)」において「ごみの①発生回避(派生抑制、再使用)、②循環利用(再生利用、再生品の利用)、③適正処理など処理の優先順位に基づく施策」等による「環境負荷が少ない、循環型社会の構築」と示されている環境保全の目標と予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。 |
| 温室効果ガス等 | 「福岡市環境基本計画(第二次)」において「省エネルギー型都市への転換」、「ヒートアイランド現象への対応」といった施策等により「地球環境問題への対応」と示されている環境保全の目標と予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。 |

## 4.4専門家等による技術的助言

環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法の選定にあたり、専門家等に技術的助言を受けた。

専門家等の専門分野及び技術的助言の内容は表 4.4-1 に示すとおりである。

**表 4.4-1　技術的助言の内容**

| 専門分野 | 項目 | 技術的助言の内容 |
|---|---|---|
| [環境シミュレーション] | 大気質 | 方法書案の環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法について了承。<br>ただし、航空機からの排出ガスに含まれるベンゼンを評価項目に加えるか、または加えない場合は、方法書に影響が小さい旨の説明を加えるべき。 |
| [環境工学] | 騒音(航空機) | 方法書案の環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法について了承。<br>ただし、航空機騒音の測定は、現行の評価指標である WECPNL と平成 25 年 4 月から採用される Lden という二つの指標で実施してほしい。 |
| | 低周波音 | 低周波音の測定地点は、周辺のバックグラウンドの状況を考慮に入れ、合理的に設定すべきである。測定は風のない日を選ぶこと。 |
| [衛生工学] | 水質 | 方法書案の環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法について了承。 |
| [鳥類] | 動物(鳥類) | 方法書案の環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法について了承。<br>ただし、鳥類の調査は、空港という特殊な条件下であることを考慮し、鳥が飛翔する高さについても記録を行い、また、バードストライクの記録についても把握を行うこと。 |
| [緑地計画] | 植物、生態系 | 方法書案の環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の手法について了承。<br>ただし、水生動物の調査では、魚類と底生動物以外に水生昆虫、両生・爬虫類の調査も行うこと。 |

参考資料


・「福岡空港滑走路増設 PI レポート」
・「福岡市環境配慮指針」（福岡市）
・「福岡市文化財分布地図」（福岡市教育委員会）
・「空港整備技術課題検討調査」（九州地方整備局）
・「自然環境保全基礎調査」（環境庁）
・「福岡県水産要覧　福岡県水産要図」
・「過去の気象データ検索」（気象庁ホームページ、
http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php）
・「ふくおかの大気環境」（福岡県ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/fukuoka-taiki-env.html）
・「平成23年度版　ふくおかの環境」（平成23年10月　福岡市環境局）
・「平成23年度の環境監視の結果」（平成24年8月　福岡市環境局）
・「平成22年版　日本の大気汚染状況」（平成23年11月　環境省　水・大気環境局）
・「ダイオキシン類の調査結果」（福岡市ホームページ、
http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-hozen/life/kankyohozen/prtrdeta_2_3.html）
・「福岡市大気測定結果報告書」（各年度版　福岡市環境局）
・「平成22年版公害関係測定結果」（平成23年3月　福岡県）
・「平成23年版公害関係測定結果」（平成24年3月　福岡県）
・「平成21年度版ふくおかの環境」（平成21年10月　福岡市）
・「福岡県都市計画総括図」（平成24年5月　福岡市）
・「福岡県都市計画総括図(春日市)」（平成24年3月　春日市）
・「福岡県都市計画総括図(志免町)」（平成23年5月　志免町）
・「宇美都市計画総括図」（平成21年6月　宇美町）
・「須恵町都市計画図」（平成21年5月　須恵町）
・「福岡市統計書(平成23年版)」（平成24年3月　福岡市）
・「平成22年度公共用水域水質測定結果」（福岡県ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/h22koukyouyousuiiki.html）
・「平成22年度福岡市水質測定結果報告書」（福岡市ホームページ、
http://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/25195/1/H22waterqualityreport.pdf）
・「要措置区域及び形質変更時要届出区域（以下要措置区域等）の指定状況」（福岡市ホームページ、
http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-hozen/life/kankyohozen/index.html）
・「土地分類基本調査図（土壌図）」（昭和59年3月　福岡県）
・「土地分類基本調査図（地形分類図）」（昭和59年3月　福岡県）
・「土地分類基本調査図（表層地質図）」（平成6年3月　福岡県）
・「自然環境調査委託 ほ乳類・は虫類・両生類の生息状況等調査報告書」（平成13年3月
福岡市環境局）
・「平成19年度自然環境調査結果（ほ乳類・は虫類・両生類）」（平成20年3月　福岡市環境局）
・「第４次レッドリストの公表について」（平成24年8月　環境省報道発表資料）

・「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成19年2月　福岡市環境局）
・「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2001-」（平成13年3月　福岡県環境部自然環境課）
・「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2011 植物群落・植物・鳥類・哺乳類－」
（平成23年11月　福岡県環境部自然環境課）
・「平成22年度 自然環境調査（鳥類）」（平成23年3月　福岡市環境局）
・「自然環境調査委託　市域における鳥類の生息状況等調査　報告書」（平成11年3月、福岡市環境局）
・「地域生態系当調査（東平尾・金隈地域）　報告書」（平成13年3月　福岡市環境局）
・「地域生態系当調査（東平尾・金隈地域）　報告書」（平成14年3月　福岡市環境局）
・「平成14年度　市域生態系調査業務委託　報告書」（平成15年3月　福岡市環境局）
・「平成15年度　市域生態系調査業務委託　報告書」（平成16年3月　福岡市環境局）
・「平成13年度 自然環境調査（ため池の生態系調査）報告書」（平成14年3月　福岡市環境局）
・「平成９年度　自然環境調査（福岡市域における昆虫の生息状況調査）報告書」（平成9年度
福岡市環境局）
・「平成11年度 自然環境調査（ため池の貴重種生物の生息状況調査）」（平成12年3月　福岡市環境局）
・「平成18年度 自然環境調査結果（底生動物）」（平成19年3月　福岡市環境局）
・「自然環境調査（河川における水生生物の生息状況調査）報告書」（平成12年3月　福岡市環境局）
・「自然環境調査報告書（里地の細流等における貴重種魚類の生息状況調査）」（平成13年3月
福岡市環境局）
・「平成18年度 自然環境調査（淡水魚類）」（平成19年3月　福岡市環境局）
・「平成８年度福岡市自然環境調査報告書 市域における貴重植物及び今津塩沼地植物」（平成9年3月
福岡市環境局）
・「平成18年度 自然環境調査結果（水生植物）委託」（平成19年3月　福岡市環境局）
・「第６回・第７回自然環境保全基礎調査　植生図　福岡」（平成12年度　環境省）
・「第６回・第７回自然環境保全基礎調査　植生図　福岡南部」（平成12年度　環境省）
・「平成20年度　自然環境調査（植生）委託報告書」（平成21年3月　福岡市）
・「福岡観光地検索」（福岡県観光情報　クロスロードふくおかホームページ、
http://www.crossroadfukuoka.jp/jp/）
・「文化財情報」（福岡市の文化財ホームページ、http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/）
・「志免町の史跡・文化財」（志免町ホームページ、http://www.town.shime.lg.jp/site/bunkazai/）
・「福岡県の公園緑地」（福岡県ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f13/fukuokakennnokouenryokuchi.html）
・「市町村紹介」（よかとこ福岡 観光ガイドWEB ホームページ、http://www.yokatoko-net.com/）
・「住民基本台帳年報」（福岡県企画・地域振興部市町村支援課ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f11/juki-jukinenpou.html）
・「ふくおかデータウェブ　第5章　事業所」（福岡県企画・地域振興部市町村支援課ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-5-3.html）
・「ふくおかデータウェブ　第6章　農林水産業」（福岡県企画・地域振興部調査統計課ホームページ、
http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-6.html）

・「2008年漁業センサス」（農林水産省ホームページ、

http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001026288&cycode=0)

・「ふくおかデータウェブ　平成22年福岡県の工業（統計表)」(福岡県企画・地域振興部調査統計課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/22kougyo.html)

・「ふくおかデータウェブ　第11章　商業・サービス業」(福岡県企画・地域振興部調査統計課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-11-1.html)

・「2010年世界農林業センサス　農林水産業　都道府県別統計書」(農林水産省ホームページ、http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001036128&cycode=0)

・「ふくおかデータウェブ　第1章　土地・気象」(福岡県企画・地域振興部調査統計課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-1-5.html)

・「平成22年度　都市計画現況調査」(国土交通省都市計画課ホームページ、http://www.mlit.go.jp/toshi/city_plan/toshi_city_plan_fr_000021.html)

・「土地利用調整総合支援ネットワークシステム(LUCKY)」(国土交通省ホームページ、http://lucky.tochi.mlit.go.jp/NewLucky/default.aspx)

・「平成22年度 福岡県の水道」(福岡県県土整備部水資源対策課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f12/fukuokakennosuido-22.html)

・「平成22年度版 福岡市水道事業統計年報」(福岡市水道局ホームページ、http://www.city.fukuoka.lg.jp/mizu/eigyo/machi/002.html)

・「福岡県の漁業について」(福岡県農林水産部水産局水産振興課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/d07/fukuoka-gyoko.html)

・「平成22年度　道路交通センサス(全国道路・街路交通情勢調査)一般交通量調査」(国土交通省)

・「福岡県土整備事務所管内図」(平成22年3月　福岡県 福岡県土整備事務所)

・「那珂県土整備事務所管内図」(平成24年3月　福岡県 那珂県土整備事務所)

・「ふくおかデータウェブ　第10章　運輸・通信」(福岡県企画・地域振興部調査統計課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/dataweb/report-1-10.html)

・「博多港統計年報-平成22年(2010年)-」(福岡市港湾局ホームページ、http://port-of-hakata.city.fukuoka.lg.jp/profile/data/pdf/h22kakutei.pdf)

・「暦年・年度別空港管理状況調書」(国土交通省航空局ホームページ、http://www.mlit.go.jp/common/000030477.pdf)

・「平成23年度 教育便覧」(福岡県教育庁総務部総務課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f13/kyouiku-binran-23.html)

・「幼稚園をさがそう！」(社団法人福岡県私立幼稚園振興協会ホームページ、http://www.fysk.or.jp/)

・「福岡県内社会福祉施設等名簿」(平成21年3月　社会福祉法人福岡県社会福祉協議会)

・「福岡県病院名簿(平成24年4月1日現在)」(福岡県ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f13/byouinnmeibo.html)

・「福岡県下水道整備状況」(福岡県建築都市部下水道課ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/d11/18seibi-jokyo.html)

・「水域別環境基準類型指定」(福岡県ホームページ、http://www.pref.fukuoka.lg.jp/c01/ruikeisitei.html)

・「騒音規制法及び振動規制法に係る指定地域図」(平成24年5月　福岡市)

・「騒音規制区域図」（春日市）
・「騒音規制区域図」（大野城市）
・「騒音規制区域指定図」（宇美町）
・「騒音規制法に基づく規制地域の指定図」（志免町）
・「須恵町全図」（須恵町）
・「粕屋町全図」（粕屋町）
・「振動規制区域図」（春日市）
・「振動規制区域図」（大野城市）
・「振動規制区域指定図」（宇美町）
・「振動規制法に基づく規制地域の指定図」（志免町）
・「鳥獣保護区等位置図（平成23年度）」（平成23年10月　福岡県）
・「森林計画図」（平成22年4月　福岡県農林水産部農林振興課）
・「福岡県都市計画総括図」（平成24年5月　福岡市）
・「都市景観形成地区について」（福岡市ホームページ、
http://www.city.fukuoka.lg.jp/jutaku-toshi/toshikeikan/machi/todokede/area.html）
・「福岡県の文化財」（福岡県ホームページ、http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/bunka/index.asp）
・「文化財情報」（福岡市教育委員会ホームページ、http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/）
・「福岡県教育委員会文化財保護課資料」
・「指定文化財」（春日市奴国の丘歴史資料館ホームページ、
http://www.city.kasuga.fukuoka.jp/nakoku/siteibunkazai/index.html）
・「大野城市の指定文化財」（大野城市教育委員会ホームページ、
http://www.city.onojo.fukuoka.jp/edu/kyoiku/rekishi/shitei.html）
・「史跡・文化財」（宇美町ホームページ、http://www.town.umi.lg.jp/life/4/26/）
・「指定文化財」（志免町ホームページ、
http://www.town.shime.lg.jp/site/bunkazai/list86-315.html）
・「文化財について」（須恵町ホームページ、http://www.town.sue.fukuoka.jp/soshiki/10/）
・「指定文化財」（粕屋町ホームページ、
http://www.town.kasuya.fukuoka.jp/chiiki/rekishi/shiteibunkazai/index.html）
・「平成23年版　環境白書」（平成23年12月　福岡県環境部環境政策課）